

PROPAGATION

Totsuka DXer's Circle

August 2015

Edition 3



PROPAGATION

August 2015 Edition 3 Totsuka DXer's Circle



~DXING FOR THE LIFE~

3	TDXC 通信	
4	Greetings from TDXC	Satoshi Miyaochi
5	特集1 TDXC 積丹 DX ペディション	
6	TDXC ペディ 今度は北海道(手配編)	宮内 聡
8	積丹ペディ記念トートバックの製作	長谷川 眞也
9	TDXC 積丹ペディ日記	長谷川 眞也
12	Oct.11-12 2014 Shakotan DX Pediton Log (Evening time)	長谷川 眞也
13	Oct.12 2014 Shakotan-Pediton Logging (Morning time)	岡村 博行
14	特集2 Ultralight DXing	
15	Ultralight のすすめ	宮内 聡
19	輪行サイクリング & Ultralight DXing in 城ヶ島	五十嵐 雄希
22	ナゾのトライアングルアンテナ製作&実戦使用記	中川 弘夫
25	FSL Antenna 1st Impression	岡村 博行
27	特集3 Face to Face! BCL!!	
28	OM 探訪 第一回「赤林 隆仁氏」	中川 弘夫
32	戸塚ナイトオフ・元 KDXC 関山さんを囲んで	長谷川 眞也
40	BCL 交遊録「横浜の BCL に会いに行く。」	関山 レイ
41	アジア放送研究会 山下 透さんに聞く。	関山 レイ
42	年忘れ座談会「TDXC にあなたが期待することは？」	長谷川 眞也
48	もう一つの TDXC 高崎 DXers サークル	関山 レイ
50	BCL の楽しみを拡げてくれたミズホ通信	中川 弘夫
60	43 年の時を超えて 新旧受信機比較	板倉 健
64	中国製 FM アンテナについて	岡村 博行
65	菊水電子テストループ SA100 モニターレポート	堀場 啓二
68	小型アンテナローテーターAR-1002 使用レポート	長谷川 眞也
70	2015 年のバイクチョイペ	中川 弘夫
71	フィリピン放送局訪問 Barangay Tuguegarao 89.3 と Core FM 99.7 Vigan	馬場 政行
78	WRTH データでみる短波(ある 2 カ国比較)	宮内 聡
80	なんとなく、クリスタルフィルター	佐藤 弘敏
101	THE 金竹対談 2015(金井 毅・竹野 伸郎)	竹野 伸郎
114	《ラジオ》は女性	甲斐 迅
117	60 歳からの入門 BCL ブック 第 1 回「友だちを作ろう」	関山 レイ

118	This is London. 崩れ行くシナプスの断崖に佇んで。	岩田 学
123	思い出の一枚	関山 レイ
124	静岡由比の桜えびとFM受信の旅	五十嵐 雄希
126	BCLグルメの旅「tvk Applause でワンコインランチ」	長谷川 眞也
128	リグの傍にこの一冊 「アンテナの仕組み」	長谷川 眞也
129	「世界の言語入門」	関山 レイ
130	DX Report Jan.11-12 2015 Chigasaki DX-Pedition Log	岡村 博行
132	アマチュア無線再入門 ～開局準備編～	長谷川 眞也
138	PROPAGATION Edition 2 正誤表	
140	会員だより	
142	読者のみなさんへ モニタープレゼントのおしらせ	
143	編集後記/TDXC からのおしらせ	

Cover Illustration:長谷川 眞也

TDXC 通信

2015年5月17日(日)、横浜市泉区役所奥の泉遊水地3池で開催された横浜泉アマチュア無線クラブ2015不用品交換会に、今年も多数のTDXCメンバーが参加しました(サークル参加ではなく、各個人での参加)。WRTHやBCLライフなどの書籍のほか、業務用受信機、RF-B600L、RF-888、ICF-6500、RF Systems DX-10などが出品されました。筆者は息子と行きましたが、レアなプラレールもゲットできてFBな1日でした。(長谷川 眞也)



Greetings from TDXC

Satoshi Miyauchi



Used-to-be-radio-kids got together regularly to monitor DX stations in series of DXpedition.

■ So, it is 2015. It was a surprising sensation after we published last edition of our TDXC in August 2014, as we saw numerous downloads – some 1,300 in a matter of couple of weeks time after we placed pdf file online. We should say, it was a good success to promote this “old” hobby – especially for those who used to be listening radios during 1970s and ’80s.

Also, we had met new friends, and welcomed new members into the local TDXC community, through the last publication, it was also one of our intention to broaden our network, and to “stimulate” the activities of our hobby, and we would say that we were successful in this area.

■ At this time of my writing, I have not yet read all the articles, as they are being compiled by our chief editor, Mr. Hasegawa, Shinya, who is also a professional artist – making those fantastic illustration on front cover. Just heard there will be more than 140 pages of articles in this edition.

■ Personally, – it meant a lot to get to know Mr. Gary DeBock –san, a great Ultralight DX specialist. From the moment I had chance to receive his modified 7,5’ loop-stick C.Crane Skywave radio earlier this year, it didn’t take so long till I got captivated by this really exciting moments of catching DX stations with such a small portable “radio”. Ultralight DXing made me remind



Once it was said - DXing is something like those astronomers looking for the unknown in the sky at night..

of such an excitement of “listening” real time, unlike “digging” or “mining” the captured whole spectrum by SDRs – that might be supposed to be the only modern way to do DXing thesedays. We would not deny the efficiencies and excitement of catching and finding “what’s inside..” sort of activities with SDRs though, the excitement of catching DX stations

with such a tiny radio is also immense.. huge... unlike the size of the radio... Also, introduction of FSL antenna was a bizarre. We only sincerely hope that this FSL won’t lead us to the other meaning of what FSL stands for...

Financiall.... Something something!

Anyway, in this TDXC 2015 edition, though contents are mainly in Japanese, hoping you would get a piece of our excitement out of our humble radio activities in Japan.

73 FBDX

特集 1

TDXC 2014

積丹 DX ペディション



昨年 10 月中旬、TDXC の遠征受信企画第 2 弾として、北海道の積丹半島で DX ペディションを開催しました。ノイズが少なくビッグアンテナを張りやすい広大なロケーションと、北米やヨーロッパに直線距離で近いことから、「中波 DX の聖地」とも目される北海道。グルメ、温泉、観光、そして DXing…。魅力満載の北海道によこそ！

Photo:岡村 博行 宮内 聡



TDXC ペディ 今度は北海道 (手配編)

宮内 聡



復路、千歳からの便の搭乗ゲートには May Return の文字が。運命や如何に。

■前年のLCCを利用して格安で一泊ペディが上手くいったことに気をよくして、今回は反対側、北海道を目指すことにした。前回の手配開始が既に夏を過ぎた頃であったのに比べると、今回は圧倒的に早く（ゴールデンウィーク前から）手配を開始。宿こそ最後の最後までいろいろと情報交換を重ねて変更をしたものの、飛行機の切符については随分と早くから予約を入れて調整できた。前回のLCC利用に対して、今回はなぜJALとANAだったのか、またペディ計画時に確認すべき事項（チェックリスト）についても触れて、皆さんのご家族旅行や一人旅にも活用して頂きたい。

■ LCCの特徴については前号で記した通り、なるべく早く予約をすれば安いチケットが手に入る、ということに尽きる。今回相当早く手配を開始したのなら、それこそLCCで問題なかったのでは。。と言う疑問も沸いてくる。ではなぜ。答えは、「手配開始が早すぎたから」である。その心は、というと、LCCのデメリットであった、「予約即購入」がメンバーの日程調整を考えた際にはちょっと高すぎるハードルであった点である。

幸いにも我々利用者の立場にしてみれば、JALとANAは見事、このLCCに対抗する策を打ち出してきていた訳である。答えは「かなり先のチケットの予約だけを受け付けてくれて、発券（購入）は2ヶ月程度前まで大丈夫」という仕組み。（2014年度のこの手配時にはJALのみ）飛行機で頻繁に移動されておられる方は十分にご存知かも知れないが、このチケットはなかなか便利。そこそこにお安い金額でかなり前々から予約のみ確保できて、実際に決めるのは相当後で良い、ということなので、それまでメンバーの日程調整も出来て至って使いやすい。実際には往路の¥12,190、復路の¥16,990といずれも1万円台であった。飛行機についてはそのくらいにして。。。と思ったのだが、復路に事件があったのでそれについては最後に。。。

■「手配編」とうたっておきながら、航空券手配にしかふれていなかった。これは前回の沖縄の宿選びが相当にスムーズだった為と今になって思う。（それでもShinさん始め、ネットであらゆる情報を探り当て、事前にロケーションの下調べをしていたからこその”スムーズさ”だったとも言えるので

改めてメンバーには感謝）今回、北の宿、ペディ拠点を決定するにあたり、直前までバタバタした。実は今回はメンバーの2名が先遣隊として三連休の初日に現地入り、2泊のペディ、後半1泊は後から3名が押しかけるということだったので、”せっくなので”良い宿でうまい物も食いたいと欲張った。最終的には太さんの見つけてくれた古平家族旅行村という町営のキャンプ場・ロッジタイプの宿泊施設に2泊共お世話になったのだが、直前まで海沿いの民宿さんを予約していた。ホームページに掲載されている美味そうな海鮮井やら種類も豊富な朝食の写真に心を奪われていたのだが、本題のペディに必要なアンテナ設置に適した敷地がGoogleストリート・ビューでみると大いに疑問だった。今時宿の予約などインターネットでするのが多いと思うが、今回は当初からラジオだアンテナだ、とは聞けなかったものの、確保していただきたいえるお部屋の位置や方向、大きさなど何度も電話で尋ねただけに、キャンセル時にはちょっと気まずい感もあったが仕方がない。そこで、宿決めの教訓・確認事項：1. 周囲にDXのターゲットとする方向に向けたそれ



なりの敷地があること（部屋までの距離にもより場合によってはキャンプが許されるかも確認したい） 2. ノイズ源となる建物などからの距離（1と同じであるが季節によりエアコンなどのノイズ、LED 証明なども含め、なるべく影響を受けにくいロケであることの確認） 3.

Google ストリート・ビューで出来る限り現地周辺の実態を当初から把握すること（今回はここを最後にやったのでまずかった）

簡単に結論から言えば、一般的に・・・キャンプ場と呼ばれている場所でのペディが一番無難なのは、と考える。夜中にアンテナの方向を変えるのにヘッドランプ灯して出歩いているけど、キャンプ場ならなんだかアウトドアな人たち！で済むものが、民宿の露天風呂から海を眺めながらの客にしてみれば、怪しさ以上に不審者扱いされてしまいかねない。

■ 最後に今回のペディで飛行機のトラブルとは。2014年10月13日（月）三連休の最終日、出発前から気になっていたのが日本列島を九州・四国から本州までを縦断していった台風19号の餌食になってしまったこと。当日朝の中心はまだ鹿児島周辺。なんとか大丈夫だろうと、NHK

の連続テレビ小説「マッサン」で話題を集めている余市のニッカウキスキー蒸留所などを見学。それでも午後には比較的早めに予定便にチェックイン（荷物預け）搭乗を待った。結果的にはここにひとつ落とし穴があった。

「預け荷物」。全くの手荷物（機内持ち込みのみ）にするのは、ペディの際には殆ど不可能に近い、とも思われるが、今回の様な台風接近時やトラブルがあった際には、「預け荷物」はないにこしたことはなかった、という事実。それはなぜかと言えば、以後の便がキャンセルや天候調査中などというステータスになる中、出来れば少しでも早い便に乗りたい、或いは今回は臨時便が数本千歳から羽田に出ていたのだが、それらに振り替えてもらうのには、「タイミングよくその臨時便が設定された時刻に空港でチェックインする」か「預け荷物なしで振り替えを依頼するか」だ。今回は早めにチェックイン済み、荷物あり、であったので、航空会社もバタバタの中ではいちいちその先に運行が決まっている客のイレギュラーな対応などはしたくないのも当然。搭乗ゲートの電光掲示板に「May Return」とは嫌な文言を見つけるも、まさかな。。と想い搭乗。

その後沖縄に行くよりも長い時間機中の人となり、辿り着いたのは先ほどまで気をもんで搭乗をまっていた千歳。こんなことがあったのなら、明日の振り替え便は自動的に予約確保されているのかと考えるのは今や過去の事。皆様お帰りのフライトはインターネットで各自ホームページからご予約願います！だって。スマホ持っていないひとどうするの、の対応である。今回はまさかの「May Return」を目にした瞬間に、翌日の朝便の予約を入れておいたので、空港施設内の簡易宿泊会議室に毛布をもらい、楽しかったペディの想い出を胸にしばしの眠りにつくことが出来た。■

---手配時簡単チェックリスト---

国内航空券：

- ・氏名・生年月日（年齢）
- ・マイレージ番号
- ・購入期限（スケジュール確定時期を把握）
- ・預け荷物について（LCCの場合には事前に荷物量のある程度正確に予測が必要）

レンタカー：

- ・乗車人数に応じた荷物量とカーゴルームの容量
- ・燃費・走行距離・所要時間に鑑みた快適性も考慮（連休時には早めの手配が必要）

宿泊施設：

- ・とにかくにもロケーション
- Google ストリートビューで当初から確認を進めること
- ・部屋の位置の確認
 - ・十分な活動スペースの有無（場合によってはキャンプスペースやキャンプそのものの不可情報）
 - ・ノイズ源の有無 予測
 - ・キャンセル条件の確認

積丹 DX ペディ記念 トートバッグの製作

長谷川 眞也

■積丹ペディは一昨年の沖縄ペディに続く TDXC 遠征ペディ第二弾ということで、今回もなんらかの記念品を作りたいと考えていました。

■そこで実用品にもなる「TDXC 積丹ペディ記念トートバッグ」を製作してみました。ベースに使うのは、無印良品の布製マイバッグ A3 サイズ 1 枚 250 円です

(<http://www.muji.net/store/cmdty/detail/4549337664746>)。その他必要なものは、アイロンプリントペーパー

(ELECOM アイロンプリントペーパー 白生地用 A4 インクジェット専用紙)、アイロン、新聞紙、コタツなど硬い作業台です。

■積丹半島の象徴である神威岬のイラストを鉛筆画で描き起こし、スキャンしたあと Photoshop で浮世絵調に着色。これをアイロンプリントペーパーにプリントアウトします (印刷向きに注意。白生地用は反転した絵を印刷する)。



■プリントアウトしたアイロンプリントペーパーを、アイロンでマイバッグに転写します (スチームは使わないように)。使用した綿生地の布バッグは焦げやすいようで、アイロンを強く押し当てすぎると茶色く変色してしまうことがあるので要注意です (筆者も数枚焦がしました)。

■世界で 5 枚だけの、記念トートバッグの完成です。積丹のお土産売り場にも普通にあるような仕上がりになりました (笑) 大きめサイズなので、買い物など普段使いにも、お部屋のインテリアにも?FBかと思っています。

■例によって、ペディ参加の皆さんに現地でサプライズプレゼント。喜んで (当惑して?) いただいたようで、いいイベントの彩りとなりました。

TDXC 積丹ペディ 日記

長谷川 眞也

Photo:宮内 聡 長谷川 眞也



準備編

2014年お正月前後から、TDXCの次回遠征ペディについての話し合いが始まりました。まず筆者から「国内で沖縄の次に中波DXをしたい場所」として北海道道東、サロマ湖のほとりの宿を提案。すかさず旅のプロの宮内さんが反応してくださり、「移動をLCC基本として考えると、道東のチケットは高額だし取りづらい。またLCCは札幌行きだけなので、道内の移動手段も一考の余地あり」との指摘がありました。

TPといえば道東...という固定観念を一旦破棄し、しばらく間をおいて、5月頃にふたたび代替案として積丹半島を提案しました。ここなら新千歳空港にも2~3時間でアクセスできるし、日本海に突き出た地形なので、西方面とTP-DX両方が聞こえそうです。

遠征の方向性が定まったところで日程を調整、全員参加可能な10月11~13日で確定(11日からは長谷川、岡村の2名、12日からは中川、宮内、五十嵐の3名、計5名の参加)。宮内さんには、この時点で素早く航空券をリザーブ頂きました。

次に具体的なペディ開催地を決めます。積丹半島先端周辺には適当な宿が見つからず、半島東側の沿岸部を重点的に検索。岡村さんから幾つかの候補地が出て、そこから今回連泊する「古平家族旅行村」が決定しました。

開催も近づき、いよいよペディ機材の準備です。筆者は今回先発組参加ということで、いつもアンテナなどを準備下さる中川さんに代わり、設備担当を買って出ました。DF(デルタフラッグアンテナ)、RTR(リモート終端抵抗)、NFB(プリアンプ)、分配器などは筆者の自作品です。輸送時の故障も心配だったので、4

分配・8分配器はミニサーキットから既製品を買い求め、プリアンプは岡村さん所有のWellbrook製品をサブ機として持参願いました。

キャリーバッグに同軸ケーブルやアンテナエレメントなどの重量物を詰め込み、バックパックにはPERSEUSや周辺機器、アンテナポールやアース棒は釣用ロッドケースにそれぞれ収納します。

10/11(土) 日入 17:05(現地時)

朝の出発便に備えて、まだ暗いうちから家を出ました。荷物は予想以上に重く、駅までの道(徒歩30分)が堪えます。羽田空港で岡村さん



と合流し、JAL にて一路北の大地に飛び立ちました。

新千歳空港に降り立つと、そこはもう紅葉を過ぎて冬の肌寒さ。筆者は初めての北海道だったので、感激もひとしおです。空港からレンタカーで出発、道央自動車道～札幌自動車道と進み、小樽市内でカセットガストープを調達。小樽駅そばの三角市場で、海鮮丼を食べました。

再び国道 5 号～229 号と海岸沿いを北上。海からは打ち付ける日本海の荒波、カーラジオからはサハリンの 531kHz Avtoradio が地元局のような強さで流れ、ますます北国に来たという実感が湧いてきました。余市を通過すると、ほどなくして目指す漁師町・古平に到着です。

ペディ開催地「古平家族旅行村」は、海から小高い斜面を登ったところにあります(海拔は約 50m)。冬季休業直前で、ゲストは私達を含め 3 組。北方向には日本海(小樽湾)が望め、施設も清潔に管理され過ごしやすいキャンプ場でした。ただ、ケビンの中が冬眠に集まったカメムシだらけだったのには参りました。

旅の疲れを癒す間も無く、ケビン

向かいのテントサイトにアンテナを設置。斜面なので苦心しながら TP 方向に DF を張り、シエスタさんから拝借した SVF(スーパー チャージャー付ボルテージフォロウ)を接続、同軸をケビンに引き込み仮設シャックを組みました。

早速ワッチを開始した岡村さんから、「信号が弱いよ」との指摘が。機器の不具合かと各部を点検すると、SVF が接触不良を起こしている模様。スペアで持参したノーマルタイプの DF 給電部を繋ぐとゲインが上がり、一安心しました。一带のノイズレベルも低いようです。

ここでひとまず車で余市方面のスーパーに行き、今夜の食料の買い出しをしました。ケビンに戻り再び PERSEUS で聞いてみると、太陽活動極大期にもかかわらず AK の信号が爆裂！ 850 KICY、780 KNOM、650 KENI などは国内ローカル局のようです。しかし西海岸は弱く、外房よりも局数を稼げません(個人的には 1020kHz で KVNT を初受信でき、ボウズは免れました)。

SDR をそのまま帯域記録しながら、近くのふるびら温泉「しおかぜ」で茶褐色の鉄分豊富な湯を満喫しました。その後は買い出した材料で



鍋をつくり、オッサン二人で乾杯です。あまりにも強いアラスカ局に「来てよかったよ！」と笑顔の岡村さん。ようやく設備&運転担当の務めを果たせた気がして、ホッとしました。

夜も遅くなり、西方面オープンに備えて DF のエレメントを北西向きに変え、帯域記録をタイマー任せにして就寝。時折起きてチェックしてみたものの、期待の EU 中波は弱そうです。

10/12(日) 日出 05:46/日入 17:03

朝食後アンテナを確認すると、酔っていたせいか、北西のはずが真北を向いてました(汗)。ラジオ付き IC レコーダーを持ってキャンプ場を散歩しましたが、さすがにロシアの FM まで聞こえてきません。ケビンの周辺には、北国特有の昆虫「雪虫」(トドネオオワタムシなどアブラムシの仲間)が綿毛のようにふわふわと舞っていて、幻想的な風景が広がっていました。冬を知らせる雪虫が飛ぶと、北海道も降雪が近いそうです。



10時過ぎに小樽駅まで車を走らせ、後発隊のお三方をピックアップ。全員が揃ったところで、旅のプロおススメの、昔の消防署を改装した料理屋さんにて昼食をとりました。海鮮丼が絶品で、願わくば酒のツمامにしたかったです(運転手なので叶わず)。

昨日と同じスーパーで買い出しをし、ケビンに到着。フルメンバーでシャックを設営直して、いざ2日目の受信開始。昨日よりTPが良好で、AK~カナダ ABあたりまでオープン。日本海側とはいえ1590KVGBが入感するなど、さすが北海道といったロケーションで、TP-DXを堪能しました。

一通り一次伝播をチェックした後、温泉に入って鍋で乾杯です。初日は鶏肉の寄せ鍋でしたが、二日目はシャケのアラと趣向を変えてみました。寛いできたところで、用意してきたサプライズプレゼントのトートバッグを皆さんに贈呈。その後は宴会モードになり、酒飲み話に花を咲かせました。ちなみに、1669kHz 船舶気象通報を聞くとしゃこたん局はS9でしたが、石狩湾を挟んだやぎしり局のほうがさらに強力でした。

深夜になり、DFの指向性を(今度はいよいよ)北西に変更して、タイマーセット後そのまま就寝。酔っていれば二段ベッドの天井にくっついて大量のカムシも気になりません。

10/13(月) 日出 05:47

二日目の西方面も、X-Bandで弱くギリシャパイレーツ局が入感していましたが、結局EUやAFはオープンしませんでした。しかも筆者のPERSEUSタイマーはうまく作動せず、02~03時の貴重な録音を逃し



ていました…。DXing的に物足りなさを感じつつも、全員で撤収作業。機材を荷造りし、家族村を後にします。家族村の管理人さんは、「こんな休業間際の時期にはるばる神奈川から何しに来てるのか?」と、とても不思議だったそうです(笑)

古平港の漁協でお土産を購入して、重いケーブル類とお土産を宅配便で家まで発送しました。身軽になったところで、北海道観光です。まずは余市に立ち寄り、ニッカ醸造所を見学。折しもNHK朝ドラ「マッサン」の舞台にもなっているということで、大勢の観光客で賑わっていました。お楽しみのウイスキー試飲サービス、運転手の筆者は「香りだけ」堪能(涙)。

お昼は地元で人気という「じょぐら」のえびラーメンに舌鼓。車中では地元局の76.3MHz FMおたるをカーラジオで聞きながら、さらに高速を走り札幌へ。大通り公園、テレビ塔、時計台と名所を巡り、六花亭で買い物をして、予定の時間より少し早めに空港に向かいました。宮内さんの記事にもあったように、北上する台風19号の影響が心配されたからです。

空港内で夕食を済ませ、出発ロ

「万が一の場合は引き返します」という条件つきでフライトは飛び立ちましたが、不安は的中。羽田が着陸の順番待ちで渋滞していたので、仙台付近で延々と旋回。結局燃料切れになり、4時間後に新千歳に引き返すことになりました。ペットボトルの水とパンをもらい、真夜中の空港会議室の床に毛布を敷いて仮眠することに。寒さと床の硬さで、筆者は一睡も出来ませんでした。

10/14(火)

台風一過の朝。早朝から羽田行きのチケットを取るために並び、どうにか乗り込んで東京に戻りました。まさかの足止めで全員疲れ果ててしまいましたが、北海道ペディの余韻に浸りながら各自職場や自宅に向かいました。

積丹ペディでの受信成果ですが、TP・西方面ともに成果があまりなく、個人的には満足できませんでした。ペディ開催日は全国的にCondxが悪かったようですが、北の大地に期待しすぎたのかもしれない。願わくば、SSNボトム期にもう一度北海道でリベンジペディをしてみたいです。

October 11-12, 2014 Furubira, Shakotan DX Pediton Log

RX: PERSEUS ANT: DF (NE)+RTR JST=UTC+9 hours

Freq.	Call	City	State	Date	JST	Condx.	Remarks
531	Avtoradio	Yuzhno-Sakhalinsk	RUS	10/12	15:59	g	RS "Avtoradio (А в т о р а д и о)"
576	R.Rossii	Khabarovsk	RUS	10/12	19:00	f	RS "Radio Rossii"
650	KENI	Anchorage	AK	10/12	17:59	f	EG "News Radio 6-50 KENI, Anchorage"
669.99	KBOI	Boise	ID	10/11	16:59	p	EG "KBOI, ...Station. It's two o'clock"
680	KNBR	San Francisco	CA	10/11	17:00	f	EG "KNBR, San Francisco. ...Station"
700	KBYS	Anchorage	AK	10/12	16:59	f	EG "AM 7-00 KBYS, Anchorage. Alaska Talks Here"
710	KIRO	Seattle	WA	10/11	16:59	vvp	EG "7-10 KIRO AM Seattle"
720	(KOTZ)	Kotzebue	AK	10/12	17:00	vp	EG "K(OTZ)...(Kotzebue)"
730	CHMJ	Vancouver	BC	10/12	16:59	f	EG "This is AM7-30 All Traffic, All The Time. Vancouver's traffic information station"
750	KFQD	Anchorage	AK	10/11	16:59	vvp	EG "♪KFQD~"
765	R.Vostok Rossii		RUS	10/12	19:00	f	RS "♪Radio Vostok Rossii~. Khabarovskiy..."
770	KBQB	Albuquerque	NM	10/11	16:59	vvp	EG "7-70 KBQB"
780	KNOM	Nome	AK	10/12	16:59	g	EG "KNOM, AM FM in Nome. It's 11 o'clock"
792	R.Rossii	Sakhalinskaya	RUS	10/12	18:59	p	RU "Radio Rossii"
810	R.Rossii	Primorskiy	RUS	10/12	17:00	vp	RS "Radio Rossii"
850	KICY	Nome	AK	10/12	17:02	g	RS "KICY, Nome. Vy slushayete radio golos Arktiki iz goroda Nome, Alyaska"
880	(KRVN)	Nebraska	NE	10/12	18:01	vp	EG "8-80 (KRVN)..."
910	CKDQ	Drumheller	AB	10/12	17:00	f-p	EG "Q91" Country
930	KNSA	Unalakleet	AK	10/12	18:02	p-vp	EG "This is KDLG Dillingham 6-70 AM and 9-30 AM Unalakleet"
940	KFIG	Fresno	CA	10/12	17:59	p	EG "KFIG, Fresno"
960	KNEW	Oaclang	CA	10/11	17:59	p	EG "KNEW, Oaclang. KOSF103.7 FM-HD2...Bloomberg 9-60"
960	CFAC	Calgary	AB	10/12	16:59	p-vp	EG "...9-60...Sportsnet 9-60. ♪CBS Sportsnet"
980	CKNW	New Westminster	BC	10/11	16:59	f	EG "CKNW Newstalk 9-80, Listening to Vancouver"
1010	CBR	Calgary	AB	10/12	18:00	p	EG "CBC News. Good Morning"
1020	KVNT	Eagle River	AK	10/11	16:59	p	EG "News Talk in the Valley 10-20 AM KVNT Eagle River, and retranslator on 92.5 FM on K223BJ Eagle River"
1040	CKST	Vancouver	BC	10/11	16:59	f	EG "CKST is TSN 10-40, Vancouver's Sports Radio"
1050	KNBR	San Francisco	CA	10/12	17:59	f	EG "KNBR 10-50..."
1060	CKMX	Calgary	AB	10/12	17:47	p	EG "Funny 10-60 AM" Comedy Radio
1080	KOAN	Anchorage	AK	10/12	16:59	p	EG "You're listening to Hot Talk KOAN, Anchorage. AM 10-80 and retranslator 95.5 FM on K238BE, Anchorage"
1090	XEPRS	Tijuana BC	MEX	10/12	16:59	f	EG "XEPRS 1090(mil noventa) AM Rosarito, Baja California. San Diego's Sports Leader. The Mighty 10-90"
1100	KFAX	San Francisco	CA	10/11	16:59	f	EG "On the iHeartRadio as ♪KFAX San Francisco"
1110	KAGV	Big Lake	AK	10/12	16:59	p	EG "....10...KAGV, Houston"
1120	KPNW	Eugene	OR	10/11	16:59	p	EG "This is Newsradio 11-20 KPNW, Eugene-Springfield"
1130	CKWX	Vancouver	BC	10/12	17:00	vp	EG "Vancouver...News 11-30"
1140	CHRB	High River	AB	10/12	17:00	vvp	EG "CHRB, High River"
1160	KSL	Salt Lake City	UT	10/12	17:59	p-vp	EG "KSL..."
1170	KPUG	Bellingham	WA	10/11	17:02	vp	EG "KPUG AM 11-70 The Sports Leader"
1224	R.Rossii	Khabarovsk	RUS	10/12	18:59	p	RS "Radio Rossii"
1300	KKOL	Seattle	WA	10/11	16:59	f	EG "KKOL, Seattle with Salem Communications on the NASDAQ : SALM"
1320	CHMB	Vancouver	BC	10/12	17:00	f-p	CH "This is CHMB AM 13-20, Vancouver...这里是CHMB 華僑(中華)廣播電台"
1350	KSRO	Santa Rosa	CA	10/11	16:59	vp	EG "News Talk KSRO" RCC Heavy QRM
1380	KRKO	Everett	WA	10/12	16:59	f-p	EG "Fox Sports 13-80 KRKO, Everett"
1410	CFTE	Vancouver	BC	10/12	17:05	f	EG "CFTE TSN 14-10 Vancouver's Sports Radio"
1470	(CJVB)	Vancouver	BC	10/12	17:02	p-vp	Ethnic Talk
1510	KGA	Spokane	WA	10/11	17:03	f-p	EG "15-10 KGA, Tune in 24 hours a day CBS Sports Radio. 1510kga.com"
1520	KKXA	Snohomish	WA	10/12	17:11	f-p	EG "All New, Classic Country 15-20 KXA"
1550	KRPI	Ferndale	WA	10/11	16:59	vp	Ethnic "You're listening to 15-50 AM KRPI, Ferndale"
1570	XERF	Ciudad Acuña	CI	10/12	18:00	vp	SP "XERF 15-70 (quince setenta)"
1590	KVGB	Great Bend	KS	10/12	17:59	p	EG "15-90 KVGB Great Bend and...Eagle Radio Station"
1600	KVRI	Blaine	WA	10/12	17:59	f	Ethnic "This is KVRI, Blaine"
1620	R.Rebelde		CUB	10/12	18:59	vp	SP "Rebelde La Habana, emisora de la revolución"
1640	KDIA	Vallejo	CA	10/11	18:00	vp	EG "This is 16-40 AM KDIA, Vallejo San Francisco"
1669	しゃこたん	北海道積丹町	J	10/12	15:56	g	JP "各局 各局 各局 こちらはしゃこたん しゃこたん しゃこたん"
1669	やぎしり	北海道羽幌町	J	10/12	15:57	g	JP "各局 各局 各局 こちらはやぎしり やぎしり やぎしり"
1680	KGED	Fresno	CA	10/11	17:59	p	EG "AM16-80 KGED, Fresno. More Conservative Talk Radio"
1690	KFSG	Roseville	CA	10/11	18:00	vvp	SP "KFSG, Roseville Sacramento"
1700	XEPE	Tijuana BC	MEX	10/12	18:59	f-p	EG "XEPE 1700(mil siete ciento) AM Tecate, Baja California"

Stations logged by Shinya Hasegawa.

KICY's Russian ID advised by Kunitoshi Hishikawa.

Oct.12 2014 Shakotan-Pedition Logging.
ANT: DELTA FLAG North West Direction
RX:PERSEUS SDR

All Time is UTC.

17:00 693kHz Bangladesh Betar BGD Bengali p
17:00 990kHz R.Sawa via Cyprus CYP Arabic f "Radio Sawa ♪"
17:00 1188kHz R.Free Asia via South Korea KOR Korean f
17:00 1242kHz UNID Arabic vp
17:00 1008kHz UNID Arabic talk vp
18:02 549kHz UR 1 Persha Programa (Pre.) UKR Ukrainian p
18:00 747kHz IRIB IRN Farsi p
18:00 1278kHz IRIB IRN Farsi p
18:00 1350kHz TWR-Armenia ARM Kurdish p
18:00 1548kHz TWR-Moldova MDA Bulgarian f "Д о б ъ р в е ч е р у в а ж а е м и
с л у ш а т е л и"
18:01 1611kHz UNID Greek Pirates GRC p
18:30 531kHz IRIB IRN Farsi vp //1116kHz
18:30 540kHz IRIB IRN Farsi vp //1116kHz
18:30 774kHz IRIB IRN Farsi p //1116kHz
18:30 783kHz IRIB IRN Farsi p //1116kHz
18:30 1071kHz IRIB IRN Farsi vp //1116kHz
18:30 1116kHz IRIB IRN Farsi f "Sa'at bist o do. Inja Tehran ast, Sedaye Jomhuriye
Islamiye Iran, Radyoe Iran."
18:30 1332kHz UNID f
18:30 1377kHz IRIB IRN Farsi p //1116kHz
18:30 1431kHz IRIB IRN Farsi p //1116kHz
18:30 1449kHz IRIB IRN Farsi f //1116kHz
18:30 1503kHz IRIB IRN Farsi p //1116kHz
18:30 1584kHz UNID Arabic music vp
18:30 1566kHz R.Teos via HLAZ KOR Russian f
19:01 1512kHz ERT GRC Greek p Interval Signal heard.
19:30 909kHz R.Romania Actualitati ROU Romanian p
19:31 1680kHz UNID Greek Pirates GRC Greek music p

Stations logged by Hiroyuki Okamura

Adviser : Mauno Ritola,FIL

Tnx:Shinya Hasegawa,Hiroo Nakagawa,Satoshi Miyauchi,Yuuki Ikarashi



特集 2

Ultralight DXing



Ultralight DX。ポータブルタイプのラジオだけ、あるいは超小型の外部アンテナを併用して、海外微弱局などの本格的な DX を狙う。あえて大型のアンテナや高性能受信機を使わずに、ある意味チープともとれる限られた設備で、最大限の結果を引き出す。

そこに求められるのは、ロケーションの良い場所に足繁く通うフットワークと熱意はもちろんのこと、高度な BCL スキルと DX 局を捉える鋭い嗅覚が必要となる。

お手軽だが、それでいて奥深い DXing の醍醐味がそこにある。

Ultralight のすすめ

(7.5" Loopstick 付き C.Crane Skywave Radio と FSL アンテナを入手してから)

付録:Tecsun PL-380 の外部ループスティック化



Gary DeBock 氏の手による、7.5 インチ・Loopstick 付きの C. Crane Skywave (左) (右) は、板さんが輸入してくださったリッツ線をシエスタ氏による末端処理、及び最適な巻き数計測により実現した、7 インチ Loopstick 付きの Tecsun PL-380

宮内 聰

■ それにしてもこの興奮は久々である。何がそんなに楽しくって、ひとつには、こんなに小さな筐体のラジオで条件さえ揃えば、ここ神奈川県で630kHzのKUAMなどがローカル並みに聞こえたりするのだ。小さなラジオで、DXなんて、と思われはすだが、勿論のこと、いくら1kHzモードという選択度が選べたとしても、音になっているということは、そんなに厳密な1kHz以上聞こえないフィルターでもありえない。まして、通信型受信機の性能が備わるわけでもない、単なる市販のラジオなのだが、そんな条件の制限された「ラジオ」での受信を楽しむのが、Ultralightと呼ばれるカテゴリーの遊び方だ。同名のYahoo Groupには厳密に規定が書かれている。ひとつ重要なのは、SSBモードを備えるラジオはNGとされている。我々も敬意を払って踏襲するが、まあ、あまり拘らずに小さなラジオで楽しめればよいのではないかな。

■ 今年はじめ、お仲間の太さんから Ultralight の提唱者であり、第一人者である Gary DeBock 氏の手に



よる、7.5インチのループスティック(外付けフェライトバーアンテナ付き)のラジオに興味あるか?との問いに対して、なぜか敏感に、“はいはい是非”、と手を上げたのがきっかけだ。

当初日本向けには2台だけということで、だれがどれを、というところで若干候補者間でメールのやりとりを果たし、C.Crane Skywave Radioにはエアバンドがついている、ということで、SHINさんがその座を譲ってくれました。太さんは当初、ご自身でお持ちの PL-380 の改造をお願いしていた。そんなこんなで、2014年の秋から米国の Ultralight 界で評判がよい、C.Crane Skywave Radio を日本でいち早く譲り受けることになった。

■ 最初の印象は、なんだかこんなにちっちゃいの。というちょっとばかり、頼りなさを感じさせる大きさであった。早速、梅の花咲くサイクリングロード、町田尾根緑道へ出かけた。夕暮れが迫る中、自転車を止め、ベンチに座って。“ラジオを聴いているんですよ”、というアピールはイヤホンをしては、全く発揮されず、なんだか怪しい。録音もそこそこに、イヤホンジャックからミニプラグを抜き取り、スピーカーを鳴らして、決して怪しいものではありませんアピールを試みる。日没が迫る頃、自宅では原因不明のノイズで駄目な630kHzでグアムのKUAMを狙う。全くストレスなく、スーと南の雰囲気漂う島の音楽が響いてくる。IDが出る!うわ、このラジオ、只者ではない。そう確信した瞬間である。3月のそのころは、KUAMの後はオーストラリアの4QNはまだそれ程までに強くならず、暗闇の迫る公園での長居は怪しまれそうなので、早々に退散する。Ultralightはどこでも稼働できるまさに携帯性や行動力がいいのだが、こと、サイクリングだけはどうしても復路が真っ暗になっ

てから帰宅、というところがちょっと相性悪く残念でもある。

■ 先ずはこのラジオで Ultralight の洗礼を受けた小生、Gary DeBock 氏のアップされている資料や、YouTube を片っ端から見ていった。興味津々、目から鱗の連続であった、それだからこそ、この興奮。継続するこの愉しさを、皆さんにもお伝えしたい、という一心でのこの投稿である。

Gary 氏の記事の中で、間もなく目に留まったのが、なんだか丸い円柱？小さな樽を串刺しにして、設置用の足を付けた用な、FSL アンテナという代物。これは Gary さんの解説を読み進めるうち、これまでの理論では思いつかなかった？考えられていなかった？ごくごく最近の趣味人による理論の発表を实践しての代物だとわかってくる。そうすると、益々この FSL に興味が沸いてきた。(Ferrite Sleeve Loop のそれぞれの頭文字で FSL)

いくつかあった記事の中に、Gary 氏曰く、FSL を造りたいなら、余剰部材があるうちは、欲しい人は連絡を、という行があり、一目散にコンタクトをしてみた。幸い、まだ余っているとのこと。このとき、僕は Gary 氏の一審初期の投稿から、5インチ、7インチの FSL についての解説記事を読んでいて、携帯性やそもそもの重さを考えたときには、5インチで十分では、と自分なりの結論を考えていて、5インチのものを造りたい旨を伝えていた。返事には、今は使っていない、5インチで組んだものがあるので、それを譲る、コストはこれこれ。。というものだった。もう寝ても待っても居られずに、即即よろしく願いますとお願いをし、早速

PayPal での送金を済ませた。

■ 既に C.Crane の発送時に素晴らしく安全で完璧なラッピングをして送ってくださった Gary 氏のこと、この FSL については全く心配していなかったが、それ以上にどんなに素晴らしい梱包をされてくるのか、そこにも興味があった。送られてきた箱は、助手席にのせるとほぼ人

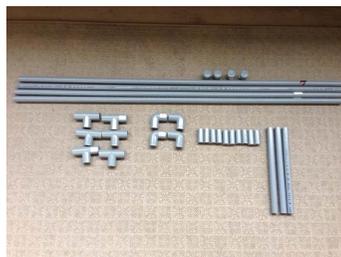


一人分の大きさ！包んであったブリヂパチの類は総延長。。。計測できないほどの長さであった(!)というのは大げさだが、予測をはるかに上回る念入りで慎重な梱包、本当に只者ではない、恐れ入ります、Gary 様。。

■ FSL の受け取りは予期していた日に不在であったため、深夜の集配局に午前零時過ぎに飛び込んでゲット。助手席に開封前の FSL を鎮座させて復路。どんな状態に入っているのか想像できなかったが、なんと復路のカーラジオで、1575kHz、AFN の後ろでタイ語が一瞬浮かび上がる。(VOA Thailand か)おお、これは箱に入っても効果があるのか。。というのは多分ありえないのだが、その時は Gary 氏マジックだったのかもしれない、

■ その後、Gary 氏のインストラクションにある、PVC パイプを使った設置スタンドも早々にトライするが、製作こそ簡単なのに、いまひとつ細

かいところは推測で、かなりの適当さが祟ってか、使い勝手がいまひとつ良くないものが出来上がった。2種類用意したのだが、足の長いものは安定性がなく、低いものでなんとか。PVC ベースのテーブルとなる部分、パイプとパイプの間隔がいまひとつで、FSL がしっかりと乗せられず、なんともである。



■ FSL アンテナの原理や仕組みについては、ここで濫蓄を述べるほどの知識もないし、責任も持てないので、それらは Gary 氏や Ultralight DX などと検索して出てくる資料を参照されたい。ただ簡単な構造だけをお知らせしておく:

・フェライトバーが複数本 (ロシアの余剰品が比較的安価に手に入る、入ったらしいのだが、我々の様な用途で売り先があると判ると、その後値段は上昇傾向らしい。商売人達である)

因みに僕の5インチのFSLには45本、最近のGary氏ご本人の15インチのものには111本もあるとか。ここに高効率(と表現が適切な判らないが)な指定のリッツ線が巻かれていて、バリコンにつながっていて、操作としては、このバリコンのつまみをまわしてFSLアンテナを受信周波数にチューニングする、という構造であり仕組みである。ラジオ Ultralight ラジオそのものとは、ラジオのバーアンテナを近づけるだけで、“Inductive Coupling”(誘導結合)により接続する。

■失敗と試行錯誤

最初、マンションのバルコニーでPVCパイプに乗せて試みる。ノイズ



が凄い。NGである。Gary氏資料に随所にあるように、家庭の配線やあらゆるノイズ源からは、なるべく離してこそそのFSLアンテナであることを実感する。ということで、都市部での利用については、あまり効果が期待できない、という自身の結論に至る。やはりこの前のサイクリングロードの梅林などが理想なのだろう、と思い、FSLを乗せて数箇所を廻るも、なかなか思うような成果が出ない。

これは今思うと、氏のインストラクションにあった、設置高1.2m以上の足場(PVCパイプなどの)というところにこだわりすぎて、落ち着かないPVCパイプの上のFSLを操作しきれていなかった。また、C.Craneや

PL-380など、DSPチップの載ったラジオだと、FSLのチューニングが非常にわかりにくかった。これは、ラジオのチップ側が賢くて、弱い信号でも、すぐさま増幅してしまうのと、強い信号であってもオーバーフローしない様に瞬時に調整がされてしまう為と思う。これにはちゃんと対処方もあり、Gary氏サイトでは、ICF-2010などのいわゆるクラシックラジオでSSBモードにして、受信したい周波数のキャリアに合せておいて、FSLをチューンするという方法。

成功したのは、車の屋根の上に乗せてトライした時から。鉄板の上、という環境がFSLにとって、どうなのか、というのは正直疑問なのだが、Gary氏の記事にある、著名なDXerが車のルーフレール上に設置して、広帯域を増幅する高効率アンプをかませ、なんとSDR・ペルセウスに使っているとか。それはそれでまた一段ハードルが高いが、今はこの、「車の屋根の上！」というロケーションで、あとは周囲のノイズ事情が良好な場所に移動しての運用で成果が出始めた。

■5インチFSLの実力

今回の投稿においては、単なるインプレッション記事にしかならないのをご了承頂きたいが、Gary氏の実験では、径が4フィート(約1.2m)のAir Core Loop(ループアンテナ)と同等のゲインが稼げる、とのこと。このFSLが幅も高さも20cm前後のことを考えると、大変に省スペースで効率的なアンテナ、そこが画期的で新しいもの、であると言えるだろう。

■FSLアンテナ利用あれこれ

この手で持って簡単に角度をかえ

られることや、ラジオ側の角度を変えられること、誘導結合の状態を調整できること、すなわち Ultralight Radioには備わっていない、感度調節としてのアッテネーター的なことも、手元で如何様にも出来てしまうところ、ここに何か大きな可能性を感じずにはいられない。

事実、729kHz、NHK 第一の名古屋放送局の裏に、それなりにステディな強さで入っていたインドネシア語、推測でのRRI-Nabireの受信に際しては、Ultralight ラジオのバーアンテナを名古屋に対してNull/一番感度が弱くなるようにしながら、FSLの感度増幅分はNabireを目指す。。ちょっと理想的過ぎて、結局はどうなの？という感もありなのだが、DX局の信号強度と混信局の兼ね合いなどで、絶妙な状態を、両手でキープする作業となり、なかなか忙しい、というも退屈させない楽しさの一要素として間違いない。

■付録: Tecsun PL-380

冒頭の写真にC.Craneと並べて、お仲間の部品調達とアドバイスにより、Tecsun PL-380の改造作業も完了したので、こちらについても簡単にメモしておきたい。名機PL-380のループスティック改造計画は、これまた既にGary氏から発表されているものを参照。今回はシエスタ氏に配布戴いたフェライ



トバーの大きさがGary氏利用のものとは若干違っていた為、最適な巻

配線は簡単でオリジナルのバーアンテナの接続されているところに付替えるのみ

き数をシエスタ氏が測定から割り出していただき、板さんのリッツ線輸入のおすそ分けを頂戴して実現した、クラブオリジナル？というよい品になった。製作に際して、アンテナの設置位置や設置方法については、各人の趣味による、とするアナウンスがあったので、僕のを簡単に紹介しておく:

- ・イレクター部品を支持部材に利用
- ・そこにスポンジの筒をはめ込み、その中にフェライトバーを格納する
- ・イレクター部品の本体への接着に難があると思い、ボディに最大面積を接地させるための5mmの角材(タミヤ)を這わせてそこにイレクタ



一の下部が角材を噛む様に切り込みを入れて接着した。アンテナへの配線は、中央部分にそれぞれ穴を開けて最短で基盤へと向かう構造。ラジオの裏蓋をメンテの為に開けることも勿論可能だし、ロッドアンテナも使える、ストラップ穴もつぶさずにそのまま機能も残している。こんなスーパーチャージされた PL-380、早速受信してみれば。。。折からのバングラデッシュの好コンディションにより、693kHz、NHK 東京第二放送の停波後、素晴らしい状態の同局が受信出来た。

若干の内部発信？なのか、ディスプレイ部分を手で触ると、音声にブ

ーという弱いピープ音が混じるときがあった。その後、さわぼんさんの固体とも同じ現象、ということで PL-



380の問題なのかと推測。それにしてもこれまた楽しい機材の出現で楽しませてもらっている。皆さんも是非、この Ultralight の世界に足を踏み入れてみては。もちろんそれなりに聴こうと思えば、ノイズの少ない海辺などへ出かける必要があるかもしれないが、自宅から少し離れた、それなりにノイズの少ない場所を探せば、そこそこ簡単に聞ける、聴きたいときに聴ける筈である。Ultralight に乾杯！ ■

■■受信音サンプル■■

■ 630kHz 18時台 2015/5/2
KUAM (10kw)

@城ヶ島 (C.Crane Skywave 単体 (注))

同じ周波数に強力な混信局がない為に日没直前・直後には大変よく聞こえている。今の時期(春先)しばらくすると下段のオーストラリアが上がる。Ultralight でそこそこ良好に受信できる筆頭株。

(注: 城ヶ島への自転車ペディでの受信。中さんのフラッグアンテナの中央部分、支柱の真下で若干ゲインアップする場所での 通称 ”パラサイト”受信！)

<https://app.box.com/s/i50snq0fozca2uviet5imj034ke1yc8m>

■ 630kHz 19:04 2015/5/5
4QN (50kw) @相模原市内移動 (C.Crane Skywave / FSL 使用)
この時期(5月)グアムの信号の盛り上がりが一段落した後に、状態が良いと KUAM を押し退けて入感する。ABC のローカル番組。短波で聴いた懐かしいニュース・ジングルだけでも簡単に確認出来る。
<https://app.box.com/s/19f2hyv6kfb61b8r1jo66piej44oqh27>

■ 693kHz 02:00 過ぎ 2015/4/28
Bangladesh Betar (1000kw)
(PL-380 単体・自宅の窓際)
昔から NHK の東京第二放送、JOAB が S/off した後に聞こえ出す。早い時間は中国局の中に見え隠れするが、2:00 を過ぎると混信もなくなりコンディション次第では、超ローカル並みに受信できる日が何日か続いた。同局のサイトを見ると、夜間は同波でバングラデッシュほぼ全域をカバーしている。

<https://app.box.com/s/0fzm0w7buz3j8klj4n3p4ca6garz75gy>

■ 729kHz 19:03 2015/5/6
RRI-Nabire (Tentative)(10kw)
@相模原市移動
(C.Crane Skywave / FSL 使用)
前日に海辺で太さんがキャッチされたとの情報がありトライ。ほんの瞬間 NHK 名古屋を抑えての強さにも上がってきた。これこそ FSL の醍醐味。上述した通り、ラジオ管体と FSL それぞれの角度を微妙に変えながらの受信結果である。インドネシア語がはっきりと取れる。リストではニューギニア島西部の Nabire 局。

<https://app.box.com/s/0zo26he93xgwnivtlnu66erjui4mael18>

■ (PDF から音声リンクへ飛ばない場合はコピーペーストでお試ください)



輪行サイクリング & Ultralight DXing in 城ヶ島

五十嵐 雄希

昨年発行のPROPAGATION 2nd EDITIONでサイクリングによるUltralight DXingについて執筆したが、その際に次なる展望として輪行を利用したサイクリングとDXingを考えていた。TDXCのお仲間であるMiyaさんも自転車乗りであり、最近ではPL-380によるUltralight DXに精力的に取り組んでおられる。ゴールデンウィークに輪行サイクリングとUltralight DXingをやろうかと思っているので一緒にどうですか？とお声掛けしたところ、是非いきましょう！とご賛同いただいた。

ゴールデンウィーク前に横浜関内の居酒屋で開催されたUltralight DX用アンテナ検討会にて具体的な実施日と行き先を調整し、行き先は神奈川県三浦半島の先端に位置する城ヶ島に決定。Nakaさんと岡村さんにも参加いただけることになった。岡村さんはバス移動による参加、Nakaさんはバイク

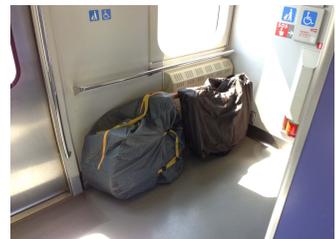
で参加いただくことになった。NakaさんはデルタフラッグアンテナとPERSEUSを持参されるということで、それならばということで私も重装備になることを覚悟の上でPERSEUS持参で行くことにした。(重くなったらUltralightじゃないですけどね(笑))

Ultralightならば自転車もUltralightかつコンパクトにということで、折りたたみ自転車でのサイクリングをすることとなった。我が家にはカミさん用と自分用の2台の折りたたみ自転車があるので、1台をMiyaさんに使っていただくこととした。



当日は14:00前後には到着し、三崎名物のマグロでも食べて、夕方からDXをしようと考えていた。ということで、12:51戸塚発の横須賀線で出発することとした。横須賀線終点の久里浜駅からは、サイクリングにて17km程度を走り、目的地城ヶ島を目指す。

ペディ当日、12:40頃 Miyaさんと戸塚駅で合流し、12:51戸塚発のJR横須賀線で久里浜に向かう。13:35頃に久里浜に到着。駅前にて自転車を組み立て14:45頃出発。



JR久里浜駅から京急久里浜駅付近の商店街を通り抜け、平作川沿いに久里浜街道を走り、開国橋というT字路で海辺沿いのペリー通りに出る。久里浜はペリーが率いる黒船艦隊が最初に来航した場所だそうであり、「開国橋」とか「ペリー通り」とか、この地らしいネーミングである。



この通りをしばらく三浦方面に向かい走る。久里浜港のフェリー乗り場を横目に見つつ、しばらく走ると海沿いの道に出る。しばらく気持ちいい海沿いである。Miyaさんは写真も趣味とされており、道中所々で海の景色をカメラに収めながらのサイクリング。

野比海岸、津久井浜、三浦海岸と続く海岸沿いを気持ちよくポタポタと走ると、三浦海岸駅付近で山側の城ヶ島方面と海側の観音崎方面に分かれる。ここで海から離れて国道134号を城ヶ島方面へ。ここからしばらく上り坂が続く。Miyaさんがスイスイ軽やかに上って行くのを、必死で後ろから追いかける。

しばらく行くと、小高い丘に畑が広がる。三浦半島らしい風景の一つである。ここでアクシデント発生。ミヤさんが乗る自転車の後輪がパンク。少し歩き、



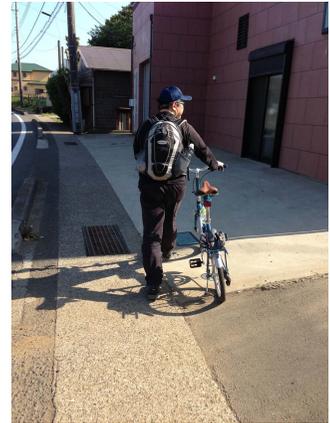
近くにあったバイク屋に行くも、自転車は見れないと言われ、がっかり。



近くの車屋に行き、この近くに自転車屋はあるかと尋ねると、城ヶ島の近くまで行けばあるとのこと。でも、まだ数kmはあるし、道路のアップダウンも激しい。とりあえず、パンク修理キットは持ってきていたので、チューブを引っ張り出してみたもののパンク箇所を特定できず。ロードバイクに乗る際は交換用チューブ持参が当たり前であるが、この日は走行距離がたかだか知れているため、交換チューブは持参していなかった。観念して、数km先の自転車屋まで歩く。

この頃、Nakaさんから携帯に連絡が入り、城ヶ島に到着したとのこと。こちらの状況を伝え、お待ちいただくことをお詫びし、しばらく歩く。途中自動

車の修理工場があり、駄目でもともとと思い聞いてみると自転車は修理できないけど、自転車屋に出張できるか聞いてもらえることに。しかしながら、結果は残念ながら出張は不可。仕方なく、数km先を歩く。



自転車を扱うハッ星モーターズに汗だくになりながらたどり着くと、スポーツサイクルは通常扱わないが、対応してくれるとのこと。チューブ交換が必要になる場合だと無理と言われたが、幸いパッチで対応できそう。なんとか修理してもらい、丁重にお礼を言い城ヶ島に向かう。

すでに到着予定の14:30を2hオーバー。既に到着しているNakaさんには本当に申し訳ない。城ヶ島大橋を渡り、城ヶ島に到着。Nakaさんに到着した旨と食事をとってから合流する旨を連絡し、食堂がある漁港方面に向かう。その途中、バスを降りて歩いておられる岡村さんを発見。昼飯をろくに食べていなかったため、激しく腹がすいている。岡村さんも一緒に近くの店に入り、私とMiyaさんはづけまぐろ丼を、岡村さんはカツ丼を注文。また、Nakaさん用におにぎりを握ってもらう。づけまぐろ丼が出てくるのを

待っていると次のアクシデントが。会社からの電話である。ゴールデンウィーク中ではあるが、仕事でトラブっているのが翌日出社して欲しいとの要請。電話でいろいろ状況をヒアリングするも、やはり出社しなければ事態は解消しないと判断し、明日出社すると伝えて電話を切る。一気にブルーになるが、今日は思う存分に楽しむことに。



づけまぐる井を平らげ、Nakaさん用のおにぎりを携え、ペディ会場の城ヶ島公園に向かう。公園までの道はこれまた上り坂であるが、相変わらずMiyaさんは、スイスイと上っていく。公園の駐車場に自転車を止め、公園の一番奥に向かい、ようやくNakaさんと合流。芝生がしかれた広いスペースと海の絶景が広がるすばらしいロケーションである。既にNakaさんによりデルタフラッグアンテナが設置済みである。



遅れて到着した3名も早速セッティングに取り掛かる。岡村さんはSDRと最近入手されたばかりというUltralight DX界の先駆者であるGary氏によりアンテナがカスタマイズされたC. Crane Skywave。Miyaさんは同じくC. Crane SkywaveとPL-380であり、いずれもアンテナが強化されたものである。私はPERSEUSとノーマルのPL-380を持参。PERSEUSの起動に若干手こずってしまい、18:00の記録を逃すが、セッティングを完了しワッチ開始。



KGUM, KUAM, KTWG の GUAM 各局他、AUS は 981kHz 2NM, 1170kHz

2CH, 1296kHz 4RPHが強力。他にも多くの英語局が並んでいた。

PERSEUSに中波帯を記録させつつ、PL-380でKUAMをワッチする。ノーマルのPL-380でも十分聞こえるがMiyaさん持参の外付けアンテナ付きPL-380を比較すると40dB μ Vほどの差がある。外付けアンテナ恐るべし。でも、デルタフラッグの下が一番強いようであるが…。私もゴールデンウィーク前のUltralight DXアンテナ検討会でアンテナコアとリッツ線をいただいているので、早く工作をしたくなった。

19:00までPERSEUSに記録し、撤収。ここから京急の三崎口駅まで6km程のサイクリング。帰りも殆ど上り坂であるが、数km歩くよりはマシ。上り坂を越えると最後の1km程はひたすら下り。無事に三崎口に到着。



ここで2台の自転車を折りたたみ、輪行袋に収納。20:17発の列車に乗り、上大岡20:54着。上大岡で横浜市営地下鉄の湘南台行きに乗り換え戸塚駅に21時過ぎ到着。ロータリーまでMiyaさんに自転車を運んでいただく。Miyaさんは翌日も長距離サイクリングのご予定とのこと無事を祈念し別れる。

アクシデントもあったが、かえって思い出に残るサイクリングとペディであった。参加された皆様お疲れ様でした。

ナゾのトライアングルアンテナ製作&実戦使用記

中川 弘夫

今号で別記事「BCLの楽しみを拡げてくれたミズホ通信」を執筆したせいもあり、何か昔のBCL関連機器を自分でも作りたくなった。とは言え今の時代、回路図があっても実際には作れないことがままある～当時の部品がもはや入手出来ないという問題である。そんな中で確実に部品が入手出来て、製作自体非常に容易なものがある～アンテナである。そしてミズホ通信と言えばループアンテナであり、中でもトライアングルアンテナには非常な郷愁をそそられた。

近頃仲間内ではUltralight DXという、ポータブル機を用いてどこまでDX出来るかという遊びが流行している。これは本誌前号でも五十嵐さんがレポートなさっているが、私はこのアンテナにトライアングルを、RXは手持ちのDEGEN DE-1103用いて、しかもロケーションを海岸そばのキャンプ場にした場合、どんな風にDXが出来るかを実験したくなった。言わば70年代の中波DXを再現してみようという試みである。

トライアングルアンテナのしくみは、一辺1mの正三角形の形に枠を組み、ここにビニル線を6回巻いてループを作りバリコンで同調、ここから1回巻きのコイルでピックアップし、ポータブルラジオのバーアンテナに誘導結合するというものである。これによりラジオの感度がグンと上がり、DX局受信が可能になるという。私もこれと全く同じに作っても良かったのだが、時を同じくして秋葉原のマイクロ・パワー研究所より、MIZUHO UZ-77を流用した中波帯プリアンプキットが提供されたので、バリコンの代わりにこれを使用することにした。



UZ-77 流用中波帯プリアンプ

製作について

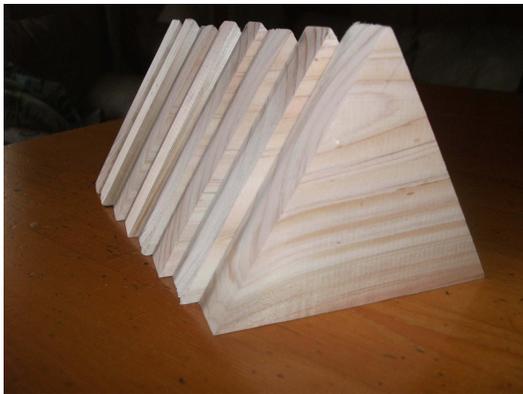
用いる材料は下記の通りである。

- 1mの配線カバー(ダイソー)Lサイズ3本:¥100
- KV0.3SQ電線20m(千石電商):@25×20=¥500
- ひのき板材600×90×20(ビバホーム):¥518
- パイン角材910×15×15(ビバホーム)3本: ¥105×3 ※スペース巻きバージョンの場合
- L字金具60mm(ビバホーム)2個:¥40
- 木ねじセット(ダイソー)適量:¥100
- 回転台(ダイソー):¥100
- 板材(ダイソー):¥105
- 「475kHz帯+中波放送帯プリアンプキット」(マイクロ・パワー研究所):¥7,500

※プリアンプを用いずバリコンのみで同調する場合、VC-340AM 340PF 二連ポリバリコン:¥500(マイクロ・パワー研究所)

製作で唯一頭を悩ませたのは、トライアングルの形を作るための正三角形のベースをどうするかということであった。正三角形の既製品で何か無いかと検索したところ木製のブロックが見つかったが

送料の方が高つくので、板材を切って作ることにした。自分で切っても良かったのだがきれいに作らなかったたので、これはビバホームの加工サービスで1カット29円で切って貰った。



いくつかパターンを作るつもりだったので、上記板材から8枚分取った。これに配線カバーを木ねじで固定して斜辺2辺を作り、水平のもう1辺はL字金具を60度に曲げて斜辺と接合した。上記L字金具は腕力で曲げることが出来る。

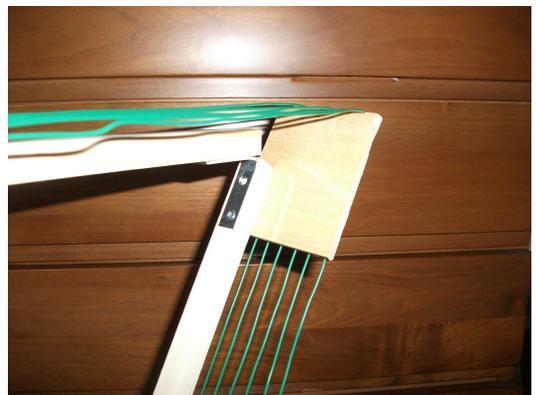


これに電線を巻いて3m×6回=全長18mとする。

これらの両端にRCAプラグを装着し、これをプリアンプに入力。アンプからの出力をアンテナ端子のあるDE-1103に入力するという構図である。



こうして一旦は配線カバーバージョンで完成したのだが、そんな報告を高田 OMにしたところ、「手軽さでモールを使用するようになっていますが、巻線は感度の点でスペース巻きが有利です。Qが上がり同調点もシャープになり、感度もアップします。」というアドバイスを頂戴した。そう言われると、やはりより良いものを作りたくなるのが人情である。ペディまで余り時間も無かったが、急いで角材とスペーサーにする薄板を購入。6本のエレメントに各々10mmのスペースが出来るように鋸で溝を作ってこんな感じに完成。



実使用は3月の茅ヶ崎ペディとなった。当日持参しキャビンに入れるが、結構大きくスペースを取る。

なので外に出してテーブルの上に設置し、本格的 DX の合間にこちらも実験することにした。



この日はなかなかのコンディションで、Guam3 局はこのトライアングル&DE-1103 でも大変強力に入感。お仲間はこのトライアングルに自身の PL-380 + 外付けパーアンテナを近づけると信号強度が上がると、大はしゃぎで楽しんでいた。



この日最大のヒットはオーストラリアの X-Band 局、1656kHz2MM。出力 400W の局の電波を DE-1103 で捉えると、何とも言えないロマンを感じる。

受信環境が厳しくなった現代では、このアンテナは自宅で使うというよりは、こうした海沿いのペディでの使用の方が面白いだろう。

*本記事で使用した「475kHz 帯 + 中波放送帯ブリ・アンプキット」は残念ながら既に販売終了となっています。が、代表の高橋様にご相談したところ、

本誌読者限定で、2015 年 12 月 15 日まで継続販売頂けることになりました。私と同じアンプ付バージョンで製作したい方は、この機会にご購入なさることをお勧めします。

http://mizuho-lab.com/qex13_475k/qex13_475k_u777kit.html

製作に関してのサポートはしていません。記載してある内容を理解出来た方だけ購入してください。問い合わせはメールのみでお願いします。

info@mpl.jp

※追記：アンテナ製作に際し上記高橋様よりアドバイスを頂戴しましたので以下に追記します。

「アンテナ製作の注意点」

今回の使用例でテーブル上に置いた様にアンテナとアンプの距離が短い場合はあまり問題になりませんが、アンテナからアンプまで同軸コードで 5m 以上に延長する場合はインダクタンスに要注意！1.5MHz 以上で同調が取れなくなったり、感度低下が起きる場合があります。これは同軸コードの線間キャパシタンスの問題で、1.5C2V では 1m につき約 70PF あります。長くなればなるほどこの容量が効いて来ます。例えば、10m として 700PF、それにアンテナ部分のインダクタンスを 100 μ H として共振周波数を計算してみてください。この共振周波数が 2MHz 以下になる様にしないと、中波帯ハイバンドでは効果が出ません。5m 以内は概ね 100 μ H 程度、それ以上延長する場合は同軸コードではなく平行ビニール線を使用してください。この辺りの調整は各自が粘り強く性能を追い込む気持ちが重要です。アンテナを真剣にやろうとするなら、最低でも LCR メーターを用意しましょう。

FSL Antenna 1st Impression



岡村 博行

Ultralight Dxing を知っていますか？

皆さんは、Ultralight Dxing という言葉を知っていますか？ Ultralight Dxing とは比較的軽量且つ小型のラジオ（ポータブルラジオ）等で遠方の放送局を聞く。という BCL の楽しみ方の一つです。海外では Yahoo Group や Facebook 等で盛んに情報交換が行われています。

Ultralight Dxing の第一人者と出会う

海外では、Ultralight Radio を使用し、海外の中波局を聞いている方が何人かいらっしゃいます。この度、第一人者である、WA 州在住の Gary Debock 氏と Facebook を通じて知り合う事ができました。

Gary 氏は Ultralight Radio にフェライトバーアンテナを融



合して海外中波を聞いてます。ネットを見ていると上記の写真を見た事ありませんか？小型ラジオの上部に、赤い T の字型のバー、上部にはフェライトバーが取り付けられています。Gary 氏との出会いにより自分はこのアンテナシステムを入手しました。

このアンテナは素晴らしい性能を発揮しています。遠くは北米局やオーストラリアのラジオ

局もこのシステムで受信しました。詳細は次回、ということで話を表題の FSL Antenna に戻すことにします。

FSL Antenna とは何ぞや

表題の下の写真を見ると何やら円形の物体に足が生えていて今にも、独自で動きそうな形状をしています。実は、このアンテナも Gary 氏が Ultralight Dxing に使用しているアンテナ

です。彼は Ultralight Radio と FSL Antenna で海外の放送局を聞いています。

FSL とは Ferrite Sleeve Loop の略でループアンテナの一種と考えても良いと思います。構造ですが、簡単に言うと、ウレタン用素材で作成された筒状の物体の外周にフェライトバーを何本も巻いて、その上からリッツ線を何周と巻き、バリコンで同調するという物です。今回、Gary 氏のやりとりからこのアンテナも入手する事ができました。

FSL Antenna を試してみた

屋外で FSL Antenna を使用してみました。アンテナを使用するときにはなるべく金属から離れた方が良い。とか、地上高を上げて地面から離れた方が良い結果を上げられるというお話を事前に入手された方から伺ってましたので直接、コンクリートの上に載せても大丈夫かな？という一抹の不安も過ぎりましたが、取あえず高台に出向き設置してみました。

さて、その結果ですが、このアンテナの性能は想像を超えるような凄い威力を発揮してくれました。表題の写真のように FSL Antenna の傍に PL-380 を置きます。今回、PL-380 を使用したのには訳があります。PL-380 には信号強度を示すシグナルメーターがついています。FSL Antenna を使用する際には受信周波数の同調を合わせる為にシグナルメーターを見ながら最適ポイントに合わせます。

夕刻になり、各局の信号強度が強くなっていきます。一番、最初に聞こえてきたのは 1170kHz でした。信号は弱かったのですが音楽が流れているのが解りました。後で、解った事ですがこの音楽を流している局は大変な珍局と判明しました。マーシャル諸島の Eagle Christian Radio です。確認には各関係者の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

これだけでは、ありません。567kHz のグアム局の受信でこのアンテナの威力をまざまざと体

験する事ができました。PL-380, 単体では全くグアム局は受信できません。しかし、FSL Antenna の傍に置くとグンッと信号が上昇しました。その信号強度の強さは半端ではありません。FSL Antenna から離れた状態で置いた PL-380 単体の信号強度レベルは 15dB μ に対し、近づけた場合は 30dB μ 前後に上昇し、瞬間的には 40dB μ にも達しました。

物凄い威力だと感じました。因みに、今回比較の為に持参した 7.5" inch のフェライトバーをインストールした PL-380 よりも信号が強かったです。今回、途中から降雨の為、受信を中止しましたが今後も、このアンテナを使用し受信活動を続ける事にします。ということで今回のファーストインプレッションを終了します。尚、アンテナを製作してくれた Gary Debock 氏、入手に協力してくれた宮内氏、長谷川氏に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



PL-380 信号強度 : FSL Antenna から離れた状態

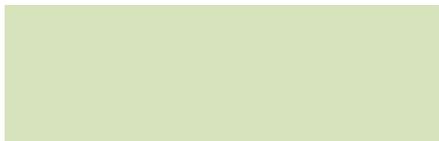


PL-380 信号強度 : FSL Antenna の傍に置いた状態

Face to Face! BCL!!



ひとり微弱な局に耳を傾ける孤独なシャックを離れ、仲間と集い、語らい、笑い、絆を深めあえる。Face to face、しませんか？



OM 探訪

第1回「赤林 隆仁氏」

中川 弘夫

BCL ブームは、ある意味じゃ異常な時代でしたね。短波はあくまで趣味。無線通信はいずれ衰退すると思ってたから。BCL のモチベーションは…分らない。他のことより～例えば受験よりも～優先させたのは確か。



赤林 OM 近影

【OM 探訪開始！】

今号より OM 探訪という記事を書かせて頂くことになった。これは米国アトランタ在住の知人 DXer Jack C. Ohmori 氏のサジェスションによるものであった。本誌編集長に「フットワークの軽い中川氏に OM 探訪をやって貰っては如何か？」というご意見を頂戴し、伝え聞いた私自身もはたと膝を打った。この分野で活躍している方の話を聞くのは、私自身の嗜好に実に合っている。それに気付かせてくれたように思ったのだ。

ではどなたにお願いしようか？と考えた時に、迷いなく浮かんできたのは今回の「赤林隆仁氏」であった。それは説明するまでも無いように思うが～時代を超えて万人が認めるトップ DXer のお一人であるからである。趣旨をお伝えしインタビューを申し入れたところ幸いにも快諾頂くことが出来た。折角赤林さんからお話を伺えるのだから一人というのも勿体無いとお仲間にも声を掛けたところ、4 人の方が集まった。そんなメンバーで2月の日

曜日、新宿のとある喫茶店でお話を伺うことになった。

【BCL ブーム前～BCL ブーム時】

赤林氏は 1950 年生まれ。氏が BCL を始めたのは中学生の時である。それは BCL ブームが到来する以前の話でありこの趣味の存在を知ったのは友人からの情報だったそうである。「多分ペリカードを自慢されたか何かでしょう」。そこで関心を持った氏は早速自宅にあった短波ラジオで聞き始める。

ただ「ラジオ少年だったのか」というと違いますね。当時の短波ラジオは真空管式で選択度も感度ももう一つで、9R-59 とかもありましたが、中高校生には手が出ない。それで、自分で作るしかなくて…。師匠がいた訳でもなく、学校も電子工学が専攻だった訳ではない。雑誌の製作記事が先生であった。実体配線図や回路図を見ながら高一中二といったラジオを組み立てた。そうして技術にも詳しくなっていたのである。

BCL にも熱中の度合いを強め、「日本短波クラブ創立 50 周年記念誌」を紐解くと、1966 年には既に常連投稿者として、その名を発見することが出来る。1971 年



1978年当時の赤林 OM のシャック。手を掛けている R-390A/URR の他、FR-101 などの名機が並ぶ

には JSWC において優秀レポーターに対して授与される個人賞である「永井賞努力賞」を受賞している。その後 JSWC が開催した東京ミーティングに参加し、当時の若手 DXer との親交を深めていった。

BCL 書籍「世界の放送～BCL のすべて」（国際コミュニケーション。野口実氏と共著）が著されたのは 1975 年なので、20 代半ばという若さで、名実共にトップ DXer の地位を確立していることが分かる。

BCL ブーム当時は引っ張りだこであった。上記書籍の他毎日新聞でも連載記事を書き、また日本短波放送の BCL 番組「BCL ワールドタムタム」にも出演していたそうである（これは私も記憶がなく、最初からタモリ氏がパーソナリティであったとばかり思っていた）。しかしながら仕事もありとても続けることが出来ず、資料を提供するバックアップに回るようになった。裏話で驚いたのは「当時 NHK 教育テレビで BCL 講座

ができないかという話が来た。皆でやるにしても荷が重いと思い断った。受けてたら本当にやったでしょう」というもの。それはとても残念だが、「ある意味じゃ異常な時代でしたね」と仰る通り、当時のブームの過熱振りが伺えるエピソードである。

昨年の本誌でも書いた通り同年には日本 BCL 連盟が誕生し、76 年に情報誌「短波」が発刊されると、赤林氏はその主力執筆者とし

て活躍している。これは同誌が休刊される 83 年までずっと続いた。

【BCL ブーム後、「月刊短波」について】

短波休刊、旧 B 連解散～所謂 BCL ブーム退潮後も氏は全くペースを変えることなく活動を続ける。84 年に新 B 連が誕生した後も、請われて記事を書いたり BCL 初心者向けのイベントで講演したりして、後進の指導に尽力されている。

現在も氏のライフワークとなっている「月刊短波」は、1986 年に始まっている。これは当時あった DX クラブである「JADX」の会誌に、固定ページとして書いたのが始まりであった。「月刊短波」という名称は勿論あの「短波」誌に由来している。「短波」という名前が消えてしまうのを惜しみ、ご自身のページに継承したのである。元々は R.Nederland の DX 番組「Media Network」の情報を「自分だけで楽しむのは勿体無い」と掲載したのが始まりであった。当時はインターネットもないので、全て短波放送を録音してテ



日本の BCL で知らない人はいないであろう、月刊短波 HP

ープ起こしをしていたのだ。これは翻訳も伴うし大変な作業である。Media Network 以外に SCDX などそのバリエーションを挙げたため、大変な量の翻訳作業をしていた訳である。「リスニング力はつきましたよ。TOEIC スコアが 900 点くらい行っちゃいましたから」と仰っていたが、900 点はネ

イティブの一步手前の非常に高いレベルのスコアである。よく BCL をやると英語力がつくと言われたが(それは多くの場合錯覚と言えたが)、氏の場合は本当についた実例と言えよう。

JADX が 1987 年に解散した後は、今度はその舞台をパソコン通信 PC-VAN に移した。BCL/SWL の SIG

内で引き続き情報を提供したが、この際使ったのは NEC のワープロ「文豪」だったそうである。通信機能が付き、モデムで情報をアップしていたのだ。更に情報は米国のパソコン通信 Compuserve から入手しその情報量を充実させていく。95 年からインターネットが一般家庭に入り、そして「短波」の舞台も 2000 年より現在の形であるインターネットへの掲載となった。

【BCL のモチベーション】

赤林氏というと製作記事や製品レビュー等、技術にも造詣が深い方であるが、「無線通信を仕事にすることは全然考えなかったですね。短波はあくまで趣味でした。無線通信はいずれ衰退すると思ってましたから。」と仰っていた。実際に進路も経営工学に進み、就職も希望通りシステムエンジニアの仕事に就いている。

ところで我々一般 BCL は時にスランプに陥ったり、ともすると戦線離脱してしまったりするものだが、氏はコンスタントにテンションを維持しているように見える。その秘訣を尋ねてみると「BCL のモチベーションは・・・分らないですね。他のことより～例えば受験よりも～優先させたのは確か。『何のために』でもない。『そこに山があるから登る』みたいな感じ。『それが生活だ』と」。何やら禅問答のような会話になったが、私なりに解釈すると「とにかく三度の飯より BCL が好き」ということなのだと思う。「仲間がいたから」でもないようだ。実際ご自身は「月刊短波」が続いた理由を、むしろ一人でやってきたことに求める。仲間がいた



2015 年のシャック。メインの RX-340 の他 AR-7030、NRD-535 といった通信型受信機混じって SDR である PERSEUS の姿も見える。

ら続かなかったかもしれない。意見の相違、スケジュールが合わないこと等で分裂してしまうことはままある。一人でやっている限りは決して起こらない問題である。

しかし決して孤独を好むと言う訳ではなく、お仲間との月一回の秋葉原ミーティングはずっと続けている。仕事で東京を離れ名古屋に住んでいた時は、NDXC の名古屋ミーティングに参加されていたそうである。

ご自身は DX 派かリスニング派かという質問に対しては、「DX 派でしょうね。リスニングが目的であれば短波でなくとも良いから。微弱な電波を捉えるのがこの趣味の醍醐味でしょう」と明快な回答が返ってきた。

受信機はメインで聞くのは Tentec の RX-340。その他 NRD-535、AR-7030、R-8 等の通信型受信機その他、SDR では PERSEUS など所有しているが、主として聞くのは RX-340 とのこと。「実際に聞くと専用の受信機の方が勝る『気がする』。論理的な意味はないけど。いずれ SDR しかなくなってしまうだろうが、そうなったらインターフェースを R-390 のようにしてくれないだろうか」と冗談を言っていた。

アンテナはルーフトップに ALA-1530 を上げている他、複数のアンテナをベランダに設置している。コンパクトサイズで ALA を超えるパフォーマンスを出すアンテナは無いだろうというのが同氏の見解だ。国内 2 号機という ALA は稼動して 15 年以上の歳月が経過しているが、未だ健在だそう。



インタビューに続く飲み会にて。赤林 OM、私、高崎より参加の関山氏。雲の上の OM とこんな風に飲む時代が来たことに感動！

【酒席を共にして】

赤林さんにお目に掛かるのは数回目だが、こうやって詳しく話を伺ったのは昨年日本 BCL 連盟に関してインタビューしたのに次いで 2 回目である。今回は喫茶店で真面目にお話を伺った後、飲み会にもお付き合い頂いた。インタビューの時間は我々も皆緊張していたが、アルコールが入るとリラックスして、本当に楽しい時間となった。

年下の私が言うのも僭越だが、赤林氏は硬軟どちらもいける大変バランスの取れた方であると感じる。BCL に関しては言うまでもなく博識であり、理路整然と語って下さるであろうことは前回インタビューで分かっていたが、同時に物凄く面白い方であることも今回良く分かった。ここではとても書けない数々の裏話を実に面白くご披露頂き、飲み会は何度も爆笑に包まれた。飲み放題の居酒屋でボルテージも最高潮に達したが、そんな楽しい 3 時間を

過ごし、「本音インタビュー」も終了となった。

今回のインタビューを終えて、我々は～少なくとも私は～BCL が好きとは言え、赤林さんの「好き」の域には到底到達し得ないと思う。しかしその「好き」「情熱」「この世界に貢献する姿勢」の一端でも身に付けて、私なりのペースでこの趣味を末永く楽しんでいきたいと思うのであった。

最後にインタビューを快くお受け頂き、長時間に渡りお付き合い下さった OM に改めてお礼を申し上げて、本稿を了としたい。



戸塚ナイトオブ 「関山さんを囲む会」

ネットを通じてお近づきになった、元 KDXC (関東 DXers サークル) 編集長の関山レイさん。かつて KDXC の会誌「CALL SIGN」編集に 7 年間携わり、今また猛烈な勢いで BCL を復活させているご様子。昔も今もパワフルなそのエネルギーの源を知りたくて、TDXC フルメンバーでオフ会を開催しました。関山さんは遠く群馬からかお越しくださり、また PROPAGATION の感想をお送りいただいた板倉さんもお呼びして、大変賑やかな席となりました。そこへ関山さんの「盟友」竹野さんもなんと山形から駆けつけ、4 時間にわたる酒宴に会場は熱気に包まれました。(構成: 長谷川 真也 / Photo: 五十嵐 雄希)

2014 年 10 月 18 日 (土) 19:00 戸塚 海ぶね トツカーナ店

参加者 (敬称略) 五十嵐 雄希、板倉 健、岡村 博行、栗本 佳明、関山 レイ、竹野 伸郎、中川 弘夫、長谷川 真也、宮内 聡

● 初対面のお二方を迎えて

長谷川: 関山さんは、今年のハムフェアにも来られたそうですか？

関山: そうそう、久しぶりに昔の仲間に会ってね。11 月あたりに同窓会しよう、なんて話になって。

長谷川: そのあたりから、急激に BCL 復活熱が盛り上がってきたんですね。

関山: どうだろうねえ。多分、急激に盛り上がると、急激に盛り下がる可能性もあるから… (笑) なんともいえなけれどね。

中川: せっかく復活したんですから、細く長く続けられるといいですよ。

長谷川: 板倉さんは、最近 BCL を復活されたんですか？

板倉: 3 年前くらいからですね。ブランクは長くて… 多分この中じゃ私が一番年上ですね。中学・高校の頃以来だから、もう 40 年ぶりくらいかな。

長谷川: 復活したキッカケは？

板倉: SDR です。私いまは IT 関連会社で経営に携わっていますが、アセンブラ言語や、C 言語で開発してた元プログラマーなんです。会社で SDR を開発できないかと個人的に調べ始めて、PERSEUS を買って聞いてみたら、これは面白いなあ！と。

長谷川: 無線機関係のソフト会社なんですか？

板倉: いえいえ、WEB サイトやスマホアプリ制作のソフトウェア開発です。個人的にはアンプやオーディオ関連のソフトウェア開発にも非常に興味があります。昔からラジオも聞くより作る方が好きでした。

中川: 無線もおやりですか？

板倉: ハムの資格も一応持ってますけど…。昔は CB をずっとやってて、一番ハマってたのはパーソナル無線でした。

長谷川: 今はオーディオといってもデジタルなんですね。

板倉: PC 音源をソフトウェアで再生する、デジタルオーディオが流行ってきてますよね。DAC を使って、PC からの音をアナログオーディオで聴くために品質を高めたマスター音源…ハイレゾリューション音源とかありますけど、そういったデジタル音源にまつわるソフト開発が専門です。

中川: 関山さんは、おいくつですか？

関山: 昭和 40 年 12 月生まれ。

中川: じゃあ私の一つ下だ。

関山: では中川さんは、竹野さんと同い年ですね。

中川: そうですね。

関山: 私より年上は BCL 多いんですけど、年下になると途端に少なくなるんですよ。

中川: Shin さんといかさんが、同い年なんだよね。

長谷川: 昭和 43 年生まれです。中学 3 年の 7 月に短波誌が休刊になったんですよ。

五十嵐: 私たちが始めた頃は、ブームも下火になりかけてたんですよね。

板倉: 私が始めた頃は周りに誰も BCL がなくて、とにかく情報がなくて…雑誌はラジオの製作とかトランジスタ技術。

中川: たしか、高 1 まで BCL やってらしたんですよ。

板倉: 小 5 からですから…。ちなみに昭和 34 年生まれです。

中川: 短波誌がない時代ですね。BCL 連盟ってご存知なかったですか？

板倉: 当時は知らなかったなあ…高校からテニス部に入って、そっちが忙しくなっただけ。

長谷川: Naka さんもテニスやってるんですよ。

中川: 私はナンチャッテです (笑)

関山: 皆さん、お酒飲まれるタイプなん

ですか？

中川:この人(長谷川)は特に(笑)

長谷川:この頃は、飲みすぎて潰れちゃうことが多いです。KDXC のミーティングやペディでも、飲み会が多かったと聞きました。

関山:まあ半々くらいだったかなあ。飲めない人もいたんで。

長谷川:「ペディは飲み会で、ラジオを聞く会じゃない」と竹野さんから伺いました。

関山:そうそう、俺もそういうタイプ。でも一生懸命ラジオ聞いている人もいたし。というか、わざわざ行くんだから、そもそも聞かないともったいないよね。

五十嵐:SDR なら、飲むのと聞くと、両立できますね。

関山:それがすごいと思ってねえ。その場でリアルに聞かなくていいんでしょ？会場に居さえすればいい、というか。

中川:メチャメチャ楽ですよ、タイマーで勝手に録ってくれますから。先週も北海道にペディ行ってきたんですけど、全員聞かないでずっと寝てましたから。

関山:へー！

五十嵐:でも夜中に起きてみたら、勝手に Windows がシャットダウンしてて、焦りましたよ。

長谷川:私もタイマーミスってました…。

関山:そういう危険性もあるんだ。でも、今は便利になっていいなあ。

長谷川:今日、持ってきましてのご覧になりますか？(と、ノート PC を取り出す)

関山:えっ本当？ SDR はじめて見るよ。

長谷川:関山さん、いまたくさん受信機を収集なさってますよね。

関山:なんか、うっかり買っちゃったんだよねえ。ちよっと後悔してる感じ(笑)

五十嵐:以前お持ちだった受信機は、処分されたんですか？

関山:20 年 BCL やめてたから…なんも残ってない。

五十嵐:もったいなかったですねえ。

宮内:先週の積丹ペディの写真を持ってきました。

中川:ありがとうございます！

関山:ほう、パンガローみたいところで聞いてきたの？

長谷川:そうです。日本海が見渡せる立地で。

中川:ところで、積丹の解析してます？

岡村:ルーマニア入ったよ(注:Radio Romania Actualitati/Cluj 200kW)。

中川:周波数いくつ？

岡村:909.4 時半頃かな、ルーマニア語でハッキリ ID 出ました。

中川:ルーマニアは嬉しいなあ(と、周波数をメモ。つられてみんなもメモ)。

板倉:すごいなあ…みんなでメモるところが(笑)

岡村:みんな、自分で聞かなきゃあ。

中川:岡村さんは TDXC 解析担当だから。私は運転手、ミヤさんはトラベルエージェント、いかさんは宴会部長。板倉さんもぜひ役割分担を(笑)

板倉:皆さんに追いつくの、大変そう…。

関山:(PERSEUS 画面を見ながら)これは北海道で聞いてきた音なの？それをこうやって、居酒屋でビール飲みながら聞けるんだ。すげー！

一同:笑

関山:(スペクトル画面を見ながら)信号も目で見れるわけね。こんな風に山になってるところを聞くんだ。へえ～。

長谷川:局名も表示されるんですよ。

関山:ほお～。いま皆さん、PERSEUS 標準装備？

中川:持っていないの、関山さんだけ。

関山:あ、俺だけ？

長谷川:私はこれ買うために、アナログ機売っちゃいました。

関山:これさえあれば、他はいらないのかあ。

長谷川:ソフトのバージョンアップで、性能も進化します。最初は 400kHz だった記録帯域が、いまでは 1600kHz ですから。

中川:明日、富士無線に寄って買うとか(笑)

関山:今日もう寄ってきたからなあ。今いくらなんだろ。

五十嵐:10 万くらいですかね。

宮内:また円高になってきてますから…。

中川:使うパソコンは、スペック高いほうがいいですよ。

関山:持ってるの古いやつだからねえ。ハードディスクって、どのくらいが推奨？

長谷川:大きければ大きいほど長時間記録できます。どちらかというと CPU の性能が重要でしょうか。

板倉:ですね。

中川:CPU が低いと、音がスタックしちゃうですよ。

関山:いや～とにかくね、SDR にはびっくりしたなあ。なんとなくネットで知ってはいたんだけど、一部の人のだけじゃなく、今はだれでも使ってるんですね。

長谷川:使い始めは抵抗あるんですよ。なんだかラジオ使ってる気がなくて。

板倉:私もそう思いました。それでも SDR はすごいです。

長谷川:SDR のソフト開発って、難しいものなんですか？

板倉:そんなこと無いと思うけど。

長谷川:国産の SDR やソフトって、出てこないですよ。最近やっと JRC で発売されたけど(注:NRD-383)。10MHz 帯域記録できて、500 万円(笑)

一同:笑

長谷川:そうそう、懐かしいものを持ってきました(と、KDXC 会誌 CALL SIGN を取り出す)。

関山:おお。だれの時のやつ？

中川:これ、編集長が関山さんのですよ。

長谷川:この号(1994 年 1 月号)が、関山さんが最後に編集した時のものです。

関山:マジで!?

長谷川:編集後記に、「今後は、また新たな活動を展開したい」とありますけど。

関山:ほんとか。「お別れの挨拶をしなければ…」って、なんか読みたくないな

あ。

一同：爆笑

中川：なんでお別れだったんですか？

関山：覚えてないなあ。俺も、それを竹野さんに聞こうと思ってたんだけど。

長谷川：この次の号から、編集長が変わるんですよ。

関山：そう、佐原さんと。

板倉：これが出てた頃はちょうど就職した時で、BCL のピの字も出てこなかったんだよなあ。

宮内：この時期は、まだアキバに X-1 がありましたよね。

岡村：X-1 で CALL SIGN 買ってましたよ。ラジオの製作と並んで CALL SIGN が置いてあって。

板倉：パソコンもまともになかった頃ですよ。98 もまだ出てなくて。88 の時代じゃないですか。

宮内：懐かしいですねえ。

関山：「今月は歴史に残る超特大号」（1997 年 4 月号 70P）、へえ〜。この号は、特別に厚かったの？俺の時はこんなに厚くなかったよ。

長谷川：200 号記念だからみたいです。

中川：たしか通巻 250 号くらいまで出たんだよね。

関山：俺の弟子が、CALL SIGN をスキャンしてデジタル化する計画らしいんだけど、もしかしたら協力をお願いするかもしれません。

中川：弟子って、ラジオで師弟関係があるの？

関山：連中と今日会ってきたんだけど。俺が KDXC やめた頃、まだ高校生だったんじゃないかなあ。

長谷川：その方達とハムフェアで再開して、それが BCL 再開のキッカケになったんですね。

関山：彼らがいいたから、今俺がここにいるんですよ。ありがたいことです。

●ここで竹野さん登場

長谷川：お二方、何年ぶりのご対面で

すか？

竹野：最後に会ったの、いつだったか覚えてねえ。

関山：さっきも「竹野さんて、すげえなあ」って話をしてたのよ。

竹野：何言ってんだよ(笑) しかし、皆さん気合入って飲みモードだね。きょう、昼間は酒我慢してたの？

関山：そう。飲めない人もいたしね。でも朝出かける前にビール飲んできたから(笑)

竹野：おれも新幹線の中で準備運動(笑)してきた。

関山：竹野さん、変わらないって言えば変わらないねえ。

竹野：そうね…。この、関山さんのダラダラ飲み感じが堪らないよね(笑) 参考までに、私、普段全然ラジオ聞いてないんですけど。

中川：竹野さんは、自然体でいいんですよ。

関山：TDXC の顧問だって聞いているけど？

竹野：顧問なんかじゃないよ。

長谷川：アイドル担当(笑)

関山：「普段全然ラジオ聞いてないよ」なんて、なんか 20 年ぶりに聞いたなあ(笑)

竹野：(関山さんの Twitter: @BCLPrince 見て)びっくりしたんだけど、なんであんなにラジオ買ってんの？(注: Twitter 上で確認できたものでも、

R30C、NRD-515、R-1000、NRD-505、NRD-545、NRD-525、R8B がある)

関山：酔っ払うと、うっかり買っちゃうんだよ。

竹野：馬鹿じゃないの？(笑) 1 万や 2 万のラジオじゃないんだよ。

関山：今だって、2 件入れ入ってんだよ。やばいなあと思ってて…。誰か高値で更新しないかなあ、R8B 買ってやつ。いま 10 万ちょい。

岡村：私、8 万で買いましたよ。中古で。

長谷川：ボラれるそうですよ(笑)

関山：なんだよ〜相場知らないからさ〜。

竹野：あんなにラジオを床に並べたら、壮观だねえ。

関山：もう箱に入れて仕舞っちゃったよ。いますごい後悔してんのよ。

竹野：でも、(NRD)515 までではよくあるけど、(NRD)505 まであって。

関山：買ったはいいけど、聞く時間がない。聞く気がないというか。

竹野：昔からラジオに興味なかったもんね。

関山：20 歳くらいで聞くの飽きちゃったんだもん。

竹野：てなことを、飲み会でダラダラ偉そうにしゃべっちゃったりして。

関山：なんか申し訳ない気がしてね！みんなすごい聞いてるみたいだし。

中川：こないだ、ここにいる 5 人で北海道の積丹にペディ行ったのよ。

竹野：へえ〜。(ペディで)沖縄行ったときもすごいと思ったけど、北海道にも行ってきたの？

中川：南北きわめちゃったよ。次は海外に行くしかない(笑)

竹野：積丹は、昔海水浴でよく行ってたなあ、ペディでは行かんけど(笑)(注: 竹野さんは北海道苫小牧出身) 積丹でなんか聞こえたの？

中川：ルーマニア聞こえたよ、ルーマニア中波！

竹野：それ聞いてもね、なんの感動もない俺がいる。

一同：爆笑

中川：ダメだなあ、そんなんじゃないよ！

竹野：10 月じゃ、北海道寒かったんじゃない？

長谷川：雪虫飛んできましたもん。

竹野：ほんと一、季節だもんね。

栗本：私も、先日有給使って宗谷岬行ってきました。何か聞こうと思って、機材を持って行ったんですけど、アンテナが大きすぎて、飛行機 NG でした。

中川：なに持ってったの？

栗本: ディスコーンとか。

中川: おまえ怪しいなあ(笑)

栗本: あとΔLOOP7とか。ポールとか土台も持ってっただんですけど、機材は空港預かりになっちゃって。

中川: 悲しすぎる…。

栗本: たまたま選んだ時間帯が小型の飛行機だったんで…普通の旅行になっちゃいました。

竹野: ところで(関山さんに)、今日は誰と会ってきたの？

長谷川: すごい OM さんにもお会いしてきたと聞きました。

関山: そう、山下透さん。

長谷川: アジア放送研究会の？

竹野: 大先生だよ。 (注: 山下透。アジア放送研究会会長。韓国語に堪能で、朝鮮半島放送研究の第一人者)

関山: うん、大先生！大先生とマブダチになってきちゃった。会話もテレコで2時間録ってきちゃった。

竹野: 昔から親交なかったっけ？

関山: いや、以前 KDXC のミーティングに一度来てくださったきりで。みっちり話したのは今回が初めて。いままであまり縁がなかったんだよね。

●あらためて自己紹介タイム

長谷川: 長谷川です。昭和 43 年生まれで、BCL を復活して 11 年になります。TP から漁業無線までなんでも聞きます。サークル内では会誌の編集をやっています。よろしくお願ひします。

関山: って、いきなりハードル上げられちゃったなあ。

中川: ちなみに、この人アル中だから(笑)

長谷川: 北海道でも酔っ払って、転びながらアンテナ張ってました。

岡村: 俺なんか酔っ払いに説教されたよ(笑)「北西を聞かないでどうするんですか！」なんて。

長谷川: そう自分で言ってる、張ったアンテナは真北向いちゃってました。どうも

すみません。

一同: 笑

板倉: 板倉です。昭和 34 年生まれです。皆さんよりだいぶ年上ですね。小 5 から高 1 まで BCL やってました。当時の愛機はスカイセンサー 5800 と、悪名高いユニカ興業の UR-2A です。PERSEUS を買って面白そうだったのが、BCL 復活のキッカケです。現在アンテナは 303WA-2 と ΔLOOP10、SA7000 と ALA1530S+Portable を使ってます。いま五十肩なんで、治ったら電子工作やバイクペディをやりたいです。

中川: ぜひぜひ一緒に行きましょう。今日から TDXC 会員ですね。技術担当ということ。

板倉: 技術って…ハードル高いなあ(笑)

栗本: 栗本です。平成元年生まれです。**一同:** 若いなあ～！

栗本: 基本はアマチュア無線と鉄道無線、最近では航空無線ばかり聞いています。BCL の知識は浅いので、皆さんに教えていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

中川: 栗本ちゃんは購買部長ね。某家電量販店で(笑)

栗本: 機材担当…考えます。

岡村: 中波 DXer の岡村です。中波ばかり聞いてます。BCL は高校の時中断してましたが、小学校の時から 30 年以上やっています。

関山: 中波一筋！は～。

板倉: 解析担当なんですね。

中川: 岡村さんは、日本で中波では間違いなくナンバーワンですね。むちゃくちゃ詳しいし、バンドの状態ぜんぶ知ってる。ペディに行くとき真先に珍局教えてくれるんで、「炭鉱のカナリヤ」と呼ばれてます(笑)

長谷川: 岡村さんいれば、WRTH いらないうすよね(笑)

関山: なんか、思い出の受信局は？

岡村: 小学生の時に聞いた DXCC で

すね。(注: フィリピンミンダナオ島カガヤン・デ・オロにある中波局。828kHz 10kW)

関山: おお、Cagayan de Oro !

中川: 詳しい！(笑)

岡村: 当時(スカイセンサー)5900 で聞いたんですけど、フェライトバーで入ってましたね。

関山: あの頃は、NHK もスパッと終わってたからね～、いい時代だったよね。って、よく知ってるだろ？俺(笑)

岡村: あと KUAM の日本語放送。(注: グアムの中波局。80 年代に 21 時から 30 分間日本語番組を放送していた。当時の周波数は 610kHz 10kW)

関山: あったあった。

岡村: あれが横浜の家で聞こえた時は嬉しかったなあ。

長谷川: 今メインのアンテナは？

岡村: FLAG ですよ。

竹野: 何？それ。

岡村: FLG100N。Wellbrook Communications から出てる長方形のアンテナです。ベランダ設置で。

関山: いま、いろんなアンテナがあるらしいっすね。頭が理解しきれない。きょうは SDR でお腹いっぱい。アンテナはまた次回で。

竹野: 俺もそう思った。

関山: こっちは、いまだに何十 m ロングワイヤー！の世界だから。

一同: 笑

竹野: 皆さん、ちゃんと研究してるんだよね。電波を出す人はアンテナをちゃんとやんなきゃなんないけど、受信ではアバウトでいいと思ってた。でもそうじゃないんだよね。

関山: もっともっと勉強しないとダメだねえ。

中川: 中川です。昭和 39 年生まれで、竹野さん、宮内さんと同期です。BCL やってたのは小 5 から高 1 で、復活したのは 2000 年です。昔は中波は邪道だと思ってたんですが、師匠である岡村さんに

傾倒して、今は中波中心で聞いています。趣味も広くて、バイク、テニス、あと6月からピアノを始めました。

五十嵐: なんでピアノを？

中川: きょうも来生たかおのコンサートに行ってきたんだけど、どうしても自分でも弾いてみたくて。

竹野: 老後のために、いろいろやっておくのはいいよね。ハングリー精神だね。

中川: ところで関山さんと竹野さん、何年ぶりの再会？

長谷川: 二十数年ぶりだとか。

中川: じゃあ涙の再会だ。

竹野: いや別に。

一同: 笑

中川: 今晚、二人でホテル泊まっていたら？

竹野: なんでだよ(笑) しかし北海道ペディか、すごいなあ。

中川: 全部ミヤさんが(旅程を)仕切ってくださったから。その道のプロ！

宮内: まだどこか行きたいですねえ、次を考えましょう。

五十嵐: ご一緒に、ペディどうですか？

竹野: 俺はいいや。

中川: そんな冷たいことを…顧問でしょ。

竹野: 前に川崎で飲んだ時にさ、「今度沖縄に聞きに行きます」って聞いてて。男ばかりで沖縄行って何が楽しいんだと思ってたら、まさか本当に行ってるからさ。しかも、本当に海岸にテント張ってるし(笑)(注:PROPAGATION Edition 2「誌上放談 元KDXC 竹野 OMを囲んで」参照)

関山: そうやってケチばかりつけるよね。

竹野: 昔から、そういうの大好きなの。

長谷川: でもいいでしょ、沖縄でみんなと同じTシャツ着て。

関山: Tシャツ、俺も欲しかったなあ。

竹野: 次また行くっていうから、仲間に入れて貰えばいいよ。

中川: じゃ、関山さんは名誉会員でことで。

関山: 本当～？ありがたき幸せ！

五十嵐: いからしです。いがらしじゃなくていがらし。新潟じゃ濁らないんです。新潟の三条出身です。

板倉: 三条といえば、snow peak ですよ(注:国内アウトドア用品のブランド。本社が三条市にある)。僕キャンプもやるんですけど、snow peak 製品たくさん持ってますよ。

長谷川: snow peak 高いですよ。ペグですら1本300円以上。

五十嵐: テントが30万くらい。

中川: 高っけえ！

五十嵐: 昭和43年生まれです。BCLは中1から高1まで。30半ばに復活して、しばらくはKDXCの会員でした。

関山: あ、そうなんだ。

五十嵐: 中川さんのHP見て、連絡を取りまして、そこからShinさんとも知り合いました。それ以来楽しくやらせていただいています。

中川: オレのHPはゴキブリホイホイだから。

一同: 爆笑

関山: ネットで知り合ってたって、いまどきだよなあ。

長谷川: いかさんも、JRCコレクターなんですよね。

五十嵐: (NRD)525以降は全部持っています。

関山: じゃあ505と515を安くお譲りしますヨ。

五十嵐: 本当ですか？群馬まで取りに行きます！

長谷川: スカイラインで。

関山: スカイライン、何に乗ってるの？

五十嵐: R34です(注:日産SKYLINE“ドライビングボディ”直列6気筒DOHC搭載)。

関山: 走り屋って感じだねえ。

宮内: ペディのツアコンやってます、宮内です。HPを見て、10年くらい前にNakaさんと知り合いました。BCLは、昔に954のTBSを聞こうとして、ラジオ韓国が聞こえたのがキッカケです。アマ

チュア無線もBCLも、ずっと途切れずにやっています。会社が最初アキバにあったんで、昼休みにX-1とか回ってました。旅行会社勤務もあって、航空無線とかHFのACARS(Automatic Communications Addressing and Reporting System)にハマったりもします。

中川: 彼は旅行のプロですから、時々日にち間違えるけど(笑) 英語も堪能だし。ちなみに奥さんはフィリピンのかた。

長谷川: PHL 局の解析をお願いしたり。

宮内: 機嫌悪いとやってくるないけど(笑)

関山: タガログ語とフィリピーンって、違うの？

宮内: 基本一緒なんですけど、局によってはセブアノ語だったり…。タガログ語だと思っても、タガログじゃなかったりするんですよ。

関山: フィリピンとかも聞いてたけど、なんか忘れちゃってるなあ～。

中川: いやいや、あんた只者じゃない。DXCCって聞いて、Cagayan de Oro 普通出てこないよ。素人じゃない。

一同: 爆笑

関山: へ～なんか、けっこうみんないい感じに役割が揃ってるんだねえ。次、顧問！

竹野: 中川さんとは、KDXCの後半に会誌編集の受け渡しをした時から、年に一回飲んだりの付き合いはあったんだけど、去年、茅ヶ崎のペディに誘われて。で驚いて、なんでみんなペディでラジオを聞いてないんだと。

長谷川: SDRで記録してるから。

竹野: 時代が違うんだなあって思ったよ。

関山: 俺らの時代は、聞かない人は全く聞かなかったじゃん。でもなんか、TDXCの人は帰宅後とかにみんな聞いているね。

竹野: 昔はペディで怒られたもんだよ。「なんで聞こうとする人の邪魔するんですか！」って。でも俺はペディに酒飲み

に来てるんだしさあ。

中川: 誰に怒られたの？○○さん？

関山: まあねえ、すごく真面目な人だったかな(笑)「純粋にこの DX を楽しみたい」という人もいたし、こういう人(竹野さん)もいたしねえ。俺は、そういう人たちの間で「まあまあ」的な役回り。

竹野: そうなのよ。昔東京に出てきて、X-1 で CALL SIGN を読んで KDXC のミーティングに行ってみて、会った彼(関山さん)がまさにそんな感じだった。誰にでもウェルカムで、みんなをまとめてくれるタイプで。それがとにかく嬉しかったなあ。しかもミーティング後はラジオの話で酒が飲めるし！

関山: PROPAGATION の座談会で読ませてもらったんだけど、竹野さんがそう思ってたんだっていうのを、20 年以上経ってはじめて知ったんだよ。

長谷川: そうだったんですか？

関山: 北海道の人って寡黙なタイプなのかなあって、あまり表に出さない人だなと思ってたんだけど。俺、そんなに自分がウェルカムな人だと思ってなかったよ。

中川: この世界でウェルカムな人は珍しいと思いますよ。

竹野: だから、関山さんが辞めた後も、ウェルカムな姿勢は続けなければいけないなって思った。

関山: いや、それは 20 年間知らなかったよ。竹野さんですごいなってあらためて思いました。

中川: じゃ、二人で抱擁して(笑)

竹野: こうやって酒飲んで BCL の話できるのって、こんなに楽しんだってその時はじめて知ったんだよ。

関山: でも飲めない方もいるじゃない。

竹野: 前はミーティング終わったら、まず喫茶店行って、飲み会はその後だったもんね。

関山: 喫茶店がむしろメインで、飲み会はオプションだった。飲みたい人だけ行く。今回はお酒の好きな方ばかりだけど、

飲めない方はこういう席で 100%楽しめないと思うし。

中川: そういう気遣いは素晴らしいですね。

関山: 飲めなくて露骨につまらなそうな雰囲気の人もいたし、そもそも飲み会には来てくれない人もいた。

竹野: けどラジオの話はしたかったんだろうね。情報交換だけのミーティングじゃなく、もっと色々な話を。だから飲めなくても飲み会に参加した人もいたと思う。

関山: CALL SIGN の編集長は、いつまでやってたんだっけ？

竹野: 編集長はやってないよ。サークル代表。編集は岩本さんじゃなかったかな。配送は杉山さん、投稿受付は柳沢さん…。関山さんが全部やってたことを、分業にしちゃったのよ。

関山: そうだったんだ～。あ、僕は関山礼一郎といいます。ひらがなにすると 10 文字もあります。それで小学校の頃よくいじめられてました(笑)。BCL は小学 6 年の誕生日にプロシード 2800 を買ってもらってからはじめました。本当はクーガ 2200 が欲しかったんだけどね。それから高校の頃 FRG-7700 を中古で買ったり、日本語放送をだらだらと聞いてるうちに二十歳になっちゃって。一番の事件は、雑誌の短波が突然終わっちゃったこと。あの頃は短波誌が BCL の拠り所になってたから、弱ったなあと思ってたら、関東 DXers サークルっていうのが会員募集してたのを思い出して。そこから BCL としての第二ステージというか。山田靖次との出会いがあって、なんとなく会誌編集に関わるようになってね。(注: KDXC 発起人の一人。CALL SIGN 二代目編集長)暇だったってのもあるんだけど。こういった編集とかって、情熱と時間も必要じゃない？

中川: BCL 交遊録も拝見しましたが、感動しました！私が思った通りの方でした。

関山: 中川さんの HP も見せていただいたけど、なんだか似てる部分があるとい

うか。人と人の関わりを大事にしているところに共感しましたよ。

●編集長辞任の真相に迫る

長谷川: ところで、関山さんが CALL SIGN 編集長を突然降りた理由というのは？

関山: 俺も、それを竹野さんに聞こうと思ってたんだけど。どうだったっけ？

竹野: 覚えてないなあ。

長谷川: 職場の都合、とかですか？

関山: 全然。俺と山田さんとで編集やってて、でも飽きちゃって。そろそろいいんじゃない？とか言ってたよな。なんだっけね。

竹野: いつもそんなことは言ってたよな。その後関山さんとは連絡も取れなくなっちゃったし、まあいろんな事情があるだろうから、聞かずにはいいたんだけど。

関山: まあ、いろんな事情があったんでね…。でも、竹野さんはなんで編集を引き受けたの？押し付けけるつもりはなかったんだけど。

竹野: 押し付けられた気もなかったけどね。

関山: 編集をやれるとしたら、竹野さんか佐原さんかなあって思って。編集交代が無理なら KDXC も終わっていい、みたいなこと、話さなかったっけ？

竹野: そんな話、全然覚えてないよ。

関山: もう他の人に任せよう、っていう感覚だったかな。俺も山田さんも、このくらいやればもういいんじゃないかっていう気分だった。俺自身は嫌になったとか、続けられなくなったとかではなかったよ。余力があるうちにバトンタッチしたいって思った感じかな。ずっと同じ人が編集やってるのは良くないとも思ってたんだろうね。

竹野: 俺もそうで、中川さんたちが来た時には「もういいかも」って思ったし。

関山: 一人のひとが続けられれば一番いいんだろうけど…どうしたって、いずれはバトンタッチの時は来る。

竹野:でもどうせなら、若い人にバトンタッチしたいよね。

中川:でも、関山さんや竹野さんが中心だったのが、サークルとしては良かったんだと思いますよ。CALL SIGN を読み返してみたけど、KDXC もいろいろトラブルもあったじゃない？

関山:そんなのあったっけ？

中川:DX に関係ない論争が誌上で繰り広げられたり(笑) まあ、若さゆえって感じでもあったと思うけど。

●混沌から見えてきた「ラジオの楽しみ方」

関山:まあでも、こういう機会も次はいつになるかわからないから。最初で最後かもしれないし…一期一会っていうかね。

中川:なんでそんなジジイみたいなこと言ってんの(笑)

長谷川:細く長く、続けましょうよ。

関山:わかんないよ、この先…。歳は取りたくないっていうか、今この瞬間を大事にしたいなあ。

中川:群馬で DX サークルつくってよ、GDXC。

一同:爆笑

関山:てかまあ、今日こうやってお呼びいただいて、こんなにたくさん皆さんに迎えていただいて…。嬉しかったですよ。

竹野:言い残したことあるなら、言って(笑)

関山:ネットの時代だから発信はできるんだけど、こういったライブ感覚は、今なかなか無いじゃない。昔はサークル・クラブがたくさんあったけど、今は少ないし。今回あらためて、ライブの魅力を感じたね。

竹野:TDXC の人たちは、「そちらへ遊びに行きますよ」って言ったら、いつでも相手してくれると思いますよ。

関山:そういつてもらえと、ありがたいな～。最近、昔の仲間でも相手してくれなかったりするんだよね…。老後の楽し

みができたな。

竹野:ラジオ聞いてなくても、こうして話してくれる人たちがいるだけで、俺は幸せ。一人ウザい人がいるけど、「ラジオ聞け聞け」って。

中川:聞きなよ、早く～！みんなで山形ペディしようよ。モンゴル中波とかさ。

竹野:俺んとは、山ん中の盆地だから。無理無理。

中川:あんたの家をベースキャンプにして、海岸でテント張るから。

竹野:おんなじ T シャツ着て、男同士テントに入って肩組んで？。やだよ俺。

関山:山下さんともその辺の話になって。アジア放送研究会は「必ずしもラジオを聞いていなくてもいいんだ」と。

長谷川:山下さんは、DXing を継続してるんですか？

関山:DX ていうかね…。まあ「ラジオを聞かなかつたら、BCL として存在感がない」というか「BCL は聞いてナンボ」っていうのはねえ、大変だよ。いつまでもずっと聞き続けなくちゃならないじゃない(笑)

竹野:疲れるよね。

関山:そういうところを、超越した研究会なんだそうです。ラジオを聞いてなくなつて、言語のこととか、東アジアの放送の歴史とか、ラジオの探求は続けられるんだよって。

竹野:かっこいいよねえ。

関山:ア放研の聞くジャンルは韓国や中国とかの近い地域だから、DX じゃないというコンプレックスも垣間見えたけど。だからこそ、「私たちはワールドワイドに聞いていないけど、その代わりにこういった狭いジャンルに特化した活動で楽しんでいる」そうです。

長谷川:そのぶん、専門分野にはほとんど強くなるんですね。

関山:珍局を聞いて評価されるっていうのと、普通のラジオでも入る中国や韓国の放送を何十年も聞くのよね。嗜好は違うけど、ラジオを聞かなくても長続きでき

る活動、正直羨ましいなって思ったよ。

●TDXC へのエール

関山:でも、今日は竹野さんが来てくれてよかったよ。皆さんとの間に入ってこれる感があった。

竹野:そう？

関山:PROPAGATION を初めて読んだ時、竹野さんの名前があって、それで急激に TDXC に親近感を覚えたんだもん。

中川:竹野さんの名前を利用して、うまく引き込めた(笑)

関山:なんか、竹野さんがキーパーソンの存在なんだろうね。そういう意味では、中川さんや長谷川さんがこれからのキーパーソンかなって気もする。ネットで検索すると自然に中川さんや長谷川さんのページにたどり着くし、そこから、今の時代の繋がりができてくる気がする。

長谷川:ネットがない時代は、自分から積極的にサークルに参加してたんですね。

関山:KDXC のミーティングに行くっていうのは、勇気がいることだったと思うよ。結構なハードルを越えてきたっていうか。

中川:KDXC はレベルが高そうでしたし、自分が行ってもいいのかなって思ってたよ。

竹野:目黒の駅前に集まれ、なんて言われてもね…。どんな連中がいるか分からないし、それは勇気がいるって。

中川:板倉さんの、PROPAGATION の感想を拝見して、すごく嬉しかったんです。よくぞこのサークルの面白みを分かってくれたと。

板倉:座談会の記事で、竹野さんの「それのいったい何が楽しいのよ」って一言が、会誌の感想を送ろうと思ったきっかけだったんです。

関山:おお、顧問すばらしい！

竹野:昔のペディでもさ、隣で聞いているやつが「ここで〇〇が入ってるよ！」って言い合うのが飛び交ってたじゃん。珍しい局を聞いていることを誰かに自慢した

い、まあ自己満足なんだけどさ。でも、こないだの茅ヶ崎ペディではそれがなかったの。

関山: 能書き垂れ始めましたねー。

竹野: うるせえよ(笑) で、みんな SDR で記録してるから、それを家に帰ってから分析する。その何が楽しいんだと。

板倉: そこ重要(笑) TDXC って、すごいレベルの高い集団だと思っていたんです。すごいアンテナ張って、すごい機材そろえて、感度いっぱい上げて、飲みながら録音して、でも帰ってから分析がハンパなくて。「なんなんだ、この分析集団…」てイメージがあったんですけど、あの座談会がそのイメージを壊してくれたんですよ。

竹野: 後から分析するってめんどくさいと思うんですよ。その場で解析したほうが早いと思う。帰ってからもまだ解析したいっていうのは、素材を後から編集するのが楽しいっていうのと同じレベルなんだよね。ラジオを聞くのとは別次元。

長谷川: ああ、そうかもしれません。いま録音してるテレコを、後で文字起こしするのが楽しいということも、同じ気がします。編集にも通ずるものがあるのかな？

竹野: その場勝負のアマチュア無線とも

違うよね。時間を後から楽しめてるんだね。リアルタイムでその場で聞く楽しさとは全然違う。電波の管理人っていうか、電波の編集人みたいな世界っていうか…。

関山: 先生ー！何を言ってるのかわかりませーん。

一同: 爆笑

竹野: 俺の知らないことを、この人たちはやってるんだよ。それを「なんで楽しいの？」って思うのも楽しいよ。

関山: 俺はついていけないなあ。でも、こんなにラジオの話題で盛り上がる人たちが、こんなにいるんだー！って、感動しました。

長谷川: 面白いでしょ(笑)

関山: でも竹野さんて、やっぱすごいな。顧問だし(笑)

中川: このオッサンは懐が深いよね。珍しく人格者。DXer は懐が狭い奴が多いけど、このオッサンは広い。BCL は半分くらい変人ばかりだから(笑)

関山: いやー。俺、なんかはじめてここにきた感じがしないなあ(笑)

中川: ペディ行きましようよ、ペディ。お誘いますよ。

関山: ぜひこんど、よかつたら誘ってくだ

さい。

竹野: いやでも関山さんは、なに最近 BCL 界引っ掻き回してんの？って感じだよな。

関山: すげー申し訳ないなって思ってるのよ。やっちゃったかなーって(笑)

竹野: これから関山さん、すごいことやってくれるのかなって、みんな変な期待しちゃってるよ。でも「何してくれるのかな」って受け身じゃなくて、自分から何かしなきゃね。

関山: 佳境に入ってます！

中川: 知恵が欲しいですね。どうすればもっと BCL が盛り上がるのか？

竹野: ウェルカムな姿勢、かな。

関山: まあ、結局、「人と人との繋がり」になっちゃうのかなって思うよ。

長谷川: いっぱい飲んで語らいましたね。昨年に引き続き、先輩方からサークル運営についてのお話をたくさんお聞きできました。新旧サークルの邂逅で化学反応が起き、BCL のさらなる発展のキッカケに繋がるかもしれません。関山さん、竹野さんはじめご参加の皆さん、今日は遅くまでどうもありがとうございました！



横浜の BCL に会いに行く。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

横浜市戸塚区というところに、なんだか面白そうな人達がいるらしい。BCL と言って、ラジオを聞いて楽しむ趣味の人達ということだ。なんだ、ぼくもむかし、やっていたことがあるよ。どうやら彼らはサークルを作って、会報も出しているそうだ。おお、ぼくもむかし、そういうの作ったことあるなあ。インターネットでその雑誌が公開されてると知って、さっそく読んでみた。びっくりしたのはその頁数の多さだ。プリンターで印刷したら結構な厚みになった。読むのにも時間がかかってしまった。そして、思った。この人達に会ってみたいな、と。

長谷川さんという人がその雑誌の編集をされていた。たぶん、ぼくなんかと同じくらいの歳の人だろう。おそろおそろメールを書いてみたところ、ぼくの名前を知っているという。それどころか、サークルのお仲間を誘ってぼくを囲む会を開こうではないか、との申し出もいただいた。それはありがたい。二つ返事でその魅力的な提案を受けることにした。そしてなんと驚いたことに、ぼくの昔の仲間の竹野 OM が彼らの顧問をされているとのことで、単身赴任の山形から遠路はるばる参加してくれるという。ご苦労様だ。

場所はもちろん、横浜市戸塚区である。ぼくは一度も行ったことが無いし、何のイメージも湧かない土地だ。ぼくの住む群馬よりはだいぶ都会なのだろう。駅前にビジネスホテルが一軒あるので、そこを予約した。当日は駅の改札口で待ち合わせ。目印にポータブルラジオを持って来てくれるらしい。おお、BCL っぽくていいな。どきどきしながら待ち合わせ時間に行ってみると、長谷川さんが迎えに来てくれていた。あともう一人、初めて参加される方もいらっやして、どうにも賑やかな集まりになりそうな予感でした。

会場となる居酒屋にはすでに何名か集まっていて、最終的には 9 名になるそうだ。所用があって欠席の予定だった人も急遽駆け付けてくれるという。そういうのうれしいじゃないの。雰囲気的には、若いころ毎月参加していた BCL ミーティングを思い出させるものがあった。さすがに今は 40 代、50 代のおじさんばかりではあるが、少し話してみたら、みなさんの BCL への情熱は昔と変わ

らないということがすぐに判った。もしかすると、それ以上かもしれない。お酒も進み、生ビールのジョッキがどんどん空いて行く。ヨコハマの粋なおじさん達は群馬から来た不躰な田舎者を快く迎えてくれたようだ。少しほっとした。

ぼくは今、この時代にこんな集まりがあることに驚いた。BCL という趣味の人口もめっきり減っているのだろうし、情報交換や交流の中心はインターネットのはずだ。いわゆる BCL を楽しむ上での活動はネットで十分過ぎると思っていた。実際にいろんな人のブログやホームページを拝見してみると、人それぞれのスタイルで受信記録や情報の発信がなされている。ブログのコメント欄や掲示板での交流も行われているようだ。そんな中、横浜市戸塚区の面白い人達は、ご近所さんを集めて顔の見える形での交流を存分に楽しませているのではないか。そんな世界から 20 年以上も離れていた自分は、少し、いやかなり羨ましいと思った。

ぼくは名誉会員ということで彼らの末席に置いていただいた。文字通り、名誉なことである。飲み会やペディションへの参加もウェルカムだと言う。この日、横浜まで会いに来て本当によかったと思う。そして、次にみんなと会える日が楽しみだ。

ありがとう。



(竹野 OM とぼく)



アジア放送研究会 山下 透さんに聞く。

(構成 関山レイ)

昨年、もう30年以上も前にBCL情報誌「短波」の受信アドバイザーとしてご活躍された山下透さんとお会いする機会がありました。現在も韓国の放送研究の第一人者としてご存知の方も多いかと思えます。BCL、韓国語、そして山田耕嗣先生との出会いを中心に話をうかがいました。

関山: こんにちは。さっそくですが、山下さんがBCLを始められたきっかけをおしえてください。

山下: ラジオを聴き始めたのは小学1年生の時ですね。地元のAM局ですけれど、放送局のジングルに興味を持って録音したりしてました。その後、小学3、4年生の頃に地元以外の遠方のAM局を聴くようになりました。国内中波DXって感じで。そして小学6年から外国の短波放送を聴き始めたんですね。

関山: 韓国語はラジオを通じてマスターされたのですか？

山下: 間違いなくそうですね。KBSで韓国語を聞いたときになんとなく日本語に似ているなあと思ったのが勉強するきっかけでした。もともと外国語には興味があったんですよ。父親が英語の教師でしたから、小学生の頃から英語を教えてもらってました。

関山: 語学に縁のある環境で育ったのですね。

山下: さらに恵まれたのは、父親が短波放送に興味を持ってラジオも買って来てくれましたね。クーガー115とかスカイセンサー5500とか。中学3年の時にICF-5900を買うまで自分でラジオを買ったことがなかったんですよ。短波放送の聞き方

も父親に教えてもらいました。

関山: 一番身近なところにBCLの先生がいた訳ですね。

山下: でも、英語に関しては父親がベラベラでしたからこれはもう敵わないと思って、中国語を勉強しようと思いました。当時は日中国交正常化で中国ブームでしたから。しかし、すぐ挫折しましたね。中国語の「四声」が難しかったです。そして中学1年の秋からKBSを聴いて韓国語を習い始めました。

関山: 韓国語の方がすんなり入って来たということですか？

山下: じつは実家の団地の下の階にどこかの商社のソウル駐在員を務めた方が住んでいましたね。韓国語で解らないことがあればそのおじさんに聞けばすぐ教えてくれました。

関山: これはまたすごい偶然ですね。

山下: たしかに恵まれましたね。そして中学2年の時に雑誌「ラジオの製作」によるラジオオーストラリアのリスナーの集いが大阪で開催されたんですね。当時のダグ日本語課長を招いて。その時の司会が山田耕嗣先生でした。先生と話をしてみたらなんとうちの近所にお住まいでした。自転車で10分ぐらいの。「近所だから遊びにおいでよ」と言われて、それから先生のお宅にちよこちよこ行くようになったんですよ。

関山: それは運命的な出会いですね。そこからBCLにどっぷりはまった感じですか？

山下: そう、どっぷりですね(笑)。

関山: 私たちにとって山田先生はBCLの神様だった訳ですが、山下

さんにとってはどういう存在だったのでしょうか？

山下: そうですね、BCLのお師匠さんですね。私ほど先生の家に入り浸ってた人はいないでしょう。まったく図々しいと言うか厚かましいと言うか(笑)。先生は根っからのラジオ好きで、BCLのことは何を話すにしても楽しくて仕方がないって感じだったですね。とてもやさしい人でした。

関山: 話は戻りますが、山下さんと言えば韓国の放送研究の第一人者ですね。

山下: どうでしょう。私の場合は山田先生のようなグローバルなBCLにはなれなかったもので、韓国という狭いエリアの専門家になったと言うか。重箱の隅をつつくような感じでね。ただ単に放送を受信して喜ぶだけではなく内容を理解して楽しむといったスタイルを作り出したのがアジア放送研究会なんですね。

関山: 最後になりますが、ラジオはどういうものをお使いなのでしょうか？

山下: 受信の容易な近隣諸国の放送を聴くだけなのでSONYのICF-SW77といったポータブルラジオを使っています。あと、旅行用に台湾製のラジオを持っていますよ。また、今はもう国産の使い勝手の良いBCLラジオも少なくなりましたので、現地録音のための予備用に買い求めておきました。ICF-SW100Sを4台、ICF-SW55は10台持っていますね。

関山: それはすごいですね。これからも末永いご活躍を期待しています。本日はどうもありがとうございました。

(2014年10月/秋葉原にて。)

年忘れ座談会

「TDXC にあなたが期待することは？」



今年の夏、TDXC は設立 3 周年を迎えます。サークルの趣旨に賛同いただけて、会員数も徐々に増えてきました。はたして「BCL のアカルイミライ」は実現できているのか、どんな楽しいことができるのか、新たに加わった皆さんと共に、今一度サークルの在り方や将来の目標を明らかにしてみたいと思います。（構成：長谷川 真也）

2014 年 12 月 19 日（金）19:00 野毛 炭火焼 華蔵〜たんめん ぎょうぞ 三幸苑〜オーシャンバー総本店 クライスラー
参加者：五十嵐 雄希、板倉 健、栗本 佳明、中川 弘夫、長谷川 真也、宮内 聡（敬称略）

〈TDXC に期待することは？〉

*私にとって TDXC は「かつて夢見ていた BCL という遊びの楽しさを、仲間と共有できる一番身近な場」です。子供の頃は 2 年ほどで BCL に飽きてしまったのに、復活後 12 年も続いているのは、「一緒に楽しめる仲間がすぐ近くにいるから」だと思います。

*また、高齢化・放送局減少・ノイズ増加などにより BCL 界は今後ますます縮小し、生き残った BCL にとってインターネットが交流の場になるとと思いますが、face to face の近所コミュニティを第一の基礎にしたいです。

*老後の引きこもり・孤独化・ぼけを防ぐ上でも仲間と気軽に集え、積極的に活動できる場として長く継続することを願っています。

〈サークル活動への希望〉

*遠征ペディの定例化。今後の開催希望地：サロマ湖、グアム or サイパン、オーストラリア（ゴールドコースト or ケアンズ）、父島、南洋の島嶼（例：ラロトンガ島/クック諸島、トロメリン島）。

*富士山山頂で FM-DX。アタック隊は PC+SDR+ジャーマンクウッド持参。ご来光を拝みながら、見通し距離 DX の限界に挑む。

*全日本 BCL サミット（ABS：All-Nippon BCL Summit）の開催。各地の BCL・DX サークル、個人が一堂に会する。（例：会場は沖縄県うるま市のホテル浜比嘉島リゾート。昼は沖縄観光、夜は講演・歓談会。テントサイトでは PHL-DX ぞんまい。参加者プレゼントに BCL かりゆしウェア。もちろん家族参加 OK）

*DX 年鑑 2022 の発行（TDXC 10 周年記念誌）。WRTH2015「The Future of DXing」で予告されていた「2020 年の短波終焉」も含め、日本の DXing の記録を留めておきたい。

*TDXC アワードの発行（TDXC-MW 10, 50, 100。日本以外の異なる 10, 50, 100 エンティティの中波局を受信し、QSL を各 1 枚得る。）（TDXC-FM 10, 50。日本以外の異なる 10, 50 エンティティの FM 局を受信し、QSL を各 1 枚得る。エンティティは DXCC 準拠）

（座談会にあたり、長谷川が事前に提示した資料）

●たたき台を肴に夢を語り合う

中川：「トロメリン島」って、どこよ（笑）

長谷川：マダガスカルの中合です。つい先日そこで無線の DX ペディションがあったとのことで。

宮内：この辺に行くには、相当の資金が必要ですねえ。

長谷川：アメリカのスポンサーから

かなりの援助があったらしいです。

宮内：そういった珍エンティティに行くこと自体が、ハムの世界では金儲けに繋がっていることもある様に思う。QSL1 枚に 3 スタンプ要求したり。一つの交信に 3 ドルとすると、トータルの交信数では恐ろしい金額になる。仕組みを知ると嫌になってくるんだけどね…。BCL だと、SDR の

メーカーがスポンサーに付いてくれたりするのかな（笑）

中川：「BCL サミット」はいいねえ。

長谷川：これは昔からの夢で。名古屋の NDXC30 周年記念ミーティングの時のようなイベントを、全国規模でできないかな、と。

宮内：会場手配やチケット・宿の確保などバックアップしますよ（笑）

中川：「富士山山頂で FM-DX」って、グアムの FM とか入るの？

長谷川：日本で一番高い所ですから、どんなところが聞こえてくるのか興味ありますね。

宮内：「TDXC アワード」申請してくる人、結構多いんじゃないですか？

長谷川：どうでしょう。BCL のア

ワードって、ほとんど無いですよ。

宮内：SPEEDX（かつてアメリカにあった DX クラブ）に入っていた時は取ったことがありますよ。励みになるというか、アクティビティの維持に十分貢献するんじゃないでしょうか。

長谷川：なにか目標になるものが欲しいと思ったんですよ。

宮内：過去の QSL も入れたり、消滅カントリーとかリストをつくったりしてね。でも、フィーでも取らないと、作業的に難しくなるかな。物理的な印刷費用とかね。内輪でやるうちはいいけど。いずれは商売っぽくなっちゃうかも。

（今後やってみたいことの一例）

* 皆で OM 探訪:コンセプトは「温故知新」

* 「BCL 遠足」:近隣の BCL 的名所やイベントを皆で巡る→で飲む ex)深谷通信隊、東京マーチス、かながわハムの集い、松田ジャンク市・・・等

* 工作会の再開:皆で(飲みながら)色々作ろう!

* 他地域(及び海外)とのテレカンファレンス

* 他地域 DX クラブへのメンバー派遣及び招聘

* 北海道(太東崎)に PERSEUS サーバー設置

※資金は賛同者が現物出資し、フリマで販売して捻出

(中川さんから提示された座談会資料)

●実現可能な希望、続々

長谷川：テレカンファレンスって？

中川：TV 会議っていうか、Skype 使ったり。

板倉：北海道の霧多布でよければ、(リモート受信サーバー)置けますよ。

長谷川：別荘でもお持ちですか？

板倉：霧多布で活動されている某 NPO 法人団体があるんですけど、そのボランティアを長年手伝って。元 SE なんで、そのシステムやネットワーク関連のお手伝いをしています。

長谷川：そこは普段は無人ですか？

板倉：事務局と NPO 法人センターと 2 箇所ありますが、職員は居ますよ。

長谷川：霧多布に SDR 受信機を置いたとして、職員の方に維持管理してもらうことはできるんですか？

板倉：できると思いますよ。ただ一番重要な問題が...光(ケーブル)が未だに来っていない。ADSL だけ(笑) 一同：笑

長谷川：PERSEUS はキツイかも…。

板倉：隣の厚岸までは光が来てる

んですけど...。厚岸はカキの産地なんで、ネット販売に力を入れてますから。霧多布もまあ時間の問題だとは思いますが。観光地ですので、ネットでの情報発信を重要視してますし。8 テラのサーバーをミラーリングして、霧多布の画像情報をバンバン上げてますよ。

長谷川：では、光が開通したあかつきには可能性がありますね。

板倉：サーバー自体は、間違いなくできます。

長谷川：なんか、夢が一気に現実に近づいてきましたね!

中川：いいですね!ピバレージア ンテナ 400m くらい張りつばなしできますかね。東海岸入りまくり!みたいな(笑)

板倉：現地視察、行きますか？

宮内：手配しますよ(笑)

中川：BCL 遠足、これは現実的でしょ? 深谷通信隊とか、松田ジャンク市とか。八千穂高原とか、だれか行きませんか? 八千穂受信所。

板倉：八千穂スキー場なら何回か

行ったことがあります。

長谷川：長野だと、日帰り遠足では厳しそうですね。

中川：工作会は、専門家に教えを請いつつ、酒飲みながら作る。

板倉：飲みながらって... (笑)

中川：昔よくやってたのよ。

長谷川：遠隔操作型 K9AY とか、作りましたよね。誰もちゃんと完成できなかったけど。

板倉：すみません、どこで飲みながら作るんですか？

宮内：Naka さんち(笑)

板倉：(笑) 工作の前はあらかじめ部品を選別しておかないと。飲みながらやると、コンデンサとか数字が読めなくなるんですよ。

長谷川：私はパーツに付箋で何Ωとか、数値を書いて貼ってます。

中川：やるのが細かいねえ。

長谷川：海外で BCL ネット会議できそうな方、どなたかいるんですか？

中川：その前に英語しゃべれないから...もうちょっと勉強しないと。

長谷川：他地域 DX クラブへのメン

パー派遣、とは？

中川：サークル同士交流するとうか。ミーティングとかを視察したり。

宮内：上から目線… (笑)

長谷川：各地に (BCL の集まりが) ありますもんね、関東以外にも名古屋、大阪、滋賀、九州、上越…。

中川：クローズドな集まりが多いから、もうちょっと色々な地域といっしょに展開していきたいな。

長谷川：TDXC としても、もっとオープンな広報というか窓口が必要でしょうか？ 公式ブログもツイッターありませんし。

板倉：オフィシャルなブログやフェイスブックといった発信窓口がほしいよね。

長谷川：板倉さんは、サークルの中でやりたいことありますか？

板倉：個人じゃ出来ないことがしてみたいですね。知識も技術も情報も、一人での活動では限界を感じていたんで。個人の限界を超えられるのが、こういった集まりですし、個性が集まると力を持ちますよね。化学反応が起きると思います。そういった、自分だけでは出ないパワーに期待するものは大きいです。

宮内：サークルのような集まりが大きくなってくると、お金が絡んできたとき利害関係とか、商売したいスタンスの人たちが活動し始めることが心配ですね。サークルのベースとなるような公式 HP なりで、会則ではないにしても方向性を今のうちに示しておきたい。会誌発行でかなりのリアクションがあったし、この集まりを変な意味で利用する人たちが現れないとも限らない。そういった動きを我々がコントロールできなくなったら、将来困ったことになると思います。

中川：あんまりサークルを大きくしないほうがいいだろうね。

宮内：いまはあまり大きくないですけどね。ただアワード発行など、対外的な付き合いや活動が増えると、決まり事が必要になってくると思う。

長谷川：そうですね。リモート受信サーバーを作るにしても、自由に接続できるようにするか、パスワードを設定するか、とか。接続は会員限定、となったらドーッと会員数が増えることも…。

宮内：それがもしかしたら資金源になる可能性、とかね。そういうところに悪い人間が集まらないようにしないと。

長谷川：会誌にしてもいまは無料配布ですけど、ダウンロード数は 1300 以上でしょ。1 部 1000 円としたら、130 万の収入！

宮内：次のペディ代、ペイできますねえ (笑)

中川：オレなんか、すすきので豪遊しちゃう。キャバクラ貸切り (笑)

宮内：お金を使わないように規模を小さくすると、活動の範囲もまた狭くなってしまふんだけど…。でもサーバーやアワードなんかは、やはり資金が必要になってきちゃうだろうし。

板倉：サーバーの置き場所はともかく、メンテナンスなどは費用がかかるかもしれませんね。

宮内：利用者負担で会費を取る、というのはありえるとは思いますがけどね。アマチュア無線の DX ペディのような「趣味を食物にする」というのにはしたくない。「TDXC のペディで金を集める」みたいなこととか。

中川：趣味は自己満足だからね。商売にはならん。やっぱり金は絡まないほうがいいね。

長谷川：たしかにお金が絡むと、トラブルになりやすいですよ。

宮内：名前が売れると、ブランドになりますからね。例えばヤフオクな

んかで売り出すラジオの売り文句で、「TDXC がチェック済み」とか (笑)

長谷川：「コリンズのフィルタを、TDXC 技術陣が組み込んだ DX 仕様」

一同：爆笑

中川：Jack 大森さんが本質を突いたね。サークルはあまり人を増やさないほうがいいんじゃないか、って。

長谷川：かつてサークル運営をやった方ですし、いろんな経験をしてきたんでしょね。

宮内：では組織体としては、「サークル内のコアな部分で活動」ということを守りつつ、ですね。

長谷川：基本は、外部への情報発信はすべて後日談にしています。ペディも事前の参加者募集はしないで、ペディ開催後に経過を発表して、そこではじめて「興味のある方はコンタクトください」といったような消極的募集でいいと思います。

●BCL とアマチュア無線

中川：Shin さん、(アマチュア無線) 再デビューするらしいね、無線機買うの？

長谷川：そうですね… 開局申請には無線機必要ですし。

中川：HF？

長谷川：出るなら HF がいいかな…。

中川：タワーは？ ルーフタワー？

長谷川：(新築の) 屋根が斜めになっているので、屋根上は難しいかも。

宮内：大丈夫だと思いますよ。

板倉：昔は (BCL と無線を) ダブルでやってる方、多かったですよ。

宮内：BCL だったのに、無線をやりはじめたら「BCL 卒業した」とか言ってた奴らがいる、すごい嫌悪感を覚えたんですよ。卒業するなよ！と (笑)

板倉：ぼくは BCL は BCL、無線は無線で分けて考えてた。無線はスキー用、ミーハーだったんで (笑) SWL



もちろっとやってみました。BCLは固定局を受信するものだけど、SWLは移動局や、山の頂上とか思わぬ場所からの電波を受信する楽しさがありましたね。

宮内：へえ。そういう SWL の楽しみ方は面白いですね。

板倉：昔...22の時なんですけど、ドリームハイツ（戸塚区俣野町の団地。かつてあった遊園地「ドリームランド」に併設していた）に住んでいた同期社員といっしょに、週末だけ悪ふざけで違法 DJ やってました。

長谷川：ミニ FM？

板倉：そう。ドリームハイツだけに向けた放送。思いっきり違法なんですけど、同時にパーソナル無線もやって、それも放送で流したりしててね。一番遠距離だと、ご来光を拝みに富士山山頂に来た女性と交信できたのが思い出ですね。

中川：アイボールしましたか？電話番号聞いた？

板倉：いえいえ（笑）

宮内：ラジオでみんな聞いているから。

長谷川：公開ナンパ（笑）

板倉：交信できただけで大満足でしたよ（笑）

中川：よくやりましたよねえ。CBでDJやって、スカイセンサーで受信したりして。

宮内：やりましたね（笑）

中川：ミニ FM 気取って、CBで「こちらナントカナンタ FM」とかって。（周波数）低すぎだろっての。

宮内：その変調、AM だろ？みたいな
一同：爆笑

中川：CB 面白いよね。こないだ娘とスーパーに CB 機持ってって、交信したら店員に怒られた（笑）

宮内：昔は 6m でも TVI とか結構気にしてましたよね。

中川：会社の忘年会でも、2 台一組のトランシーバをアキバで買ってきて 1 等の景品に出したんだよ。5800 円位の。

宮内：免許いらないやつなら、30mW かな？

長谷川：みんなで再開局しましょうよ。3 アマいっしょに取りに行きましょう！

中川：いまさら？

宮内：3 アマ取っていると、講習会でも 2 アマ取れるようになりますよ。100W 機も手に入られます（笑）

長谷川：2 アマ講習会が、ネットで

も始まるようですし。

中川：3 アマって、モールスやらなきゃいけないの？

長谷川：いまは 1 アマまで、モールス実技はないです。

中川：でもモールスなんて、いまさらだよねえ。

長谷川：やるならモールスですよ！DX 狙うにはモールスのほうがフォンより有利だし。

宮内：おお、そこなんです。素晴らしい！

中川：ミヤさん、1 アマなんでしょ？

宮内：取るんだったら 1 アマってことで。

長谷川：ぜひ 1kW 出してください！

宮内：出したんだけどねえ。

長谷川：kW 局は開局手続きが大変らしいですね。

宮内：電監が来ますよ。今はミニマルチをマンションから出して 200W のままですけど。アンテナは東南東向きなんですけど、21 とか 28 (MHz) のロングパスで、アフリカとかイタリアと（交信）できますよ。

板倉：子供の頃にかじってやり残したことを、大人になって埋めたいなっていうのが、僕の中で BCL を復活した理由なんです。今は仕事もあるから、さすがにハムは無理かも。

長谷川：リタイヤしたら毎日ラジオを聞いたり無線できたり…って聞きますけど、どうかなあ。趣味って逃避でやっている面もあるから、暇になるとかえってやる気が失せちゃうかも。

中川：アルツハイマーが始まるかもしれないから、はじめるなら早いほうがいいよ。思い立ったが吉日！

長谷川：Naka さんはテニスやピアノやゴルフもやったり、よくそんなにいっぺんに色々出来ますね。

中川：生き急いでるから。いつ死ん

でもいいように (笑)

長谷川：その趣味、それぞれ全部集中して出てます？

中川：全然 (笑) でもピアノは毎晩弾いてますよ

長谷川：すごいですねえ！

宮内：私も、クラシックギター再開しはじめたんですよ。

長谷川：ぼくも一時サックスやってみましたよ。皆でバンド組みますか？

板倉：僕何もできないからなあ。

中川：じゃボーカル (笑) カラオケ好きでしょ？アリスとか (笑)

長谷川：BCL バンド。IS 演奏したり。一同：笑

板倉：でも、若い頃はラジオの延長でPA やりたかった。PA ってパブリック・オーディエンス、音響エンジニアなんですよ。コンサートやスタジオ録音でアレンジやスピーカの配置とかを決めたり。マイクが飽和しないように落としたり周波数帯をカットしたり…ラジオの解析にも似てるんですよ。

長谷川：聞く仕事でもあるんですね。

板倉：そう。観客に合わせて音をプロデュースする演出家ですね。

宮内：BCL バンドの次は、映画作りましようよ。BCL 少年時代 (笑)

長谷川：夢が広がりますねえ (笑)

●来年の抱負

中川：次回ペディはどこ行きますか？サイパン？

宮内：サイパンなら南狙いだから、コンディショナルには来年の後半より前半がいいんじゃないかと。

五十嵐：その前に、板倉さんと栗本さんのペディデビューに向けて、近場に行きませんか？

中川：まずは深谷通信隊ペディ (笑) 次に TDXC 公式ホームページの作製。ウェブマスターは栗本ちゃんに決定したんで (笑)



栗本：ええと…じゃブログにしようかな。

板倉：ブログにフェイスブックのリンクも貼って、ダブルでやる。余力があればツイッターも。

宮内：フェイスブックはクローズドにするべきかどうか。

五十嵐：BCL 遠足は面白そうですね。

宮内：「遠足」で言葉を使った意味は？70年代の機材しか持って行っちゃダメとか？

中川：いや…ペディでもないし、遠足という言葉が適当かなと。日帰りで行けるところで。

長谷川：東京 13 号地 (お台場周辺) はどうですか？

中川：なにそれ、何があるの？

長谷川：船舶通航信号所とか、船の科学館とか。

宮内：場所的にエアバンドもおもしろそうだね。

中川：そういうやつか…。

一同：爆笑

中川：東京 13 号地、ペリくれるんですか？

長谷川：持ってますよ。

中川：なんでそんなの持ってるのよ (笑)

板倉：ペディって、島はどうなんですか？

宮内：島、いいですねえ！

板倉：近くなら、初島 (静岡県熱海市にある小島)。あんまり意味ないですか？

長谷川：たしか結構大きいホテルが建ってますよね。

板倉：エキシブ初島クラブ。たまたま会員権持ってるんですよ。

中川：おお、決定！ (笑) 熱海から船、ですよ。

板倉：島を一周できるし、南側は砂浜になってるんで、アンテナも張れますよ。

五十嵐：テントも張れますか？

板倉：オッケーだと思います。

長谷川：初島でペディは、過去にないかもかもしれませんね。

板倉：6 人分 1 万円で貸切できます。ホテルの夕食はベラボーに高いので、島の漁港にある民宿なら、居酒屋みたいな価格で食事ができます。ホテルから送迎も出てますし。なかなかリーズナブルですよ。

中川：近いし、いいですねえ。熱海まで車で行って。

板倉：無料の専用駐車場もあります。

中川：ぜひ行きましょう！あとは恒例の遠征ペディかな？

宮内：問題は時期と方面ですね。候補としては北海道の東海岸と、海外の南方面、サイパンかグアムか。どちらも条件的には高くなりますね。グアムに行くんだったら、2泊以上...移動時間は4時間弱。

五十嵐：海外の前に、国内とか。父島ですかね。

長谷川：でも、船が一週間に1便ですよ（笑）

五十嵐：八丈島はどうでした？

長谷川：私が泊まった宿はダメでしたが、ロケーションさえ選べば...飛行機で1時間と近いですし。

中川：イースター島は？（笑）

長谷川：みんなでリグ持って、モアイの前で記念写真（笑）

中川：いかさんは、（TDXCでやりたいこと）何か考えてないの？

五十嵐：とりあえずどっか行きたいですね。富士山なら、各方面のFM聞こえますかね？

長谷川：前にラジオライブ別冊の記事で、5合目でFMワッチの記事がありましたね。

宮内：標高が高いんで、ピームを振らないと混信しちゃうかも？

長谷川：富士山頂、行くとしても相当大変だと思います。

宮内：大山（神奈川県伊勢原市にある山。標高1252m）だったらご案内しますよ（笑）

中川：栗本っちゃんは？

栗本：今のところ特にないです...

中川：なんだよ〜（嘆）

五十嵐：ヨドバシカメラでPERSEUS売るとか？

栗本：う〜ん。

宮内：ヨドバシアキバでYAESUの無線機売ってるよね？

栗本：自分もそこでハンディ機買いました。ポイントで（笑）いまはと

りあえずPERSEUSを使いこなさないと...

長谷川：もう繋いで聞いてみた？

栗本：いや、まだ箱をパカッと開けたくらいで。Windows8だとなかなか難しくんですけど、どうなんですか？

五十嵐：それはPROPAGATIONを読んでもらえば。

栗本：あ、そうか（笑）

板倉：（Win）8は、最初の失敗さえしなければサクッといきますよ。ユーザーアカウントを日本語でつくったら、ベル以外のサードパーティソフトが動かなくなりました。

五十嵐：工作会で、アンテナの分配機を作りたいです。

栗本：私も欲しいですねえ。

板倉：私は、まずは初ペディを成功させたいです。

中川：宮さんは、来年やりたいことなにかありますか？

宮内：短波が衰退している現状を、WRTHとかのデータで数字的に解析してみたいですね。

長谷川：以前伺った「ラジオを聞いている人に焦点が当たる仕組み」については？

宮内：例えばアワードみたいな、聞いている人を評価する仕組みです。

無線の世界でも、新人賞とか、レポートがCQ誌に載ってOMから表彰される、みたいなものがありますね。

五十嵐：短波誌でもありましたよね。

宮内：逆に「聞いてなくて、飲み会だけ」っていう人には違和感を感じます。僕らはペディの時しか聞かないけど、「聞く時は聞く」という基本がありますから。

中川：チャレンジャブルなど聞いて、飲み会があって...両方必要だよな。

宮内：アクティビティというか、（BCL界に）貢献しているというか、時間を費やしてくれたり。そういう方を評価してあげたいです。

長谷川：壮大な夢から現実的な夢までいろいろ出てきましたね。でも今のメンバーなら、実現できそうな気がしてきました。板倉さんとおっしゃったように、個性が集まって生まれるパワーに期待したいと思います。今日は皆さん年末のお忙しい中、どうもありがとうございました。



もう一つの TDXC

高崎 DXers サークル

関山レイ(49歳・群馬在住)

「第1回ぐんま高崎ナイトオフ会」

ぼくの住む群馬県高崎市にV・UHF DXingで有名な先輩が引っ越されて来ているとのこと。それも、ほんの半年前に。知らなかった。そして、会いたいと思った。

チャンスは突然やって来た。その先輩はこれまたなんと、横浜市戸塚のTDXCの皆さんと交流があって、ぼくが彼らと会った記事をブログでご覧になり、フレンドリーなメールをくれたのである。しかも、我が家からわずか10キロ程度の場所にお住まいとのこと。さっそく、高崎駅周辺で「高崎ナイトオフ会」を開くことにした。

先輩とは今回が初対面である。お名前はずっと以前、そう30年ぐらい前から存じ上げているのだが、大御所ゆえ、緊張する。なにかこう真剣勝負に臨む感じなのだ。とは言え、生ビールでカンパイ!となれば一気に緊張感も解れ、BCL談義に花が咲く。愉快な人であった。

先輩はV・UHF DXingをメインに楽しんでいる。ぼくはあまり縁のないジャンルだったので、余計にその辺りの楽しみの秘密を知りたかった。話はBCLとの出会いのエピソードから始まって、アマチュア無線時代を経てV・UHF DXingにのめり込んでいった先輩の情熱あふれるトークに聞き入った。そう、誰もがみんな、大好きなこと、特に趣味の話になると時間を忘れて熱中してしまうものだ。

「俺はこの世界で一番になってやる」若き日の

先輩はV・UHF DXingに対して、そう決意されたのだそうだ。人あたりは非常にソフトで親しみやすい性格の方ではあるが、内に秘めた熱い想いは誰にも負けないものを持っているんだなあ、と感じた。だからこそ、第一人者なのだろう。勉強になった。

生ビールから焼酎のお湯割りへと移り、ボトルを1本空けた辺りで1次会はおしまい。さて、次は先輩のなじみのお店でカラオケ大会だ。いや、じっさいこんな盛り上がりになるなんて想像以上であった。楽しかった。そして、会ってよかった。

また次回、できれば新しいゲストを迎えての「高崎ナイトオフ会」が開催できることに期待したい。

(2014年11月1日)



(大好きな焼酎を飲みながら熱く語る先輩)

「第2回ぐんま高崎ナイトオフ会」

第2回ぐんま高崎ナイトオフ会を開催しました。参加者は埼玉県在住のSRIさん、第1回ナイトオフ会にご参加くださった高崎市在住でV・UHF DXingの第一人者の先輩、そしてぼくの3名でした。17:00から22:30ぐらいまで5時間以上、隠れ家的居酒屋から2軒目の串揚げ屋を渡り歩き、日本酒の熱燗と焼酎のお湯割りをしこたま飲み、BCLの四方山話をたっぷり語り合う、という楽しい時間を過ごしました。

今回おもしろかったのは、お二人ともぼくのこと

を「編集長」と呼んでくださるんですね。若い頃のほんの一時期に BCL サークルの会報編集に携わっていただけなのですが、他人が持つイメージというのは不思議なものです。おそらく、この趣味の世界の中でそんな通り名で呼ばれる人もそう多くはないでしょうから、悪い気はしませんけどね。ちなみに SRI さんの説では、少年マンガ誌に例えるならぼくは「少年ジャンプ」の編集長なのだそうです。サンデーとかチャンピオンではなくて。

それでは、お二人のイメージはどうか？と考えると、先輩はご出身地である熊本のマニアックな人、SRI さんは埼玉のマニアックな人、としか 言いようがないんですね。お名前は存じ上げていたとは言え直接的な交流はこれまでまったく無く、今回お会いするのも 2 回目なので、まだまだ知らないことだらけです。ただ、お会いする度に新たな側面や魅力がちらちら垣間見れて、やっぱりライブでお話するのはいいなあと思います。

今回の素敵なお話の一部をご紹介しますか。先輩は昔から東南アジアの言語に興味がおありで今も未知の言葉を勉強されていること、また一方では「銀線アンテナ」の研究をずっと続けられているのだそうです。SRI さんはいま、ご自身のブログにも書かれているように旧いラジオのレストアにハマっているようで、ラジオから外して来たプリント基板を見せていただきました。「こんなの持ち歩いてる人いないよね」とのことでしたが、たしかに。

(2015 年 2 月 21 日)

「第 3 回ぐんま高崎ナイトオフ会」

「第 3 回ぐんま高崎ナイトオフ会」を開催しました。参加者は「高崎 DXers サークル」のメンバー、先輩とぼくの 2 名です。先週末に突然決まったもので、今年 2 月以来となります。

この日は高崎駅西口すぐ横の「豊丸水産」という居酒屋で行いました。テーブルの上のガスコ

ンロで魚や肉を焼いて食べるというスタイルのお店で、その香ばしい煙りが店の外にまでもうとうと漂っているのがなんとも魅力的でした。



先輩はたいへんお酒の好きな人なので、2 週間前から「禁酒宣言」をしているぼくもこの日ばかりはビールと焼酎でお付き合いしました。ひさしぶりに飲んだビールの味は苦かったですねえ。ああ、焼酎は「珍局」というのを頼んでみました。



2015 年 8 月に開催予定の「秋田マルフェス」のことが話題となって、先輩もノリノリで参加して下さることになりました。また、来年以降のイベント 計画もいくつか飛び出しました。そう、屋久島や九州北部でのペディションなど。それならばとさっそく「九州のアニキ」こと B さんに電話をして協力をお願いしてしまいました。

2 時間ちよつとの会でしたがとても楽しかったです。「高崎 DXers サークル」ではこんな軽い感じのナイトオフ会を不定期に開催しています。お近くにお住いの方で興味をお持ちになりましたら、仲間に入ってみませんか。

E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp までお気軽にご連絡ください。おまちしています。

(2015 年 6 月 12 日)

BCL の楽しみを 広げてくれた ミズホ通信

中川 弘夫

私が BCL を趣味とするようになって今年で通算 20 年となる。具体的には小学校 5 年～高校 1 年までの 5 年間、そして 20 年のブランクを超えて復活し 15 年間ということになる。その間、「ミズホ通信」はいつも頭の片隅にある会社であった。商品の性格上基本的には「主役」ではない。しかし大手メーカーが作らないような、そして実際に電波で遊ぶことを趣味とする人が欲しいと思うような製品を作っていた。

小中学生の頃は BCL 雑誌、書籍に必ず広告や製品レビューが掲載されており、いずれも受信環境を大きく改善してくれそうな、魅力的な製品であった。特に当時は OM が使うような高級機は買えなかったので、自分の持つ初中級機の性能を補完してくれる、大きな期待感があった。しかし小中学生の乏しい小遣いではなかなかそんな希望も思うに任せず、結局自分で所有することはなかった。

それが時を超えて復活した時、欲しかったものがある程度は自由に買えるようになり、ミズホ製品を初めて購入することになった。そのとき買った製品について分からないことがあり問い合わせたところ、電話で詳しく説明して下さいましたのが他ならぬ同社の高田社長だったのだ。名前を伺った時「高田です」と名乗って下さり、社長さん直々にしかも大変丁寧に説明して下さいましたことに感激した。と言うか～子供心に雑誌で宣伝するような会社というものは大きいものだと思っていたのだが～ミズホ通信は実際には少人数で運営している会社であったということを知ったのがこの時初めて知ったのだ。

そんなユニークな製品、親切な社長さん、更には私の住んでいる町から遠くない町田市にあるということ……それらが相まって、ミズホ通信という会社にはとても興味があつた。実は BCL 復活後に、住

所を頼りに工場を訪ねた（外から眺めただけ）ことがある（本当に小さな町工場のような会社であった）。何と言っても誠実な社長の人柄に魅力を感じたのだと思う。

そんな風に日本の BCL 界に貢献してきたミズホ通信だったが、社員の高齢化もあり、2012 年末に遂にその幕を閉じることになった。それから 2 年余りが経過したが、上述のような興味から、ミズホ通信が歩んだ道を辿りたくなつた。面識もない高田社長に取材のお願いをしたところ、なんと勿体無いことにご自身でペンを執って寄稿までして下さいました。貴重な原稿は逐次引用して使わせて頂き、また関係者の方からのインタビューも交え、私なりの視点でミズホ通信の足跡を追ってみることにした。

なおミズホ通信は BCL 向けもさることながら「ピコシリーズ」に代表されるアマチュア無線機器を主力とするメーカーであったと思うが、私自身がアマチュア無線には不案内であり、かつ本誌が BCL クラブの会誌であることから、本稿では BCL 用周辺機器に限定して記すことをご容赦願いたい。

【ミズホ通信前史】

ミズホ通信を語るに当たっては、まずは高田継男社長について知る必要があるだろう。高田氏は 1934 年（昭和 9 年）生まれ。小学生時代よりゲルマラジオに興味を持ち、ラジオ作りに寝食を忘れ、大人になったらラジオ屋になることを、既にこの頃に決めていたそうである。BCL にも造詣が深く、自作の 3 球のラジオ 0-V-1 で短波ラジオ自由中国の声を皮切りに R. オーストラリア、BBC、HCJB などを楽しんでいた。また中波放送も DX 受信が好きだったので、各局を聞いてはベリカードを貰っていた。ミズホ通信の主力商品の一つであったループアンテナは、こ

うした経験がルーツとなっているのであろう。そしてSWLを経て1954年(昭和29年)にJA1AMHを開局。

そんな高田氏は大学を卒業後、少年時代からの夢を叶えるべく通信機メーカー「トリオ(現 JVC ケンウッド)」の門を叩く。だが残念ながらこの時には技術職の募集が無く、一旦は測定器メーカーに入社することになる。その5年後に今度は本当にトリオの技術職採用の求人広告を新聞で見つけ、翌日にはすぐ応募。今度は見事採用され、無線技術者としての第一歩を踏み出すことになる。

入社後はアマチュア無線家としての経歴が評価され、希望通り通信機的设计セクションに配属され9R-59及びTX-88Aの開発を中心となって担当。両機はアマチュア無線においてペアで用いられることが多く、当時一世を風靡した名機の誉れ高き受信機・送信機である。その後も各機種の開発に従事するも過労がたたりに入院。幸いにも回復するが復職後は営業職に配転となる。その後独立を決意し退職し1972年(昭和47年)ミズホ通信を設立することになった。



ミズホ通信社長高田継男氏

次章からは前述の高田氏に寄稿頂いた原稿を交えながら記述することにする。(『』内の記述は高田氏より頂戴した原稿の引用)

【ミズホ通信の生い立ち】

『1972年、十数年勤めた会社を退社して独立をしました。翌年には株式会社にして、町工場としてスタートしました。独立した理由は、それまで勤務していた会社がコイルを主として、通信型の受信機はキットとして生産してきましたが、増産を続け、大量生産にはキットより完成品が有利ということで、会社方針としてキットは中止して完成品に移行することになりました。それを機に、退社し独立しました。』

「ミズホ通信」という社名の由来は、同社が発行していたPR誌「みずほつうしん」の巻頭に書かれている。「日本の国は、古くから瑞穂の国(みずみずしいイネの穂の美しい国)と呼ばれ、水がきれいで、秋には稲がみのり、自然の美しい国でした。近年になり世の中が便利になった反面、落ち着きを失い、さわがしい時代になり、自然が失われつつあります。そんなときにあつて、ゆっくり無線を楽しんでいただこうと、昭和47年(1972年)に「ミズホ通信」を設立し、ミズホファンの皆様に支えられて今日に至っております。これからも宜しくご指導の程お願いいたします。」とある。創業の1972年と言えばオイルショックの前年であり、高度成長が頂点に達した年である。経済成長の陰で環境破壊や公害病の発生、人口の過密の問題などが噴出していた。高田氏はそんな時代を憂い、良き時代の到来を願い、新たに立ち上げる会社をそのように名付けたのであろう。

町田を本社としたのは、纏まった開設資金も無いので、自分の家からスタートしたという事情である。

『自分が希望する製品の開発

スタートに先立って、次のように考えました。

① ハムの機器

② BCL機器(主として付加装置のキット)

の2本立てとしました。これらは他社に競合せず、真似をしないこと。

これらをモットーにして、ミズホ通信を社名に、製品ブランドを MIZUHO と名付けました。

BCL 機器と言えば、第一に通信型受信機とか高感度ラジオが浮かびますが、受信機は、前に勤めていた会社の製品と競合しますのでやめました。』

前述の通り高田氏はとにかく律儀で誠実な方である。独立に際してもその姿勢は例外ではなく、製品構成は古巣と競合しないこと、そして独立に際してありがちな古巣からの人材引き抜き等を一切しなかった。即戦力者を揃えれば、たちまち同等レベルの製品が作れることは分かっているながらである。なので仲間としては、同じ町内でアマチュアに熱心な人に声を掛け、その方に手伝ってもらうことになったそうである。

創業 1~2 年後、氏が広島のアマチュア無線連盟支部主催の大会があつていくつかのメーカーが展示した際のエピソードをお聞かせ頂いた。

『私も機一つを借りて何種かのキットをリュックに詰めて参加した時のこと。トリオ時代に何回か会った地元の OM から「何故高田はあまり聞いたことのないミズホのコーナーの手伝いをしているの?」「お知らせはしていませんが、トリオを退社してミズホ通信の名で小物品を作り、その PR と販売のためやってきました。宜しくお願いします。」「そうでしたか。しかしあんな良い会社を辞めるなんて惜しいなあ」と言われ、自分として何と返事をして良いやら、「そうですね」と言ってお辞儀一つするのが精一杯でした。』

実際～起業するという事はそういうことなのだと思うが～『次の製品のこと、資金繰りのこと等を考えると、食事中も入浴中も頭から離れませんでした。そんな筈ではなかったと思ってもあとの祭りです。』創業当時の氏の苦悩が伺える一文である。

一番苦労したことはと尋ねたところ、帰ってきた答えは「ブランドの認知」であった。『ミズホ通信創業時に、製品は初めから自社ブランドでゆくことに決めていました。しかしその考えは甘く、聞いたことのないブランドの製品をどのようにして売るか』に知恵を絞ることになる。そして出た答えは当時全盛の BCL の記事の載った専門の無線雑誌とか、



上から順に MX-1D、DX-555

東名阪のアマチュア無線機器を売っているハムショップで、トリオ時代交流が深かったお店に置いて貰う等である。『創業当時は、町工場の聞いたこともないブランドでは販売に苦労しましたが、ユーザー諸兄のロコミと、通信機のハムショップ、そして専門誌に解説記事等、ご支援を頂き、次第に軌道に乗ってきました。』

【BCL 付加装置について】

同社の BCL 付加装置のコンセプトは、「受信機やアンテナの力不足を補う」という点にあったようだ。したがって製品の流れを見ると、逆に当時の BCL 用受信機の不足点が見えてくる。

『BCL 機器は、会社創立と共に開始しましたので、初期のものは 40 年も前になります。』

- ① ラジオのダイヤル目盛り合わせにマーカー発振器 MX-1D、DX-555



DX-007、DX-008D

MX-1D は、100kHz の基準となる小さな発振器で、その高調波を低調波でラジオのアナログのダイヤルの周波数を合わせます。DX-555 は短波帯連続可変の自励発振器とデジタルカウンターを一体にしたもので、受信周波数の待ち受けが出来るので 1kHz の精度で合わせることが出来ます。また、普通の計測用のデジタルカウンターにもなる便利なマーカーです。』

創業から数年間は、BCL ラジオでは周波数読み取りが困難な時代であった。したがって製品もこうしたものが生み出された訳である。

② 『1本のアンテナを、各周波数で用いられるアンテナカップラー KX-1D~KX-59

BCL アンテナとして希望する周波数(バンド)に共振(同調)させたアンテナが理想的ですが、一般にはそのようなスペースが確保できません。1本のアンテナを希望する周波数バンドに、コイルとバリコンで合わせる、アンテナカップラー又はアンテナマッチ

ングBOX を用います。ハム用としてはアンテナチューナーと呼ばれ、送信電波で自動的に合わせる方式ですが、BCL 用は送信電波がないので、手動型を使います。カップラーはラジオとアンテナとの間に接続をして、1本のアンテナを電氣的に長くしたり短くなる働きをして最良の感度にするアンテナ結合器で、インピーダンスも合わせることが出来ます。』受信機がいくら進化しても、電波の入口であるアンテナとのマッチングはまた違った機器が必要となる。したがってアンテナカップラーについては、事業を終了するまで製造が続くことになった。

③ 『ラジオの感度アップを図るプリセクター SX-1D

プリセクターはラジオのアンテナ回路に接続して用いる高周波増幅器です。ラジオの感度不足を改善します。しかしラジオ(受信機)が高周波増幅回路のない場合には、著しい効果があります。しかしラジオ自体が高周波増幅付のタイプであれば、このプ



上から KX-1、KX-2



SX-1

リセクターの効果は少なく、高周波増幅なしの場合効果的です。受信の感度アップに受信ブースターを用いる事をよく耳にするとと思いますが、プリセクターが同調タイプのアンプで、受信ブースターは『受信した電波を広帯域で増幅します。』

プリセクターは、高周波増幅回路の無い受信機の感度不足を補完するために誕生した。BCLブーム初期の頃はそうした受信機もあり、同製品が功を奏することになった。実際プリセクターを使用して、「実はこんなに沢山放送が出ていたのか!」と驚いたユーザーもいたと聞く。

④ 『受信のビート音を軽減するフィルターAP-1D、AP-M1

AM放送のDX受信をするとき、隣接して放送があり混信とビートで聞きにくいとき、再生するオーディオ周波数を電話のように300~3000Hz位まで狭くして聞きやすくします。また2局のキャリアとピーというビートを発生します。これも再生帯域を狭くすると軽減できます。同様にビート削除に、再生周波数の中でビート部分を打ち消すノッチ回路も用いられます。このフィルターの回路を使い易く、ケースに入れたものがAP-1やAP-M1になります。』

中波DXをやっているとよく遭遇するのが、月曜早朝なのにキャリアを切らない民放局。これゆえに同じ周波数に出ているDX局が妨害されるが、ノッチフィルタはこのキャリアをスパッと切ってくれる。今では通信型受信機に標準装備となったこの機能

も、その昔はこうした付属機器で補完していたのだ。

⑤ 『BCL用のDX受信用アンテナ

(5-1) フェライトコア使用アンテナUZ-9

ラジオの内蔵アンテナとして、ラジオのサイズに応じて使用されますが、更に大型のフェライトを用いれば感度が上昇します。

この大型フェライトコアを4本~6本を束にして、その上にコイルを巻くと高感度アンテナになります。このフェライトのバーアンテナと次のループアンテナは、8の字の特性を持っています。このフェライトコアを使用した製品はUZ-9として製造しましたが、日本でのコアの生産中止になりましたので、UZ-9は短期間で終わりました。

(5-2) BCLのアンテナとして最適 UZ-7D、UZ-7、UZ-77S、UZ-8DX、UZ-K1S

中波BCL用のアンテナとしてスペースがあれば高さ(地上高)10m位、水平部10~20m位のロングワイヤーアンテナと、地中に銅棒を埋めたアースとの組み合わせが用いられましたが、現代ではそのように恵まれた人は極少なく、都会地では無理なことです。そこでコンパクトで性能の良いループアンテナがBCL用として盛んに使用されるようになりました。

非金属のワクに巻線をしてバリコンと組み合わせ、目的の放送局に同調させて、それを受信機に接続します。ループアンテナの有効面積が同じであれば、四角、三角、丸型でも同じ性能になります。

ループアンテナの実効高 h_e は次の通りです。

$$H_e = 2\pi AN / \lambda \text{ (m)}$$



AP-M1

A : 有効面積 N: 巻数 λ = 波長

で求められます。A が大きい方が有利です。ループアンテナの巻枠はホームセンターで売っている木工の四角の材料利用が便利です。ループアンテナはプリアンプ無しの大型のものが良いのですが、更なる感度を必要とするとき、又は小型ループの場合、プリアンプと組み合わせる方式があります。』

ミズホ通信が世に輩出した BCL 付属機器として、最もポピュラーかつロングランだったのがこのアンテナであったと言える。その昔「ナゾのトライアングルアンテナ」という名称で一世を風靡し、その後エレメントに上記フェライトコアや基板を使用したものなども登場。そして根強い需要があるアンテナ製品は、現在「ミズホ通信研究所」（後述）に受け継がれ、今なお多くの人々に愛用されている。ちなみに高田氏によると、ループアンテナの売れ具合としては①UZ-77S（アンプ付中型ループ）、②UZ-8D（大型ループ）、③UZ-K1S（ループアンテナキット）、④UZ-7D（アンプ付ハガキ大のループアンテナ。UZ-77S にモデルチェンジ）の順だそうである。

『その他：一時他社のヨーロッパ向けにオールウェーブ受信機を OEM として RX-201 のモデル名で扱ったことがあります。先方のメーカーが生産を終わりにしたので、私共も終わりにしました。』

ミズホ通信が唯一の BCL 用通信型受信機として輩出したのがこの RX-201 である。前述の通り古巣と競合しないことをポリシーとしていたため、長い歴史の中でこの 1 台のみである。上述の通り、海外に



UZ-77



RX-201

OEM 生産した関係で国内でも扱われることになったという特殊事情があったようである。

【BCL ブーム後】

『BCL ブームが過ぎ去ると同時に、各ラジオメーカー・家電メーカーが BCL ラジオと呼んだ短波ラジオを一斉に中止しました。ラジオの老舗であるソニー、ナショナル（パナソニック）も、この手のラジオから手を引きました。それに伴い、BCL の付加装置も需要が激減しました。』

『ブームはその名の如く必ず消えてしまいます。ブームが去っても仕事を存続するためには、それに代わる製品が必要です。その軸となったのはアマチュア無線機器です。40 年の間には、色々な物を作りました。』

A . ARDF の受信機と送信機

野原や山に置いた電波ギツネを方向探知の受信機で探し、早く発見を競い合う競技です。商品名：FRX-2001 DX

B. 小型映像送信機

UHF の空きチャンネルに映像を送信する小型ワイヤレス送信機。商品名：PT-3U

C. 模型のラジコン飛行機発見器

A と同じ方向探知機を活用し、飛行機に小型送信機をつけてその電波を探して、行方不明の機体を発見する（特注品）。』

BCL ブームは立ち上がったばかりのミズホ通信の名を広めるのに寄与した。しかしながら一気に冷めてしまっは、ビジネスは立ち行かない。アマチュ

ア無線は極端なブームはなかった代わりに、根強いファンが長く続いていた。こちらがミズホ通信のビジネスを支えることになった。

【業務縮小と営業終了】

ミズホ通信の従業員が一番多かった時で8名ほどだったそうである。製品は基板等一部外注しているものもあったが、基本的には1台1台手作りしていた。BCLブームは短かったし、アマチュア無線人口も徐々に減少し確かに市場としては縮小していたのだが、若い人を採用して後継者を育てることも出来たであろう。しかしながら高田氏は2004年11月に業務縮小に舵を切る。『企業というより道楽に深入りした我々の中に未来ある若い人を引っ張り込むわけにはいかない』というのがその理由である。当時社員の平均年齢も70歳に達していた。そうしてループアンテナ及び自作用部品に限定して事業を続けたが、2012年12月に遂に事業終了を決断。40年の歴史に幕を閉じることになった。

CW送信機QP-7/QP-21を引き継いだキャリブレーションのホームページに高田氏からの事業終了の挨拶と、「個人の道楽に戻り、アマチュア無線を生業エンジョイしたい」とのメッセージが掲載された。

【ミズホ通信研究所】

優れた製品を世に送り出したミズホ通信の終焉を惜しんだファンは多い。しかしその事業を継続するというのは大変なことである。そんな中でアンテナの部分に限定して、その事業を引き継いだ人がいる。マイクロ・パワー研究所代表の高橋淳氏である。

高橋氏は既に1985年より現在の事業をスタートさせている。高周波系部品の販売等を主な事業とし



ていた高橋氏がミズホのループアンテナに出会ったのは今から10年近く前の話である。当時氏は東京ラジオデパートで仕事をしており、暇を見つけてはラジオ受信を楽しんでいたが、地下なので当然電波の入りが悪い。そんな時に偶然、ラジオデパートのゴミ捨て場にUZ-77の本体が捨てられていたのを発見したのである。アンテナ部分は無かったので、見よう見真似で作った。その後オリジナルのアンテナはどんな感じか知りたく、純正のアンテナを購入して聞き比べるが、この時に初めて高田氏と言葉を交わす。その以前にも勿論高田氏の高名は知っており、一度は測定器を購入して頂いたこともあったそうである。

高橋氏の関心事は遠距離受信ではなく近くの局を少しでも良好に聞く事であった。そこでフェライトバーを使ったアンテナを自作するようになり、高田氏に「こんなもの作ったのですが如何でしょうか？」と話すことになったそうである。高田氏はバーアンテナは扱っていなかったが、病院の入院患者等に目立たず受信状態を改善出来るアンテナとしてどうかと提案したりする。それが縁で食事をしたり親しくするようになったそうである。

少し前から予告はしていたが、2012年暮れに辞めようと思うという話を聞き、「僕がやりましょうか？」と申し出た。無くすのは簡単だが、一旦名前が消えてしまうともう途絶えてしまうし惜しいと考えたのである。

高橋氏はピコも何台か所有していたが、トランシーバーは扱うための資料もノウハウも無いのでこれは引き継げない。なのでアンテナ部分に限定して、引き継いで売ってみたいと申し出たのである。当時は未だUZ-77のパーツの供給があった。「ミズホ通信研究所という名前にしちゃったんですが」と話すと「それで売れるようだったらいいですよ」と許可してくれたのである。高橋氏は既に「ミズホ通信研究所」の名刺まで作っていたというのだから、これはもう確信犯だ(笑)。ただ勿論高田氏も誰にでも「ミズホ通信」という伝統あるブランドを使わせることはしない筈である。高橋氏の力量なり熱意を認めたに違いない。



Magical Stick Ace

「ミズホ通信」と「ミズホ通信研究所」のアンテナのコンセプトの違いを挙げるとすれば、前者が比較的大型のループを用いて DX 局受信を志向しているのに対し、後者はフェライトバー等小型のエレメントを用いてローカル局を良好に受信することに重きを置いている点にある。これに関して高田氏は、前述の入院患者や老人ホーム等の入居者のような「目立たない小型のアンテナを使いたい」というニーズが増加したことを鑑み、時代に適合したものであるとの認識を語って下さった。

高橋氏も歴史ある「ミズホ通信」の名前を使っているため、変なものを出せないという緊張感はある。なので新製品を出す場合、まずは「bar-antenna.com」というサイトで発表し、そこで一定の成果を得たらミズホ通信研究所ブランドに切り替えるという段階を踏んでいるそうである。

高橋氏の作る製品も実にユニークだ。昨年の本誌で五十嵐雄希氏と我戸塚豪氏がレポートした「Magical Stick Ace」はミズホ通信研究所の製品であるが、コンパクトな装備で DX を狙う Ultralight DX のマニアに受けている。この他無電源 MOSFET 版ラジオ、また「全国・電波ホットスポット探検隊」プロジェクトを推進し、無電源ラジオが聞こえるホットスポットを探して回るなど、大変ユニークな活動を行っている。高田氏の「ミズホ通信スピリッツ」の継承者に相応しい探究心の持ち主と言えるのではないだろうか。

【ミズホ通信スピリッツ】

ミズホ通信はその有用かつオリジナリティに溢れた製品で、BCL ファンを楽しませてくれた。古くは受信機の性能が今ほど優れていなかった時代に、BCL 付加装置でその不足を補って高級機に近い受信環境を作り出してくれた。また受信環境が悪化した現代においては、ループアンテナ等少しでもノイズ・混信に対抗する製品を提供してくれた。

高橋氏の呼ぶ「ミズホ通信スピリッツ」とは、「問題点を解決するような製品を自分の手で生み出す」ということではないだろうか。

高田氏は電子工作の楽しみの伝道者でもあった。様々な著作物で、またアマチュア無線クラブ・小中学校の科学クラブ・科学館等で工作教室に向き直接指導をしている。

私自身は少年時代手先が不器用で、プラモデル一つ満足に作ることが出来ず、苦手意識と劣等感があった。しかしながら電子工作にはずっと憧れを持ち続けてきた。中学校で技術科の授業でラジオやインターフォンを作った頃から苦手意識を徐々に克服し、年齢を重ねるにつれ、猿真似ながら色々作れるようになった。



高田氏電子工作著書の一つ

我々の楽しんでいる BCL/DX の世界は極めてニッチであり、採算が取れない商品を企業が提供してくれることは基本的には無い。なので自分の希望するスペックの製品を得ようとすれば、アンテナもアンプもノイズフィルタも全て自作となる。

我々は更に厳しさを増す受信環境に対抗するために、そしてラジオ放送をもっともっと良い状態で受信するために、更には遊び心を持って自分自身で研究して、自らの手で作り出すことが必要なのではないか。開発までは出来なくとも、製作記事を見ながら作ることは出来るだろう。今回この記事を書きながら懐かしんで古の「ナゾのトライアングルアンテナ」を作ったのは、とても楽しい時間であった。

「ミズホ通信スピリッツ」とはそういうことなのではないだろうか。

【終わりに】

BCL ブームの頃は相当数の企業がこの分野に参入したが、40 年の長きに渡って愛され生き残ったのはミズホ通信だけだったと言って良いであろう。その秘訣は上記ミズホ通信スピリッツであり、どこまでもユーザーを大切にする、真面目で誠実な経営姿勢にあったと総括してよいであろう。

高田氏には面識も無い中で今回の取材の件ご協力をお願いしたところ快諾頂き、自らの手で原稿をお書き下さった他、執筆に際して有用な様々な資料をご提供頂いた。お礼の言葉も見つからないし、そのご厚意にお応え出来るような出来栄えになったかどうかは極めて疑問だが、全国のミズホ（＝高田社長）ファンの皆様に何某かの情報をご提供出来たとしたら幸甚である。

最後に様々なご協力とアドバイスを頂戴した高田氏、高橋氏に改めて御礼を申し上げ、本稿を了としたい。

〈参考文献〉

- ・受信機(上) 三熊文雄、森田 夫、堀江政雄著 日本放送協会編
- ・世界の放送 BCL のすべて 編集 ニッポン放送国際コミュニケーションズ
- ・海外短波放送を聞こう 金子俊夫、小林良夫著 日本放送出版協会
- ・再び始める BCL 三オブックス
- ・BCL ラジオカタログ 三オブックス
- ・ラジオマニア 2007 三オブックス
- ・ラジオライフ 2005 年 1 月号 三オブックス
- ・9R-59 と TX-88A 物語 CQ 出版
- ・改訂 やさしい電子工作教室 CQ 出版

〈ラジオ外付アンテナ及びフェライトコア〉

マイクロ・パワー研究所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-10-11 東京ラジオデパート 1F

TEL/FAX 03-3255-8018 <http://mpl.jp/>

全国・電波ホットスポット探検隊・・・送信所から離れているのに、良く聴こえる！？

http://mizuho-lab.com/hotspot/nakano_hotspot.html

〈ラジオパーツ〉

シオヤ無線電機商会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-10-11 東京ラジオデパート 3F

TEL 03-3253-3987

FAX 03-3253-4355

ミズホ通信スピリッツを継承

ミズホ通信研究所

<http://mizuho-lab.com> info@mpl.jp



Mizuho Communications Laboratory

【読者プレゼントのお知らせ】

今回取材で全面的にご協力頂いた高田 OM より、ミズホ通信時代の IC ラジオキット「RX-IC3D」のパーツ一式を頂戴しました。



RX-IC3D



スモールアンテナ部品セット

同じくミズホ通信研究所よりは、高橋 OM より「スモールアンテナ部品セット」を協賛頂きましたので、希望者にプレゼント致します。

なお後者は本誌次号にてモニター記事を投稿頂くことを条件と致します。ご希望の方は住所、氏名、電話番号、希望商品名をご記入の上、電子メール(ar7030nrd535@gmail.com)にてお申し込み下さい。応募締切は 9 月 30 日(水)と致します。なお希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

bar-antenna.com

バー・アンテナ関連パーツ販売店

フェライト素材・リッツ線・蜘蛛の巣コイル用巻棒

電波時計&中波帯の外部アンテナ製作キット

超長波～長波～中波～短波帯 1Hz～30MHz程度まで

バー・アンテナ/スパイダー・コイル/リッツ線/フェライト素材などの販売をしています。

[Welcome overseas order!](#)



43年の 時を超えて 新旧受信機比較



板倉 健

■43年前 BCL を初めてから少し経った頃、愛読書だった「ラジオの製作」に載っていた広告と記事を見てどうしても欲しくなり買ってしまったユニカ興業製 UR-2A。中学生だった当時はアンテナについてロクな知識も技術もなく、長いワイヤーを張っただけで聴いていました。そんなアンテナ環境では、当然満足いく性能も出るわけもなく、いつのまにか UR-2A は押入れの片隅へ。中学生から高校生への BCL 時代はもっぱらスカイセンサー (ICF-5800) を聴いておりました。それから40年間 UR-2A は押入れの片隅で眠り続け、3年前に私の心に再び BCL の灯が灯ったのを契機に、ラジオ Shack のオブジェとして引っ張り出してきました。

■UR-2A と言えば、中学生当時の BCL プームに乗って当時の BCL 少年達の憧れの「通信型受信機」だったわけですが、私も全く使いこなせず、お蔵入り。しばらく前のネットの記事を拝見する限り、ことごとく悪評のオンパレード。「世界最悪の受信機」当時の健気な少年にとって「痛心型受信機」(うまい事

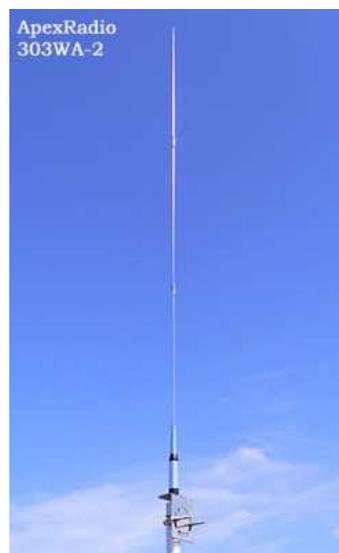
いいますなあ) などと、散々な酷評の受信機ですが、じゃあ現在のラジオ環境では果たしてどの位の性能がでるのだろうか? と興味を湧いたのと、私にとっては遠い過去の BCL 時代に於いてやり残した部分でもあるので、今回手持ちの受信機と受信比較を試みてみることにしました。

■受信機のスペックですが、UR-2A はオール・ソリッドステート型高1中2スーパー程度のスペックです。IC, FET の採用で高感度、ツエナー・ダイオードの採用で高性能だそうです。(当時の記事) 重さは約 5 kg。AC100V, DC12V の2WAY。スピーカーは内蔵されていますが、小さくて使用に耐えないので、外部 SP を繋いでいます。スプレッド・ダイヤル、BFO, AGC 付です。中学生当時、秋葉原へ行き¥25,500 で購入しました。

■UR-2A に使用する環境ですが、まずアンテナは ApexRadio 製 303WA-2 を使用します。受動型のパッシブタイプのアンテナです。アクティブタイプのアンテナよ

り混変調の心配が少ないと思われれますので、昔の UR-2A には合うのではないかと考えられます。(303WA-2 の根元には CMC が接続されています)

受信アンプには大進無線製 DPA-100B を使用します。DPA-100B は 105kHz~100MHz までのワイドバンド受信アンプであり、プリセクター (可変 25dB) 内蔵、DC11~14V で動作します。高利得で他バンドの混信に強いそうです (HP より) ANT の引き込みケーブルと受信アンプの間にはガルバニックアイソレータを入れてあります。





■この環境でざっと聴いてみた感じでは、非常に静かな印象を受けながらも入感する局はきちっと入るし、混信も少ない感じですよ。やはり昔ながらのメインダイヤルでじわじわ回しながら、細かいチューニングはスプレッドダイヤルでこれもじわっと回すとSメーターがぴゅっと振れる感覚はいいですね！昭和のノスタルジーを感じます。

■受信比較する受信機には、アナログSメーターが付いているTECSUN S2000をチョイスしました。S2000はPLLオールバンドのSPECです。SメーターにはSINPOコード用の1-5の目盛があります。昔のクーガのような大きなジャイロアンテナが付いていて、手頃な大人のおもちゃ感に溢れた1台であります。もちろん、受信環境はUR-2Aと同じ環境で受信比較します。



■今回、受信比較の参考機としてICOM製IC-R75+△LOOPXアンテナでも同じ周波数を聴き比べてみました。IC-R75+△LOOPXペアは私が普段BCLのサブ機として使用しているもので、IC-R75については説明を省きますが、△LOOPXは数年前BCL復活時に、「短波用アクティブ・ループ・アンテナの製作(影山氏)」の書籍を購入し、製作したアンテナです。△LOOPXはそれまでの△LOOP7などと違い同調型ではなく非同調型のアンテナです。NULL調整がうまくいってるかどうか今ひとつ自信がありませんが、今回参考機として一緒に受信をしてみます。

●受信比較データ

■2014.12.20 21:16-21:50
九州朝日放送 1 2 7 8 k Hz
UR-2A SINPO 3 3 4 3 3
S2000 SINPO 3 3 3 3 3
IC-R75 SINPO 5 5 5 5 5

北海道放送 1 2 8 7 k Hz
UR-2A SINPO 3 3 4 3 3
S2000 SINPO 3 3 3 3 3
IC-R75 SINPO 5 4 5 5 4

■2014.12.22 21:24-21:51
東海ラジオ 1 3 3 2 k Hz
UR-2A SINPO 4 4 4 3 3
S2000 SINPO 3 4 3 3 3
IC-R75 SINPO 4 4 4 4 4

ラジオ日経 3 9 2 5 k Hz
UR-2A SINPO 3 3 2 3 2
S2000 SINPO 4 2 3 3 2
IC-R75 SINPO 4 4 3 3 3

九州朝日放送 1 2 7 8 k Hz
UR-2A SINPO 4 3 3 4 3
S2000 SINPO 4 4 3 4 3
IC-R75 SINPO 5 5 5 5 5
(非常にクリアな夜〜♪)

■1242kHzあたりに「ブーン」という嫌なノイズがあります。(受信環境ALL)



■2015.01.20 21:30-22:17
ベトナムの声 9 8 4 0 kHz
UR-2A SINPO 3 4 3 3 3
S2000 SINPO 4 4 3 3 3
IC-R75 SINPO 4 5 4 4 4

台湾国際放送 9 7 3 5 kHz
UR-2A SINPO 5 4 3 4 3
S2000 SINPO 5 4 4 4 4
IC-R75 SINPO 5 4 4 4 4

■2015.06.15 23:10-24:00
ラジオ日経 3 9 2 5 kHz
UR-2A SINPO 4 5 4 3 3
S2000 SINPO 5 5 4 4 4
IC-R75 SINPO 5 5 5 4 4

J S R しおかぜ 6 0 2 0 kHz
UR-2A SINPO 4 5 5 4 4
S2000 SINPO 5 5 5 4 4
IC-R75 SINPO 5 5 5 4 4

ラジオ日経 6 0 5 0 kHz
UR-2A SINPO 4 5 5 4 4
S2000 SINPO 5 5 5 4 4
IC-R75 SINPO 5 5 5 4 4

■2015.6.16 22:23-23:15
東海ラジオ 1 3 3 2 kHz
UR-2A SINPO 2 3 3 3 2
S2000 SINPO 4 3 3 3 3
IC-R75 SINPO 4 4 4 3 3

中国放送 1 3 5 0 kHz
UR-2A SINPO 2 3 4 3 2
S2000 SINPO 3 3 2 3 2
IC-R75 SINPO 4 4 4 4 4

H LAZ (Korea) 1 5 6 6 kHz
UR-2A SINPO 4 4 3 4 3
S2000 SINPO 4 4 3 4 3
IC-R75 SINPO 5 5 4 5 4

●受信比較の感想

■MW帯ではUR-2A VS S2000は全くの互角（SINPO）。ただし、操作性はS2000が格段上なのはあたりまえか。もう一つ、私のUR-2Aだけの問題なのか？定かではありませんが、MW帯1000kHz以下になると極端に感度（信号強度）が下がって使い物にならない。（もちろんS2000ではそんな事はない）

■SW帯（LOW）でも意外にUR-2Aの健闘が光る。31mバンドでは特に良く入ります。

■全体的にまとめると、UR-2Aも思ってた以上の性能を発揮してくれたように思う。やはり、BCLにおいてはアンテナ環境がとても重要な位置づけなのだ、改めて感じました。もひとつ、43年前にはあまり



存在しなかった、生活ノイズ。ノイズ対策もできる限りやっておかないとダメですね。ユニカ興業製 通信型受信機「UR-2A」これからも中々使用する機会も少ないと思いますが、普段はラジオシャックのオブジェとして、飾っておき、たまには灯を入れて、昭和のノスタルジーに浸るのも、悪くはないかと。

43年前にやり残した事がようや



く1つ片付いたように思います。（少し大げさか）

●終わりに

■今回参考機としてIC-R75&△LOOPXを使用しましたが、もしかしてこのペア抜群に相性がいいのではないかと感じました。特にどの周波数もノイズが少なめで了解度が高い。これは、機会を改めて私のBCLメイン機であるPerseusとの受信比較を試みてみる必要がありますねえ。

さらに、今回おまけで発見したのは、普段IC-R75に繋いでいる外部SP（ICOM SP-23）をUR-2Aに繋いでしまったので、IC-R75のPhoneJackにPCオーディオの方でハイレゾ音源用にアンプに繋いでいるヘッドフォン（AKG K-701）を差し

て聴いたのですが、これまた音が柔らかく深みがあるような感じで、非常にいい。

ちなみに、IC-R75内蔵のSPはサイズも小さく、そのせいか音が固い感じで聴き取りづらい。

（個人的感想です）手持ちの機材でも色々な組み合わせで、BCLにも音楽（聴くだけですが）にもまた新たな発見があるかもしれません。

●おまけ

ベトナムの声 (9 8 4 0 kHz) を聴いている時に発見したのですが、普段 IC-R75 に接続している AC アダプタ (ICOM AD-55S) からのノイズが景気よく出てました。スイッチングノイズと思われる。ノイズの発生する範囲は 7 7 0 0 kHz ~ 1 1 6 5 0 kHz と広範囲に周期的に発生しています。

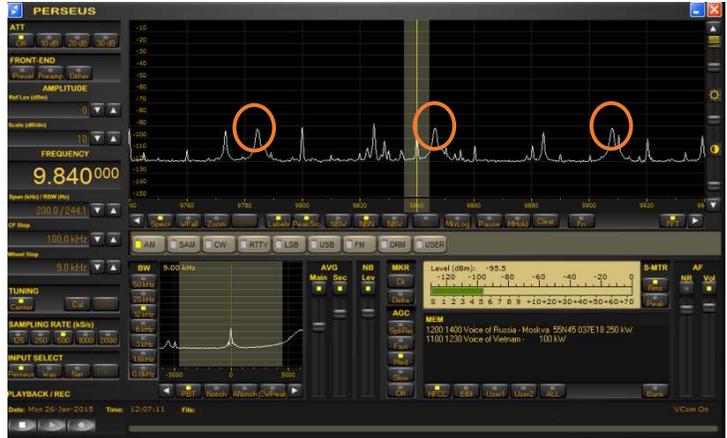
PERSEUS の波形の○でマークした部分がスイッチングノイズです。IC-R75 の電源を OFF にするとスッと消えます。

■PERSEUS にはガルバニックアイソレータを付けてるし、電源もリニアトランス型の安定化電源から供給しているので、すっかり油断してました。ちなみに 9 8 4 6 kHz 辺りのノイズは PERSEUS では景気よく聞こえますが、IC-R75 では全く聞こえません。自分自身でノイズ対策しているのかな？とにかく、ノイズの犯人は明確でしたので、データ採取後、IC-R75 の電源はもちろん安定化電源からに切り替えました。

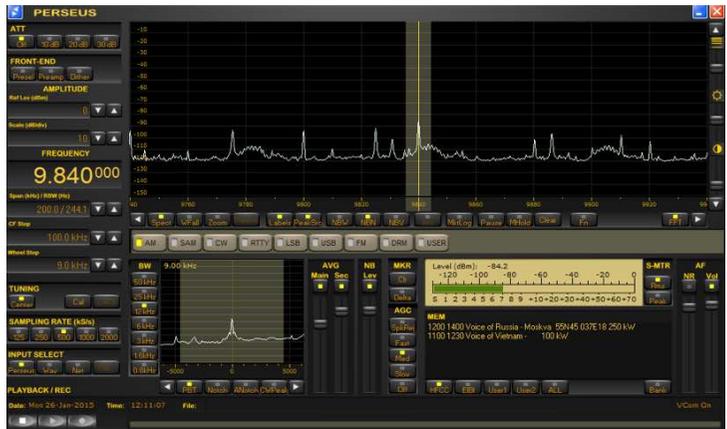
ただ、不思議な事にこのノイズ昼間の時間帯は出ていません。再現しようと思って昼間に実験したときはノイズが確認できませんでした。交流電圧が昼間と夜では若干違いがあるからなのでしょうか？まだノイズ発生源はきっと他にもあるんでしょう。最近の BCL はノイズとの戦い (大げさ) なのだと改めて感じました。

○印をした 3 箇所結構派手に出てます

■AD-55S のノイズが出てる画像 (Perseus)



■IC-R75 の電源を OFF にした

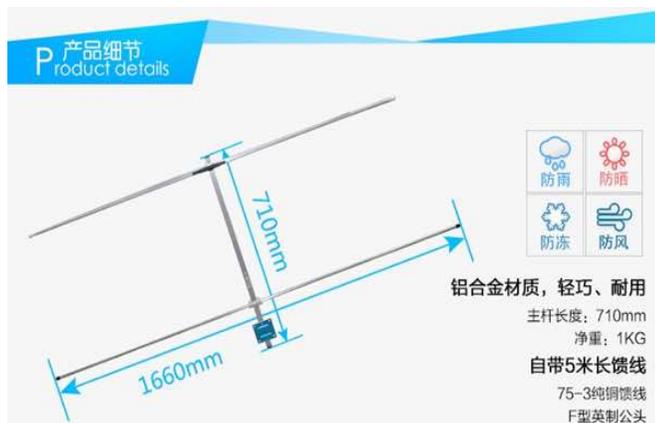


3 箇所ノイズが綺麗に消えているのがわかります。

■MW 帯の 1 2 4 2 kHz にもノイズがあるのを確認しましたが、こちらは原因がつかめません。(おわり)

中国製 FM アンテナに ついて

岡村 博行



■この度、E スポ受信に必要なアンテナを探した所、インド人DXerのAlkoseh Gupta氏が主催、するface Book PageのFM DX South Asiaに中国製のFMアンテナの記事が出てましたので試しに買ってみました。

■紹介されていた、記事では6エレメントの八木型アンテナでしたが、さすがに大きすぎて建てられないという理由から同じメーカーから発売されている2エレメントの八木アンテナに変更しました。

■中国製品、というと、数年前迄は「粗悪で使い物にならない」というイメージがあり、この製品も、日本円で3000円位と価格も破格の安さの為、出来具合に不安が過ぎりましたが「人柱になればいいや。」位の軽い気持ちで購入を決意しました。

■購入には、輸入代理業者を利用したので総費用は7000円弱になりました。直接、個人輸入される場合はもっと安値で入手で

きると思います。

■あまりにも安い価格でしたので、アンテナの出来具合が心配でしたが（輸入代理業者もかなり心配されていました。）到着して開封してみた所、その嫌な思いは一瞬にして吹き飛びました。

■箱の中身はステンレス製のエレメント2本とセンターポール、5mの同軸ケーブル、支柱に取り付ける金具が入ってました。エレメントもセンターポールも軽くてしっかりした作りです。説明書は付属してませんでしたがアンテナは簡単に作成できました。各部はボルト止めですがしっかりと固定すれば、ぐらつきもありません。

■FMアンテナに詳しい方のお話によると、長い方のエレメントが反射器(リフレクタ)で放射器(ラジエータ)が短いエレメントとの事。また、折り返し型(フォールデッド)である為、広帯域に対応しているようです。

尚、利得は2エレメントですので3dBです。

■試しに、ベランダにアンテナを設置してみました。84.7MHzのローカルFMがオーバーゲインです。別途、プリアンプが必要かと、当初は考えていましたが、特に必要は無さそうに思います。

■5月の連休にE スポがオープンしたのでこのアンテナで聞いてみました。以前は、WSMLアンテナで聞いていたので100MHz帯辺りからゲインが下がっていたのですが、このアンテナでは100MHz帯以上の局も良好に聞こえます。SDR受信機で見ると台湾局が89.1MHz付近からずらっと並びました。これからのE スポ受信にこのアンテナは貢献してくれると思います。

■製品情報等はD-Lenp 八木空中などで検索すると出てくるのでそちらを参照してください。

菊水電子テストループ SA100 モニターレポート

堀場 啓二



■今回紹介するループアンテナは、JIS C6102-1988「AM放送受信機試験方法」に準じたフェライトバーアンテナ内蔵ラジオの性能測定に使用する試験電界発生用コイルです。直径25cmの円形シールドループアンテナで、整合用固定抵抗を内蔵し、出力インピーダンスが50Ωの信号発生器に接続したとき、コイルの中心軸上でその中心から60cm離れた空芯の棒型アンテナ

ナに生じる等価電界強度が上記信号発生器出力（開放端出力）の丁度-20dB（-1/10）になるように設計されています。目黒電波測器のテストループMLA-1001Bも同様のアンテナです。価格は、菊水電子SA100が12万円と少々高いようですが、業務用アンテナなので仕方ありません。

- 仕様
- 準拠規格 JIS C6102-1988
- 周波数範囲 531kHz～26.1MHz
- 移動距離 垂直 約250mm
- 水平 360°
- 入力インピーダンス 同軸形 50Ω
- 試験電界発生用コイル 直径25cm、0.8φ、1回巻
- 動作温度範囲 0°C～40°C
- 付属品 入力ケーブル1本 (SA550)、1m
- 取扱説明書 1部

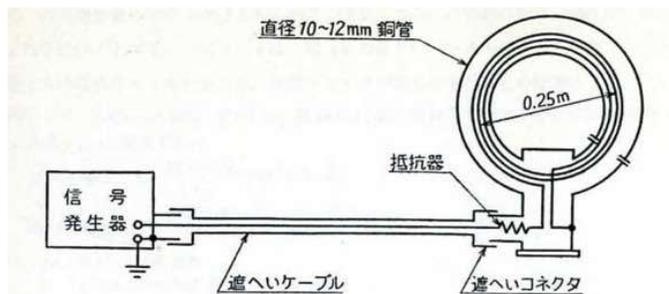


表 2

巻数	直列インピーダンスの値	試験周波数範囲
3	409 Ω	531 kHz～10 MHz
1	136 Ω	531 kHz～26.1 MHz

備考 直列インピーダンスは、信号発生器の内部抵抗、遮へいケーブル及びコイルのインピーダンスと直列抵抗器の抵抗値で構成される。

JIS C6102-1988 3.2項から

■準拠規格 JIS C6102-1988 とは、どんな規格なのでしょう？この規格は、AMラジオの性能評価試験の規格です。テストループアンテナは、標準信号発生器と繋いで、電界を発生させ、フェライトバーアンテナを内蔵するポータブルラジオや外部のループアンテナを接続するチューナーの受信感度やSN比、AGC特性等を測定するために用いられます。つまり JIS C6102-1988 では、テストループは送信用アンテナとして使用されます。しかし今回は受信用としてその性能を確認しました。

■JIS C6102-1988 3.2項に「試験電界発生用コイルは、完全に静電遮へいたものとし、遮へい体としては、直径10～

12mmの銅管を平均直径0.25mの円形に曲げたものを用い、短絡巻線となるのを防ぐため一端だけを接地し、他端は絶縁する。この中に絶縁単心導線を通してコイルとする。」とあります。JIS C6102-1988では、3回巻きと1回巻きの2種類が記載されていますが、SA100は、1回巻きのシールドループアンテナです。その作りは業務用だけあり、しっかりした作りです。銅管はクロムメッキで防錆処理されています。アンテナを固定するスタンドは、鋼鉄製で重量があり安定しています。コネクタ端子は、BNCが採用されています。では早速分解して内部を確認し



SA100の内部



ループの1端は、ゴム輪で絶縁

バー・アンテナを有するラジオ受信機の場合

図2に示すようにラジオ受信機のバー・アンテナの中心とコイルの中心が同一線上になるよう、コイルの高さを調整し、かつバー・アンテナの中心とコイルの中心との距離を60cmに固定し、信号発生器を動作させた場合は、バー・アンテナの等価電界は、信号発生器出力指示値の-26dB(1/20)となります。

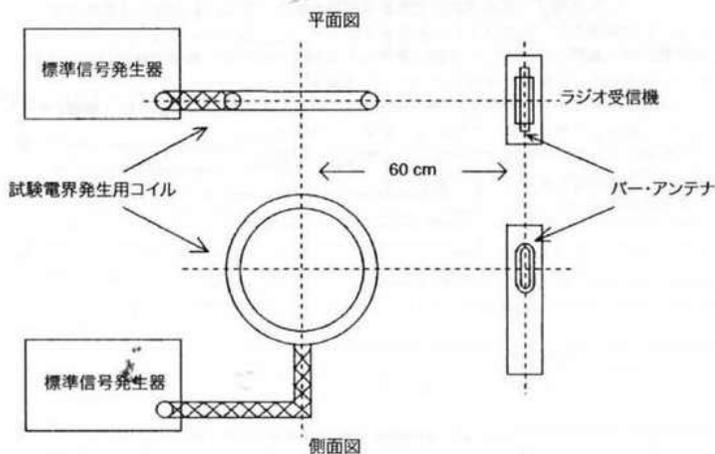
例えば、信号発生器の出力が100dBμ(100mV)の場合は、100dB-26dB=74dB(5mV)で5mV/mが等価電界強度となります。信号発生器の出力が不足する場合は、距離を変えて次式で補正してください。

$$E = E_0 \frac{0.6^3}{X^3}$$

E = 距離をXmにした時の等価電界強度 (mV/m)

E₀ = 距離を60cmにした時の等価電界強度 (mV/m)

X = バー・アンテナの中心と試験電界発生用コイルとの距離 (m)



SA100取扱説明書より バーアンテナを有する受信機の試験機器配置図

てみます。内部の整合用固定抵抗は、82Ωの金属皮膜抵抗が使われていました。シールドループの銅管は、一端が写真のようにゴムで絶縁されています。内部の導線は、アクリル板上に配線を這わせ、シールド銅管との距離を一定に保つよう工夫がされていました。コイルのインダクタンスは、1.74μHでした。

■このアンテナは、パッシブタイプの為、ゲインは期待できません。案の上、ローカル局すらカスカスで全く使い物になりません。特筆すべきは、そのフロアノイズの低さです。この微弱な信号をSNの良いプリアンプで増幅してやれば使えるかもしれませんが、そこで手持ちのRF

Systems WA50を繋いでみます。WA50の仕様は、周波数範囲50kHz~50MHz、ゲインは10dB、



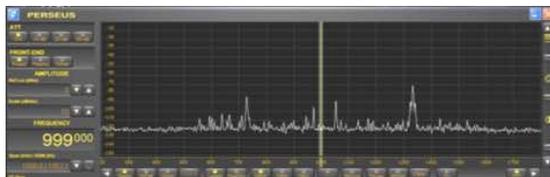
SA100とALA-1530

2次インターセプトポイント +60dBm、3次インターセプトポイント +40dBmとかなり優れたプリアンプです。残念ながら Universal radio inc. ではデスクコンになっています。WA50を繋ぐとフロアノイズは低いままで、信号が増幅されました。ALA-1530と比較するとフロアノイズはかなり低いのですが、まだゲイン不足です。中波帯で、ALA-

1530はローカル局が強過ぎで”ADC CLIP”が表示しました。PERSEUSは、高感度な受信機ですが、SA100+WA50の組み合わせでは、ボリュームを上げてもALA-1530で聞こえる局がカスカスで音にならない局がかなりあります。ALA-1530と同様に大型化するか、アンプゲインを上げる必要があります。

■結論：SA100は、受信用にはゲイン不足で適していません。

SA100のみ (999kHz)



受信地： 愛知県北名古屋市
 受信日： 2015年6月28日
 受信時間：01:30~02:00

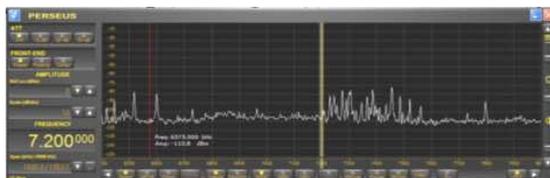
SA100+WA50 (999kHz)



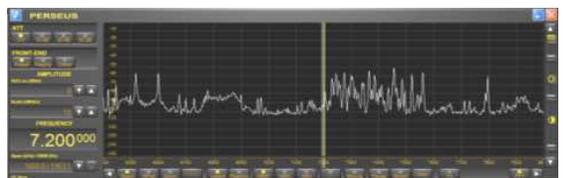
ALA-1530 (999kHz)



SA100+WA50 (7.2MHz)



ALA-1530 (7.2MHz)



SA100+WA50 (11.8MHz)



ALA-1530 (11.8MHz)



(2015年6月)

小型アンテナ ローテーター AR-1002 使用レポート

長谷川 眞也



導入の動機

ALA1530を回すためにYAESUのG-250を使ってきましたが、家の工事に伴い撤去したあと、息子が壊してしまいました(ローテーター本体を接続せずに、コントローラーをACに繋いでガチャガチャいじってたら、動かなくなりました…涙)。G-250は2009年に生産が終了し、ALAなどの小型アンテナを回せる小型ローテーターの代替品が少なくなりました。一時期コメントから小型ローテーターCRT-7が販売されていたのですが、こちらも現在はディスコン状態です。

今回、建て替えた屋根に再びALAを上げるべく、ネットで検索して見つけ出した小型ローテーターAR-1002を導入しました。国産ローテーターAR-1002は、もともとヨーロッパ向けに生産されていたのですが、処分品として国内で一部の販売店から安く販売されており、その後国内向けに再生産されたものだそうです。なお、同等のローテーターにHyGain社のAR-303があるようです。



AR-1002の購入

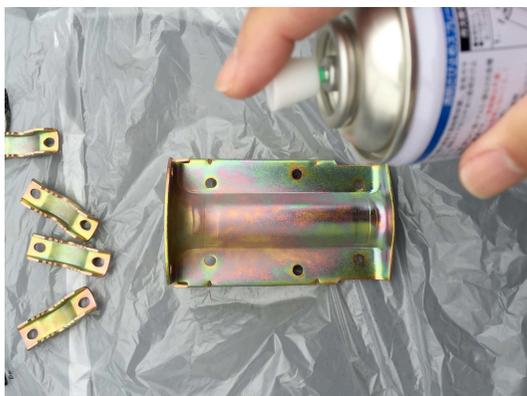
AR-1002を取り扱っている神奈川県小田原市の小田原無線のWebサイトから、ネット通販で購入しました(税込17,280円)。いっしょにコントロールケーブルの3芯ローテーターケーブル20m(税込2,160円)も購入。数日で宅配便が届きました。

AR-1002の設置

50MHz帯2エレ/144MHz5エレ430MHz10エレ程度までのアンテナが使用可能ですが、これ以上大型の八木アンテナ等を取付回転させると能力を大きく上回る為、内部ギア・ブレーキ等破損するおそれがあるそうです。

今回の設置は、専門業者さんをお願いしました(家電工事屋 キツカワ <http://www.kadenkoujiya.com>)。屋根が斜めに傾いた「片流れ屋根」なので、あらかじめ屋根馬の足を傾斜に合わせて切断加工してもらってます。マストへの取付金具は金属製なので、念のため錆止





めスプレーを塗布しておきます。屋根上には、屋根馬～マスト2m～AR-1002～25mm 径金属マスト1.2m～ALA1530の順に組み上げて設置してもらいました(途中、地デジアンテナとBS・CS パラボラも併設してあります)。地上高は約10mです。ステーは11箇所と、頑強に固定してあります。AR-1002からのケーブルとALAからの同軸は、シャック外側の壁に作りつけておいた専用防雨引込カバーから、シャック内壁のコンセントパネルに引き込み、コントローラーと受信機にそれぞれ接続してあります。キツカワさんはTVアンテナ専門の業者さんですが、ループアンテナやローテーターも安定して設置いただきました。

AR-1002 使用感

AR-1002のコントローラーはG-250と違い、電源オンオフのスイッチがないので、スイッチ付き電源タップで電源を入切できるようにしました。また、コントローラーの方向ダイヤルにストッパーも付いていませんので、同じ方向に何回も回転させると、同軸ケーブルがマストに絡まって引張り、断線するおそれがあります。左右方向に1回転以上回さないよう、注意が必要です。時折コントローラとアンテナの方向がズレることがありますが、その場合「S」にスイッチを反時計回りに回転させると、両ユニットが同期できる」そうです。

G-250に比べると回転時間がやや遅いのと、室内コントローラーの駆動音が大きいのが気になりますが、今のところ問題なく使えています。中波やFMでは電波の到来方向へ(または混信が小さくなる方向へ)、短波ではノイズが少なくなる方向へ回します。やはりループアンテナには、指向性を自由に変えられるローテーターが欠かせません。



AR-1002 定格

制動力 100 Kg/Cm	回転力 200 Kg/Cm
耐風圧面積 0.25 m ²	垂直荷重 50 Kg
水平回転時間 58-70 秒	回転角度 360+15 度
ローテーター寸法 152x250 mm	重量 3.1Kg
適合マスト径 22-40 mm	接続ケーブル 3 芯
操作電圧 24V AC	入力電圧 100V AC
コントローラ寸法 140x71x180 mm	

(有)小田原無線

神奈川県小田原市下大井413-6 2F (201)

電話・FAX 0465-38-4948 定休日:水曜日

<http://www.odawara-musen.co.jp/index.html>



2015年のバイクチョイペ

中川 弘夫

BCL活動において私自身がこだわりたいのは、自らが現役でDX受信を行うことである。色々な嗜好があると思うのでラジオを聞かないのも是であると思うが、私は聞くことが楽しいしずっと続けるであろう。とは言え環境が悪化した自宅でDXワッチをする気はしないので、どうしても外に出ることになる。そして出来る限り気軽に外で聞くためにバイクチョイペを始めたのは、本誌Edition1で書いた通りである。

毎年4月～6月夏至前に、南太平洋狙いに数回出掛けるが、今年は私のメインである中波帯のコンディションももう一つであり、特別面白い局も受信出来ず、初受信局もわずか1局に終わった。それでも来期に向けて、いくつかの点で光明が見えたのも事実である。

光明の一つはそれほど場所に神経質にならずに、バイクチョイペが出来るようになったことである。昨年まではチョイペと言うと三浦半島の毘沙門や茅ヶ崎の柳島海岸など、「海の目の前」まで繰り出していた。今シーズンは新しいロケーションとして茅ヶ崎公園でも実施したが、ここには21時まで開いている無料駐車場もありお仲間も呼べる。また人通りも無くないので、「一人で暗がりで作る」という心理的抵抗が薄まったのも事実である。国道134号を渡ればサザンビーチであり、そこに差は無いらる。多分探せば同様のロケはあると思うし、もっと気軽に連れられそうである。

光明の二つ目は機材軽量化の工夫である。これまではマストを立てるために塩ビパイプを持参して

いたが、これが太いバイクで運ぶとなるとそれなりに重さを感じる。これが公園だと柵とか柱代わりになるものが結構立っていたりして、それにマストをゴム紐で縛り付けるだけで問題なく立つのだ。公園はテーブルや椅子があつたりするので、この場合折りたたみ椅子も省くことが出来る。

しかし何と言っても一番大きい光明は、新アンテナの使用開始である。シエスタ師謹製のTDDF (Twisted Double Delta Flag) は今年3月の茅ヶ崎柳島ペディで使用されたが、実験により従来のDelta Flagに比べてより指向性能が高いことが判明した。しかもその製作は非常に容易であり、設置も一人でも短時間で完了する。私自身も5/31に使用を開始した。コンディションはやはり冴えなかったがAUS民放局も数局聞こえ、ポテンシャルの高さと期待感を感じさせるものであった。

数年前のチョイペではKiribatiやPNG、マーシャル諸島などが入感し興奮したが、ここのごところご無沙汰している。そろそろ再ブレイクを期待したいところだし、何か来年辺りいけそうな期待感が湧いている。



茅ヶ崎公園野球場スコアボード裏付近に立てたアンテナ

フィリピン放送局訪問

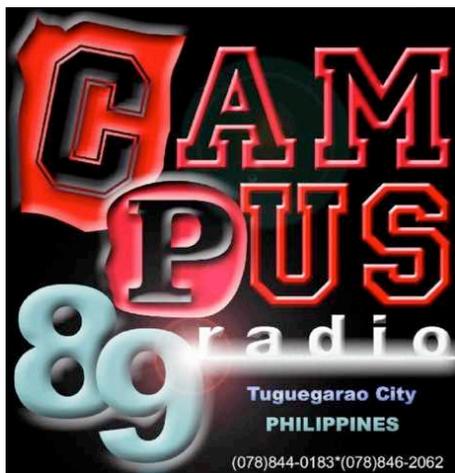
Barangay Tuguegarao 89.3 と Core FM 99.7 Vigan

馬場 政行

今回の投稿に当たり TDXC の長谷川さんより依頼を受け心からまずは感謝申し上げます。そもそも私が FM DXing に傾斜した理由として短波を聞いていた田舎より久留米市に引っ越しをしたロケではノイズまみれの環境で不満がありました。ロケに悩んでいた頃、福永さんからのアドバイスで FM DX はどうですか？言われたものの RX や ANT も無知の状況で一から教えていただきました。ヤフオクで購入した ICOM IC-R7000 と福永さん自作のジャーマンクワッドアンテナでデビューいたのを今でも覚えています。中国語がずらりと聞こえるもののさっぱり理解できずやはり FM DXing は向いていないなあと悟っていた時に 98.0MHz の Radio Macau ポルトガル語が聞こえ感動しこれを機に本腰を入れたといっても過言ではありません。また 2004 年 5 月に九州ペディを熊本県清和高原にて行ったときに初めてフィリピン FM 局がずらりと並んで聞こえた感動からフィリピン FM DX にのめりこんでいきました。九州ではいつも手軽に聞こえるカガヤン地方の Campus Radio Tuguegarao 89.3 が私の first Philippines FM 局です。受信報告書を送り局長の Elmar Jo De Leon 氏(同局 station manager)との交流も同時に始まりました。同時期に Vigan city からよく聞こえている Magik FM Vigan 94.1 で DJ を務めていた Derick Gonzales 氏(現 Core FM station Manager)からもよくメールをいただき交流が始まりました。それから 10 年越しという年月が経過し 2014 年 8 月に彼らの局に訪問しようと思立ち実現に至った訳であります。直行便がないためマニラで一泊してルソン島の北部に位置するカガヤン地方にまず訪れました。(写真は 2004 年当時のもの:前段 2 列目一番左が station Manager の Elmar 氏)



Campus Radio Tuguegarao から Barangay Tuguegarao へ局名変更は 2014 年 2 月に行われ GMA group の FM sister station もすべて Barangay という名称を使っています。



Baranagay Tuguegarao に滞在したのは 2014 年 8 月 18 日～20 日

同局の現状

1. 電力代が一番コストがかかるので経費削減のため出力を公称出力 10KW から 5KW に落としている。
2. 一日の番組で一番重要な放送時間帯は？という問いに対して午前 6 時～10 時との事。フィリピンでは出勤時間の番組が冠番組でスポンサーを得るためにはこの時間帯をしつかりできていないと幅広い視聴者を獲得できないので各放送局とも station manager が出ている番組が多いとコメントをいただいています。
3. GMA FM 局の冠番組である「Love Story」は Tuguegarao 局のローカル番組から派生したものである。
4. 表に出せない問題点など多岐にわたり放送局運営は大変厳しい状況であることには変わらない・・・とのコメントを頂いております。
5. Elamr 局長からのメッセージ・・・日本でも聞こえているようですので是非とも番組を楽しんでほしい。日本からの受信報告書は受け付けておりベリレターを発行するとの旨のコメントを頂きました。関東でも受信できる確率が高い局でありますので是非とも狙ってほしいものです。

Station Manager Elmar Jo De Leon, Barangay Tuguegarao 89.3 FM,
4th Floor Villa Blanca Hotel, Ugac Norte, Tuguegarao city, Philippines



同局はホテル4階フロア全部を貸し切っています。上の写真はホテル屋上に設置されているアンテナであります。

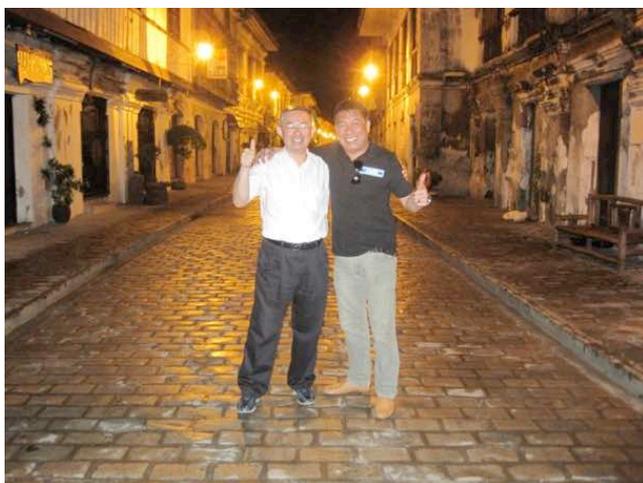
朝の番組に出演中の様子。右写真の男性が Elmari 局長



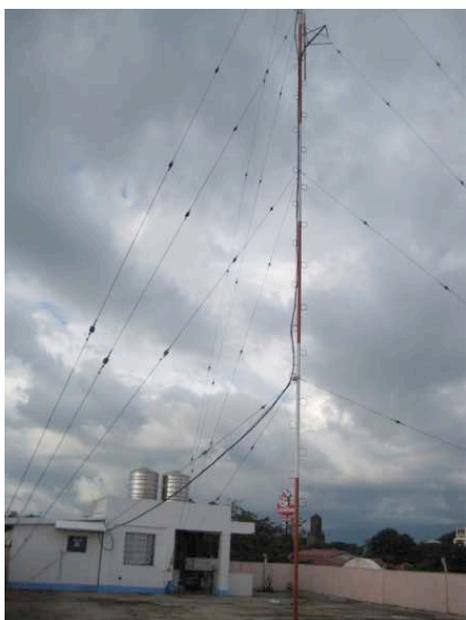
Elmar 氏からカガヤン地方のさまざまな名所案内もしていただきました。また彼がどこか他の放送局に行きたいところはあるのか？と尋ねてこられ RJ 100 Tuguegarao96.5MHz 中継局に案内していただきました。スタッフはエンジニアスタッフ1名のみが常駐されています。日本からの訪問客で驚かれ「私の娘が日本人と結婚したがっているのだが誰か知っているか？」など放送には全く関係ない身の上話でいやいや参りました。放送時間：05:00~22:00 (現地時間)で出力は聞きそびれてしまいました。



8月20日 Tuguegarao から一旦マニラに戻り同日の夕方に世界遺産都市 Vigan へ向かうべく Ilocos 地方の Laoag 空港へ。Laoag 空港で待ち受けてくれたのは Core FM 99.7 Vigan の station Manager である Derick Gonzales 氏。彼も Elmar 氏同様 10 年来のネットでの友人です。お互いに顔写真は FB で確認していましたが初対面は感動しましたね。



イロコス地方は食でも大変有名な地方です。またマルコス大統領の出身でもありマルコスを称えるさまざまな名所があります。Tuguegarao では他の局に訪問できなかったので Vigan では残された時間の中で電撃訪問することを Derick 氏に伝える。Core FM が入っているビルの屋上には2つのアンテナがありました。ひとつは Core FM 99.7 ともうひとつは DWIS 98.9。Derick 氏によると同局は以前 Moms Radio が放送していたが閉局に伴い放送施設だけはそのまま借用してテスト放送を5年以上も続けているとの事。日本ではあり得ないことがフィリピンではありなんですね。電波を一旦止めてしまうと National Telecommunications Commissions より周波数の差し止めがあるのでその防止を目的とするのが第一の理由で、また閉局にかかる費用が莫大であるためスタッフ1人で延々と毎日午前6時から午後2時（現地時間）non stop music のみを流しています。アナウンスでは90.9MHzのものが流れますが実際は98.9MHzで運営されていると話を伺うことができました。DWISの写真を撮るのを忘れていたようです。



同局の現状

1. 同局も Baranagay Tuguegarao と同様公称出力 5KW のところを 700W～3kW に抑え経費節約に努めているとの事です。人件費よりも電力代にかかるコストが運営費の約 40%程度を占めているようです。
2. 前出の記事と同様一日で一番重要な時間帯は Derick 氏が務める朝 8 時～ 10 時までを担当されています。
3. 地方では目玉になる DJ が不足しており育成することが局の資質向上につながり強いにはスポンサーをつけることにつながるのではと厳しく育成したいとの事です。
4. 放送時間：05:00～00:00
5. 彼も日本に対しては非常に好感をもっています。よく CM の中でも日本自動車やレストランの CM も流れていますね。受信報告も大歓迎だそうです。

Station Manager, Derick Gonzalez, 99.7Core FM, 3rd Floor, Marinella Commercial Complex, Govantes Dike, Zone 5, Bantay Ilocos Sur 2727, Philippines



Vigan city のローカル局訪問の写真

局内に訪問できたのは Bombo Radio のみ。あとは外からの撮影のみ



マニラの Barangay LS 97.1



今回の旅を終えて

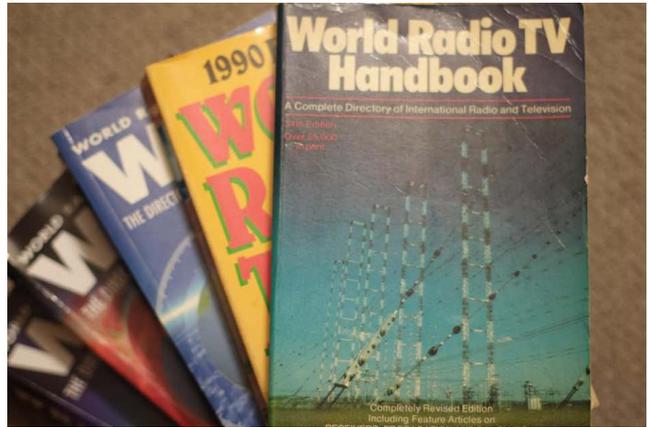
2004 年の受信報告から知り合っただけで足かけ 10 年という月日を経て放送局を訪問した訳ですが現地で実際に放送局の裏側からリスナー側を見られた素晴らしい経験でありました。Facebook にアップしたところ他局からも訪問依頼を受けております。フィリピン地方の文化や歴史など勉強になりますのでこれからも訪問していきたいと思っております。局側の手厚いアシストがありますので安心して旅行を楽しむことができるでしょう。次回はフィリピンに興味あるメンバーと一緒に放送局訪問を堪能したいものです。Elmar 氏と Derick 氏には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。御礼の言葉と返させていただきます。

WRTH

データでみる

短波 (ある2か国比較)

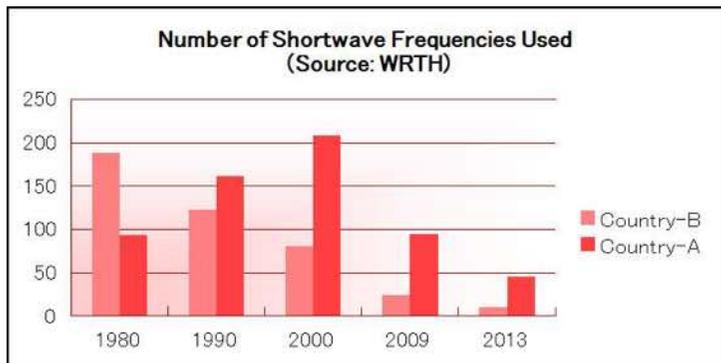
宮内 聰



■ 2015年のWRTHのプロローグに、嘗て、トロピカルバンドにはあ

れぞれの“専門家”の方々も居られた、そんな魅力の国である。データ

(Variable)マーク、それに出力、何と言っても局名をなぞって見ていくうちに、それはそれは懐かしさがこみ上げて来るのも確かであった。ああ、この局は強かったな、この局は一度しか聴いたことがない、とか、この局はキャッチしなかったな、という様々な想いを蘇らせてくれる、タイムマシンの様な歴史書を紐解く気分。懐古趣味だが、眠っているWRTHの新しい使い方発見。



れ程沢山の局が出ていたのが、今年にはこれだけになってしまった。という趣旨の淋しい記事をメンバーのSHINさんが送ってくれた。体感的・感覚的には承知の事実とはいえ、果たして実際のデータとしては、どこかでそういったグラフなどは見たことがないな、表現してみたら面白いのではないかと、という想いがきっかけで、ある2か国の1980年からこれまでの動きを覗いてみた。

■ 果たしてこの Country-A、Country-B、どちらもトロピカルバンドでは当時は諸先輩方の中に、そ

について、最初に簡単に説明をしておく、それぞれ1980年から1990年、2000年、2009年、そして2013年(取り敢えずすぐに手元にあった資料から!)のWRTHを片手に、該当する二か国の短波周波数を入力していき、1000件を超えるデータベース作りから始めた。この後、自分としての興味のある切り口に必要最低限の情報に留めてはいるものの、入力項目を追加し、最初はちょっと苦痛な作業でもあった。それでも、入力を進めていくと、それぞれの周波数を眺めるだけで、またその微妙なずれや、V

■ ちょっとだけ焦らせて申し訳ないが、この単純なグラフから、二か国の単純な周波数の数における特徴は、A国においては1980年から1990年、2000年にかけて20年で倍増していること。(周波数の増加だが、大雑把には局数が倍増した、とも言えると思う)。対してB国においては、既に1980年に相当数の周波数での局が確認されていて、1990年、2000年にかけてA国とは反対に減少を続けて現在(2013年資料)ではほんの数える程の局しか出ていない、という現実である。ヒント、Aは南米、Bはアジアのある国、そう、もうお分かりと思う。

■ 答えば、A がペルー(A=PERU)、B がインドネシア(B=INDONESIA)である。自分としては、こんな単純だが、しかし今まで BCL 雑誌の類のどこにも載ってなかった事実が(僕が見てないだけかもしれないけど)、数値データとして明らかになった、という事実。そこには少し感動があった。1000 件のデータベースの資料を Excel のピボットテーブルで傾向をみながら、ああそうだったのか、という若干の発見やコメントを付け加える形でご覧いただければと思う。

■ まず彼らはどれだけの送信出力だったのか。その実態についても少々興味があったのでまとめて比較してみた。(右上の表)

■ まずインドネシアについて。インドネシアの50kw や100kw についてはご存知 RRI の比較的高出力バンドでのリストなので完全純粋に国内放送ではないのであらかじめご了承ください。ここで明らかなのは500w 以下の低出力局の比率が高いこと。1980年においては、1kw 以下との合計においては、188 波中の128波にもなる。この10年スパンの分析では、既に減少傾向に入るインドネシアであるが、比較的高出力の10kw や50kwグループは2000年時まではそれなりに維持されていたのもわかる。

■ ペルーはどうだろう。インドネシアとの違いで言うと、1980年においては、まず出力のグループにおいて、500w以下よりも、500w以上、1kw以下の範囲にその数のピークがあることが挙げられる。その後、1990年、2000年に向けて、500w 以下のローパワー局の数(ほぼイコ

Listed Number of Frequencies

Transmitting Power		Year				
Country	◎Power	1980	1990	2000	2009	2013
Indonesia	1. < 500W	90	51	24	12	5
	2. < 1kw	38	27	10	1	
	3. < 5kw	11	5	6	1	1
	4. < 10kw	35	26	23	7	2
	5. < 50kw	10	9	8	1	1
	6. > 100kw	4	5	9	2	1
Indonesia TTL		188	123	80	24	10
Peru	1. < 500W	26	68	116	38	13
	2. < 1kw	44	52	55	39	19
	3. < 5kw	16	37	31	11	10
	4. < 10kw	4	4	6	6	3
	5. < 50kw	3				
Peru TTL		93	161	208	94	45

Source WRTH

注：出力データのない局は500W 以下と仮定

ールで局数と推測)が倍増ペースで推移するのに比べ、1kwクラスや5kwクラスの日本での受信チャンスの増す局数においては、それ程大きな伸び数ではない。2009年、さらに2013年にかけての激しい減少を見せるが、比較的高出力のグループの残存率は高い。

■ 次にインドネシアとペルーが何処で(どの周波数)で出していたか。これも感覚的なところは理解していても、リストにして捉えてみたかった。

INDONESIA

Year	<120m	120m	90m	75m	60m	49m	41m	31m	25m	19m	TTL					
1980	1	23	29	38	23	12	14	21	2	11	1	6	3	1	188	
1990		15	12	26	9	12	5	17	1	7	1	7	6	4	1	123
2000		1	5	15	3	12	4	17	1	7	1	2	7	3	2	80
2009			1	4	1	4	1	7		1		2	2	1		24
2013				2		2		4				1	1			10

PERU

Year	<120m	120m	90m	75m	60m	49m	41m	31m	25m	19m	TTL				
1980			8	1		41	3	23		1	16	93			
1990			1	11	2	2	15	54	22	22	16	8	7	1	161
2000			1	18	4	2	23	54	44	34	20	1	1	6	208
2009			1	11	1		11	36	10	14	7	3			94
2013			1	4			3	23	3	9		2			45

表にある各放送バンド表示の間の---- 部分は、放送バンド途中のオフバンドの局数。とても放送バンドではないだろう、という周波数もあって、今となってみると笑ってしまう。

■ 先ずのインドネシア。1980年資料では120mbや90mbにかけて

のオフバンドを含め、夥しい数の局数である。それも1990年、2000年データになると、ローバンドは激減していて、中心は90mb以上60mbへと移行している。

■ ペルーは当初から60mbと49mbが中心であった。傾向的にはその後も同様で、2000年には90mbにも20局近くがみられるものの、60mbのオフバンドを含む辺りに集中している。その後もこの傾向は維持したままの減少を続けている。

■ 古い WRTH をひもとく、ひと時の作業であったが、過去情報をデータ化する楽しみ、これは皆さんも是非！ ■

なんとなく、クリスタルフィルター

佐藤 弘敏

はじめに

昭和50年代に、中学生世代を中心にBCLブームがあった。ちょうどその中で私もBCLを楽しんだ。それからだいぶ年月がたち、インターネットが発達し、短波ラジオの存在意義も薄れつつあるが、最近ネットオークションで当時のBCLラジオやBCL関係の本などがいい値段で取引されている。一説によると当時の中学生、現在では40代後半の人が落ち着いた年齢になり再びBCLを始めたのか、またひそかなブームになっているとのことである。そこで当時の仲間に向けて、昔の思い出を振り返ってみた。また、最近はBCLの解説本も数少ないので、これからBCLを始めようとしている人のために、参考にしてもらえればと思い用語の解説もつけておく。BCLをやって良かったという話をなるべく紹介したつもりなので、この記事をきっかけにBCLを楽しんでもらえれば幸いである。

BCL¹をはじめたきっかけ

今から30年ほど前、BCLブームというのがあった。ソニーのスカイセンサーや松下のクーガといった海外からの短波放送を受信するための短波ラジオが爆発的に売れた頃だ。私がBCLを始めたのは、ブームが起きる少し前だった。短波ブームの仕掛け人は三菱電機だったのではないかと考えている。旺文社の「中2時代」の広告ページに「短波短信」という広告が掲載されていて、海外からの日本語放送の一覧表が掲載されていたのを見たのがきっかけだ。この広告は三菱電機の短波ラジオ「JEAGAM(ジーガム)」の広告だったが「JEAGAM」

自体はあまり売れなかったよう思う。

さて、海外からの日本語放送であるが、私をBCLの世界に入らせたのは、中波でも受信できる海外日本語放送があったことが要因としては大きいだろう。朝鮮中央放送や北京放送、モスクワ放送などが中波でも日本語放送を実施しており、普通のAMラジオで容易に受信できた。短波でもっといろいろな国からの日本語放送を受信できるのなら、もっとほかの国からの日本語放送も聴いてみたいと思った。当時、十数か国が日本向けの日本語放送を実施していた。

日本語放送

BCLの入門者はだいたい日本語放送から聞くようになる。日本語放送といっても、外国に滞在している日本人がアナウンサーになっている場合と、純粋にその国の人が日本語で放送している場合がある。BBCやラジオ・オーストラリア、ドイチェ・ベレは基本的には日本人がアナウンサーだった。

韓国、北朝鮮、中国、台湾、ベトナムは現地の人々が日本語放送を担当していた。だいたい驚くほどきれいな日本語だったが、ベトナムの声は一時期、妙に口語的な女性言葉のときがあつて(「～なのよ。～するわ。～でしょ」といった)奇妙な感じだったが、外国らしいといえば外国らしかった。

また、政府系あるいは公共放送機関系の放送局と、宗教放送系の放送局があった。宗教系はFEBC、HCJB、KGEI、HLDAなどといったキリスト教の福音伝道の放送局だ。一時期、オウム真理教が放送を行っていたこともあったが、ただしこれはブーム

1 Broadcasting Listenerの略。直訳すると放送聴取者であるが、主に海外からの放送を受信することを趣味とする人を指す。いろいろな楽しみ方があるので、単純な表現方法はできないが、「居住している地域に対してのサービスエリア内の放送」以外の放送を受信することを対象とすると思えばいいだろう。

よりだいぶあとの時期だ。

幻の日本語放送として有名だったのはアルゼンチンのRAEだった。アルゼンチンから日本までが遠距離であることもあるが、それよりもたまたま使用している周波数(9690kHz)で台湾が中国大陸向けの放送を行っており、これに向けて中国が妨害電波(ジャミング²⁾)を出してその影に隠れてしまっていて聞こえないのが実情だった。周波数を変更してくれるように働きかけた人もいたようだが、アルゼンチン側の事情もあってなかなか実現されなかった。

スリランカからは週に3回だったと思うが15分ぐらいの番組が放送されていた。これは駐在している女性がたった一人で担当していたと聞く。

パチカン放送は、朝に受信できる放送だった。開始時に「ラウデ トゥール イエズス クリストス イエズス・キリストはたたえられますように」の言葉から始まった。

ラジオ・オーストラリアは大村さんご夫妻が担当していて、日本語放送では人気があった局だ。ワライカワセミの声がインターバル・シグナルとして有名だ。何回か受信報告を送ったこともあるのだが、あまり内容が印象に残っていないのは残念だ。放送時間が、当時我が家の夕食の時間と重なっていて、あまり受信する機会がなかったこともある。

モスクワ放送は、短波でももちろん強力で受信できたが、ニッポン放送のすぐ隣の1250kHzで放送していたこともあり、BCL以外の人でも偶然受信した人も多いのではなかろうか。ソ連の音楽紹介の番組でハチャトリアン、ショスタコービッチといった作曲家の名前を覚えたことを記憶している。モスクワ放送を聞かなければ、覚えなかっただろう。余談だが、米ソ冷戦体制であった当時の指導者はブレジネフ書記長だった。チェルネンコ、アンドロポフの両後継者は指導者の地位を引き継いだ後は長生きしなかった。ソ連の崩壊で、レニングラードも呼称が変わってしまった。1999年にヨーロッパへの出張の機会があったのだが、



北京放送から送られてきた切り絵

移動の飛行機での機内アナウンスで「サンクト・ペテルスブルグの上空を通過」云々のアナウンスを聞いてどこのことかと思ったら、後日、旧レニングラードのことだと知った。何年かして再度同じ便に搭乗する機会があったが、いつのまにか機内アナウンスは英語読みの「セント・ピーターズバーグ」というようにまた変わっていた。

北京放送は受信報告書を送ると、ベリカードの他に切り絵を送ってくれた。また、年末にはカレンダー(休日は中国の休日が表示されている)が送られてきたので、BCL仲間の間では、カレンダーをもらうために1年に1回ぐらい受信報告書を送っておこうという話があった。メーデーが休日なのはさすがに共産国だと感心した。また、内容はよく理解していなかったが、当時の放送では「裸足の医者」とか「大塞に学べ」とかが話題として紹介されていたのを記憶する。

毛沢東主席も、蒋介石総統もこのころみんな世を去った。朴大統領も金日成主席も世を去った。

BCLラジオ(1)

当時、短波放送というのは日本短波放送が聴ければいいというようなものしか市販されておらず、短波が聴けるラジオでも普通は3.9MHzから12MHzしか受信できなかった。私もはじめは短波で

2 Jamming ジャムのように貼り付いて妨害することが語源といわれる。大きな雑音やモールス符号の混ざった音であることが多い。

の放送をごく普通のラジカセで受信した。

短波放送は12MHz以上の部分にも15MHzや17MHz、21MHzといった周波数帯にも放送バンドがあり、国際放送用にはこういった高い周波数も用いられている。これらを受信できるように30MHzまでをカバーした「短波フルカバー」ラジオとして売り出されたのがソニーのスカイセンサー5800や松下のクーガ115だった。ただし、まだ、フルカバーであることとファインチューニングがついている程度だったがBCLブーム第一期としては良く売れた機種である。CWやSSBを受信するためと称してBF0³なるものがついてはいたが、お飾り程度でほとんど役には立たなかった。ジーガムはダブルスーパーヘテロダイン⁴を売り物にしていたが、12MHzまでしか受信できなかったせいか、あまり評価されなかった。同じ時期の機種として東芝のサウンド750(ナナハン)やTRY Xがあった。バンドスプレッドで目盛りをつけていたのでかなり細かく周波数が読めるのが特徴だったが、やはり12MHzまでだった。サンヨー パルサーも同じようなものだった。

3MHz帯(90mバンド)にもインドネシアやパプアニューギニアの国内向けの短波放送の放送バンドがあり、フルカバーはやはり魅力だった。パプアニューギニアのR. East Sepikは状態が良ければBCLラジオでも結構受信できた。3425kHzだったかでネパールの放送も受信できると言われていた。また、例外的な周波数ではあったが、朝鮮中央放送(日本語)が3015kHzなどという周波数を使っていて、これを受信するためにはフルカバーのラジオが必要だった(他の周波数で良好に受信できるので、この周波数が受信できたからといってどうということはない。ただこの周波数が受信できるか

どうか知りたかっただけの話だ)

BCLラジオ(2)

第2期として、周波数直読機能のついた機種としてスカイセンサー5900、クーガ2200が市販された。スカイセンサー5900はFMバンド用の中間周波数の10.7MHz⁵を利用してダブルスーパーヘテロダインとして、またスプレッドダイヤルで10kHz直読の画期的な機種だった。クーガの中間周波数は違う周波数だったが、10/2kHz⁶直読で周波数直線バリコン⁷を使って同じような機能を実現していた。「ラジオ」でありながら高機能を実現したことによりBCLブームを担った。ソニー、松下以外の家電系メーカーは新機種開発競争へは参入しなくなった。

BCLラジオ(3)

さらに新しい機種は、ソニーはICF-6800というPLLシンセサイザー方式で周波数デジタル表示の中波、短波フルカバーのラジオだった。またICF-2001というダイレクトキーイン方式のデジタル表示のものもその少し後に販売された。松下はプロシード2800というデジタル表示方式のものを発売した。このころになると、ダブルスーパーだからイメージ比はいいし、感度、安定性も良く、選択度も特別な場合を除いてはほぼ満足できるものであった。無線機メーカーのいわゆる通信型受信機と比較してもそれほどひけはとらなかったのではないと思う。

それでも、選択度改善のためにメカニカルフィルターを取り替える改造が短波誌で紹介されたりした。私はICF-6800を愛用した。デジタルとアナログの両方の表示があり、手探り受信の感覚も

3 CWは搬送波のみで変調がかかっていないため、AMの検波では音声出力が得られない。SSBは搬送波がないため注入してやる必要がある。BFOは発振した周波数を注入して、受信した電波を音として得るための仕組み。

4 受信機の構成の方式。周波数変換部を有するものをスーパーヘテロダイン、周波数変換が2回あるものをダブルスーパーヘテロダインという。

5 一般的なAMラジオは455kHzが中間周波数になっている。FMラジオは10.7MHz。

6 5kHzではなく、目盛りは10kHzごとに振られていて、その中間がわかるという意味。

7 普通のラジオだと周波数の高いところで周波数の間隔が狭くなってしまいが、そうならないように設計されているバリコン。



当時のカタログ

残っていて好きだった。ただし何年かすると、PLLの発振状態がおかしくなって高い周波数では受信できなくなってしまった。後日知ったが、この機種ではそのような現象はよくあるようだった。そのうちに短波誌も休刊になって、私もBCLから離れてしまったので廃棄してしまったが、今考えると不動産でも取っておけばオークションで買ってくれる人があったのではないかと思ひ後悔している。

ICF-Pro70は、ハンディー機だが、長波からVHFまでダイレクトキーインで受信できる機械でVHF受信もFMワイドとナローが切り替えられて良かったが、何年もしないうちに心臓部のLSIの制御が利かなくなり、これも捨ててしまい、もったいないことをした。

RZ-1はケンウッドが販売した機種で、カーコンポサイズの機種だ。TVチューナーをフロントエンドに利用してMWからUHFまでをカバーする。SSB受信はできないが、FMはナロー、ワイドに対応し、TVチャンネルの周波数もプリセットされていて受信が容易だ。映像出力端子があるので、モニターに接続すれば画像も見ることができる機種だ。

通信型受信機

いわゆるBCLラジオとは別に、無線機メーカーが開発したBCL用受信機も販売されていた。アマチュア無線機を販売しているトリオがR-300、R-1000など、八重洲無線がFRG-7などを販売した。ドレークSSR-1とか、販売会社を忘れたがBCL-1とかいう機

種もあった。タンディ・ラジオシャックもいくつかの機種を販売していたがあまり売れなかったようだ。通信型といってもただ形が通信機の形に近いだけで、性能的には売り込み文句ほどではない機種もあったようだ。あと、プロ用の無線機を製造している日本無線がNRD-505、NRD-515などを販売した。BCL用というよりは少し前の世代のアマチュア無線用の受信機(トランシーバーではなく送信機と受信機を別々に使用するタイプ)のFR-101Dは、受信できる周波数が連続カバーではなく制限はあったが、AM受信のときも狭帯域のクリスタルフィルターを使用できたため選択度は抜群で、近接周波数からの混信に対して威力を發揮した。ただし、狭帯域過ぎて、高音域がカットされてしまいRAI⁸や R. RSA⁹のインターバル・シグナルの鳥の声が聞こえないという逸話もあった。また、中間周波数の関係で、49mbが受信できないという欠点があったが、コンバーターを自作して受信している人もあった。この人は、機内のVHFコンバーター用のオプション基板をセットする場所に49mbのコンバーターを内蔵させて使用していた。

BCL入門本

このころ、BCL入門本が各種発刊され、これもブームに拍車をかけた。日本語放送の受信の仕方や、番組の内容の紹介、受信報告書の書き方、ペリカードのもらい方など、また、ラジオの仕組みとかアンテナのこと、電波の伝播などハード的な内容も書かれていて、それなりに勉強になった。また、日本語放送の次は英語放送やそれ以外の言語での受信についての紹介を奨める内容もあった。BCLが流行ったのは、とにかく、外国の雰囲気を直接体験できるということが知的好奇心を刺激して、当時の中学生たちに受け入れられたのだと思う。まずは、日本語で情報が得られる、外国のニュースや音楽に触れられる。受信報告を送れば、外国からエアメールで返信が来るといったところだ。だいたいの本は受信報告書を送ってペリカードを収集しようといった内容が多かった。ちょっと前だったら、海外のペンフレンドと手紙を交換するといったノリかも知れない。ただ、私はやったこ

8 イタリアの国営放送。

9 南アフリカの国際放送。

とがないが、文通じゃ書くことがなくなって長続きしないが、BCLならいろいろな放送局があってこのほうが面白い。

当時出版された書籍としては下記のようなものを例として挙げるができる。昔の本なので今入手することは難しいが、オークションではときどき出品されるので注意深く見ていれば入手可能だろう。だいたい2000-3000円ぐらいが相場だ。

「短波放送入門」三木宮彦 二見書房

「海外短波放送を聞こう」金子俊夫 小林良夫 日本放送出版協会 ホビーテクニク

「BCL入門百科」大沢幸夫 山海堂

「短波に強くなる」益本仁雄 長瀬博之 講談社ブルーバックス

「海外放送はキミのもの」ランラジオ別冊

「世界の放送局ガイド」初歩のラジオ別冊 誠文堂新光社

「BCLマニュアル」ラジオの製作別冊 電波新聞社

「BCL QA ハンドブック」短波別冊 日本BCL連盟

日本短波放送

短波放送というと、日本短波放送(NSB)のこと？競馬か株でも聞くの？というように思った大人も多かったかと思う。日本短波放送専用のラジオなどというのもあったし、その昔は中波ラジオで短波を聞くコンバーターというものもあったそう。NSBを安定して受信するためのNSBクリスタというものも売られていた。これは発振周波数がドリフトしないように水晶発振子をかませて水晶発振させるものだった。

さて、番組だが、受験生向けの大学受験講座番組もわずかながらあったし、BCLブーム時にはBCL向けの情報番組も放送された(最初はCMがあったが、一時期提供がなくなったような気がするが勘違いかもしれない)。ブームの真最中には特別企画でハワイの地元向けの日本語放送(KZ00)と相互乗

り入れした放送があった。また、NSBとしては珍しくアイドル的なアナウンサーがいたりした。チェリーちゃんなんて呼ばれていた大橋照子アナだ。ラジオ短波に名称を変更したのもこの頃だった。「あなたとジャンケンポン、ジャンケンポン ラジオたんぱ」というステーションミュージックを覚えている。なぜジャンケンポンだったのだろう。

長い間、BCLから離れている間にいつのまにかラジオNIKKEIなどとまた堅い感じの名前になっていた。

日本短波放送以外の話題では、深夜にTBSでBCLジョッキーという番組があり、リスナーからの受信情報を紹介してくれていた。確か富山敬さんが担当していたと思う。抽選でスカイセンサーICF-5900が貰えるとのことで、ハガキの投稿の末尾にみんな「スカイセンサーください」と書いていた。

ベリカード

ベリフィケーションカードというのが正式な名称。受信証明書といったところだ。「あなたが受信した放送は当放送局の番組であることを証明します」といった内容が書かれている。丁寧な局は、受信者の名前、年月日、周波数、時刻などちゃんと記入してくれてあって証明書の体裁が整っていた。いい加減なところは何も書いてなくて「受信してくれてありがとう」程度だったりする。「あなたが受信した放送が当放送局のものであることを確認した」なのか「あなたの受信報告を確認した」なのかにこだわる人もいた。絵葉書のようなものから、手紙形式の証明書であったりしていろいろだ。航空便の封筒に記念切手が貼ってあったりすると最高だった。

こちらから手紙を出すときにも記念切手出すと返信率が高いとか言う噂もあったが、逆に発展途上国なんかだと郵便配達夫が自分のコレクションのために抜き取ってしまうから相手に届かないという噂もあった。

カードのデザインもたびたび変更されるから、同じ放送局に何回も出しても違うカードがもらえるからコレクションとしても楽しめるものだった。情報誌の中では、いかに多くの放送局から手に入れたかを競って報告するページがあった。

さて、前述のBCL本で受信報告の書き方などという記事があり、英語での受信報告の書き方の例な

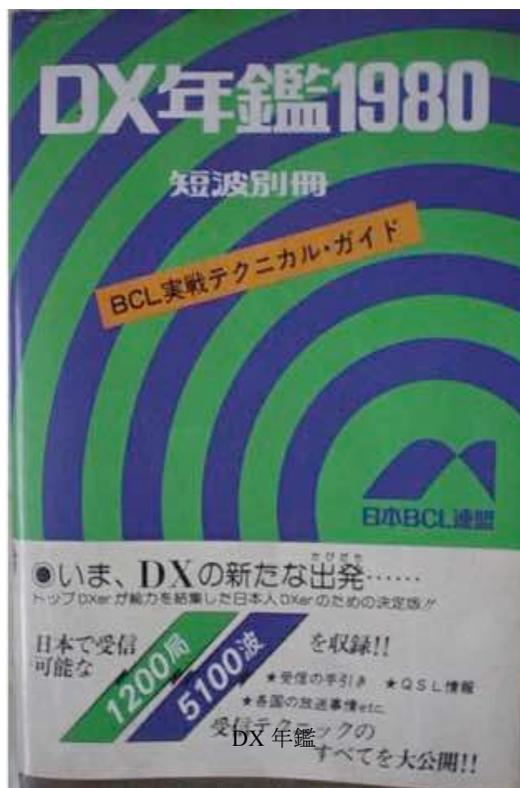
どというのが紹介されていた。しかしながら、英語がわからない初心者が書くなら仕方がないが、受信した内容が”Talk by a male announcer” などというあまりに内容的には不十分な例文が堂々と本に載っていた。おそらく放送局側では日本からわけのわからない受信レポートがたくさん来て困ったことだろう。Talkじゃなくせめてニュースとか解説とか、また、簡単な内容ぐらい書くべきだろう。だいたいtalkかmusicで済んでしまい、これで受信したことを証明しろといっても無理だ。短波放送特有のことかもしれないが、ラジオ放送初期の名残から、どこでどの周波数でよく受信できているかを知ることが目的とする部分があって(と言われていた)ほとんどは放送局の好意で機械的に処理してくれたのだと思うが、今考えれば日本人のためによくやってくれたものだ。

BCL情報誌

「初歩のラジオ」や「ラジオの製作」といったどちらかというラジオ工作技術系の雑誌にBCLの入門ページがあったりしたが、BCLブームより前は“BCL”でなく”SWL¹⁰”という言い方だった。ブームとなって創刊された「短波」誌の存在は大きかった。1976年に創刊当初は隔月刊だったが、まもなく月刊になり、特集記事や読者からの受信レポートで構成されていた。受信レポートが掲載されることを目指して、ニュース性のあるレポートを一生懸命送った人もいのではないだろうか。レポートが掲載されると掲載誌が送付されてくることも魅力だった。継続的な読者は、だんだんレベルアップした内容を求めるため、次第に一部の内容は専門的になりすぎたきらいもあったようだが、発行者側の事情として、新しい読者向けに入門者向けの特集記事も必要だとすることで毎月の特集記事はそのへんのバランスをとっていた。

WRTH¹¹は洋書だが、あまり情報がなかった頃はDXer¹²のバイブルと言われるほどのデータブックで、世界各国の放送事情のデータを網羅したハン

10 SWL は Shortwave Listening の略。短波を聴くことだが、狭い意味では、hamのライセンスをまだ持っていない人が、放送ではなくhamの電波を受信することを言う。

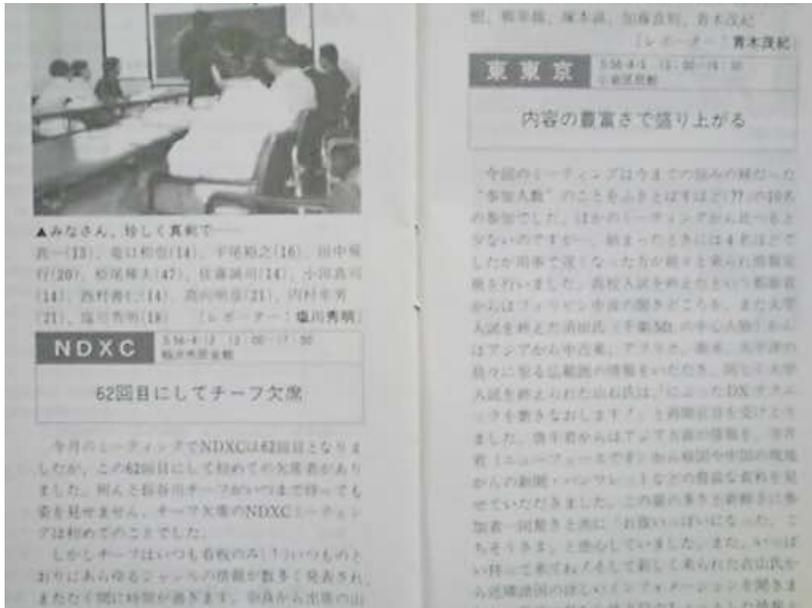


DX年鑑

ドブックだった。英語ではあるものの、ほとんどがデータなので日本の国内でもかなり出回ったはずだ。月刊短波誌の別冊として発行された「DX年鑑」はこれの日本語版的なもので、日本での受信データをもとに編集されたハンドブックだった。何年か続けて発行されたはずだが、ブームの真最中だったこともあり、書籍の週間売り上げランキングのかなり上位にランキングされたこともあるというベストセラーだ。DX年鑑を手にするこ

11 World Radio and TV Handbook の略。毎年発行されるガイドブック。洋書なので「丸善」に問い合わせで購入した。BCL連盟で一括購入できたこともあったし、ブーム最盛期にはBCLラジオを扱う電器ショップでも購入できた。

12 BCLとはほぼ同義で、DX(遠距離)受信をする人の意味。



BCL 連盟の機関誌 Hz でのミーティング報告記事

で、あるいはいろいろな放送局を受信することで、世界の国々がどこにあり、どんな言語が使われていて、その首都がどこだということは自然に覚え、世界地理に多少は強くなったと思う。

日本BCL連盟

月刊「短波」誌を発行していたのは日本BCL連盟という組織だった。六本木に事務所を構え、収益源はほとんど月刊「短波」誌の売り上げしかなかったのではないと思う。しかしながら青少年の健全育成を計るようなモットーをかかげて、日本全国で「地区ミーティング」を開催して定例の情報交換会を組織化していた。また、「短波」誌とは別に、会報「Hz」を毎月発行していた。

BCL連盟では、公共の市民会館の会議室のようなところを借りて、地域ごとに前述の月例ミーティングを実施していた。私は、たまたま世話人(チーフと呼んだ)をしていた。数名から十数名程度のミーティングで、参加者同士でこんな放送局が受信できたという情報交換が目的の会である。

月刊短波誌などの雑誌だと、発行されるまでに2ヶ月近く経過してしまっていて電離層の状態も変わってしまうので掲載されている情報と同じように受信できるとは限らないが、速報性の面でミーティングは良い情報交換手段だった。

また、ミーティングではテープで受信音を紹介できるのでその面からもメリットがあった。あとは、直接会うことによるコミュニケーション、友人作りといったところだ。

ただ、一言にBCLといっても、入門者はともかく、少しすると興味のある分野が細分化化してきて、中波屋、VHF屋、南米屋、インドネシア屋、韓国屋などと専門的になってくるので、個々の分野では層が薄く、欲しい情報が十分に得られるかという欲求不満の部分があったかもしれな

い。情報を発信したい人

とただ受身で情報が(何か面白いイベントが)得られればという人もあったと思う。その中で、毎回参加してくる人は、何かでつながっている友人関係のようなものだ。

各ミーティングでは会報を作成していた。他のミーティングと会報交換をしたりしていたが、私の所属していたミーティングは内輪の情報交換程度であり極端に専門的なレベルではなかった。他のミーティングにはあまり有用な情報源とはなり得なかった。

まだワープロなど使われていなかった時代なので、私のミーティングではメンバー手書きの原稿(各A4版1枚程度)をそのままコピーして編集していた。今なら、ブログで書くような自分からの発信メッセージといったところだろう。また、ミーティングの内容は、BCL連盟の会員誌「Hz」に掲載されて他地区の会員にも紹介されるようになっていた。

中学生リスナーが多かったこともあり、前述の連盟の「健全に導くこと」もミーティングの目的となっていたのではないと思う。単に仲間うちで自発的に情報交換会を実施しているのではなく、会場費程度の費用が連盟から補助されていた。

あまり知られていないかもしれないが、連盟発足初期にはブームの中心が中学生だったので中学生をリードするために地区ミーティングのリーダーとなるべく「高校生ミーティング」を開催して各地区ミーティングを発足させるべく準備していた。

他のミーティングも含めて、当時のメンバー何人かのエピソードを紹介する。

O氏：日本無線の高性能受信機NRD-515(定価二十数万円)を捨てる人と偶然出くわし、タダでもらったという超幸運の持ち主。

T氏：連盟主宰のグアムBCL教室¹³に参加したという数少ない人の一人。ミーティングの「2次会」の喫茶店でのごこと、カレーライスを食べ、「これはボンカレーに間違いない」との発言。「次はファイブスターにしてください」と伝票の「お客様の声欄」に書き入れた。

F氏：病気休職中にもかかわらずミーティングには参加していた人。メーカーのお客様相談室にいるような声色で新型機の開発を要望する電話をかけまくっていたらしい。

?氏：入学した高校が肌に合わずに、別の高校に入りなおしたという経歴の持ち主。引きこもらずにミーティングに参加できるくらい(また、自己紹介で高校をやめたことを言えるくらい)だから芯は強いものを持っていたのだろう。

N氏：服にじゃらじゃらとやたらと多数のバッジをぶら下げていた。山陰地方の某県の出身で、近隣諸国の放送に関心を持っていたおかげで、上京して、東方書店¹⁴に就職したらしい。

DXペディション

DXペディションとはDX(=distance)+expeditionの造語だ。もともとはhamの用語だが、まあ、家で

なく山とか孤島とかへ行って 普段受信できない局を受信しようという試みだと思えばいいだろう。なぜ、そんなところへ行くかという、hamの場合だとその地域に(たとえば行政上のその町とか村に)無線局がない場合に、その地域から電波を出すことに意義があったりするのだが、受信を目的とする場合は都会のノイズに邪魔されずに比較的クリアに受信できるので、微弱な信号が受信できる可能性があるということだろうか。

都会では、自動車や送電線に由来するノイズや、家の中では家庭電器用品や蛍光灯のノイズがあるが山の中では影響が少ない。星を見るのに街の灯の影響の少ない山中で見ると似たようなものだ。

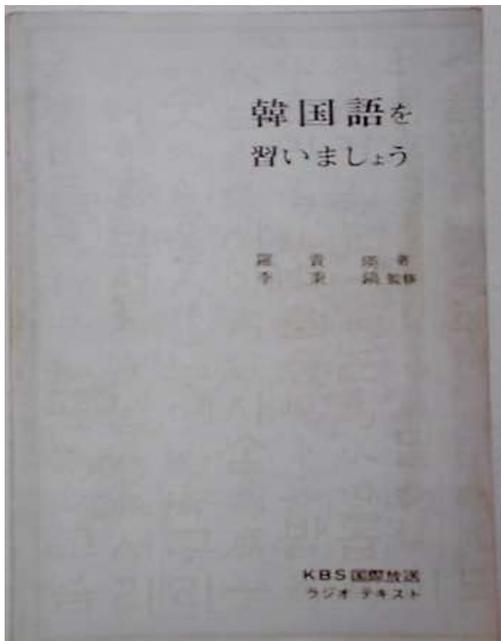
また、住宅事情で長いアンテナを張ることができない場合に、屋外で長いアンテナを張って受信できるということがある。情報誌を執筆するような人はペディションでビバレージアンテナ(進行波アンテナという中波用に用いるアンテナ)を張って見る実験もしたそう。

そんなことで、キャンプ場のバンガロー(テントを張るという面倒なことはしない。また、バンガローの電球ソケットから電源を取りたいということもある)にラジオを持ち込んで受信するというものだ。私も2回ほど仲間うちでペディションと称してキャンプをした。普通のキャンプと違うのは、キャンプが目的ではなくラジオを聞くことだから、カレーライスを作ったりはしなかった。食事はカップ麺とパンで済ませた。

また、一般の客が多くてもお互いにいやな思いをするので、あまり客のいない時期にキャンプをした。はたから見たら奇妙な風景だろうが、バンガローのなかで、夜中にヘッドホンをつけて無言でラジオのダイヤルを回しているオタクが数人いるわけだ。10月とか3月でも営業しているキャンプ場はあったが、さすがに寒かった。残念ながら特別な受信成果はなかった。

13 BCL向けのグアム旅行ツアーをBCL連盟が旅行会社と共催した。

14 中国関係の書籍を取り扱う専門書店。



やさしい韓国語のテキスト

ラジオ韓国(1)やさしい韓国語

BCL入門本などで、「日本語放送の外国語講座を受信して勉強しよう」などというのがあった。ラジオ韓国でも「やさしい韓国語」という韓国語講座が放送されていた。

今でこそ韓流ブームで韓国語の勉強の本もいっぱい売られているが、当時はNHKでもまだハングル講座をやっていなかった(なぜ「韓国語講座」でなく「ハングル講座」なのかというと「韓国語」と呼ぶか「朝鮮語」と呼ぶかで、在日の総連系と民団系の双方の人のことを考慮するとどちらか一方の呼び方に決定できなかったようだ)。大手の書店でも韓国語の教科書はほとんど売っていなかった。「やさしい韓国語」はといえば、テキストを入手するのは在日広報館へ申し込むという時代だった。

ともあれ、それをきっかけに韓国語を勉強してみることにした。入門程度の内容だが、多少とも韓国語の雰囲気はわかった。ハングルも一応は読めるようになった。

このときは、まさか後日仕事で韓国へ出張することが発生するなどとは思ってもいなかったが、結果的には30年ほど前に学んだ韓国語が仕事に役に立つことになった。

余談であるが、その後テキストはバージョンアップしたものを三中堂という韓国書籍を扱う書店で取り扱うようになった。当時は東京の京橋に店舗があったが、その後古書店街の神保町に引っ越ししている。

ラジオ韓国(2)玄界灘に立つ虹

リスナーのお便り紹介の「玄界灘に立つ虹」という番組は、同局の番組の中でも人気のある番組で、今でもやっているらしい。

昔、私の送った手紙が番組で読まれたことがある。普通、ラジオ番組で手紙を送った人の紹介は「東京都△△区にお住まいの〇〇さん」という程度の言い方をするものだが、なぜかこの番組では住所をその下の地名と番地まで読んでいたため、今なら個人情報保護で問題になるところだ。



KBS のペナント

ラジオ韓国(3) その他の思い出

当時の日本語班のアナウンサーには、パクヨンスンさん(チーフだかリーダーだかだったと思う)や新人アナのチョヨンジャさんがいた。チョヨンジャさんは「DX コーナー」の担当で、その声が魅力的だった。

番組名は忘れたが、KBSを訪問した日本人との座談会のようなものも放送されていた。

「ラジオでランランラン。テレビジョンもランラララ・・・」というKBSの歌も楽しかった。

韓国でアジア大会が開催されたときは、日本語放送も通常の放送とは別に特別にアジア大会用の放送を別の周波数で実施した。つまり同じ時間帯に2系列の日本語放送を実施したということだ。

朴大統領が暗殺されたときは、通常の放送は中止されて追悼の音楽だけが流されていた。

朝鮮中央放送

一方、北朝鮮は朝鮮中央放送が日本語放送を実施していた。内容的には、日本向けというよりは、在日朝鮮人向けなのか、北朝鮮国内で放送している内容をそのまま日本語にしたような内容だった。決まった番組表がなく、毎日の放送開始時にその日の放送内容を紹介していた。局名も「チョソン中央放送」が正しい呼び方だった。

ニュースはといえば、「偉大な首領、キムイルソン同志が」とか「アメリカ帝国主義のファッション」とか「南朝鮮傀儡のパクチョンヒ一味」といったニュースばかりだった。金日成同志を取り上げるときは、「チョソン労働党中央委員会総書記であり、チョソン民主主義人民共和国の国家主席であらせられる敬愛する首領」とか「偉大な領袖」とか必ず枕詞がついていた。「この歌を習いましょう」という番組があったが、党をたたえるような歌だった。

また、周波数の単位は既に国際的には「キロヘルツ」を用いることになっていたが、この局はしばらく「キロサイクル」のまま使用していた。



キム・イルソン著作選集

日本の経済学者の中には「税金のない国」北朝鮮の社会主義経済をたたえる学者がいた。資本主義経済の次にくるものは理論的に社会主義経済だと言っていた。そんな社会主義を紹介する「チュチュ思想は革命の灯台」とかの番組もあった。たとえば、女性が働きやすいように託児所が完備されているといったような内容だ。

前述のお手紙の話になるが、私は私でバランスを取って、朝鮮中央放送にも手紙を書いたことがある。託児所のことを質問したら日本語の「キムイルソン著作選集」が送られてきた。何ページをお読みくださいとか付箋がついていたので読んで見たが、「結婚した女性が働かないで家にいると、やれ隣の家は何を買ったからうちも欲しいとかいう話になり、目先の欲望に走ってしまうから良くない。だから女性も働かなければいけない。」といった内容だった。社会主義とはそんなものかと思ったが、社会主義建国のためにはそんなことで女性が全員働かなければいけないとは発想が小さいと思った。小さい子供を託児所に預けて、託児所では「首領お父様」の偉大さばかりを教え込むのであろう。これは韓国側からの話だが、「首領お父様」と自分の「お父様」とどちらが本当のお父様なのか子供がわからなくなってし

まうというような話が、ラジオ韓国の「北韓の実情」という番組で言われていた。

話は全然違うが、私がよく聞いていた時期は同じ時間に2系統の放送が出ている時間帯があった。「ちなみに、夜8時から1時間、別の周波数でも放送しておりますが、その周波数をご紹介しますと、短波11535kc 26.5m, 9820kc 30.5m, 6676kc 45.5mとなっています」というアナウンスは独特の響きがあってなんともいえないものだった。北朝鮮の放送は独特の口調だが、テレビのニュースで紹介される北朝鮮の国内向けテレビのアナウンスも独特の口調だ。これは、アナウンサー向けのマニュアルがあるそうである。詳細はアジア放送研究会¹⁵のホームページ <http://www.abiweb.jp/> を参照されたい。

中波DX

短波だけでなく中波の周波数帯でも夜間には外国からの放送が受信できるので、これを狙う楽しみ方があった。中国や朝鮮半島、ソ連沿海州などの近隣は受信できてもそれほど不思議はなかったが、グアム、ハワイやオーストラリア、また、カナダ、米国、メキシコの太平洋岸など北米局も受信することがあった。日本国内や近隣の放送局と同じ周波数だと混信してしまっても受信は難しいが、9kHzセパレーション¹⁶のちょうど間だと5kHz近く離れるので、選択度の良い受信機だと電波状況が良ければかなりの確度で受信できる局もあった。

あとは、国内の民放が通常24時間放送していても月曜の早朝3時ごろだけは1時間程度電波を停めているのでその時間帯はねらい目だというのがテクニックとして紹介されていた。なかなかそんな時間に起きているわけにはいかないので、せいぜい祝日のときぐらいしかそんなことはできなかったが、オーストラリアの4QNなどはよく受信できた。

グアムのKUAMやKATBは夜中でなくてもよく受信できた。日本から多数の受信報告が送られたせい

15 近隣諸国の放送事情を興味で調査している人たちの研究会。

か、日本語放送をする時間ができたりした。

北米は10kHzセパレーションなので、周波数の合間をぬって受信できる可能性があり、また、中波は地球上の夜の部分を通って飛んでいくため、時間的にも真夜中に起きているという無理をせずに普通の夜の時間帯に受信できる可能性が高かった。これは時差の関係で日本の夕方が北米の夜中に相当し、日本で夜11時ごろが北米の太平洋岸の夜明けの時間帯になるためだ。また、アメリカとの間はちょうど太平洋上を飛んでいくことになるので途中で陸地があまりないこともいい結果をもたらしているようだった。

当時、1580kHzのKDAY(サンタモニカ)は日本でよく受信された。これ以外にはハワイのKUMU 1500kHzなんかも良く受信されたようだ。カナダのビクトリア州のCKDA 1220kHzとかも受信できた。スペイン語で受信できるのはメキシコの放送だった(ただし、カリフォルニア州などはアメリカの放送局がスペイン語で放送しているケースもあった)。

ループアンテナ

中波放送を狙うようになると、ループアンテナなどというものを使うようになった。これは1m角の枠に6回巻きにしたコイルをバリコンで同調をとってアンテナにしたもので、感度はそれほど高いものではないが指向性があるので回転させることで混信を減らすことができるというものである。アンテナというと屋外に大きいものを立てる印象があるが、このループアンテナは小型で(とはいっても室内では結構邪魔になるが)主に室内で使用されるものである。

16 放送に使用する周波数を9kHz間隔に設定してある。アジア地域はもともと10kHz間隔であったが、1978年に9kHz間隔に変更された。北米地域は以前も今も10kHz間隔。余談だが、9kHzセパレーションの周波数は4桁の数字をおのおの加えたときに9の倍数になるという特徴がある。1242kHzなら1+2+4+2=9で9の倍数になっている。

私も雑誌の記事を参考に作成して使ってみたりした。指向性を体験できるという実験レベルのことは体験できたがそれ以上の活用はできなかった。たまたま、家を新築したばかりで、私は勉強部屋を与えられていたので部屋の中においてあった。父は新築したばかりなので勤務先の人に新築の家を見せることが何回かあって、そのたびに部屋を覗かれると決まって「あれは何ですか」という質問があった。オタクの持ち物を素人に説明するのは昔も今も難しいものだ。父自身もよく理解してはいなかったが、父が「hamをやっているの」という説明をすると相手もそれ以上は突っ込まなかった。

ループアンテナもこの当時は市販品があったりして、「壁掛け型」と称するものに達磨の絵がかいてあるクロスでアンテナであることが目立たなくなっていたような記憶がある。

もっと小型での増幅器内蔵タイプ(アクティブタイプ)もあったように記憶する。

また、屋外に張った単線アンテナと結合させて使用すると指向性が8の字からハート型に変わるので、混信局と目的局の方角が180度違う方向の場合にはハート型指向性を利用するといいうテクニックも紹介されていた。ちなみに可変抵抗器をかませて結合度を変化させていくと指向性パターンが変わっていくというものだった。

かなりのマニアになると、ループアンテナを屋外に設置して、ham用のローテータで回転させ、同調もリモートコントロールするという技を使うなどという例も情報誌に紹介されていた。

受信アンテナ

受信用のアンテナであれば、ワイヤー式のアンテナでも屋外にある程度の長さで張ればよい。アンテナカプラーを使用すれば、マッチングできるので効率を向上させることができる。単線式のアンテナをロングワイヤーアンテナとか言ったが、10mぐらいの長さではロングといわないなどという話もあった。

AWXアンテナとかいって、2つのバンド用のダイポールを組み合わせたアンテナが紹介されていたりしたが、特別な周波数帯のみを受信する場合で

なければ、いろいろな周波数を受信するためには、単線式でマッチングをとればいだろう。

私はたまたまham用にも使いたかったので、7MHz帯用に逆V型を使って送信用にも使用していたが、別に単線式も張って切り替えて使用した。住宅事情で長いアンテナを張ることができない場合は短縮型のアンテナでも仕方がない。

ソニーからAN-1という1mぐらいの短縮型のアンテナが売られていて使用してみたことがあるが、プリアンプを通して使うと結構いい感度で使用できた。ただし、これは東京を離れてからの使用なので周囲に強力な中波局の影響がなかったからかもしれない。

余談だが、hamの送信用のアンテナの場合はあまり短縮されたアンテナだと、マッチングがとれていても送信した電波の飛びが悪いと感じたが受信用のアンテナは短縮型アンテナでも結構使える。

NHK国際放送

日本からもNHKが外国向けに国際放送(ラジオジャパン)を実施していた。他の国の国際放送にも同様の例が見られるが、特定地域向けのサービスと、全世界向けのゼネラルサービスとがあった。

ゼネラルサービスは日本語と英語で毎定時から放送されていたかと思う。主にニュースと解説程度だが、だいたい30分番組だが、放送時間が1時間のときが1日に何回かあって日本時間17時からの放送は途中から大相撲の中継を流すこともあった。

目的が国外向けなので、国内で受信した受信報告に対してはベリカードを発行しないことで知られていた。何のときだったか忘れたが、特別に国内からの受信報告に対してもベリカードが発行されることがあり、このときはしっかりとベリカードを手に入れた。

海外旅行するときはラジオジャパンを受信しようと思っていたがなかなか海外旅行の機会がなかった。ようやく実現したのは新婚旅行のときだった。私はあらかじめNHKにスケジュール表を送ってもらってあったが、成田空港にNHKの国際放送を紹介するパンフレットが置いてあった。旅行先のモーリシャスではアフリカ中継のゼネラルサービスが受信できた。受信報告こそ送らなかつ

たが、海外にいて日本語で情報が得られる貴重な情報源だった。

最近、インターネットの発達もあって短波放送の意義が薄れてきてしまい、また、海外でも大きなホテルでは衛星放送で NHK TV (これは海外向けのテレビジャパン、NHK 国際放送のテレビ版である) が受信できることも珍しくない。おかげで最近海外出張でも ラジオを持参しないようになってしまった。ただし、ホテルによってはNHKが受信できるはずのチャンネルで何も受信できなかったり、違う局が映ったりして、期待通りではないこともある。

余談だが、NHKが受信できなくてもBBC やCNNはだいたい受信できるようになっているので、ニュース程度だったら我慢してBBCのニュースを見るということではできる。また、パソコンを持参していれば日本と変わりなくインターネットに接続できるので日本の情報入手も難しくなくなった(あくまでもインターネットが使える環境の先進国の話だ。また、ホテルでインターネットに接続すると利用料をかなり取られることは覚悟が必要だ)。

アクセサリ

BCLラジオに接続して使う、アンテナカップラーやプリセクターも市販されていた。アンテナカップラーは自作も容易なので私は π マッチングのものを自作して使用していた。ついでにケース内にアッテネーターとアンテナ切り替え器も組み込んで使用した。

アンテナカップラーはうまく使うと受信感度がかなり向上する必需品だ。プリセクターは使ったことがないが、アンプ部分があるので強力な局があると混変調とかは大丈夫だったのだろうか。一昔前の感度の悪い、あるいはイメージ比の悪い受信機につけるのだったら効果はあったのだろう。

アッテネーターは単独での市販品はなかったのではないと思うが、 π 型、あるいはT型に抵抗を組んだもので、10dBくらい減衰させたほうが強力な放送の影響がなくなってクリアに受信できることも多かった。2連の変可抵抗器を使うというアイデアも紹介されていた。

周波数マーカというものもあった。1MHzとか

の発振器を分周して100kHzとか10kHzとかの信号を作り出し、その高調波を利用して、周波数を直読できない受信機でそれを数えて周波数を読むのに使用するというものである。選択度の悪い受信機だとマーカーの信号だらけで実用性があつたのだろうか?あまり実際に使用した人の声を聞いたことがない。

デジタル周波数マーカはLC発振器と周波数カウンタが合体したもので、発振周波数を直読してその出力を受信機で確認するもので、周波数直読でない古いラジオでは受信している局の周波数がわかるというもので、それなりに利用価値はあつた。また、BF0代わりに使うこともできた。DX-555などミズホ通信から市販されていた。ラジオの発振周波数を読み取る周波数カウンタもあつた。中間周波数の455kHz分をプリセットで差し引いてくれるというタイプもあつた。

アンテナの分配器も市販されてはいたが、短波帯で満遍なく2分配するようなものは意外に高価だったので使ったことはない。

FCZ誌

BCLとは直接関係ないが、短波誌でU氏がときどき引用してキットを紹介してくれたおかげで、FCZ誌を購読するようになった。FCZ誌は大久保氏が店舗を構えていたFCZ研究所の情報誌で、電子工作のキットの製作(および開発の実験レポート)のミニコミ誌だと思えばいいだろう。製作の難易度が分けられていたので入門的なごく簡単なものからかなり高度なレベルのものまであつた。クリスタルコンバーターなどはBCLと縁があるものだったので、作記事を元にこれを応用することは可能だった。

各ハムバンド用に FCZコイルという部品が販売されていたが、バイファイラ巻きとなっていて中点タップが出ており、シールドケース入りなので東光のコイルより使いやすく自作には大変便利なコイルだった。

地下局

中国などでは、反体制派が運営しているといわれるいわゆる地下放送が存在した。「火花台「解放軍之声」」「十月風暴広播電台」「無産者戦闘師」などといった放送局が不定期に放送を行って

いたのが受信できた。中国政府の正式な放送局は「中央人民廣播電台」だがニセの「中央人民廣播電台」もあるとのことだった。「八一電台」は、中越戦争のときに出現した反中国放送だった。この放送は5分ぐらいの放送を不定期に行っていた。これらの放送は、政府から妨害電波を受けることが多かったが、それを避けるために不定期に出没していた。放送が開始して何分かすると妨害電波が始まって、追いかけてっこをしていた。

朝鮮半島でも北朝鮮系の「統一革命党の声放送」や韓国系の「希望のこだま放送」があった。カンボジアでも政権側の放送に対して反政権系の地下局があった。

アフリカ

アフリカは発展途上の国が多く、国際放送どころではない国が多い。国際放送でよく受信できるのはR. CairoやR. RSAだった。日本語放送はなかったが、英語放送はあった。R. RSAはアフリカンス語の学習番組もあった。また、受信報告を送ると、長年にわたってRSA Callingという読み物を定期的に送ってきた。あるとき、トランスカイという国が独立したという記事が紹介されていたが、悪名高いアパルトヘイトの産物で黒人居住地区に黒人を押し込めたということらしい。国際的にはトランスカイの独立は認められなかった。

あとこの当時受信できたのは、エチオピアのETLFだ。太鼓の音のインターバルシグナルが有名だった。その他R. Ugandaも受信できた。大陸ではないがセイシエルのFEBAやBBCのアセンション中継もアフリカに分類される。

ガボンには、出力の大きな送信機が建設され、アフリカ風の音楽に合わせて”Africa No.1”というスローガンであり局名である放送がしばしば受信できた。

アフリカ屋さんは60mbなどで放送されている国内向けの短波放送を受信することが狙いだった。このへんの周波数は早朝に受信された。

変わった切手で有名なシエラレオネはラジオの世界ではあまり知られていなかった。リビアは社会主義人民リビアアラブジャマヒリヤという長っ



RSA Calling

たらしい国名になって、カダフィ大佐が国を仕切っていた。アラビア語の放送自体はよく受信できた。

BCLとは関係ないが、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の中で「リビア人の襲撃だ」というセリフがあったが、何年か後にTVで見たときは「テロリスト」と表現されていた。さすがにアメリカがテロ支援国家として悪の枢軸と指定する国であっても「リビア人」イコール「悪者」では人種差別だろう。

ソ連

旧ソ連の構成していた共和国はモスクワ放送とは別に独自に国際放送を実施しているところがあった。日本語放送はなかったが、R. Tashkent、R. Yerevan、R. Kiev、R. Vilniusといったところの英語放送が受信できた。タシケントは別だが、他は極東中継だからモスクワ放送を受信しているのと同じようなものだから、受信できて当然といえば当然だ。

また、同様にモスクワ放送の送信機を使用した「平和と進歩放送」という放送局があった。これ以外でも、国内向けや近隣向けの放送が受信できるといわれており、どの共和国の首都がなんとと言

う都市だということも自然と覚えるようになった。BCLでもやっていなければソ連の各共和国の首都なんて知らなかっただろう。リガ、タリン、ドゥシャンベ、ミンスク、バクー etc. また、ロシア語でない馴染みのないいろいろな言葉で放送されており、ソ連が複雑な構成であることはなんとなくが理解できた。

余談だが、ソ連邦が存在しているときにも、国連の加盟国としてソ連のほかにはウクライナと白ロシア(この当時はベラルーシとは呼ばず、こんな呼び方だった)があるということを知って、よくわからないまでも覚えたことを記憶している。今では旧ソ連の共和国がみんな国連加盟国になっている。

どうでもいい話だが、ロシア文字(キリル文字)というのだろうか) はなぜアルファベットが裏返しになった文字があるのだろうか。読み方も全然違うものがある。モスクワ放送のペリカードで、RADIOに相当するロシア語の Р А Д И О の” Р” は” R” の発音だし、N が裏返ったのが” I” に相当することを覚えた。

キューバ

キューバ革命の建国者、カストロ首相は今なお存命している指導者だ。R.Habana Cuba は夕方英語放送が受信できた。受信報告を送ると、チェ・ゲバラなど革命の英雄の資料が送られてきた。キューバにご招待の作文コンテストがあったが、残念ながら英語でまともな作文は書くことはできなかった。しかしながら、募集要項を読んだことにより、日本では作文を「何字以内で」という言い方をするが、英語の場合は「何語以内」という言い方をするのだと覚えることができた。

カリブの灯台 (Faro del Caribe) と呼ばれた TIFC、ガラパゴスの声 La Voz de Galapagos、La Voz de Chile などその当時受信された局だ。ブラジルやペルーなどの国内局が49mbや31mbで多数の局が受信できた。ブラジルはスペイン語でなくポルトガル語が使われているというのもBCLをやっていたからこそ知ったことだ。ボネア中継のR.Nederlndは良く知られていた。オランダ領がこんなところにあるとは一般的には

知らないだろう。

中近東

イスラエルやイラン (ホメイニ革命以前のVoice of Iran) は早朝に9009kHzや9022kHzといったバンド外の中途半端な周波数で放送していた。アラブ首長国連邦(UAE)の英語放送は13mbの放送が受信できた。サウジアラビアのBSKSAではコーランの朗唱がしばしば聞こえた。BCLとは直接関係ないが、中近東地域は当時から今に至るまで紛争続きだ。イスラエルとエジプトだったり、レバノンだったり、湾岸戦争だったり・・・。

インドネシア

イスラム教にはラマダンという断食月があるということを知ったのはインドネシアの放送局の話題からだ。断食とは言っても日の出前には食べていいらしい。また、インドネシアではイスラム教徒が多いということも同様だ。マダガスカル中継のR.Nederlandのインドネシア語放送が良く聞こえたのは、オランダがインドネシアを植民地にしてきた関係だったのだろうか。

IRC

国際返信切手券というのが日本語の正式名称。返信用の切手の代わりに同封すると、万国郵便連合加盟国では、船便の最低料金の切手と交換できるというものだ。国際間の取り決めで日付印はいらぬことになってはいたはずだが、相手国によっては日付印が捺印されていないと無効だという国があった。わざわざ捺印がないと無効だからといって返送してくれた。

インターバル・シグナル

周波数が直読できない時代には、放送開始時間の少し前に独自のメロディーを流すことで目的の放送局であることを判断しやすくしていた。国柄を表すような特徴を持っていることが多かった。きれいなメロディーで有名だったのはスイスの国際放送だ。

インターネットで(昔の)インターバル・シグナルが公開されているので、そちらで聞くことできる(<http://is503.com/>)。携帯電話の着メロにしてあるものもあるので利用されたいかがだろう

か。携帯会社によってファイル形式が異なるが、変換ソフトもフリーソフトにあるので大丈夫だ。私もいくつかをダウンロードして使っている。流行の歌などを着メロにすると他人と同じメロディーになってしまうことがあるが、ISを着メロにしている人はそうはいないので自分の着信を間違えることはない。

VHF

VHFの電波は通常は見通し距離にしか届かないが、100MHzぐらいまでの周波数の電波は、時として電離層反射で遠距離に届くことがある。夏の間などに電離層の一部の密度が突発的に高くなり、通常は突き抜けてしまう高い周波数も反射するようになるためだ。スポラディックE層¹⁷というのだが、突発的なものなので、いつでも受信できるものではない。この現象によりFM放送帯で近隣国のFM放送やTV音声を受信できることがある。私たちはそれを受信して喜ぶのだが、通常のFM放送あるいはTV放送の混信源として嫌う向きもある。

TV放送は音声だけではなく受信機があれば、状態の良いときには映像も受信できる。いながらにしてリアルタイムに外国のテレビを受信できるという醍醐味があるのだが、今では衛星放送が発達したため、有料ではあるがスカイパーフェクTVできれいに受信できてしまうので面白くない。

83.75MHzで受信できるのは、ソ連、中国のTV音声だった。88MHzより上で受信できるのは韓国のFM放送、外国ではないが沖縄のFEN、NHK-FMもしばしば受信できた。

日本のFM放送は76-90MHzだが、外国は88-108MHzを使っている例が多い。また、ソ連のFM放送は66-74MHzあたりを使っているため76-90MHz以外の周波数を受信するためには、これらの周波数が受信できるラジオが必要だった。88-108MHzはワイドレンジで76-108MHz対応のものとか、あるいは輸出用モデルを免税店で入手するとかすれば難しい話ではなかった。ソ連バンドをカバーする受信機

は、ほとんど入手することはできなかった。特殊な例では、この周波数帯をカバーするようなラジオが秋葉原中を捜し歩けば、ジャンク品のなものがあったらしい。ただ、例外的に88MHz付近でロシア語の放送を受信できることがあったが、これは21.4MHz下の周波数のイメージ受信だ。

また、50MHz帯のハムバンド内でもオーストラリア、ニュージーランド、マレーシアのTV音声を受信できることがあるのはよく知られていた。また、TV音声は米国チャンネルの2CH音声59.75MHzとか、中国とソ連の音声56.25MHzとかは受信できる日には強力に受信できた。

私はといえば、FMラジオ用のフロントエンドのジャンク(だいたい200円から300円ぐらいで入手できた)を改造して76MHzより低い周波数のラジオ用に改造したり(10.7MHzのIF部分はジャンク基板を利用できた)、さらには海外TV受信用のフロントエンド用に改造して海外バンド用TVチューナーをでっち上げたりしていた(こちらはIF、検波部分は本を参考に作ってみた)。とても高性能受信機とは程遠いが、それでもFM音声を受信できたし、TVの映像を受像してビデオに録画することができた。後には、輸出向けのポータブルTVを購入してかなりオタク度もあがった。PAL対応のビデオデッキも売られていたが、さすがにそこまでは手を出さなかった。

アナログ方式の衛星放送を受信する特集などが、ラジオライフに掲載されていたりして興味はもっていたが、これも手は出せなかった。

時代とともに、受信機もワイドレンジになり、VHF帯をフルカバーする受信機も珍しくなくなった(目的が違うが、盗聴器として使える探偵用品としても利用されているようだ)。

長波放送

日本では実施されていないが、ソ連やヨーロッパでは長波帯で放送があった。長波帯を受信できるラジオはあまり一般的ではなかった。

17 単純化して表現すると地上100kmあたりに電離層があり、短波は反射されて遠方に届くが、VHFは突き抜けてしまっ反射しない。また、中波は吸収され、減衰してしまっ遠方へ届かない。時に離層に密度の高い部分ができてVHFを反射することがある。

中波ラジオと同じようなものだから、長波用のラジオを作るのもよかったのだが、長波用のパーアンテナや局発用コイルは一般的な部品ではなく市販品を見つけることはできなかった。ただし、ジャンク基板などで長波が受信できるラジオの基板などを見つけることはあった。長波ではマーカ―やディップメーターもなかったので、周波数の読み取りの問題もあった。私は、クリスタルコンバーターを自作して28MHz帯にアップコンバージョンして受信した。このときは、同調部分には「可変インダクタ」なるものを利用した。ソ連の極東地域の245kHzウラジオストックや155kHzのハバロフスクとかが受信できた。あとは国内の灯台のビーコン局ぐらいだ。

ラジオ工作

私の住んでいたところは、文化放送の送信所からかなり近いところだったので、いわゆるゲルマニウムラジオ程度でもかなりの感度で文化放送が受信できた。あまりきちんとしたアンテナを接続しないでも、LC同調回路+ゲルマニウムダイオード(1N60が定番)+クリスタルイヤホンという簡単につくりで結構な音量で受信できた。そのかわり、文化放送が強すぎて、他の放送局の受信に悪い影響はあった。ストレートタイプの受信機では文化放送より高い周波数はブロックされてしまっとうまく受信できなかった。

普通のAM放送ではそんな状態だったが、中波DXとなるとそういう超強力な局の中で微弱な局を受信することになるので、どうすればいいという悩みはあった。BCL情報誌では、そんな環境ではトランジスタと比べてダイナミックレンジが広い真空管式がいいといわれていた。9R59Dが例として挙げられていたことがあって、同機は実力以上の評価で中古市場が高騰したと聞く。

私は、5球スーパー¹⁸のキットを購入して真空管機の製作にチャレンジした。高1中²¹⁹がいいと聞き、この5球スーパーをグレードアップさせた。IFTも

高選択度タイプのもを使用した。また、奮発してバーニアダイヤルでなく、メカニカルダイヤルをとりつけた。こうして、とりあえず高感度な中波受信機ができた。

真空管方式はアルミシャーシの加工は面倒だが、配線は融通が利くので、実験的なことはやりやすいように思った。トランジスタの場合は、ユニバーサル基板はあっても穴のピッチがかみ合わない部品もあってバラック的な実験はやりにくかった。部品数が少ないものはラグ板を使う方法があるが、高周波回路でアース面積を取りたい場合は基板をつくるのがいいとのことなので基板を作成した。エッチングして基板をつくるのも手間だったが、いろいろと作ったり壊したりしているうちに少し本格的に基板を作るようになった。ベークの基板から、高周波特性を考えて紙エポキシの基板にしたり(ガラスエポキシのほうがもっと特性はいいとのことだったが安価な紙エポキシにした)両面基板にしたりした。

秋葉原今昔

今は、秋葉原は「アキバ」であって、街角で歌って踊るアイドル予備軍がいたり、メイドさんがうろうろしていたりする。まるでアニメとコスプレの街のような様相を呈していて、電車男の世界となってしまっているが、私がBCLを始めたころは、ラジオ部品、ジャンクの店が多かった。ラジオのジャンク基板やフロントエンドなどがダンボール箱に入れられた状態で店の前の路地に置かれていて、その中から何かに使えそうな掘り出し物を探すのが楽しみだった。

ジャンク品を売っているのは、中央通りから少し中に引っ込んだ通りの小さな店だった。少し大規模な店でこのような掘り出しものを売っているのはマルゼンムセンだった。最上階でジャンク品を売っていた。必ずしも無線系だけではなく、面白グッズのような、100円均一やドンキホーテにありそうな格安品も扱っていた。いまだにラジオデパートとかガード下のラジオセンター、ニュー秋

18 球は真空管のこと。5球は真空管5本の意味。スーパーはスーパーヘテロダインのこと。真空管時代の標準的な受信機構成である。

19 高周波増幅1段、中間周波増幅2段の意味。

葉原センターとかは昔の雰囲気が残っている。ラジオセンターの中の半導体屋さんの店員は、なんか暗い感じで買いくかった。部品が並べてあって、お皿に取って会計してもらおう店ならなんということはなかったが、半導体屋さんはトランジスタやICの型番を言って売ってもらおう店なので、暗い店員さんはいやだった。別の部品屋さんは、売り上げ伝票をいちいち手書きで書くので、急いでいるときはイライラした。店の売り上げ集計にはいいのだろうが、客のことを考えて欲しかった。

私はもっぱら、ジャンク品とか電子工作用のこまごました部品を買いに通った。田中康夫さんの「なんとなくクリスタル」の中の一節に「一枚の千代紙を買いに千駄木まで行く、その気力を大切にしたかった」というくだりがあるが、私の場合は「1本10円の抵抗を買いに秋葉原へ行く」だった。今でもジャンク部品の流れを引いているのは、千石電商とか秋月電子だ。

いつのまにか店の扱うものもラジオ部品からコンピュータ関係のものが多くなり、最近アニメ系の店、ゲームセンター、メイド喫茶に侵食されている。一時、メイドさんの客引き禁止の条例ができたような話を聞いたが、いつの間にか元に戻ってしまったような気がする。制服姿の女の子がずらっと並んで立っているのは「JKお散歩」であるらしい。

BCLブームのときにBCLラジオを扱っていたのはカクタX-1 (X-1は白鳥座の形とか)だ。WRTHも取り扱っていた。アマチュア無線系ではロケットとかトヨムラ(エアダックスコイルは、自作用には有名だった)、九十九電機とかによく通った。

三大危機

BCLの世界では、BCLの三大危機は、受験・就職・結婚だとささやかれていた。私の場合は、たまたま、いわゆるエスカレーター校に通っていたので受験での中断はなかった。暇があっても金がないのが学生時代で、金はある暇がないのが社会人と言われていたが、その通りだ。社会人になってからは、いろいろと受信機を買うのに金をつぎ込むことができたのは良かった。だが、社会人としていろいろな人と付き合ってたんだんだ普通の人

になっていくと、オタク的な世界からは遠くなっていく。

IFT

スーパーヘテロダインの受信機で中間周波増幅回路に用いられて、同調回路として用いられるのがIFTだ。LC同調回路なので、選択度を良くするにしても限られる。選択度を上げるためには、セラミックフィルター、メカニカルフィルター、クリスタルフィルターなどが用いられる。IFTはごく普通の455kHzのものがラジオ部品屋さんで容易に入手できるが、それ以外は店頭で並んでいる例は少ない。メカニカルフィルターとかクリスタルフィルターもCQ誌の広告などで探せばあることはあるが、かなり特殊な部品で普通なら数千円する高価な部品だ。

あるとき、ハムフェスティバルに行ったとき、あるブースで7.8MHzのクリスタルフィルターが安価に売られていた。±1.5kHzの水晶発振子も付けて2個で千円とのことだったので、購入して50MHzのSSBのトランシーバーを作ることにした。選択度を期待してBCL用の受信機を作ってもよかったのだが、そのときはもう高性能な受信機を持っていたのであえて自作しようとは思わなかった。

安価につられて、なんとなくクリスタルフィルターを買ったが、それだけのことだ。

英語の習得

BCLをやって英語を勉強しようということも入門書のスローガンとしてはよく見られる。実際に覚

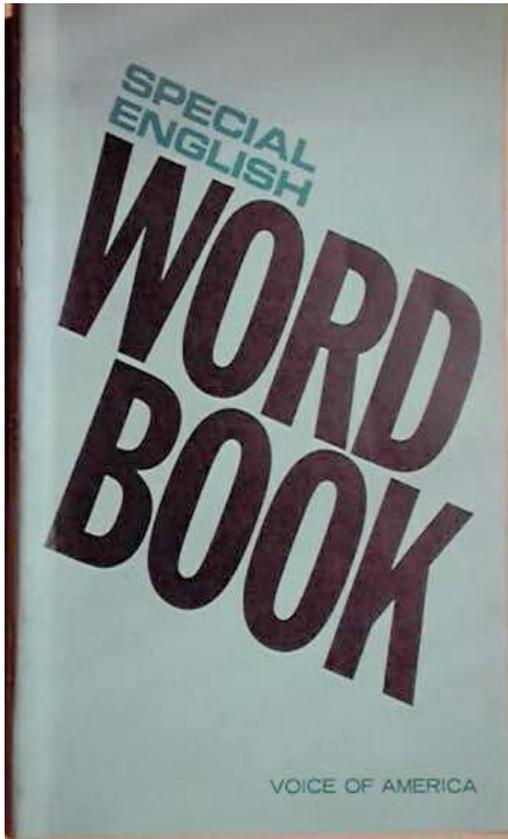


クリスタルフィルターの一例

えた表現は、ニュースによく出てくる、Prime minister, Vice Presidentとか、Princess Dianaとかいった表現だ。Secretary of Statesはアメリカの国務長官だ。これらの表現はあまり学校の教科書には出てこない。合衆国はUnited Statesだし、「イギリスの」といった表現はEnglishではなくBritishだ。あと、外国へという意味でabroadという単語があるが、「国際放送」の意味では、international serviceとか overseas serviceという表現が普通だ。

ニュースではないが、航空郵便のair mailに対して、船便はsurface mailだ。日本は四方が海に囲まれているので、飛行機か船で届けてもらえないが、陸地続きなら、自動車や鉄道を利用してもいいわけだから、surface mail=船便という言い方は正確ではないが、航空便でない便ということだろう。

日本で強力に受信できる英語放送はVOA、BBC、



VOAのWORD BOOK

ラジオ・オーストラリアといったところだが(もちろんモスクワ放送や北京放送などの英語放送は受信できるが)、真つ昼間にBGM的に聞き流すにはラジオ・オーストラリアあたりが手ごろだった。余談だが、オーストラリアの英語は”ai”のスペルを含む単語で“アイ”の発音をするといった特徴があった。

VOAやBBCは夜には良好に受信できるが昼間の時間帯には放送していなかった。

真剣に番組を聞くのであれば、VOAのSpecial Englishはいい英語教材だ。最近ならばPodcastで利用するのがいいかもしれない。VOAの公式サイト以外にも教材用にMP3ファイルを公開しているサイトがある。

英語放送の思い出

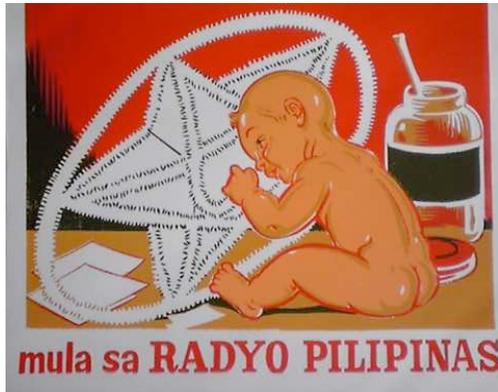
ヨーロッパからの英語放送は、R. SwedenがSweden Calling DXersというDX番組を持っていることは有名だった。ヨーロッパでは、あと、R. NederlandやSwiss Radio Internationalの英語放送がよく受信できた。同局の送信機を使っているが、1年に1回か2回程度試験放送を実施するだけの赤十字放送はベリカードコレクターには珍局だった。

アジアでは、インドのAll India Radioやスロースピードのニュースを放送するR. Pakistan、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシアの放送が安定して受信できた。フィリピンのVoice of the Philippinesは夕方から夜にかけて良好に受信できる入門的な局だった。フィリピン語(フィリピーノだったかピリーピーノだったか)の学習番組もあった。

韓国のCM

韓国の国内向け放送を受信したときに、CMが話題になることがある。韓国語と日本語で似ている部分があるのと発音が微妙に違う部分があるのと両方から、変な言葉に聞こえたりして妙におかしく感じてしまうことがある。日本でも韓国でも販売されている例えばコカコーラやペプシはなんとなくわかるが、韓国独自の商品のCMで商品名あるいは社名の響きが話題を呼んだ。前述のミーティングで、受信音が紹介されて話題になった。

当時録音されたものがインターネットで公開さ



Voice of the Philippine から送付されてきた
クリスマスカード

れているので、興味ある人は聞いてみるといいだろう。

(<http://www.aibweb.jp/sound/cm/index.html>)

フランス語の放送

太平洋に点在するフランスの海外領土や旧フランス領の地域ではフランス語の放送であり、タヒチの R. Tahiti, 天国に一番近い国ニューカレドニアの R. Noumea, ニューヘブリデス(現バヌアツ)の R. Vila が受信できた。また、アフリカの旧フランス宗主国はフランス語を使っていた。

RFIは予算上の理由かフランス語を至上と考えていたのか、当時はフランス語の放送しか実施していなかった。最近はいろいろな言語で国際放送を実施しているらしい。夜12MHzの少し上の周波数で聞こえる中国語の放送を聞いていたらRFIの中国語放送だった(※放送はまた削減されている)。

フランス語がらみの余談

大学の第2外国語は理科系だとドイツ語を選択する人が大部分だ。私は単にラジオを受信するためにはフランス語のほうが役に立つかなという理由でフランス語を選択した。フランス語は、タヒチやニューカレドニアなどの太平洋の局やアフリカの局など受信できるが、ドイツ語はあまり受信できる局がないという単にそんな理由で、大学の学問で使うことはあまり意識しなかった。第2外国語はドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語からの選択だったので別にドイツ語である必要もなかったし、実際に文献を読んだりす

るのには英語で用が済んだので、ほとんど第2外国語など必要になることはなかった(同級生にはロシア語やスペイン語を選択した人もいた)。

社会に出てからは、フランスに出張する機会があり、フランス語を多少知っていて役に立った。フランス人は英語をしゃべってくれても、hを発音しないとかのように発音がフランス語風の発音をする場合があって、これはフランス語訛りなのだとわかれば意味がわかったが、純粋に英語だと思っていると何をいつているのかわからない場面があった。日本人が流暢に英語を話せなくて、日本語風の発音であっても通じればいいと思った。

最近の話題

最近ではラジオからより、もっぱらインターネットのホームページで、それも耳で番組を聴くのではなく目で画面を読むことが多くなっているが、時間にとらわれることなく、必要な情報を得ることができるようになったことはうれしい進化だ。

私はKBSワールドラジオのホームページによくアクセスして見ている。ニュース、韓国語学習、韓国の食べ物の紹介、韓国の歴史などをよめる。過去の内容も残っているのがいい点だ。

KBSは4半期ごとにクイズを実施しているし、周波数変更のモニターの募集とかの案内もある。番組を楽しむリスナーという意味では、ラジオの進化した形かと思うが、これも新しいBCLの形だろうか。ラジオを聞かないでもBCLというのだろうか？

BCLの役に立つ点

いまさらだが、語学学習できるとか、その国についての理解を深めることができるとか、世界地理に詳しくなるとか、私はBCLをやっているとよかったと思うことがしばしばある。いろいろな国が世界のどこにあり、首都は何という都市で、昔の植民地がどこにあって、中継所はどんな関係で利用しているとか知ること世界のつながりが理解できてくる。VOAのニュースを聞くと、どこの国でテロがあって、反政府勢力がどうだとか世界の動きがリアルタイムにわかる。

語学学習用サイト

放送の直接の受信ではないが、語学学習のためのインターネット上のサイトをいくつか紹介する。



KBS の懸賞商品

VOA

言わずと知れたSpecial Englishだ。ニュースはもちろん、過去に放送された American Stories, Science, People in America, The Making of a Nationなど英語の勉強だけでなくアメリカという国を理解するのにいい内容の教材だ。MP3ファイルをダウンロードすれば iPodなどのプレーヤーで聞くこともできる。MP3ファイルで利用できる題材が豊富なので英語学習にはとても便利だ。

韓国語学習-1

MBS 海外放送ではないが、MBS 毎日放送の「チョアヨ!韓国」は八木アナウンサーがパーソナリティーをつとめる楽しいプログラムだ。約30分のプログラムの前半はもう一人のパーソナリティーの古家さんとの会話が楽しい。古家さんの韓流スターの物まねは、韓国芸能界に詳しい方は楽しみが追加されていだろう。八木アナの韓国での体験を元にしたトークは楽しい。後半は学習プログラムだ。普通の入門書にはないような、けど実際に使われている表現を覚えることができる。

韓国語学習-2

「ドラマ韓国語」は KBSが毎週月曜から木曜日に放送しているプログラムで、KBSドラマの一場面

からポイントをしぼった表現の使い方を勉強でき、生きた韓国語学習にはもってこいだ。韓流ドラマがお好きな人には好適。約5分のプログラムだが、ちょっと難易度は高いので、初心者より、中級者向け。放送をリアルタイムに聴けなくてもPodcastで配信されているので便利だ。ホームページを見ればハンゲル表記も見ることができる。

大阪外語大学の語学プログラム

放送局のサイトではないが、語学入門教材として韓国語、中国語、ドイツ語、フランス語でそれぞれ「Podcastで行く海外旅行」のプログラムが作成されている。各言語それぞれほぼ同じ内容で1回あたりの時間は2-3分の短いものだが、海外旅行に出発して帰ってくるまでに想定される内容の会話が30回のプログラムになっている。特にフランス語はテキストもよく作られていて出来がいい。毎回のスキットはもちろん、新しい単語の解説や演習問題もあってそのまま大学の教科書に使えるような内容だ。

フランス語 RFI

RFIのホームページにLe journal en français facileというページがあり、ニュースが簡単なフランス語で表現されている。VOAのSpecial Englishに似ているがフランス語版だ。音声だけでなくテキスト文もホームページ上で見ることができる。

著者略歴：1959年生まれ、東京都足立区出身。日本BCL連盟の某ミーティングの「チーフ」をつとめる。「短波」誌の受信レポート欄へ投稿して何回か採用された経験あり。

使用受信機：クーガ115、ICF6800、FR-101Dなど。アマチュア無線も開局（HF、50MHz）。

*大学は理学部に行きましたが、電波とは直接関係ありません。電磁気学の授業が1科目必修でありましたが、難し過ぎて良く理解できませんでした。現在は、ごく普通の会社員です。

THE 金竹対談 2015

ラジオもDXも興味ないのになんでそんなに偉そうに語るんだ！
いい加減にしなさい！と、思います、きっと

金井毅 竹野伸郎

2015年6月5日 浪花ろばた八角 川崎アゼリア店 にて

近況報告 だけど、少しだけラジオ談義

竹野 大変ご無沙汰。数年前に一回、町田で飲んだよね、それ以来かな。

金井 そう。Facebook で見つけて連絡したのかな？

竹野 そうでしたね、Facebook の友達発見は凄いいよね。最近昔のBCL関係の連絡があったりします。ところで、最近、何をやっているの？まさかラジオは聞いてないよね？

金井 野球。小学生を教えているよ。息子が小2になる時に少年野球始めて、一緒にコーチでチームに入ってずっとそのまま続けている。

竹野 あ、そうだったね、聞いたことあったなあ、前にも。

金井 もう12年コーチやっているけど、お陰さまで横浜市内では強豪として名が知れた少年野球チームの一つになってきたよ。息子が中学生の時には硬式野球をやっていたから、そっちでもチームの審判部にも入った。息子が高校卒業して野球辞めたので、今は少年野球一本。でももう身体が動かなくなってきて、いよいよ潮時かも、って最近思っているところだけどね。

竹野 そういや野球好きだったよね。そうそう、子供のチームのコーチをしているって聞いたことある。見るのも好きだよよね？

金井 高校野球を見に行ったり、大学野球、プロ野球と、野球観

戦はよく行っているよ。一昨年は夏の甲子園と京セラドームの試合見に関西に、去年は札幌ドームに2回見に行ったよ。北海道は(去年の1回目の観戦時が)29年ぶり2回目、ってぐらい縁がない。大阪も3回目だったかな。どっちもまあ滅多に行くところじゃないんで、ラジオは関西も北海道も持っていったんだけど、関西では一応ちょっとだけ聞いたけど北海道では全然聞かなかったな。ススキノで飲んでいる方が楽しいんだもん(笑)

竹野 そりゃ健全だ。移動しているねえ。そうそう北海道まで行っていたね、Facebook で見た。娘さんと旅行していたよね？

金井 うん、関西は家族全員で行ったけど、札幌は去年の8月は娘と二人。4月に一人で見に行ったら「ずるい」って言われて。娘は熱烈ライオンズファン、まっ、これは教育の賜物(笑)。ちなみに今年の夏も娘と二人で仙台にライオンズ戦観戦に行く予定。これで俺はパリーグの本拠地全球場観戦にな



12年のコーチ歴の地元の少年野球チーム

る。ラジオは一応持っていくと思うけど、聞くかどうかはわからん（笑）。

竹野 なるほど。それは教育の成果のいい例だ。うちは府中競馬場が近所なので一緒に行くくらいかな。最近予想も◎がいっぱいあるものではなく無印、△をメインに買えと俺に指示するようになってきた。おたくと違ってあまりいい教育になっていないようだ。

金井 さっき「パリーグの本拠地全球場観戦」って言ったけど、ここで「神戸も含めて」ってつい言っちゃうところにオタク気質があるなあって自覚しちゃうよ（笑）

竹野 なに、それ？

金井 オリックスは旧オリックスと近鉄の合併の名残で大阪ドームと神戸グリーンスタジアムの両方を本拠地にするんだよね。で、その両方で観戦したっていう意味。

竹野 なるほどね。おたくだ、確かに。それにしてもラジオを持って行くという姿勢は偉い。

最近 AM/FM は radiko で聴けるしね。国内、国外でも絶対もって行かないなあ。

金井 アハハ、俺まだガラケーだから radiko には縁がないんだよね。

竹野 ガラケーだけ？Facebook はどうやっているの？家のパソコンからなんだよね、そうすると？

金井 いやいや、Facebook も Twitter も Line も全部ガラケーでやってるよ。でも今年の春から Twitter はガラケーではものすごく使いづらくなったし、Facebook も写真の投稿が出来なくなった。なんだかガラケーユーザーは外堀から固められている感じ。でも全く何も出来ないのは Instagram ぐらいじゃないかな。

竹野 そうなんだ、ガラケーで出来るのね。すみません、知りませんでした。確かに電話での通話以外の用途には厳しいですね、これからは一層。

金井 2年前の夏、息子が高3で高校野球終わって、さあ何をするかな、そうラジオでも聞か、ってちょっとだけ思って、中国メーカーのラジオをネットで買ったんだよ、PL-380 ってやつ。これがさ、届

いた現物見たら本当にチャッチインだな、本当にオモチャみたい。俺、見た目でこれに決めたはずなんだけど、えーこれかよ、って感じ。まあ値段からすりゃやっぱりオモチャなんだけど、7000 円あったら違う使い道あったよなあって思ったよ。もちろんラジオを買う以外の使い道ね（笑）もってきたよ！

竹野 げっ、ラジオ買ってるんだ！！これね。

7000 円かあ、微妙だね。見た目はしっかりしてそうだけどね。

金井 想像以上にチャチだよ（笑）。オマケにテンキーのボタンが固くてさ、メイド・イン・ジャパンとは作りが違うというか、根本的に比較にならないよ。ちなみに今はもっと安くなっているんだよな、当時よりも円安なのに。不思議だなあ。

竹野 そこまで言われると購入したくなる！話のネタに。確かにボタンかたいねえ。わかる、わかる。

金井 アメリカ人向けなのではないのかなという感覚。

竹野 うん、それくらいかたい

よね。俺は amazon のカートの中にずっと輸入の 7600GR が入っているけど、まだ買わないなあ。16000 円くらいだったからさ。

金井 逆輸入のヤツね。俺は今さらラジオ買うのに 1 万出そうとは思わなかったの、そこは選択肢になかったな。元値が 4 万近いものがその値段っていう割安感があったけど。そもそも、それこそ「話のタネ」に買っただけだし。

竹野 なんかさあ。ね、なんとなく。（笑）ただ、今は円安だから高い。それより、「そうだ、ラジオでも聞か、」って発想が俺にはない（笑）

金井 とりあえず、一番金がかからなそうな気がしたからね。

竹野 そういう意味だと金かからんね。納得！でも、俺はかかることはしたいのよね、とつても。

金井 何を？

竹野 誰か土地と家 貸してくれないかなあ、とは山形でみんなに言っている。アマチュア無線はやりたいね。誰もいない土地で、HF でかいアンテナで電波だしたいという欲求はあるよ。



PL-380 をハイボール片手に語る

金井 そこはわからん。俺無線やったことないからなあ。

竹野 うん、まあ、ね。世界がちと違う。電波、は今でも楽しいと思う。

竹野 あと、俺は最近音楽だな。相変わらずロックもアイドルも聞いているかな。単身赴任だしね、いつでも好きな時に好きな音楽をいっぱい聞けるのは一番の楽しみかな。最近に加えて JAZZ にはまってきたから。なんかまずい方向かも。もつとも、その時間もない、というのはあるけどね。

金井 JAZZ ねえ。それは、それは、なかなか高尚な趣味だなあ。

竹野 昔の言葉で言うところの、オーディオ、ね。これも興味があって。最近ハイレゾとかもあって新たらしい楽しみが出てきて。ただ問題は金がかかることだ。だから先にはなかなか進まない。海外製のうん十万するアンプとかスピーカーとか凄く欲しい。



山形単身赴任も8年目の竹野部屋。
クーガー2220はファッションで

金井 道楽の域だよな。

竹野 そうだ、正に道楽。小遣いで生活している私にはその世界は100%無理なのはわかっています(笑)

金井 ところで、さっき言ったこの中国メーカーラジオ、FM だけは本当にいい。SONY のポータブルは勝負にならない。SONY のラジオは 86.3MHz で 3ch の教育テレビの音声が混入する。複数のラジオでそうだから、これは技術的な問題だよな、多分。地デジ化でそこは問題なくなったかと思ったら、あのバ

ンドに AM 局が出てくるらしいのでまたダメだな。(笑)

竹野 へーFM ねえ。ヘテロダイン、中間周波数の関係かな。おもしろいね。Vlow はそうですね、民放の AM が出てくるらしいですね。NHK も強靱化対策とか言っていますから、またひと波乱あるのかも。

竹野 ところで、一般人って正直 FM って聴いているのですかね。

金井 一番多いのは車で聞いている人だと思うよ。自分も一人で車運転する時は FM 聞いている。ただ家で聞いている人ってのはやっぱり少ないんじゃないかなあ。昔と違ってエアチェックなんてしないもんね、みんな You Tube いくでしょ(笑)

竹野 エアチェックはない、死語に近い！(笑) そうだろうね。家ではみなさん聞かないよね。俺が東京に家にいる時は FM をつけっぱなしにしているけど、そうでなければ FM は聞かないな。かみんさんはいつもポケットラジオで聞いているけど、AM 放送だ。山形だから、局数がないから、かも知れないけど、こっちは車の中ではみんな CD とか iPhone とかを聴いたり、だいたいの方は TV だな。そこは環境の違いかも！

金井 ウチの車のオーディオは古いから外部接続できないんだ(笑) だから iPhone が繋がらない。次買うときはオーディオ端子付きか Bluetooth 付きにしてくれて息子に言われている。

竹野 わかる、わかる！！俺なんて通勤の5分と温泉の10分程度しか車に乗らないからいいけど、確かに Bluetooth は欲しい。俺の車も今年の4月で12年だが MD とか付いているし。

金井 ウチも MD ついてる(笑) MD ってすげー便利だなと思ったのに、カセットに比べると遥かに短命だったな。

竹野 そうだったね。かなりの短命だった。(笑)

金井 しかしその中国メーカーラジオ、FM はいいんだけど中短波は ICF-SW55 には遥か遠く及ばないんだよね。まあ短波なんて聞かないけど。

竹野 そうなの？ 何がダメなの？ 選択度？ 混変調とか？

金井 感度が圧倒的にダメ。アンテナつなぐとバンド内がガサガサいっちゃうし。ただ選択度に関しては、DSP 制御なのでむしろ非常に優秀なんだよね。何段階も切り替えられるし。3kHz なんていう、使い勝手のいい(笑) 帯域が装備されている(笑)。基

本的にはロッドアンテナか、それプラスアルファぐらいで聞くものだった方がいい。

竹野 3kHz 帯域ね、わかる (笑) 2.4 kHz だと振幅変調は厳しいよな。SSB が聞けないのに 1kHz もあるね。(笑) あと、そのアンテナの話も昔にした気がする。結局、通信機はもちろんそうだがラジオもそうだよ。ラジオにあったアンテナ、というか入力をしてあげないとね。そういう意味で使い方を工夫するというのも楽しみのひとつだった。

竹野 で、俺はその手のラジオを最近短波で聞いたのは 2011 年の地震で停電の時だな。あの時 SW55 で聞いていた。SW55 は山形においてあるのよ。

金井 地震の日は携帯もメールも繋がらないし困った。しかも当時の職場が自席に携帯持込禁止で、インターネットに繋がっているパソコンも職場内になくてホント情報遮断されていて、その後しばらくは携帯ラジオを席に持ち込んでいたな、短波は聞けなかったけど。余震がある度にラジオで情報収集してた。

竹野 あ、そうそう、地震の当日の夜は SW55 で短波を聴いてたけど、鉄筋コンクリートでも non-Noise でごちゃごちゃ聞こえてた。そりゃそうだよね、まわり真っ暗。停電なんだから。

金井 ウチは結局計画停電もなく、ずっとテレビを見てたよ。ポポポーンってやつを (笑)

竹野 あの CM ね。(笑) でもラジオでは状況把握が難しかったなあ、俺は。夜中ずっと聞いていたけど、なんか凄くことがおこっている程度にしか伝わらなかった。翌日、どこかの施設で発電機でテレビを見ていて、それを横から見てこりゃ、凄くことになっていると思った。その夜の電気がきて、ずっとテレビを見ていたけど泣きたくなかったよ、ほんと。山をまたげば仙台だからね、今住んでいるところは。この違いはなんなんだと。。。

金井 いや、当日はみんな事の重大さがわかってなかったよ。あの地震、金曜日だったんだけど、翌日の土曜日に息子の高校入学説明会が予定されてたんだよ。ちょうど入学前でさ。地震で電車止まっちゃったんだけど、明日入学説明会だから帰らなきゃ、ってレインボーブリッジ歩いて渡って帰ってきた。実際は品川まで辿りついたところで新幹線が動きだして新幹線で新横浜まで戻ってきたんだけど。で、家ついた時は夜 10 時ぐらいだったんだけど、その時点では学校も入学説明会やるっ

て言っていた。結局翌朝に電話かかってきて、中止します、って。入学説明会があるから帰らなきゃ、って言っている俺も、明日説明会やりますよ、って言っていた学校も、どっちも事の重大さがわかってなかったんだよ。

竹野 そんなことがあったんだ。うーん、あまりに情報が錯そうしていたよね。

竹野 違う話だけど、テレビに慣れている人間にとってラジオの情報だけで状況の把握をするのは難しくなっているんじゃないかな。災害の時こそラジオ、なんだけど、あくまでも GO, NO 判断での活用であって、詳細情報、状況伝達的手段としてはかなり弱い存在なのかもしれない。それは聞く側の衰えなのか、送る側の衰えなのかしらないが上手く伝わらないような気がする。

金井 それはきっと両方だろうね。テレビでバラエティ番組見ても字がテロップでいちいち出るのはその衰えのせいだよ、きっと。

竹野 なるほど。まったくもって邪魔でしょうがないよね、

*ラジオ談義、テレビ談義にまで及んだ近況報告があまりに長くなりそうなので思い切って話題をかえました。

ラジオを聞かなくなった理由

竹野 良く聞かれるんだよ。竹野さん、何でラジオ聞かないの？って。有難いことにいろんな方とまだお付き合いがあって。年に 1 回か 2 回だけだね。

金井 よかった、俺の周りにはそういうこと言う人いなくて (笑) 趣味って自分のためにやるものだから、人に強制されたりするモンじゃないと思うんだけどなあ。

竹野 もちろんそりゃそうだ。でも、俺はあれだけ気合はいっているやっていたからね。気にして頂けるだけでもありがたいとは思いますが。

金井 野球見に行くのは誰のためでもない、自分が見たいから、楽しいからだもんなあ。球場で飲むビールは美味しいよ。

竹野 それはわかる。俺は神宮でビール飲みながら野球見たときに、こりゃいいなあと思ったよ。

金井 野球なんて見るの？

竹野 付き合い。職場であったのよ。そういうの。で、いいなあと思った次第。酒が目的であればね（笑）

金井 なるほどね。

竹野 俺がラジオを聞かなくなった一番のきっかけは単身赴任だな。住居が鉄筋コンクリートの6階中3階だったのでアンテナとか面倒そうだったし。ラジオそのものを持っていかなかった。

asahi-netのブログの最後が2008年8月。2007年の夏から単身赴任なので1年後だな。

竹野 でも前振りとしてとして2001年に結婚、子供ができて、2003年に山形転勤（家族同伴）、2006年に東京戻り、2007年から再度山形で今度は単身赴任、と正直、環境がそれまでと大きくかわっていったというのはある。サークル運営から手を引いたのも2001年くらいだと思うから。

金井 俺は2002年の夏に転職して仕事の環境が変わったのが一番。もっとも前にいた会社にも結果は同じだったっていうか、前の会社の方がもっと過酷になっているんだけどね。で、半年後にはラジオのことなんて構って余裕がなくなって、ホームページ閉めたのが確か2003年の春。そのタイミングで子供が野球始めたっていうのもある。

竹野 お、ホームページ。俺、そのままだ。

竹野 でも、ネット普及とかデジタル家電の進化とか関係ないなあ

金井 俺もその辺は全く関係ないよ。そもそもコンテンツ以上に「電波が飛んでくる」ってことそのものに興味があったからね。

竹野 そこだよな。さっきも話したけど。電波が飛んでく

る、って事に興味がある。

金井 環境面の変化もあるけど、もっと大きな理由は、ラジオの電源入れても聞きたいものが聞こえないってことかな。ノイズもそうだけど、そもそも短波放送は国際放送もローカル放送もどんどんなくなっちゃって放送出てない

し、それに加えて短波は高いところも低いところも中国語ばかり聞こえてきてさ、大きな声じゃ言えないけど中国語嫌いなんだよ。そこかしこから中国語が聞こえてくるのも結構苦痛だったんだよなあ。それに気がついたら極東ロシアの中波だってほぼ全滅だしね。

竹野 聞くべき対象がない、というのと、聞けなくなる、というのは誰もが通る道だよね。その中で我慢するか、対象を変えるか（中波）、環境をかえるか（ペディション）しかないわけね。

金井 昔の人は、聞くところがなくなった人はいわゆるユーティリティ、放送じゃないモノに向かったんだよな（笑）今はそれすら絶滅状態。

竹野 そうそう、そうだね。確かに。（笑）あー、なんか当時の皆さんの顔が浮かんでくる。いいこと言うね、相変わらず。

金井 でもさ、さっき話に出た radiko、あれ便利だよ、使ってない俺が言うのは説得力ないけど（笑）。今の通勤電車の中ってさ、車両が電子制御だかなんだかで、電車内でラジオが聞ける状態じゃないんだよ、ものすごい電子ノイズ。

竹野 へー。そうなんだ、それは知らなかった。じゃ、一時流行った通勤向けラジオっていうのは存在そのものが難しくなっているのかね。

金井 まあ実際に電波を受信して聞くのはしんどいな。前はナイター聞こうと思ってラジオ持っていたけど、もうとても電車の中はムリ。耳が痛くなるようなノイズが凄い。でも radiko ならノイズの心配がなく聞ける。しかも去年からバウンダリーがなくなって地元エリア外の局も聞けるようになったしね。会社のカープファンの奴がさ、RCC が聞けるようになって毎日カープの試合の中継が聞いて嬉しいって言っていたよ。

竹野 音が違うでしょ、ステレオだし。スポーツファンは臨場感が増すような気がするよ。音楽にしたって AM の

放送がステレオで聞けるわけだから。絶対おすすめ。

金井 でも結局目的があって聞く場合の便利さであって、BCL 的にはちょっと違うと思うんだよな。

竹野 まあ、ちがうわなあ、もちろん。



東京で radiko は魅力的！

スポーツファンは臨場感が増すような気がするよ。音楽にしたって AM の

放送がステレオで聞けるわけだから。絶対おすすめ。

金井 でも結局目的があって聞く場合の便利さであって、BCL 的にはちょっと違うと思うんだよな。

竹野 まあ、ちがうわなあ、もちろん。

金井 ちょっと語弊があるかも知れないけど、釣り堀で釣りをすると海で釣りをする違いだと思う。釣り堀は、堀にいる魚の種類は限られていて何が釣れるのかはだいたい決まっている。だけど海で釣りをすると、何が釣れるかわからないワクワク感がある。釣れた魚を見て「なんだこりゃ！」っていうサブライズが楽しみの一つであって、ラジオを聞いていると意外な局が聞こえる楽しさ、これは radiko をはじめネットラジオにはない楽しみだと思う。

竹野 金井節登場だな。そうだね、大きな違いはそこだ。赤線を引くポイントだ。加えて電波の場合は聞こえるかどうか分からない、という不確定要素が多いわけだ。基本的に通信というのはいかに不確定要素がない伝達を行うかが大前提であるわけで、そこをあえて不確定要素を追いかけしている、というまったくもってマニアクな趣味なわけです（笑）そう、やはり徹底的にマニアなんだよね、自己陶醉の極致。

金井 でも、釣り堀の釣りだって楽しいし、それを否定するつもりはないよ。さっきも言ったけど、楽しいかどうかは自分の価値観。他人のためにやっているんじゃないもん。

竹野 はい、そうですね、よくわかる。だから実際沢山の人がこの世界から離れていっているでしょうね。

竹野 いろいろ難しい話にもなったけど、まとめると、我々がラジオを聞いていない理由は仕事や家庭の変化、短波をめぐる送信・受信環境などの外的環境の変化というきっかけはあるにせよ、現在現役でラジオ受信を楽しんでいる方々と比較すると自分達でラジオを聴き続けるべき楽しみ方を見出すことが出来なかった、だから今、聞いていないし、これからも見つけ出す自信もないだろう、もちろん、それに相応する＝それ以上の楽しみがある、というのがその理由、というところかな。

金井 まとめたねえ。そういうことでいいと思います。

1990年代のBCLについて振り返る

竹野 1991年にBCLを復活したのだけど、そこから10年間は非常に濃いBCLの10年だった。俺にとってはBCL仲間がそばにいる、BCLを肴に酒が飲める、この2点が大きい点だと思っている。

金井 俺は1994年の年末に初めてパソコン買って、パソコンの本を見に行ったら本屋で目に留ったのが三才ブックスが出していた本、篠原涼子が表紙だったな。竹野さんはその本にクレジットがあるよね。



ラジオライフ別冊

それをきっかけに、英語の勉強のためにVOA、BBCでも聞こうかと翌年春にICF-SW55を購入したあたりが一応復活かな。

竹野 お、俺も貢献したか、BCL復活組に！

金井 そんな大袈裟なものではないと思うが。

竹野 そうか、失礼。

金井 そういう、お酒を飲むってのは、1996年夏にクラブに入ってから多くの機会があったんだけど、その前に鎌倉に住んでいた某演歌歌手とニフティサーブで知り合って、地元で飲んだのが最初だったか。それが縁で彼には非常によくしてもらっていたよ。

竹野 某演歌歌手の話は聞いた。そうだったね。彼には俺もとても良くして頂いた。

竹野 俺の場合はクラブ運営も最高に楽しかったしね。

金井 俺は運営には携わらなかったけど、会報の企画は色々やった思い出はあるね。



若い頃から「ギブアンドテイク」って口酸っぱく刷り込まれてきた(笑) こともあって、面白い記事を読ませてもらったり、参考になる受信情報を得ている代償じゃないけど、そういうことに対するお礼的な意味も込めてやっていたな。

竹野 「ギブアンドテイク」という概念は情報交換をする団体の基本だとは思ふ。確かに金井さんには俺もあれやって、これやって、とお願ひしたよね。

金井 楽しかったしね。応援しました。まあ出来る範囲でやればいいんだけどさ、その辺をどうも固く考えちゃう人がいるんだよね。

竹野 あー確かに。真面目な人も多いからね。一方でそれをあまりに強要するとかなりぎくしゃくするしね。でも、そこを超越した楽しみもあることはあるんだ、クラブ、団体の運営っていうのは。少なくとも俺はそうだった。それは一方で先ほども出た自己満足の世界に入り込んでいくのでかなり賛否両論になる。ここが一番の境界だと思ふ。(笑)

竹野 ただ、本当は常に義務でラジオを聞いている感があったのを覚えている。何か聞いて何か書かないと、という義務感。これはそのまま自分のホームページについてもあてはまった。ホームページのために聞かないと、という義務感のような物。義務感

芸名 しば良平さん(以前は柴良平)が初めてミーティングにこられた時の印象は特別だった。仕事は演歌歌手。自分たちとは明らかに別の世界にいらっしゃる方というイメージ。それでいて、中南米 DX から FM DX までオールラウンド DXer。驚いた。ミーティング終わってから2次会、3次会と毎回お付き合い頂き熱燗を飲みながら熱く BCL、サークル活動を語った思い出がある。いつも、「竹野ちゃんには感謝しているよ」と言って頂いていた。2008年に永眠。

心からご冥福をお祈りします。 竹野

は自分で作っているのだけれどね。なんか不思議だったなあ。

金井 俺はサークル活動ではそこまではなかったなあ。何もない時は何もないで、基本的には「棚からひと掘み」でログノートから拾うぐらい。でもただこれも文章にするには結構な労力だったな。そういう時間には若干の義務感を感じていたかも知れない。ただ、ネタのために受信機に向かうことはなかったと思う。

竹野 そうだよな。文章にするのはご指摘どおり労力だ。だから読んでいる側が楽しいと思うんだ。これも昔、生意気に言っていた記憶がある。ネットの世界に進めば進むほど、音、画像がリアルタイムに飛び交うから、ペーパーメディアはそれなりに努力が必要だと思っていた。

金井 生意気に言っていた(笑)。でも、音や画像がストレスなくネットに乗るようになったのは俺がラジオ聞かなくなってからだな。今は受信音が You Tube にいっぱいあるんだよね。ペーパーがそれと勝負するには何か差別化するための付加価値が必要で、そこを認識しないとただ黙ってネットに取って代わられるだけ、って、うん、昔から言っているな、これ(笑)。

竹野 凄く言っていたよ、俺たちは。だから嫌われるんだが。(笑)

金井 でも現実的に、今、通勤電車の中で新聞読んでいる人とか少年ジャンプを読んでいる人がほとんどいない。同じものがスマホやタブレットで見られるからね。同じコンテンツだったら、携帯性を考えればペーパーじゃなくて電子になっちゃうんだよ。

売り手は電子だろうと紙だろうと売っていることに変わりはないからいいけど、紙を売っている人やインク売っている人はそうはいかないよな、ってひと事ながら心配しちゃうよ。

竹野 その感覚ってでも田舎ではわからない。みんなマイカー通勤だから。(笑) そういう意味だと Twitter とか Facebook のようなタイムラインで流れる奴は俺にとっては日記みたいなもんだから気が楽。適当に思ったこと書いてるだけだから。やはりホームページとかブログって義務感が出てしまう。

金井 ホームページについては義務感っていうか、自分の情報発信場所だから自分が出さないと、っていうのは思っていた、確かに。ああ、それが義務感だよな。ホームページをクローズしたのはそこが一番の理由だったからな。

金井 でも SNS は怖い。Facebook は実名だから本当に気を使っている。もちろん Twitter も実名じゃないからって気を使ってない訳じゃない (笑)。

Twitter は野球関連でだけやっているけど、結構書けない話があって気を使うよ。あーこれ知っているんだけど Twitter じゃ書けないよ、とか。まあラジオのネタと野球のネタじゃ注目度が違うけどね (笑)。

竹野 このネットの実名の議論も昔からあるよね。確かに。俺もそういう意味では内容は気を付けているよ、全て実名でやっているだけに。サラリーマンだし。あれでも結構気を使っている。

金井 クレジットの問題については、我々は結構実名にこだわってやってきたと思うんだけど、個人情報保護法も出来る前だったし、っていっても本当の意味で「個人情報」って言葉の意味が判って使っている人は少ないんだけど、まあどっちにしても今は昔より、そういうのがうるさい時代になって実名を出すのが憚られるようになってきたのは事実だな。

竹野 うん、確かに。大きくかわってきたね。俺も良くわからないけど、個人情報というのは確かにうるさくなっていたね。

金井 ただ一つ言えるのは、全く実名がわからない

PP255003-04913 Print Post Approved Registration No. A0011728G Edition No. 428 - August 2001
ISSN 0013-832X ARDX Inc. ARDX 83 814 506 136

Australian DX News

Monthly Publication of the Australian Radio DX Club Inc. - Australia's Premier DXing Organisation since 1966

RENEWAL MEMBERSHIP
For those that haven't renewed, as we type away it is the 25th and renewal due by 30/6, you better get moving, either post a cheque/money order, payable "ARDXIC", to c/John Wright, 4033 Kerrie Cres, Peakhurst NSW 2210, or you can pay by credit card on (02) 9533 6261

JULY and its a cold winter, and for those in the Northern hemisphere, we in the Southern hemisphere have winter, along with the usual cold weather, but colds and flu are making life miserable. But to warm

Membership as at 30th June 2001 stands at 230!

Well its been a busy month for me, with Impulse Airlines contracting everything to Qantas, Airlines going into liquidation all around and a friend of mine, (as we call it, the chocolate wheel in aviation), becoming the general manager of Flight West Airlines, yet again, after leaving some years ago then getting the airline going again from the rocksiders. Gee there is some very cheap deals, still

Now there are cheap airlines to

MEETINGS

BESSBANE BRANCH
A meeting is being held on the Saturday 21 July at John Smiths place at 52 Mangarie St. (off Settlement road), Kagera. Midday is the time, for a BBQ lunch, partners are very welcome. John has a vast array of receivers, and is no slouch to knowledge of electronics. Please advise of your attendance on (07) 38510468 or 0429 176131 or Ian Johnson (07) 32776529. Pickup can be arranged Please note this is a chance to the 3rd Saturday of the

Cumbre DX や DX Window のウイークリーベースのメールサービス, メーリングリストなどの利用が一般的となり、往年の DX クラブのペーパーメディアも pdf での発行といったスタイルの導入が盛んに行われていったのが 90 年代後半から 2000 年代初頭だった。クラブ会報はスピード以外のものへの執着はあったと思う。

DSWCI
domestic
broadcasting
survey

6th Edition, April 2004
ISSN 1399-8219

Edited by Anker Petersen



Ukulele girl playing Ukulele.
(Photo taken by the Editor)

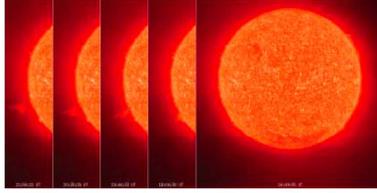
THE NARSIA Journal
VOLUME XLV NUMBER 4 APRIL 2005



North American Shortwave Society, America's Shortwave Broadcast Club

N.Z. RADIO DIX LEAGUE **New Zealand DX Times** **N.Z. RADIO DIX LEAGUE**

Monthly journal of the
New Zealand Radio DX League (est. 1948)
August 2004 - Volume 56 Number 10
<http://radiodx.com>



The Sun

人が出してくる情報って正直どこまで信用しているのか、って思いがあるのも確か、まあそこは全く個人的な思いではあるけど。そこは自分のブログなりツイッターでやってくれている分にはオーケーなんだけどさ、でも他の人の掲示板やペーパーメディアだと、う〜んって感じ。

竹野 うわー、それもわかる。

金井 ちょっと話は戻るけど、自分にとって「1990年代のBCLって？」って言えば、ネットワークによる情報交換なんだよね。で、ここで思い知ったのは、「放送している局は匂を外さなきゃソレナリに聞こえる」ってこと。DX WindowとかCumbre DXとか、海外の人たちと交流持って、リアルタイムにいろんな情報が入ってくる、で、すぐにラジオ聞きゃ聞こえるんだよね、何とか。



竹野家の通称「ラジオの部屋」

竹野 あ、それも言ったね。俺はずっとCumbre DXに投稿していて、世界各国の情報をIN/OUTさせてもらっていたけど、ウィークリーレベルでも、情報があがって、それ聞いてみるか、と思って聞くとアフリカでも中南米でも聞こえることが多かった。時間的には日本とヨーロッパ、アメリカは時間が違う

から、同じ局であっても違う時間で聞こえていればそれがニュースだったし。楽しかったね。

金井 だからさ、出ている局は聞こえる、出ない局は聞こえない、っていう単純なことだなんて。つまり「聞こえない」ってことは放送が出てないってことで、放送してない局を聞くことは出来ないよね。で、自然とラジオも聞かなくなっちゃったかな。

竹野 うん、そうだね、出ている局は出ている時に聞けば聞こえる、だね。で、その出ている局が減っていったと。

金井 さっき魚釣りのたとえ話をしたけど、魚がいなくて釣りにしても、どうやっても釣れないからね(笑)

金井 あと一つ大事なことを忘れていた。専用の部屋がなくなっちゃったんだよ、シャック。娘に部屋を明け渡しちゃってさ、ラジオの居場所が家の中でなくなっちゃったんだよね。

竹野 おーなるほど。俺の家には今でも、かみさんも、娘も、「ラジオの部屋」って呼んでいる部屋はあるよ。(笑)

竹野 今から振り返ると90年代というのは復活組のBCLが多くいて、小さな、小さなではあるがひとつのウェーブがあったのかなとは思う。丁度俺達はそこに乗っかっていたのだが、ネット社会の急激な立ち上がりという時代とクロスしていて、それはそれで従来の月刊雑誌、会報、ミーティングというものとの距離をどうするのか？という悩みはあったが、逆におもしろい時代でもあったのかもしれないね。

金井 竹野さんもそうだし、俺もそうだけど、復活組というひとつの波がありましたね。なぜ90年代なんだ、という疑問はあるけどね。

金井 そうですね。そんなこんなことを思い出してみるのも楽しいかもね。

海外日本語放送とDXについて

竹野 日本語放送に関しては以前も昔の対談でやったけど、最近ね、トルコの声ってのがネットでやっているわけ。これの何がいったい面白いのかさっぱりわからないんだ。短波と同時放送ならわかる。

金井 実はチョロっと聞いたよ(笑)。聞いたけど、数分でやめた、申し訳ないけど。トルコって最近では日本人に観光で人気がある国らしいんだよね。でも

この放送がどういう人をターゲットにしているのか、ちょっとわからなくてね。でも短波でやっていたら話のタネに聞こうとしたかも知れない。でも同じように「ああ聞こえている」って思っておしまいな気はするけど。

竹野 そこなんだよね。短波でやっけていても当たり前のように聞こえるもので何かを聞こうとは思わないかもね、金井さんは(笑)

金井 そんなことはないよ、ただ継続しては聞かないけどさ。

竹野 俺はね、あるわけよ、感動が。(笑)

金井 まあ基本的にトルコには興味ないもん(笑)。Voice of Turkey の英語放送だってちゃんと聞いたことないぞ、自慢じゃないけど(笑)。まあこれは、正確には、受信しようとしたけど受信出来なかった、なんだけどね。

竹野 全然自慢ではない！俺はペリカード何枚か持っているよ。

金井 ちゃんと出ている周波数やスケジュールを調べりゃ受信できるんだろうけどね、そこまでの興味がなかったんだろなあ、確かにね。

竹野 いやいや、国際放送にしても中南米 DX ほどではないが電波状態におおいに左右されますよ。今日聞こうと思っても聞こえないことが多々あるよ。トルコなんていい例かもね。

金井 それすら知らない。(笑) 昔、「最後に残るのは宗教放送かな」みたいな話をしていたと思うけど、結局宗教放送ですら一部は短波放送やめちゃっている。今、日本語放送はどこが残っているのかわかってのをきちんと把握していないんだけど、日本語放送以外でも国際放送もどんどんなくなって、本当に聞くモノがなくなっちゃっているんだよなあ。

竹野 宗教もなくなっていると思う。「短波」というメディアの不安定要素を考えれば致し方ないとは思。もちろん対象次第だけどね。

金井 これも昔対談でやったと思うけど、日本語放送にしたって内容はそんな面白いことをやっていた訳じゃないじゃん。「短波」が不安定だからダメだ、っていうか、結局はつまらないから誰も聞かない、で、聞かないからなくなる、っていう流れでしかない気がするんだけどなあ。

竹野 もちろん、聞きたいと思う番組ではないからなくなるんだよね。それはそうだよ。おもしろくないよ。だって「宗教」だよ。でも、みなさんそれ



Voice of Turkey のペリカード

はそれで努力はしていたよ、お便りとか、DX 番組とかさ。俺は結果は伴わなくても努力は認めるから。

竹野 だからアンデスの声の尾崎さんなんて凄いなと思う。エクアドルから放送終わってもオーストラリアからやったりする。リスナー対応の番組をも作る。本来は宗教放送なんだがそれを超越している。会ってお話するともっとファンになる。

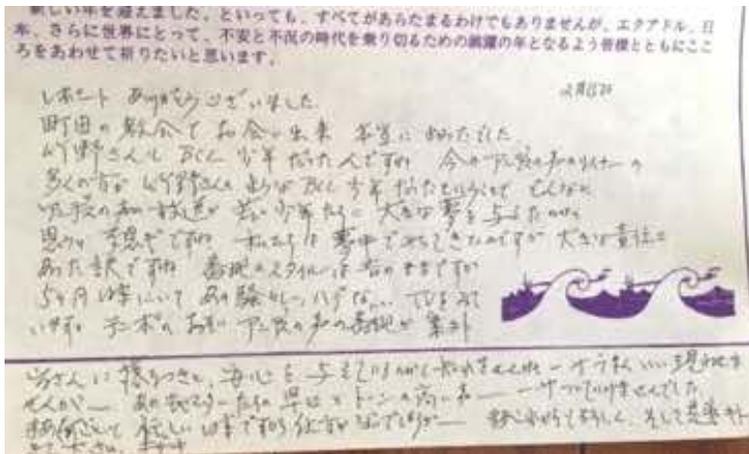
金井 町田の教会に会いにいったよね。

竹野 そうそう、教会だぜ、俺が。(笑) そういう魅力がある方です。で、寄付するの？金払うのか？いくらだ？とか悩んだよね。そういう文化が知らないんだもん。

金井 そこは俺も知らなかった。大学がキリスト教なんで、チャペルが学校にあって、キリスト教の授業もあるんで定期的に礼拝に出ていたんだけど、むろん単位を取るためにね。でも学校のチャペルでお金は集めない、出席カードを集めた先生はいたけどさ(笑)。

竹野 そうそう、思い出した、言っていたね。あんた、ミッション系の大学なのになんで知らないなんだ！と(笑)

金井 話を戻すと、中波、FM っていうドメスティックな放送は当然残っていて、BCL 的には必然的にターゲットがこっちにシフトせざるを得なくなってくるのかも知れないけど、これも昔から言っているけど、中波はロケーションによる差が大きい。いや FM だってそうだな。だからいいロケーションに遠征して、つまりペディションで聞いただけってことになってくるのか、そうなればもちろん毎日でも毎週末でも出来ないから、ラジオ聞く日が限定的になっちゃうってことだよ。なんか制約多いっていうか逆にストレス溜まりそう。でもそういう意味では、



尾崎さんからはお忙し中、毎回長文のお返事をLa Voz に書いて頂き恐縮していた。左は町田の教会でお会いした時の感想をお便りしたお返事。ペリカードよりもお便りのお返事の方が私には大切なものだった。だから今でも捨てられない。

れた場所のコミュニティ FM が

車で河原とかに行行って聞いていた某氏は進んでいたなあ（笑）。

竹野 あ、そうね、毎朝とか小高い丘とかで聞いていたよね。進んでいたかも（笑）

そう、そのストレスっていうのはわかるなあ。

金井 でも、そういう風にペディションでしか聞かないっていう形で楽しいと思う人はそれでいいんだよ。自分が楽しいと思うことを自分なりに楽しむのが趣味だからね。そういう所で、自宅じゃ張れないようなアンテナ張ってみたいとか。

竹野 そうだね。まあ、金井さんとのペディはまず旨い魚と酒を飲んで、だったけど。（笑）

金井 また魚釣りに例えるけど、魚がいる場所に釣りに行く、ターゲットに合わせて竿やリールや仕掛けを考えて用意する、ごく当然の行為なわけだよ、これが（笑）

金井 でもまたそうなるとまた難しいことやっている、とかね、思われちゃったりするのかなあ。たぶん何でもそうだけど、自分たちが楽しみのために色々工夫したり考えたりするのは結構楽しいことだと思うんだけどね。

竹野 それを含めての楽しみ、なんだと思う、今、皆さんがやっているのは。

そういう意味ではかなり進化しているのだから。楽しみ方を自分たちで広げているのだから。

金井 でもさあ、本質的には遠くから飛んでくる電波をキャッチするって行為は嫌いじゃないんだよ。前にも言ったと思うけどさ、長野の実家行って、高台の展望台に PL-380 持って行ってさ、100 キロ離

聞こえて ID 確認したときはやっぱりゾクツツときたもん。

竹野 だからその感覚を今でも味わっているのが凄いな。俺はいい見晴らしだなあ、ビールが旨い、で終わりだからな。もっとも車では酒は飲めないが。

金井 でも結構面倒くさいのは確かだ。

竹野 これまで以上に楽しみ方が難しくなっているのかな。

そして今の DX の標準、PERSEUS について

竹野 知らないと思うが、PERSEUS って知っている？

金井 知っているよ。実物見たことも触ったことはないけど。自分はまあああいうのはいいや、って思う。録画したテレビ番組も溜めちゃう方で結局 HDD 足りなくなって見ないで消したりしているぐらいだからさ、きっと後からは聞かないと思う。そういうことが面倒臭いっていう性分なんでね。

竹野 そうそう、恐らく今、ラジオを聞いていない人は後から分析という作業は無理かも（笑） 確かに録画しているテレビも見ないし。わかる。

金井 E スポみたいにさ、本当に短時間にワーって聞こえるようなやつ、そういうのには SDR は合ってると思うよ。実は1年半ぐらい前にワンセグ用とかいうドングルをネットで1000円ぐらいで買って持ってるのよ。ネット見ながらFM聞けるように色々セットアップしたんだけど、当時の自分のパソコンでは安定稼働が難しくてさ、結局諦めた。今のパソコンなら大丈夫そうなんだけど、面倒くさくてセット

アップしてない(笑)。なんかやっぱり聞かない気がするしね。

竹野 なるほど、それでFMは出来るのね。凄い。でも1000円は安いね。

金井 PL-380 だってさ、あんなオモチャみたいなラジオでもFMだけならソコソコは使える。DSP制御で選択度は中短波も含めてすごくよくて、スパーンって混信が切れる。それを体感すると、技術は進んでるなあってホント思う。でもラジオはダイヤルをグリグリやるのが魅力なんで、それがなきゃやっぱり自分的にはダメだな。PL-380を買う際に選んだ一

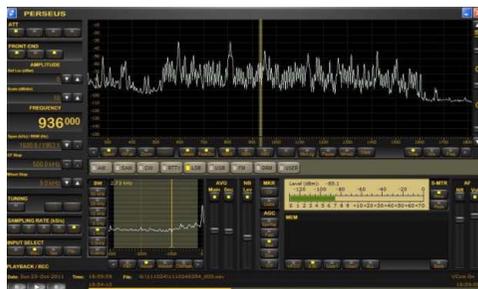


竹野 まあそうだな。時代、の変化だから。今の時代、なんです。

金井 でもケチだからさ、ラジオ聞くために行く旅行ならやっぱり聞きたいんだよなあ。旅行に行くのにラジオ持っていくのも、本質的にはやっぱり聞いてみたいと思うからなんだよね。

竹野 ケチではなくラジオが好きなだけでしょうね。見習いたいです、私も(笑)

金井 そのペルセウス、リアルタイムで聞くにしても結構優秀らしいじゃん。基本的にパソコンソフトで解決しているからな。機械じゃないから竹野さん



PERSEUSでの受信風景。見方によってはよりマニア心をくすぐるようにも見える。

番の理由は、ダイヤルがついていることだもんなあ、やっぱり。

竹野 確かに、回すところついているね。(笑) 说白了、ダイヤルで思い出した。娘と「テレビのチャンネルを回す」という感覚が分からないと少し前に話したけど。ラジオも似たような話になるのかな、このDXに限っては(笑)

竹野 あー、これも思い出した。俺は確か7030にさえ、文句言っていたな。なんだ、そのおもちやみたいのとは思っていたよ。金井さんにも言ったかな(笑) 重厚感がないのは嫌いだった。ラジオではなく通信機マニアだから(笑)

金井 竹野さんが、前に「今はペディション行っても誰もラジオ聞いてないだよ、勝手にパソコンが総録りしていて、それを後から聞くんだ」って言うていたけど、ちょっと自分にはそういうのは無理だなんて思う。たぶん総録りしたものを掘り返すことはしないで終了だよ、間違いなく(笑)。

竹野 ちょっと昔の人間には無理そうかな。(笑)

金井 だったら最初から温泉入って飲みに行くって旅行だと思えばいいんだけどね。

が欲しがらないのはよくわかるけど。

竹野 理解して頂けて光栄です(笑) そうだね、あとから 珍しい局を聞きわける事が出来るので、その能力はリアルタイムでも優秀だと思います。でも、考えたら俺だって中南米のゴールデンタイムではNRD-535 2台で左右別々の放送をヘッドホンのLRで聞いてそれぞれカセットデッキのLRに録音していたからね。ポイントはチェックしておいて後からカセットテープを確認したりしたから同じといえば同じかも。

金井 2台同時はないが音を後から確認するという行為は当たり前のようにあったね。

竹野 うん、だから後からは確認、昔もあったはずなんだよ。先に出たけど、まとめてログを書く、行為が正に後追いだったからさ。

竹野 ただ明らかに違うのは我々はその周波数にある局、何らかの局が存在していることがわかって聞くでしょ。なんかスペイン語聞こえる、とかさ。でもPERSEUSは違うのよ。さっきの金井さんの釣り堀で魚を釣る話なら、我々は目でみてそこに魚がいることがわかってからそのいる場所に釣り糸を垂らしていたけど、PERSEUSは釣り糸を垂らしてその

釣り糸が勝手池全体を探してくれるようなイメージではないのかな。かつ、その針は無限大にあるという感じ

金井 わかるよ、イメージは。だから一層あとからの作業が大変なのかなと思う。(笑)

竹野 本当にどれほど大変なのかは知らないし、それ自身が「楽しみ」のような気はするけどね。DXのタイミングがずれている、ということね。

金井 でもそれは我々の言うDXとはかなり異なっているような気はする。

竹野 違っていていいと思うよ、それは。時代が10年以上違うのだからさ。ただ、同じ電波の世界のアマチュア無線のような相互関係性が成り立つ世界から一層離れて一層、自己陶醉型の趣味になっているような気はするな。

金井 無線の世界は知らんが、なんだかまた生意気な世界観のようだが。

竹野 そう？ まあ生意気は相変わらずなんで。あとさあ、その大変さよりも情緒がなくなるか？夕日が沈んで中南米聞いていると、かみさんが、いい加減ご飯なんだけど！！とか、朝、ごそごそ眠い目をこすりながらアフリカ聞いていると、静かにしてよ！！とか言われないうんだけ。家庭とともにあるラジオじゃないよね。

金井 なんでそう飛躍するかな。そもそも中南米とかアフリカ聞いていることが普通のAM放送でNHKとかニッポン放送聞いているのとは違うじゃない。どこの一般家庭にPERSEUSがあるんだよ！そもそも家庭と共にあるラジオって、いつの時代の話？あとさっきから中南米もアフリカも聞こえないって言っていたじゃない。

竹野 情緒だよ、わびさびの感覚。わからないかなあ。そもそもダイヤルがないんだから。仕方ないよな。つーか、それ単体では何も動作しないって、どういうことよ。パソコンないと動かないってさあ。

金井 だから言っているでしょ、ラジオじゃないって。

竹野 まあそうか。だめだなあ、酒が入るとすっかり絶好調だな。それにしても使ったこともないのにエラそうなこと言うよな、俺も。自分でも失礼だと思う。(笑)

金井 まったくだ。さっきも言ったけど時代が違うんだよ。スカイセンサー5800の時代から6800の時代くらいの差だよ。

竹野 あなたがスカイセンサーで語ると言うのも珍しい。(笑)5800と6800ね。2001くらいの方がいいのは？

金井 どっちでもでもいいけど、それくらいのインパクトはあるような気はするなあ、俺たちにはね！

竹野 90年代にBCL復活した時にはそれほどのインパクトは感じなかったけどね。

金井 そうだね。そこだよ、きっと我々がひっかかっているのは。そこが理解出来ないから関係者から見れば我々がおかしなことばかり言っているように見えるのかもね。

竹野 またまた素晴らしいコメント。なるほど

さて、そろそろお時間



竹野 そろそろ切り上げますか。なんかどんどんイメージ悪くなりそうだ。

金井 最初から悪いから大丈夫。

竹野 相変わらずお題目からどんどんはずれていく対談でした。仕切が悪くてすみません。今日は時間を作ってくれてありがとう。

金井 こちらこそありがとうございます。久しぶりのラジオ対談楽しかったね。また、ぜひ。

竹野 楽しかった。でも、また、はいいでしょう。だってネタがないよ。ラジオ聞いてないんだからさ。1年後も2年後も聞いてないよ(笑)ちょっと無理なような(笑)

金井 確かに。でも、まあ強引にネタは作れるでしょう。

竹野 そうかな、また10年後くらいに！

金井 そうね、ぜひ、よろしくお祈いします。

《ラジオ》は女性

甲斐 迅

《ラジオ radio》という単語は、スペイン語では「女性名詞」です。スペイン語には女性名詞と男性名詞が存在しますが、「-o」で終わる名詞は男性名詞、「-a」で終わる名詞は女性名詞という一般的な傾向がありますので、《ラジオ》は一般性から逸脱する例外的な単語です。じつは《radio》は短縮語で、もとの言葉は「ラジオ放送」を意味する《radiodifusión》、これが女性名詞なので、その短縮語も女性形になる、というわけです。中学時代の憧れの幻局《RAE》のそれぞれの文字が《Radiodifusión Argentina al Exterior = アルゼンチン海外向け放送》を意味するというのを知ったのは、スペイン語をすこしかじってからのことでした。なぜこんな話からはじめたかと言うと、目の前にある受信機を眺めていると、ラジオって、つくづく《女性》だよなあ、と思ってしまうからなのです。ちょっとこじつけが過ぎるかもしれませんが¹・・・

「つまんで♡♡」とばかりにしつらえられたダイヤル、それを優しく、ゆっくり、静かにまわしてゆく。真空管は、すでにほんのり朱色を帯びている。それを見やりながら、ラジオ = 《彼女》の感度に融け込んでゆく・・・とりわけ、僕が生まれた1960年頃に製作されたヴィンテージ受信機《Hammarlund HQ-100》を入手し、その艶あるボディを撫で、そして美しい〈声〉に接する日々を過ごしていると、受信という世界はじつに官能的だよなあ、と思わずつぶやいてしまうのです。

中学一年の1974年の1月頃から1975年の8月頃まで、ごくわずかな期間でしたが、僕はインテンシヴに、強烈に、BCLの世界にのめり込みました。愛機は当時登場したばかりで、その後100万台も売れたと言われるSONY社製スカイセンサー《ICF-5800》。

大胆不敵にも、団地の中庭^{パティオ}に聳える木に自宅3階のベランダから同軸ケーブルを結わえたロングワイヤアンテナで、朝から晩まで受信、受信、受信、そしてカード集めに明け暮れました。アンテナ、良く団地で問題にならなかったよなあ。けれども、高校受験とともに中絶した海外短波受信というこの趣味は、入学後、練習の厳しい野球部にはいったこともあり、ふたたび僕の生活にかかわってくることはありませんでした。少年たちのあいだでは、空前のBCLブームが到来していたようですが、それとはまったく無縁の学生生活を過ごしました。ところがそれから40年も経った昨年(2014年)の2月、物置部屋から突然、緑色ビニール製のアド・カラー社製ペリカード・アルバムが出現して、事態は一変しました。

どうだい、綺麗なカードだらっ？まだ中二なのに、英語でゲットしたんだよ。少年時代の趣味を妻子に自慢しているうちに、おやっ、でもいまごろはBCLはどうなっているのだろう、という好奇心が頭をもたげてきました。現在はインターネットで何でも調べられる時代、「BCL、短波」で検索してみると、多彩な情報を発信しておられるたくさんの方のDXerたちのサイトに飛んでいきます。しかも「復活組」という言葉まで存在し、少年時代の純粋な魂そのままに、アンテナを工夫し、良い受信機を探して血眼になり、翌日の仕事を省みず夜更かしし、あるいは早起きして、ラジオの前にへばりつくという生活を日常に組み込んでいる方々が大勢いらっしゃることを知りました。なんとまあ熱い世界！小さな溶鉱炉のようです。

さらにはネットオークションなる便利なシステムがあり、かつての垂涎^{すいげん}・憧れの受信機たちが、あれっ、俺にも手が届くじゃん、という価格で落

¹ スペイン語を専門とする言語学者にうかがったところ、ラテンアメリカのある地域では、男性名詞として扱うところもあるようです。厳密に言えば、《受信機》はスペイン語では《radiorreceptor》といい、これは男性名詞なのですが、現在は女性形の《la radio》によって、受信機も放送もあらわしています。ですから《ラジオは女性》というのは、やはり、「こじつけ」ですね。

札されている！復活組熟年層に共通の現象のように思われますが、僕の臨時シャックにも、あれよあれよという間に、中華ラジオや通信型受信機が積まれるようになってきました。そして2月以降今日までの慌ただし9ヶ月において、決定的な出会いとなったのが、DRAKE社製《SPR-4》でした²。

ちょうど僕がBCLをはじめた1974年頃に製造された同機はオークションで購入しました。

《SPR-4》は、中二の少年受信者にとっては夢のまた夢の超高級受信機でした。ラジオ雑誌の広告を、ああ、この受信機があれば、どんなに遠くの海外放送でも受かるのだらうなあ、と憧れの眼差して眺めていたことを思い出します（復活後、たまたま中古本サイトで『電波技術』の1975年2月号を見つけて購入しました。当時、何号かにわたって受信報告を投稿し、掲載していただいた記憶があったからです。黄ばんだページをめくりますと、いました、いました、得意げに東欧局の受信を報告する「中二病」まっさかりのニキビ面の自分が。そしてまた《SPR-4》の大きな広告も見つけました。価格を見て仰天、当時の初任給の3倍ほどの値段がつけられていました）。

その時代に比べると破格のお値段で、しかも新品のようにピカピカに整備された同機が届きました。受信機に美しく寄り添う専用スピーカ《MS-4》も入手し、日々、まるやかで深みのある、いかにも《ラヂオ》という懐かしい音を楽しんでいます。受信性能も抜群ですから、遠くブラジルからのサンバ音楽ですら、国内中波放送のような鮮烈さで、心を躍らせてくれるようになりました。

その後も出品者の方には、メールでいろいろと教えを請うようになりました。ドレーク機の《音》の率直な感動をお伝えしますと、いえ、個人的にはドレークよりも、1950～60年代の米国ナショナル製の受信機や、ハマーランド製のものの音が最良だと思っています、いままさにハマーランドを一台整備しているのですが・・・というお話。ぜっ、是非、お譲りください、とただちに返信している自分がいました。

整備が終わった二ヶ月後に届いた受信機が写真

² DRAKE SPR-4は、オール・ソリッドステート設計であり、真空管を使っていません。

の《HQ-100》です。一聴、おったまげました！海外遠方より届いた短波の音が、リビング空間一杯にみずみずしくひろがっていきます。ふと見ると、あきれ顔をしながらもとりあえず僕の趣味の再開に寛容でいてくれる家人が、うっとり聴き入っています。ドレーク機もそうですが、何でしょう、音に立体感というか、奥行きがあるのです。すこし大袈裟ですが、藝術的な音。いま世間でもはやされている高級《ピュア・オーディオ》は、ノイズを極限まで排除していきませんが、ヴィンテージ機による受信音は、ノイズを含めてその鑑賞の一部とする、やはりひとつのオーディオなのだ！と僕は確信しました。

そのことは《iPad》やパソコンから清澄・明瞭に流れてくるストリーミング放送と比較してみるとすぐにわかります。昨年10月、現政権の緊縮財政政策の犠牲になって《Radio Exterior de España=スペイン海外放送》が停波したことはOM諸氏もよくご存知のところだと思います³。その頃は毎夜11910kHzの北京中継が強力に入感していました。この放送を《HQ-100》と《SPR-4》で受信⁴、そして《MacBookAir》と《iPhone 6》から同時に流れてくるストリーミング放送と聴き比べてみたのです。その差異はもう圧倒的！ストリーミングは、たしかにノイズ・レス、そしてフェイジングなぞもちろんありません。SINPO=55555！（笑）しかしなんと薄っぺらいのですよ、その音が。鼓膜を通過して、情報だけが脳につき刺さってゆく感じです。たしかにデータ収集という面ではかなわないでしょうね。しかしそれに対してヴィンテージ嬢たちが奏でる音は、鼓膜をその粒立ちで優しく撫げ、情感・情緒の湯気を立ち昇らせながら、脳髄に、そして心に、麗しく染み込んできてくれるのです。雑音が、そしてフェイジングまでもが、官能をほんのり刺激してくれる！《Made in USA》だからでしょうか、その瞬間、ふと、あのマリリンが、当時の色

³ 拙文執筆中に朗報が届きました！各地の大洋に散開するスペイン人漁師達からの猛反発をうけ、短波放送を再開するとのこと。漁師達のところにはインターネットは届かないのだ！

⁴ アンテナはWellbrook社製《ALA330S》を使用しました。

香と肉感とともに、びたっと僕の身体に寄り添ってくれているような錯覚すらしました。この瞬間以来僕は心に決めました、これからもずっと、ヴィンテージ嬢たちとともに歩んでいこう、と。

復活組の方々の多くは《Perseus ペルセウス》（皆さん「ベルちゃん」とやはり若い女性を意識されているのかしら、愛称で呼んでいらっしゃるようです）をはじめとする《SDR》で DX 難局をばりばり捕獲されています。これもまたじつにカッコよい！現代には現代の BCL の姿があるべきだろうと素人が僭越ながら思います。ペディでは《ベルちゃん》に各バンドの受信はお任せしてパソコンに記録させておき、小屋の中では楽しい宴会が展開するのだとか。おおぜいの美しい女性たちが交錯して踊る姿を愛でるアラブの王様のハーレムのように、これはこれでじつに羨ましい！けれども、老境を前にして BCL の世界に遅れてやってきた少年は、こう思うのです、せっかくだから今後もずっとヴィンテージ嬢たちと向き合おう、と。これからも彼女たち一人一人のツマミを繊細にまわしましょう。彼女たち一人一人の心の真空管の焰にうっとりし、そしてその金物製の年増の身体を、優しく愛撫してゆくことにいたしましょう。遠方局を捕まえることもこの趣味の醍醐味ですが、まずは《音》を心の耳で聴こうではないか。《All India Radio》の民衆音楽のたゆたい、《Radio Habana Cuba》のカリブ調スペイン語の軽やかな響き、《RAE》のタンゴとともに届けら

れるブエノスアイレスの夜の薫り・・・ヴィンテージ機でしか味わうことのできない《藝術的な世界》との出会いを、僕の BCL は、今後も大切にしていけたらと思っています。

付記：この文章をしたためてからすこし時間があきましたが、その後我がシャックには、やはり文章中の出品者の方によって調整された Collins 75S-1 が導入されました。本来アマチュア無線用の受信機ですが、BCL 用に改造していただきました。これもまたド迫力のヴィンテージ機。米軍の女性伍長のような風貌ですが、安定感ある受信性能は抜群、各種ツマミも、握りごたえがあります。

甲斐 迅

1960 年東京生まれ。小 1 から 18 歳まで名古屋で育つ。

現在は練馬区に住む。

1974 年～75 年にかけて BCL に没入する。

その後この趣味のことはまったく忘れていたが、2014 年 2 月に突如再開。

ずぶの素人ながら、ヴィンテージ機に手を出してしまった。

ペルー関係の仕事をしている。

もとを糺せば中学 BCL 時代の南米局への憧れ（当時は一局も受信できなかった）が現在の仕事の淵源と思われる。



老後も BCL で楽しく過ごせるように。

60 歳からの入門 BCL ブック

第 1 回「友だちを作ろう」

関山レイ(49 歳・群馬在住)

ぼくはいつまでも若い気でいるので、人に歳を訊かれれば「キムタクと同じ歳」と答えることにしています。なので、べつに老後のことを考えて生きているつもりはまったく無いのですけれど、自分もキムタクもみんな平等に歳を取って行くのは事実でこの国の高齢化は間違いなく進んで行くのだし、まあそれならそれで BCL で楽しい老後を送るにはどうしたらよいかということをもじめに考えてみたいと思います。

ぼくはいま 49 歳なので、これから 10 年間という長い助走期間に Propagation 誌でこの不躰な連載を続けるといよいよ還暦 60 歳を迎えるという壮大なドキュメンタリーでもある訳です。さて何から始めましょうか。

「友だちを作ろう」

そう、老後の楽しみと言えば友だちとの茶飲み話に決まっています。酒飲み話でもいいでしょう。BCL だから独りでラジオの中の人のふれあいを深めるのも悪くはないのですが、それじゃあまりにも寂しすぎます。まあでも、じっさい歳を取ってからの人付き合いというのも難しいもので、余計な気苦労をするくらいならへたに友だち付き合いを求めない方が平穏で幸せな老後を送るかも知れません。

…って、それでは早くもこの連載が終わってしまいますので、まあケースバイケースでそういう場合もありますよ、ということで続けます。

しかし今はインターネットがあるので友だちを作

るのも便利になりました。フェイスブックやツイッター、ブログに BBS と言ったウェブ・サービスを活用すれば結構手軽なのではないでしょうか。ちなみに、むかしは雑誌の読者欄の友だち募集コーナーに応募したり、入会したサークルのメンバーに手紙を書いたりなどといった時間も手間もかかる手段を取ったものでした。

以下に日本最大の BCL クラブとネット上で友だちを見付けるのに役に立つサイトをいくつかご紹介しましょう。

□日本短波クラブ (JSWC)

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~BCLSWL/jswc.html>

□Facebook 懐かしの趣味・BCL

<https://www.facebook.com/groups/746291948724539/>

□Facebook 海外日本語放送

<https://www.facebook.com/groups/142206192603898/>

□BCL ポータルサイト Now On The Radio

<http://radio.chobi.net/>

ぼくも”老後対策”と称してネットで友だち作りに励んでいるのですが、BCL 関連のブログで面白そうな人を見つけたら密かにファンになって少しずつ交流を深めて行くパターンが多いですね。そして、もし可能であるならばネットから飛び出して実際に会いに行きさらに交流を深め合うのがすごく楽しいです。そう、老後を持たずしての茶飲み話、酒飲み話の世界をすでに始めているのです。

最後にぼくの拙いブログを紹介しておきますので、ご覧いただければ幸いです。また E-mail での感想もお待ちしております。よろしく。

□BCL は趣味の王様

http://blogs.yahoo.co.jp/bcl_prince

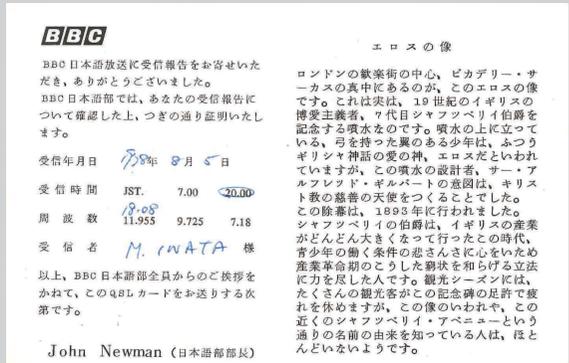
E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

ではまた一年後にお会いしましょう。さようなら。

This is London.

崩れ行くシナプスの断崖に佇んで。

岩田 学



図①: BBCデータ面。周波数表記が18.08となっている。

■日本向け日本語放送を細々と聴いているしかない私が、このようなBCL専門誌(と言って良いと思う)にエラソウに書くってのはオコガマシイと言うか身の程知らずの誹りを免れないのだけど、どうか「枯れ木も山の賑わい」ってことでご容赦を。

生来が不器用な私は趣味でも何でも並行して楽しむということが出来ない。音楽ばかり聴いている時期があると思えば映画を観続け、ある時は活字ばかりに耽溺していたりする。電波生活も同じで短波放送だけを聴いている時期が過ぎるとVHFで業務無線を追いかけてたり、盗聴電波の探索業者のまね事を年中やっていたりする。要するに飽きっぽいのだ。

今はアマチュア無線、それもモールス通信に漬かっている。マイクなどはリグから外して押し入れの部品箱の中だ。自宅では飽き足らず、移動運用でウロウロしている。先日などは沖縄にある友人所有のセカンドハウスを拝借して四日間も猿のように無線をやってきた。

現在資格は3アマであるが、今夏2アマの試験を受けようと考えている。この原稿を掲載していただける「Propagation#3」

がリリースされる頃に受験し、合否も判明しているだろう。その後に行われるハムフェアで嬉々としているか、それとも青白い顔で俯いているか。

先日、コンディションが良いと聞いて18MHz帯をワッチしていた。国内遠方や海外局の信号が強く聴こえている。その中に18080kHzでCQを出しているニューカレドニア局がいた。ヨーロッパ局が山のように呼んでいる。いわゆるパイルアップと言うヤツだ。

先の沖縄のセカンドハウスのオーナー氏はパラオやマイクロネシアからもアマチュア無線を運用していて、日本から見れば太平洋地域は強い信号でいつでも交信できるが、ヨーロッパから見ればまだまだ珍しく、例えれば日本とカリブ海みたいなものだという。

そんなヨーロッパがパイルになっているところをわざわざ呼ぶ必要もないだろうとそのままワッチしていた。ぼんやりと眺めていた18080という数字になんとか覚えがある。たしかこの周波数で放送をしていた局がいたような。押し入れに突っ込んでいるベリカードアルバムを発掘して、今まで受け取ってきたカードのデータを確認してい

く。すると「受信年月日1978年8月5日/受信時間2000JST/周波数18.08」と記載のあるBBC日本語放送のカード(図①)を見つけた。

アマチュアバンドとして18MHz帯(18068kHzから18168kHz)が開放されたのは1989年7月だったので、それまで18080kHzは放送バンドである16mbの上限近くだったのだろう。確かBBCの18080kHzはロンドンからの直接波で、シンガポール中継よりも信号強度が落ちるものの、ゆっくりとしたフェーディングと時々エコーを引く特徴ある信号はいかにもDX然としていて受信が楽しかった記憶がある。大げさではなく一枚のカードで思い出が蘇った。

そんなことを考えながらアルバムを繰っていると懐かしいベリカードが出てきて、当時の記憶が具体的な形を持って立ち現れてきた。冒頭にも書いたように細々としか活動していない私に現在は書けない。だから、過去を書いてみようかと思う。しかも極私的な過去だ。

今は日本語放送を行っていない局のあれこれにお付き合い願いたい。ただし、ほぼ自分の記憶によってのみ書いているので多々間違いがあると思われる。また、私のBCLのアクティビティが高い時期の話でもあるので、私が聴いた

ことのない局は省いているし、印象がみなさんと違っていることもあるかと思う。お気付きの点があったら遠慮なく指摘して欲しい。

■BBC - イギリス

枕詞に「公正中立」を置かれるほどの局だったけど、今では影が薄くなったような気がしてならない。新しい形態のCNNやアル・ジャジーラの台頭、そしてネットの有象無象に押されて報道のBBCではなくなった印象がある。

日本向け日本語放送は1990年初頭まで行っていたと思う。あのビッグベンの鐘が時刻を知らせたあと、荘厳な曲が流れるオープニングは印象深かった。あの曲は「Portsmouth」という古いものであるとのこと。youtubeなどで検索するとMike Oldfieldが出てくるが、イメージが違うので少々がっかりする。ちなみに日本語部長を長く務めたJohn Newman氏と私の父親は大学の同窓生だったらしいが、今となっては確かめようがない。

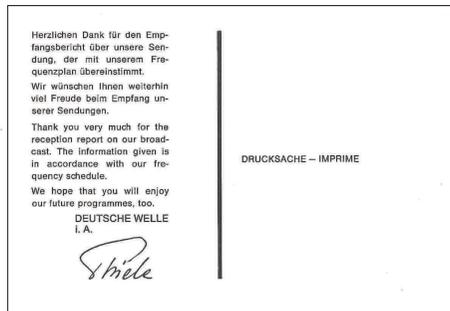
1981年にチャールズ皇太子とダイアナ妃（当時）の結婚式がライブで中継され、それを受信報告として出したところ、ペリカードとともにお二人のポストカードも送られてきた。当時は祝福一色だったけれど、その後の過程を見ると複雑である。

■DW - ドイツ

私がBCLを始めた頃はドイツからの送信ばかりでなかなか受信できない局の一つだった。1978年か79年頃にスリランカ、その後にマルタ、そして1990年頃からイルクーツク中継が始まり、どんなラジオでも聴こえ

るようになった。月から金の20時15分開始だったので、20時からのBBCを前半だけ聴いて次はDWということをやっていた。

1980年代までDWのペリカードは受信データ記入がなく（図②）、口の悪い人は「単なる絵はがき」と言っていた。それでも、手紙を受け取って開封してレポートを読んでカードを返送するという一連の作業を経たものなので、私にとっては十分にペリカードである。



図②: データ無しのDWのカード。

■モスクワ放送 - ソ連

「ロシアの声」だろうとの指摘があることは承知の上でモスクワ放送と表記する。私にとって両者は別物である。モスクワ放送と言え、あのインターバルシングルに尽きる。やたらと強い信号に間延びしたチャイムのISは、不遜な物言いながら当時は邪魔でしかなかった。

弱々しい不明局を受信中、そろそろ正時（00分）なので局名アナウンスが出るかと耳を傾けていると、5kHz隣の強力なモスクワ放送がISを流したので、その不明局が潰されてしまったなどという苦々しい経験は今でも覚えている。

そのモスクワ放送のISも短波帯から消えて久しい。誠に勝

手なもので、聴こえなくなるとある種の淋しさを覚えるのも正直なところだ。あのISの出自は1936年にソ連で製作、公開された「サーカス」という映画の挿入歌である。タイトルは「祖国の歌」、あるいは「広大な我が祖国」という。この映画は言ってみればプロパガンダであるが、映画も曲も人気を得、今でも歌いつがれているとのことだ。オリジナルを聴いてみたい方は「サーカス」「祖国の歌」をロシア語に訳した単語でyou-

tubeを検索して欲しい。

そういえばモスクワ放送の受信報告書の宛先は本国ソビエトと東京都内の私書箱の二ヶ所だった。本国に送れば、当然本国から返信があったが、東京に送ると東京から返信があった。モスクワに転送されていないのである。しかも発行していたペリカードのデザインが数種類あって（図③）、欲しいもののリクエストに応えてくれたのだ。

ペリカードを集めるなんてことを趣味にしているのはコレクター気質に溢れているはずなので、この「欲しいデザインをリクエストできる」というのは、なんとツボを突いた方法だろうと今では思ってしまう。さて、コンプリートした方はいるのだ

ВЕРИФИКАЦИОННАЯ КАРТОЧКА
受信確認カード

Большое спасибо за Ваше сообщение из Японии.
モスクワ放送（日本語）受信報告書ありがとうございます。

ДАТА	月日	2 日 / 月	1970年
ВРЕМЯ	時間	17.00-20.00	22.00-23.30
		21.00-23.30	23.00-23.30
ЧАСТОТА	周波数	7.27	MHZ

Ваша информация подтверждается точной.
今回の受信報告書は正確であることを証明します。

РАДИО МОСКВА モスクワ放送局日本語課
ДАТА ВЫПУСКА モスクワ放送局日本語課
発行年月日

T. No. 1013 モスクワ・ボリショイ劇場（イレー、オペラ劇場）

図③：東京から返信されたモスクワ放送のカード。
左下に図柄ナンバーがある。



パチカン放送。送信用ログベリアンテナ。

ろうか。

■ KGEI - アメリカ

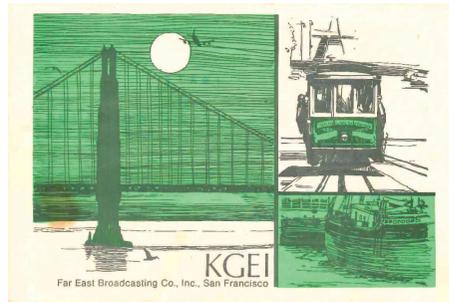
3.9MHz から 12MHz までしか受信できず、しかもダイヤルスケールには 1MHz おきに数字が書いてあるだけという「短波なんかオマケ」ラジオでも充分に聴こえた。毎日夕方の 5 時から始まる同局を、ダイヤルスケールの「6」付近に針を合わせていた。当時は木造家屋だったこともあるが、付属の数十センチのロッドアンテナでも強力に受信できたものである。

小学校 5 年で BCL を始め、一番最初に受信報告書を送り返信を得たのが同局だ。どんな受信報告書を送ったか全く覚えてはいないけれど、もし今そんなものが公開されたら恥ずかしくて、赤面汗顔穴があったらすぐに入るから上から土かけて踏んでくれと言いたくなる代物だったと思う。カード発行はもちろん、そんな報告書に返信をいただけただけで感謝だ（図④）。

フィリピンから放送していた「FEBC マニラコーリング」、そして今でも済州島から放送中の「HLAZ」と同じく日本基督教団が運営してしていて、番組も日本制作だったけど、KGEI は少しだけアメリカ制作の番組があった。

FEBC と HLAZ はほとんど聴かず、KGEI に魅かれたのはそれが原因かも。後年、日本基督教団の本部で結婚式を挙げたのは単なる偶然…だと思うけど。

もそも布教のためでなく、カトリック総本山として法皇の動静を伝えるためのメディアなので娯楽性など皆無であっても仕方のないことである。しかし麗麗な IS は非常に印象的であった。



図④：KGEI。筆者は緑色のカードをいただいた。

■ パチカン放送 - パチカン

2001 年春で同局が日本語放送を廃止したことが一番の衝撃だった。というのも、最後まで残る日本語放送は同局か北朝鮮だと勝手に考えていたからである。

BCL を始めた当時、同局も聴くことが難しかった。週に三回、しかも朝の 7 時前後に 15 分間と言うのは、なかなかラジオを聴こうとする時間ではなかった。しかし、1980 年辺りにシベリア中継、そして夜間の放送が始まり、一気に聴きやすい局となった。

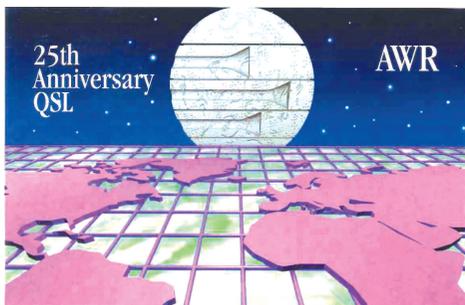
お世辞にも番組は楽しいと言うものではなかったと思う。そ

■ KSDA Guam

セブンスデー・アドベンチストという世界的なキリスト教団体がグアムから放送していた。1980 年代後半から 2010 年まで放送をしていたと思う。もちろん布教が目的の局なのだけど、BCL に関しての番組もあった。例えば当時同局の日本支局長川越勝さんがホストだった「ちょっと一言」は、BCL でもあった川越さんのラジオエッセイのような番組だった。実は私はこの番組に出たことがあるのだ。ある BCL サークルの運営委員でござい、などとあっちこっちで書き散らし、言い触らしていたか

ら目立ったのだろう、川越さんが「BCLとそのサークルについて話を」とメールをくださったのだ。

事前に番組で触れる内容をメールでやり取りしておいて、収録は横浜市内のスタジオで行った。大きな声でスカスカな内容をごまかすしかない私を、慣れた感じで川越さんがインタビュー、聴きだしてくださったので、なんとか番組として成り立ったのではないかとと思う。いま思い出すだけでも冷や汗が吹き出る思いだ。



図⑤: KSDA - AWRの25周年カード。

■KTWR

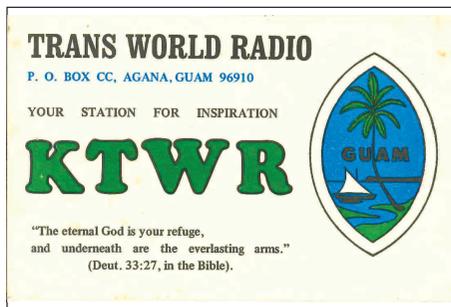
KSDAと同じくグアムから放送していたプロテスタント系のキリスト教放送局だ。1977年ごろから2007年まで放送していた。この局も宗教的色彩の薄いBCL向けの番組があったし、基本的に日本制作（御茶ノ水にある『太平洋放送協会』。現存する）だったけど、いくつかグアム制作の番組もあり、局としてグアム色を押し出していたような印象だ（図⑤）。

2000年代前半に、あるBCLサークルでハムフェアに出展したときのことだ。ブースでボンヤリしていると「岩田さん、こんにちは一」と声をかけてきた女

性がいた。私は不意を突かれたことと、その女性に見覚えがなかったので「はあ、ちゃーす…」とマスケな返事をしてしまった。女性が立ち去った後、ブース内にいたメンバーに「あれ、誰？」

と訊いたところ「KTWRの慶田さん。知らなかった？」との返事。「あいやー、しまった」と思っても後の祭り。「早く言えよ」「KTWR/ケイサダヨ」「その早いじゃねーよ」などと言いながら会場を探しても慶田さんは見つからなかった。

同局からの返信に時々「K田」のサインで一言二言書いてくださっていたので、直接会う機会があればお礼をと思っていたのだが、その大きなチャンスに発した言葉が「ちゃーす」では、社会人失格、即退場である。私が下げている名札で私の名前を知ったとしてもだ。今でもあのときの非礼を詫言ることができればと思っている。



図⑤: KTWR初期のカード。

■地中海の声 - マルタ

「いきなり」と言ってよいほどの唐突さで放送が開始され、5-6年後に終了してしまった日本語放送である。日曜日だった放送初日には私が入会していたBCLサークルのミーティング当日だった。開始時間の14時はミーティング真っ最中だったが、何人かのメンバーはラジオ持参で放送初日をチェックしていた。しかし、開始時刻になってもキャリアすら出ず、結局開始はその次の週の日曜日になってしまった。シベリアにある送信所との連携がうまく行われてなかったのかなと想像している。

確か同局は既存の組織ではなく、放送開始直前に設立されたマルタとリビアの共同会社で運営されていたと思う。週一回、日曜日の14時から1時間というチャレンジングな放送時間だったけれど、シベリア中継の強力な信号と相まってかなりのリスナーを獲得していた気がする。私は結構真剣な手紙を書いたのだけど、ボツになることが多かったことから、そんなことを考える。手紙の質はさておく（笑）。

「いきなり」感のあった放送開始同様、放送終了も「いきなり」だった。あくまでもウワサだが、共同設立者だったはずの

リビアが資金を出さなくなった結果らしいのだ。「そういえばリビアも出資していたんだな」と思わせるほどに番組はリビア色が皆無で、放送末期にはマルタの首都である地名を冠した「バレッタコーリング」とも名乗っていたのも、その表れかもしれない。

レポートに対する返信は確実に、綺麗なベリカードを受け取っている。どれもが観光用ポストカードとしても通用するようなものだった (図⑥)。

楽 (この名称もナンだなあ) = アメリカ」ではないことに気づき、その後、中二病をさらにこじらせ「イギリス圏音楽万歳」となってしまったきっかけがラジオ・オーストラリアだ。

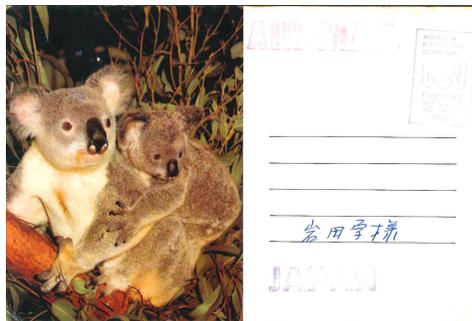
BCL 向けの番組もあった。「BCL 向け」と言っても、リスナーとコミュニケーションがメインではなく、あくまでも受信情報や周波数データを知らせることが目的だった。「DX ニュース」と言ったほうが良いかもしれない。この番組も良く聴いていて、

ゆっくりと紹介してくれる受信情報や周波数データを全てノートに書き写して、実際の BCL に活用していた。確かこのノートもどこかにはあるはず。恥ずかしいので、探し出して処分しよう。

今でも思うのだけど、どうしてこの局はあんなに音が良かったのか。柔らかな低音が響いて疲れず、やけに心地よい音だった。何か仕掛けがあったのか、ご存知の方は教えてほしい。



図⑥: 地中海の声のカード。



ラジオ・オーストラリア。データ記入無し。

■ラジオ・オーストラリア

私にとってオーストラリアと言えば「オペラハウス」「カンガルー」「エアーズロック」ではなく、「マッドマックス」「カイリー・ミノグ」「ワライカワセミ」である。そんなことはどうでも良くて。

正しく中二病を発症していた中学二年生の私は「洋楽優越主義」に陥っていて、当時はまだ短波で放送していた FEN (現 AFN) の「American Top 40」を良く聴いており、毎週ランキングをノートに取っていた。そんな中、ラジオ・オーストラリアで放送されていた「日豪なんとか (タイトル失念)」で流れていたオーストラリアの音楽にアメリカと違った雰囲気を感じた。当たり前のことだけど「洋

さて、ロートルの思い出話もこのくらいにしておく。他にも「ラジオ・ベリタス・アジア/フィリピン」「SLBC /スリランカ」「KYOI /サイパン」「国連放送/アメリカ」「オウム真理教放送/ロシア送信」等々があるのだけど、またの機会に。

今回、この内容を書くに当たって、過去に得たベリカードを十数年ぶりに見てみた。非常に不思議なもので、カードに書かれた言葉や写真、あるいは匂いをきっかけにして鮮やかに一つの思い出が脳裏に立ち上ってくる。そして、その一が十を引き出し、書き始めるとその十が五十を掘り出す「記憶の連鎖」を経験した。

書き終えて、現役で放送してくれている各日本語放送局に久しぶりに手紙を書いてみようかなと思っている。こんな機会を与えてくれた「Propagation」の編集スタッフはもちろん、最後まで読んでくださった方々に感謝至極である。ありがとう。

思い出の一枚

関山レイ (49歳・群馬在住)

ぼくが二十代の頃だったか、一時期ベリカード集めに熱心だったときに気になった放送局があった。あえて局名は伏せておくのだが、日本国内の AM 放送だ。何が気になったかといえば、ベリカード発行担当の方が非常にフレンドリーで、ベリカードに必ず丁寧なメッセージを一言、二言添えてくれたのである。ほとんどの放送局は（それが当たり前だが）受信データの記入のみで無味乾燥であったのに対し、まるで担当者氏の笑い顔が垣間見えるような楽しい返信だった。そのことを BCL 仲間に話すと、彼も同じような経験をしていた。なんと、局内に一枚だけ残っていた絶版のベリカードを惜しげもなくプレゼントされたのだという。そういえばぼくも、一通の受信レポートに対してベリカードを 3 枚いただいたことがある。なんとも不思議な担当者氏である。

それから二十年以上が経ち、その間ぼくは BCL の世界から離れていた。ベリカードもどこかへ行ってしまった。昨年、ひよんなことから再開したぼくの BCL の楽しみ方は、昔の仲間やネットで知り合った新しい友人を訪ね歩くことであった。そんな活動を続けるうち、件の担当者氏に会いに行ってみると面白いな、と考えた。いったいどういう人だろう？、もう退職されてるかな？、などと想像をふくらませながらその放送局あてにメールを送った。数日後、担当者氏の直属の部下だった、という方から返事をいただいた。担当者氏は数年前に退職されたあと、残念なことに病気でお亡くなりになっていた。部下の方のお話によると、非常に面倒見の良いやさしい方だったという。ぼくが思っていた通りの人だ。後になって、担当者氏のなじみの Bar に後輩らに飲ませるためのウイスキーがキープされていたことがわかったのだそうだ。ぼくはその銘柄を聞いた。サントリーの角だった。

ぼくは無理を言って担当者氏のご命日をおしえていただいた。思い出の一枚はもう手元に残ってはいないが、その日、サントリーの角を飲みながら故人を偲びたいと思う。



担当者氏のご冥福をお祈りします。

静岡由比の桜えびとFM受信の旅

五十嵐 雄希

ここ何年かの間、年度末の2月～3月頃になると一人旅をしている。今年は台湾に行きたくなり、1月頃から予約と事前調査をしていたが、仕事が忙しくなり残念ながらキャンセルした。それでも、3月20日過ぎには仕事が一山超え、改めてどこかに行きたくなった。3月中に一日休みを取り、電車でふらっと行こうということで桜えびのかきあげを食べに静岡由比に行こうと決めた。しかし、ネットで調べてみると由比の桜えび漁はまだ解禁になっていないことが分かったため、4月早々に日程変更した。

4月初旬の某日、休みを取り、戸塚駅から東海道線に乗り込む。年度末までめいっぱい働いたんだから多少の贅沢は許されるだろうということで、グリーン車に乗り込む。途中、車窓の海を眺めながら電車の旅を楽しみ、熱海に到着。ここで、電車を乗り換える。熱海からは1時間ほどで由比駅に到着。

由比駅前の通りには由比桜え

び通りの看板が。美味しい桜えびに期待が膨らむ。平日の人通りの少ない由比桜えび通りをのんびり歩き、少々迷いながらもお目当ての由比桜えび会館内の桜えび茶屋に到着。



店内に入るとほぼ満員であるが、カウンター席が1席空いており、待つことなく席につく。

メニューを見て、桜えび茶屋定食とビールを頼む。かきあげを1枚プラスしたいところであるが、近年桜えびが不漁とのことで、お一人様1枚までとのことであきらめる。

料理が出てくるまでの間、ビールを飲みながらのんびり待つ。平日の昼間から飲むビールはまた格別である。程なくすると、お待ちかねの桜えび茶屋定食が出てきた。この定食は、桜えびのかきあげ、生の桜えび、桜えびの炊き込みご飯、ざるそばがセットになったものであり、桜えびがリーズナブルなお値段で堪能できる。どれもとても美味しく、ビールがすすむ。桜えびを堪能した後は、売店で家族へのお土産を買って、店を出る。

ここからしばらくK-mix(静岡エフエム放送)を聞きながら



のんびり歩き漁港を目指す。漁港に着くと、入り口に「桜えびと由比港」という看板があり、桜えび漁の歴史が書かれている。明治27年からの歴史とのことであり、長い歴史に驚く。桜えびは日本では駿河湾近海でしか採れないそうであり、近年の不漁が心配になる。漁港にも桜えびを食べられる”浜のかきあげ屋”という店がある。先ほどのお店でかきあげ1枚で我慢したこともあり、ここでもかきあげを食べる。桜えび茶屋で食べたかきあげよりもカリッとあげられたかきあげは香ばしく、桜えびの風味がふんだんにおいしい。



桜えびを存分に堪能し、満足して東海道線に乗り込む。ローカル線なので、空いているイ

メージがあったのだが、春休みの子供を連れた家族連れが多数乗車しており、ぎゅうぎゅう詰めの満員状態。昼間から酔っ払ったオヤジには少々キツイ。沼津に到着すると、この状況から脱したくで降りる。少々遠回りではあるが、一度乗ってみたかった御殿場線で終点の国府津駅に向かい、東海道線に乗り換え、戸塚に向かった。途中、山北付近で沿線に咲く桜がすばらしくきれいであり、桜えびを堪能する旅にふさわしい景色であった。

あまりBCLに関係ないグルメ記事になってしまったが、のんびりと電車に乗り、地元のラジオを聴きながら街を散策するのは楽しいものである。来年の桜えびシーズンになったら、改めて由比に旅したい。

由比桜えび館

<http://www.kakusa.co.jp/>

由比港漁協

<http://yuikou.jp/>



戸塚の桜



桜つながりになりますが、戸塚区には柏尾川という川が流れています。河川敷には多くの桜の木が植えられており、春先のお花見シーズンには多くの花見客で賑わいます。その柏尾川の桜の花の酵母を使って醸造された「戸塚の桜」というビール（発泡酒）があります。このお酒は戸塚駅前のmodi 地下1階まるい食遊館にある”酒の専門店こみやま”の限定品であり、春先の季節限定で販売されています。私も飲んでみましたが、とてもすっきりした味で美味しかったです。ビール党の皆様にはぜひとも飲んでみていただければと思います。入荷状況は以下ブログをご参照ください。

酒の専門店こみやま

<http://komiya.blog73.fc2.com/>



BCL グルメの旅 「tvk Applause で ワンコインランチ」

長谷川 真也

BCL にまつわるグルメを探求する旅シリーズ、今回は tvk（テレビ神奈川）局舎に併設されたカフェ「Applause」のランチを紹介します。

JR 根岸線 関内駅北口から徒歩 5 分に、地上 13 階・地下 2 階建てで平成 16 年 2 月竣工、神奈川新聞社、テレビ神奈川（tvk）、関東学院 KGU 関内メディアセンター、横浜市中小企業支援

センターなどが入居する「横浜メディア・ビジネスセンター（YokohamaMBC）」があります。その 1 階、tvk オープンスタジオ「ヨコハマ NEWS ハーバー」と同じフロアが Applause（アプローズ）です。

通常はウェディング 2 次会や各種イベントなどのパーティー会場として営業していますが、日中はランチ・カフェになっています。この店の最大の魅力は、tvk のお昼の情報ワイド番組「ありがとッ!」の生放送収録の様子を眺めながら、バイキング形式のランチが楽しめるところにあります。



息子の小学校の運動会代休になった月曜日、家族で出掛けてみました。11 時半すぎの店内はまだすべて空席で、一番オープンスタジオに近い席に案内してもらえました。フロア一角を占めるスタジオでは、番組スタッフが慌ただしくテストや準備をしています。OA5 分前、番組 MC の松風雅也さん、三浦綾子さん、月曜レギュラーの林マヤさん、勝野雅奈恵さんが続々とスタジオ入り。正午きっかりに番組テーマ曲に合わせ、4 人でリズムを取りながら和やかムードで生放送がスタートしました。収録現場を目の前で観ているこちらは、慣れない雰囲気逆に緊張してしまいましたが、番組で紹介されたグルメ食材を MC の皆さんが CM 中に食べていたりもして、徐々に番組のお昼ムードに慣れていきました。



肝心のランチメニューは、ランチバイキング¥950、カレーバイキング¥500、サラダ（単品）¥100、ドリンクバー¥150となっており、本日のバイキングは「南瓜サラダ、キャベツとブロッコリー竹輪の辛子和え、春巻き、みそ汁、ミートボールトマト煮込、スパゲティーアーリオアリオペペロンチーノ、野菜カレー、スパイシーカレー、サラダバー、デザート」でした。カレーバイキングは2種類のカレーが食べ放題になっています。野菜カレーはジャガイモやニンジン、スパイシーカレーは鶏肉が入った、ややあっさり目のさらさらルー（いわゆるシャバ系）。バイキング各種メニューもさっぱりした食べやすい味付けで、「野菜が美味しい」と女房にも好評でした。

お昼を過ぎるとお客さんも徐々に増えはじめます。観光客らしき人もちらほら見かけますが、地元オフィス街の会社員が多いようで、短時間で食事を済ませていきます。店内には大型モニターが設置され、番組のOA映像を観ることができます。

ところがOAモニターを覗いていると、まるでいっくく堂の「声が遅れて出る腹話術」のように映像と音がズれています。フロア内のTV音声はスタジオ収録音をそのままスピーカで流しているらしく、地デジのデコードによる遅延からか、スタジオとモニターで2秒ほどのズレがあるのがわかります。思わぬところで地デジのしくみを実感することができました。

生放送の収録風景を覗ながらのランチ、ヨコハマ観光の一つに加えてみてはいかがでしょうか。

Applause（アプローズ）

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23

横浜メディアビジネスセンター1F

TEL 045-222-7708

Lunch 11:30~15:00（平日のみ）

Café 15:00~17:00（平日のみ）



リグの傍に この一冊

「アンテナの仕組み」

アンテナ技術に関する多数の著作がある、JG1UNE 小暮裕明・JE1WTR 小暮芳江 両氏による共著。「小学生時代の筆者（小暮裕明）は、ゲルマニウムラジオを組み立てたりする「ラジオ少年」でした。中学校の理科クラブでは、アマチュア無線（ハム）の楽しさを知り、さらに長じては海外の短波放送を受信することに夢中になりました。手作りのアンテナを立て、近所にいぶかれたこともありました。長い竹竿を適当に切り、電線を張っただけのアンテナでしたが、それでも夜中にアフリカのめずらしい放送局から届くかすかな信号がキャッチできることもありました。ところがそんなあるとき「なぜ電線は空間を移動する電波をキャッチできるのだろうか？」という大疑問がわき、以後、何年も悩み続けることになります。さらにアマチュア無線の国家試験に合格して、自らも電波を発信しはじめると、もう一つの疑問を抱くようになりました。それは、アンテナ線の長さをきちんと調整する必要があるということです。きちんと調整したアンテナで受信すると、適当な長さで作ったアンテナに比べて、ずっとよく受信できるのです。それはなぜなのか？さあ、これはアンテナをちゃんと勉強しなければならないぞと、それからは専門書を読みあさる日々が今も続いています（「はじめに」より）。地デジやBSをはじめ、携帯電話やカーラジオ、GPS、ETCといった生活に身近な機器のアンテナから、ICカードや万引き防止タグなど意外に知られていない電波システムを紹介し、そこから電波の性質やアンテナの構造、電波を受信・送信する原理を解説。さらに共振型（定在波型：DP、八木、GPなど）、非共振型（進行波型：パラボラ・アンテナのホーン、小型GPSアンテナなど）、電界型、磁界型...といったBCL・アマチュア無線におなじみの空中線、はてはフェーズド・アレイ・レーダーといったものまで、幅広くわかりやすく説明しています。私

たちが普段から愛用しているアンテナを、あらためて俯瞰して学べる一冊だと思います。（長谷川真也）



アンテナの仕組み なぜ地デジは魚の骨形でBSは皿形なのか

小暮裕明・小暮芳江 共著

講談社ブルーバックス B-1871

2014年6月20日発行 ISBN978-4-06-257871-4
860円（税別）



世界の言語入門
黒田龍之助



世界の言語入門（講談社現代新書）

黒田龍之助（著） 240 ページ

海外短波放送を聴くことで外国語に興味を持たれた方も多いかと思います。英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語、インドネシア語などは特に BCL になじみの深いことばですね。本書ではそれらを含めた 90 の言語について一人の著者が紹介しています。

「世界の言語について、一人でどこまで語れるか？」

これが本書の“無謀な”テーマなのです。アイスランド語から始まり五十音順にロシア語まで、一言語を見開き 2 ページづつ、ことばの豆知識から著者とその言語とのかかわりなどを軽いタッチでまとめられています。どのページ、どの言語から読んでも楽しめると思います。たとえば 70 番目はフリースランド語といってオランダやドイツの一部で使われる小さな言語なのだそうです。知ってましたか？ また、じっさいにラジオでそのことばを耳にしながらかいてみるのもよいでしょう。

しかし、この本が一番の注目点は著者で言語学者の黒田龍之助氏が 1964 年生まれということ。そう、ぼくたちと同じ BCL ブームの中心世代なのです。たしかなことは判りませんが、ひょっとして海外短波放送を聴くことが言語学の道へ進むきっかけの一つになっていたのではないかと…などと勝手な想像をしながら読んでみると、また味わい深いものがあると思います。

関山レイ（49 歳・群馬在住）

Jan.11-12 Winter Chigasaki Sea-side camp Park DX-Pedition Logging.
ANT: SVF+DELTA FLAG South Direction RX:PERSEUS SDR
All Time is UTC.

09:00 1440kHz AFN-Korea KOR English p "MY FM "
09:00 1530kHz AFN-Korea KOR English p //1440kHz
09:00 1593kHz UNID PHL Tagalog vp Talk
09:00 576kHz R.Rossii-Kahabarosk RUS Russian f
09:00 629.995kHz KUAM GUM English p
09:00 765kHz R.Vostok RUS Russian p
09:00 801kHz KTWG GUM English p Bible Talk
09:00 846kHz DZRV PHL Tagalog p
09:00 864kHz UNID PHL Tagalog vp
09:00 954kHz UNID English vp
10:00 1224kHz DXED PHL Tagalog p "Radyo Agila" //relay DZEC
10:00 1260kHz DXRF PHL Tagalog p relay DZRH
10:00 1368kHz DXKO? PHL Tagalog p
10:00 1404kHz UNID PHL Tagalog vp
10:00 1512kHz UNID PHL Tagalog vp
10:00 1530kHz UNID PHL Tagalog vp
10:00 1656kHz 2MM AUS Greek f
11:00 567kHz KGUM GUM English vp
11:00 738kHz R.Rodenzh RUS Russian p
11:00 882kHz UNID PHL Tagalog vp
11:00 1026kHz DZAR PHL Tagalog vp "Sunshine Radyo"
11:00 1062kHz DZEC PHL Tagalog p "Radyo Agila"
11:00 1161kHz UNID PHL Tagalog vp
11:00 1188kHz VOA-Korea KOR Korean p "Wellcome Voice of America in Korea"
11:00 1296kHz DXAB? PHL Tagalog p "Ito Ang.."
11:00 1350kHz DWUN? PHL Tagalog p
11:00 1512kHz UNID PHL Tagalog p
11:00 1548.002kHz ABC-4QD AUS English p
11:00 1574.995kHz VOA-Tahiland THA English p
12:00 567kHz KGUM GUM English vp
12:00 594kHz UNID PHL Tagalog vp
12:00 665.91kHz DZRH PHL Tagalog p
12:00 774kHz UNID English vp
12:00 926.90kHz UNID PHL Tagalog vp
12:02 1035kHz UNID PHL Tagalog vp National Anthem
12:00 1080kHz Echo of Unification NKR Korean p
12:00 1260kHz DXRF PHL Tagalog f relay DZRH
12:00 1386kHz UNID Tagalog? vp
12:00 1440kHz DWDH PHL Tagalog p relay DZRH
13:00 558kHz DZXL? PHL Tagalog p
13:00 567kHz KGUM GUM English p "News Talk K-57 Agana Guam"
13:00 612kHz UNID English vp
13:00 648kHz AFN-Okinawa JPN English p
13:00 729kHz DXIF PHL Tagalog p "Bombo Radyo"
13:00 774.02kHz DWWW PHL Tagalog p
13:00 1179kHz DXYK PHL Tagalog p (relay DZBB)
13:17 1188kHz DXRU PHL Tagalog f Closing Announce

13:00 1197kHz DXFE? PHL Tagalog p National Anthem
 13:00 1296kHz UNID PHL Tagalog f
 13:00 1512kHz DYAB PHL Tagalog p
 13:03 630kHz DZMM? PHL Tagalog p National Anthem
 13:00 882kHz DWIZ? PHL Tagalog f
 13:00 918kHz DZSR? PHL English p Sports
 13:00 981kHz DZRD PHL Tagalog vp "Sunshine Radio DZRD"
 13:00 990kHz UNID PHL Tagalog p
 13:00 1206kHz UNID TWN Binnan f
 13:00 1350kHz UNID English vp "Thank you for Lisning to..."
 13:00 1440kHz AFN-Korea KOR English p "AFN Joe Radio"
 13:00 1458kHz UNID PHL Tagalog p
 15:00 567kHz KGUM GUM English vp
 15:00 576kHz R.Rossii RUS Russian p
 15:00 629.995kHz KUAM GUM English p
 15:00 648kHz AFN-Okinawa JPN English p
 15:00 1026kHz DZAR PHL Tagalog vp
 15:00 1530kHz DZME PHL Tagalog f
 15:01 1377kHz RRI-Tori Tori(Pre.) INS Indonesian p
 15:00 1656kHz 2MM AUS Greek p
 16:00 702kHz DZAS PHL Tagalog p Closing Announce
 16:00 774.025kHz DWWW PHL Tagalog f "DWWW 7-7-4"
 16:00 801kHz KTWG GUM English vp
 16:00 1062kHz DZEC PHL Tagalog p Closing Announce
 16:00 1224kHz DXED PHL Tagalog p Closing Announce
 16:00 1458kHz UNID PHL Tagalog f
 17:00 665.98kHz DZRH PHL Tagalog vp
 17:00 774.025kHz DWWW PHL Tagalog f
 17:00 846kHz DZRV PHL Tagalog f
 17:00 1188kHz R.Free Asia KOR Korean f "This is Radio Free Asia,For Calling to Korea"
 17:00 1350kHz KUSG GUM English p "Thank you for a Listeing to KUSG Agana Guam"
 17:00 1548.012kHz ABC-4QD AUS English f "...ABC Local Radio" ABC News
 17:00 1574.994kHz VOA-Thailand THA p Yankee Doodle
 17:00 1620kHz 4KZ AUS English p Time Pips and announce "4KZ..."
 18:00 882kHz DWIZ PHL Tagalog p
 18:01 1260kHz DXRF PHL Tagalog vp relay DZRH
 18:01 1440kHz DWDH PHL Tagalog p relay DZRH "RH Balita"
 18:30 1134kHz All India Radio IND English p
 18:30 1566kHz R.Teos via HLAZ KOR Russian f
 20:00 747kHz DYHB PHL Tagalog p RMN Nation Wide
 20:00 855kHz UNID PHL Tagalog p
 20:03 1512kHz DYAB PHL Tagalog f Opening Announce
 20:30 1548kHz DZSD PHL Tagalog p relay DZBB
 21:03 999kHz DYSS PHL Tagalog p relay DZBB
 21:03 981kHz DXDR PHL Tagalog p Radyo Mindanao Network
 21:00 828kHz DXCC PHL Tagalog vp under NHK-2
 21:01 1026kHz DZAR PHL Tagalog f "Sunshine Radio action this DZAR"
 21:01 1107kHz DYIN PHL Tagalog p Bombo Radyo
 21:00 1116kHz UNID PHL Tagalog p
 21:00 1188kHz DXRU PHL Tagalog p "Radio Urtla"
 21:00 1224kHz DXED PHL Tagalog p "Radio Agila"

Stations logged by Hiroyuki Okamura

アマチュア無線 再入門

～開局準備編～

長谷川 真也



はじめに

本誌はBCLサークルの会誌なので、アマチュア無線の記事を掲載するかどうか、入稿直前まで悩みました。BCLもアマチュア無線も、同じ「電波」への興味・探究心が根っこにある趣味です。情報や技術がお互いを行き来して、刺激しあい、高め合う機会をもっとつくりたくて、アマチュア無線の世界に再度身を投じた経緯を記すことにします。

きっかけ

BCLにハマっていた中学生時代。ほどなくして興味はアマチュア無線に移り、無線部に入って電話級(現在の4アマ)資格を取りました。無線部の顧問は技術家庭科の先生で、同時に3年の担任でした。どちらかというど地味で冴えない印象の方でしたが、部活で披露してくれた縦振り電鍵に、普段とは違うカッコ良さを感じました。

高校の無線部でも、部室泊まり込みのコンテストなどを楽しみましたが、自宅からは近所の友達と430で細々ラグチューする程度。HF-DXに憧れはあったのですが、機材を揃えるお金もアンテナを上げる場所もノウハウもなく、やがて就職を機にQRT。

BCL復活以降も、「いまはBCLで手一杯だし、無線は老後の楽しみに取っておこう」という気持ちでしたが、昨年くらいから徐々にアマチュア無線復活の気分が湧き上がってきました。

〈カムバック・ハムの動機〉

- ・自宅の建て替えがあり、新しいシャックで違うことをしてみたいくなった
- ・脳トレとボケ予防で、CWに挑戦してみようと思った
- ・太陽活動極大期中で中波コンディションが悪く、BCLの

モチベーションが下がっていた

- ・BCL復活後12年の経験と知識を活かせば、夢だったDXとの交信を叶えられるかもしれないと考えた

3アマの習得

「モールス通信でDX」を目標にアマチュア無線を再開するには、CWができる3アマ資格が必要になります。すでに4アマを持っているので、1日の受講で資格が取れる「JARD第三級アマチュア無線技士養成課程講習会(3アマ短縮コース)」を受けることにしました。ハムショップ「西湘ひらつか」の講習会に申し込み、送られてきた「受講の心得」と既出問題集を読み込みました。

一か月後の建国記念の日、講習会当日の会場「平塚商工会議所2階会議室」は受講者で満席でした。09:15～17:15まで、「第三級アマチュア無線技士用教科書」と「養成課程模擬試験問題集」をテキストに法規・無線工学の講義を受けます。ハムで現役教師の方が講師だったので、要点を押さえたスピーディーな講義に無線関連の雑談もあり、長時間でも退屈しませんでした。





なお、平塚商工会議所の周辺には飲食店やコンビニがないので、お昼のお弁当の持参をお勧めします(筆者は駅前まで食べに行きました)。

講習終了後は、間を置かず試験開始です。緊張して出題を見ると、講義でやった問題ばかりでした。回答を何度か見直したあと、退席許可時刻に会場を出ました。

6日後、JARDのHPで合格者の発表です。ドキドキしながら確認すると…無事合格！3日後に書面の合格通知が届き、講習会から半月後にはカードサイズの従事者免許証が郵送されてきました。

無線設備の準備

BCLメインの我がシャックには、無線局の機器がありません。まず開局に必要な無線機ですが、以前CQ誌別冊の表紙で見えて一目惚れした Elecraft KX3 を購入しました。本体重量 680g(オプションなし)と非常にコンパクトで、移動運用で威力を発揮しそうです。Elecraft はキット中心のガレージメーカーなので、KX3 も「キット」と「完成品」の 2 種類があります。今回はなるべくお財布に優しいキットを選択。Elecraft 社の Web 通販から、追加オプションの ATU、デュアルパスバンドルーフィングフィルター、NiMH チャージャー、ハンドマイク、本体接続キーヤーパドル、アクセサリケーブルセットとともにオーダーし、9 日で自宅に届きました。KX3 は Elecraft

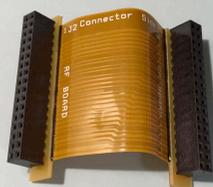


の国内代理店 EDC (エレクトロデザイン株式会社) でも取り扱っていますが、日本語アフターサービスが充実しているので、メーカー直販より 4~5 割増と高額になっています。

キットの部品は丁寧にパッケージされ、詳しい説明書も付属しています。ただし英語なので、メーカーHPからDLした説明書をWeb翻訳サイトを使って訳しました。完成基盤と各パーツを取り付ける作業で、6時間ほどで完成。安定化電源に接続し、アンテナは ALA1530 を繋いでスイッチを入れると…受信をはじめました！が、どうも様子がおかしい。液晶ディスプレイに CPU エラーの表示が出ていて、しばらくすると電源が勝手に切れてしまいます。内蔵バッテリーボックスに eneloop pro を入れてみると、今度は電池からなんと煙が！慌てて電池を外しましたが、電池ボックス端子が熱でグニャッと変形…すっかり怖くなって、KX3 に触れなくなりました。

落ち着いてから Elecraft に問い合わせしてみると、いくつかの確認事項がメールで届きました。よく調べてみると、KX3 の上下パネルを繋ぐフラットケーブルに凹みキズがあります。CPU 不調はこれが疑わしいとのこと。さらに電池ボックスの取り付けネジが電池外皮に当たったこ

フラットケーブルにあった凹みキズ。これが原因で“d=000 ERR TPA”のエラーが出て、KX3 送信機の温度センサが反応しなくなっていた。



キズは元からあったのか、組み込み中についたものかは不明

とで、電池がショートして発熱したようです。Elecraft から新しいフラットケーブルと電池ボックスが届き、組み込み直すと今度は無事に起動しました。

取説の翻訳からリグの完成まで筆者が要した日数は半月。手間やトラブルを回避するには完成品を購入するか、高額ですが EDC から日本語取説・アフターケア付きの製品を買ったほうが無難かもしれません。



KX3 は eneloop pro (1.2V 2450mAh) 8 本で、2 時間ほどの運用 (5W) が可能。内蔵 NiMH チャージャーでの充電時間は 16 時間

なお、KX3 はゼネカバ受信もできますが、無線機なのでハムバンド以外の感度は低くなっています。AR7030 で強力に聞こえている 630kHz KUAM も KX3 ではカスカスです。強入力にも弱く、ALA1530 を繋ぐと飽和してしまいます。本体付属スピーカーは少しボリュームを上げると、音割れして非常に聞き辛いです。モードを AM から SSB にすると、音割れも緩和されます。イヤホン端子の音は、非常にクリアでいい音質です。

KX3 のパワーは 10W (バッテリー使用時は 5W) なので、3 アマ上限の 50W を出すにはアンプが必要です。



電源プラグには Anderson Powerpole という国内で取り扱われていないものが使われており、こちらも別途輸入が必要

しかし 50W リニアアンプの市販品はほとんど無く、FT-817 との組み合わせでおなじみだった東京ハイパワー HL-45B もディスコンとなっています。調べてみると、米フロリダ州のガレージメーカー HobbyPCB のリニアアンプ HARDROCK-50 を KX3 と組み合わせて使う海外ユーザーが多いようです。そこでメーカー Web 直販にてオプションの QSK、ATU 付きを購入、こちらもオーダーから 12 日で届きました。ところが HARDROCK-50 は 23 個のトロイダルコア加工や、実装チップ部品以外のすべてのパーツのハンダ付けが必要な本格的キットだったので(もちろん取説は英語)、作れるのか不安になりました。それでも空き時間に少しずつ組み立てて、トータル 23 時間ほどで完成、しかもこちらはなんと一発動作！時間が掛かりますが、説明書通りに作れば再現度の高いキットだと思います。

無線の機材で一番悩んだのはアンテナです。建て替



え後の家の屋根は、一方向に傾斜している「片流れ」形状なので、大きなルーフタワーは設置できません。書斎のすぐ外側に「アンテナ設置用」の小さなバルコニーを作ったのですが、いかんせん 1 坪なのでステーを張るスペースもありません。ハムの世界でも先輩である TDXC 宮内さんに相談してみましたが、「なんちゃってアンテナの類は勧められない。自分の電波が届いて初めて意味があるので、最初だからこそちゃんとしたなるべく大きなアンテナを選ぶこと。SWR の落ちる帯域が全然違う、イコール飛びが全く違う」と重要なアドバイスを頂きました。「受信」だけと違って「送信もする」無線のアンテナでは、送信する周波数とのマッチングが重要です。「HF オールバンドに出られるアンテナ」はそもそも構造的に無理があり、バンド別にアンテナを切り替えなくて済む手軽さと引き換えに、送信効率を犠牲にしています。宮内さんからは、DX を稼げる 21~50MHz 2 エレ八木や海外メーカーのバーチカルを勧められました。しかし片流れ屋根にもミニバルコニーにも、大きなアン



AW-M01/520 は、V 型 DP RDL-2000 の片側エレメントだけを使った ATU 専用エレメント・セット。5.2m 1.3kg と軽量コンパクトで、耐風速は 30 m/sec。強風の日には細いエレメントがしなり、シャック内では突出し金具を伝って風切り音が聞こえる（屋外では聞こえない）。給電点の地上高は約 6.5m。施工の様子はこちら (<http://blog.goo.ne.jp/kitsukawa116/e/579e808fc3dddbc4d7ee8a9f05ccd798>)



シャックのコンセントパネル。中央の 3 つの穴が同軸引き込み口。その左にあるのはアース端子。エアコンや洗濯機といった家電のアースと兼用で、屋外地面のアース棒に繋がっている

テナを高く上げるのは難しそうです。しばらく悩み、アママンハムで愛用者が多く、制約がある環境で効率よくマルチバンドに出られる「釣り竿アンテナ+ATU」を試してみることにしました。アンテナエレメントは Radix AW-M01/520、ATU は CG Antenna CG-3000 という構成で、TV アンテナ用突出し金具 (DX ANTENNA MH-322Z) を 2 つ使ってバルコニー外壁にガッチリ固定します。取り付けは、地デジアンテナや ALA1530 と同じ家電工事屋キツカワ (<http://www.kadenkoujiya.com>) さんに依頼。「無線のアンテナ施工の経験はほとんど無い」とのことでしたが、たいへん綺麗に設置していただきました。

ATU からの同軸と電源ケーブル、アース線は、バルコニー外壁に作り付けた専用防雨引込口からシャック内壁のコンセントパネルに引き込み、アース線はコンセントパネルに増設しておいた室内配線用アース端子に接続します。

このほかに用意した機材は、安定化電源 DM-330MV、SWR 計 CMX-200、パドルなど。パドルは Begali の



Simplex とケーブルの接続部。付属の 3.5φ プラグ付ケーブルの一方のプラグをカットして、パドルにハンダ付けした



CG-3000 電源スイッチ。CG-3000を2芯ケーブルで設置したので(4番ピンは未接続)、緑の同調ランプは点かない

Simplex を選びました(メーカー直販で、2週間後到着)。

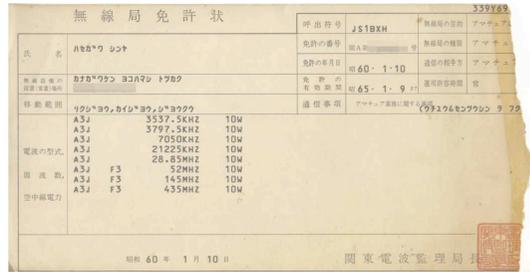
また、CG-3000のチューニングがしやすいように、電源スイッチを製作しました(参照記事:CG-3000リセットスイッチ <http://jglbv.com/archives/17919>)。

電子申請

無線の各種申請はインターネットで出来るようになり、しかも紙の書類で申請するより安くなりました。申請にはWindowsパソコンと、「総務省 電波利用 電子申請・届出システム Lite」ユーザ ID の事前取得が必要です。また KX3 や HARDROCK-50 は技適(技術基準適合証明)機種ではないので、TSS 保証事業部に保証申請をしなければなりません、今回は 2014 年 11 月から保証業務を開始した JARD に申請してみました。

まず KX3 で発射可能な電波形式および周波数範囲(3アマで許可されているもの)、それに変調方式、終段管の名称・個数・電圧・定格出力などの各種データ、RTTY・PSK31 のデジタルモード諸元(方式・通信速度・副搬送波周波数・符号構成などの情報)を調べておきます。

次に申請書に添付する書類として、KX3 に同梱され



端が破れているものの、幸うじて残っていた旧無線局免許状

ていたブロックダイアグラム・局発周波数表・60mb 送信ブロック証明書と、HARDROCK-50 のブロックダイアグラムをスキャンし PDF 化。またデジタルモードの附属装置諸元・附属装置系統図や HARDROCK-50 の送信出力測定結果表を Excel で作成しておきます。どの書類も専門的で分かりにくく、Web で情報を拾い出して試行錯誤しながら作成しました。そして再開局では旧コールサインも再取得しようと思っていたので、旧無線局免許状もスキャンし提出用に PDF 化します。これらの添付書類は、サイズが大きすぎると送信エラーになりますので注意が必要です。

申請準備ができれば、総務省 電波利用 電子申請・届出システム Lite の HP にログイン。「申請・届出」「開局申請」と進み、申請書や工事設計書に必要な事項を入力、書類添付します。そして入力済みの申請書を一旦パソコン内に保存。今度は JARD の HP から保証願書を入力し、保存しておいた申請書を添付して送信します。JARD より電子申請ファイルの補正を求めるメールが届き、数回やり取りした後、1週間ほどで審査が通って「技術基準適合の保証書」(PDF)が送られてきました。これを申請書に添付して、電子申請・届出システム Lite にて総務省に送信。従発行行までには3週間前後掛かるとのこと、審査終了が待ち遠しいです。

CWの練習

設備の準備や開局申請が終わるまでの間は、CWの練習をしました。合調法(符号を語呂合わせで覚える)や短点と長点の符号を目で見て覚えるのは避け、耳からの聞き取りが中心です。iPhone アプリ「Morse study for English」の連続出題 60(1分間 60文字のスピード。12WPM)を、ほぼ毎日3セット繰り返しました。始めの頃は120問中20問くらいしか聞き取れませんが、3ヶ月くらいで115問以上コピーできるようになりました。アプリのキー入力が小さく打ちにくいので、答えは紙に





書いて後から入力します。このほか、実際に CW バンドをワッチし、ゆっくり打っている局を見つけてコールサインの書き取りをしました。

CW の聞き取りは想像以上に集中力が必要で、練習中に家族がそばに近づいてくるだけでも聞き取れなくなってしまう。ベテランになると雑談しながら聞き取ったりキーを打ったりできるそうですが、筆者にはとてもできそうにありません。

送信練習は、リグをサイドトーンモードにして略符号やラバースタンプ例文を打ち込んだり、目に入るアルファベットや数字を、頭の中で(指先でリズムをつけながら)モールス音に変換する練習などを繰り返しました。

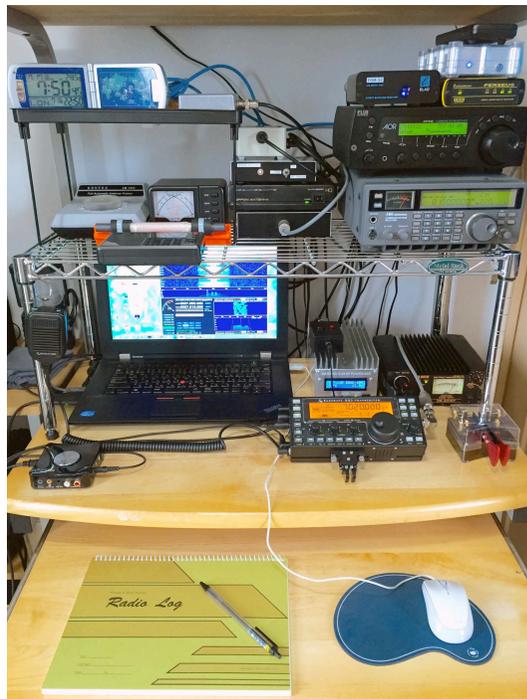
情報収集

30年ぶりの無線再開にあたり、最新の情報を集めました。BCL 人口よりもアマチュア無線人口ははるかに多いおかげで、Web HP やブログが国内・海外に多数あります。

(主な情報サイト)

- * 月刊 FB ニュース (<http://www.fbnews.jp/index.html>)
- * hamlife.jp (<http://www.hamlife.jp>)

CW に関する情報は、CQ 出版社からの入門書のほか、国内有数の CW サークル A1 CLUB (<http://www.a1club.net>) HP にビギナー向け記事が多



現状のシャック。USB Audio デバイス AS372 と HSDR を使用して、KX3 の受信帯域をスペクトラム表示させているが、設定ミスか周波数がズレて表示されている

く、参考になりました。

開局準備完了

自宅建て替えやリグ・アンプの製作、PROPAGATION の編集もあって、3 アマ講習受付からここまで半年も掛かりました。長い準備期間でしたが、海外からの無線機器購入、メーカーサポートとの英語のやり取り、英語取説を見ながら電子工作キットの製作、アンテナ設置とシャック構築…学生の頃にはとても出来なかったことが、BCL で培ってきた経験を生かして出来るようになっていくことを実感できました。

この会誌が発行されている頃には、局免も届いていると思います。いよいよ再開局です。各種手続きや機材の準備、モールの習熟など、アマチュア無線は BCL よりハードルが高くて大変でした。でも今は新しいことを始める前の興奮と緊張感でいっぱいです。次号ではあらためて開局以降の再入門ノウハウを報告したいと思います。(続)

PROPAGATION Edition 2 正誤表

p3

誤:そこはまさに「映画シティ・スリッカーズのような

正:そこはまさに中川さんがおっしゃっていた「映画シティ・スリッカーズのような

p3

誤:成田までの運転を買っていただいた中川さん

正:テントや受信機材の準備、および成田までの運転を買っていただいた中川さん

p4

誤:時は 2013 年 7 月、

正:時は 2013 年 8 月、

p5

誤:左下の写真が、p13 の写真とダブっている

正:正しい写真は下記



p14

誤:October 19-20, 2013 Hamahigajima, Okinawa
DX Pediton Log

正:October 19-20, 2013 Hamahigajima, Okinawa
DX Pediton Log

p22

誤:世界の青木 OM、中波の神様長谷川 OM とともに

正:世界の青木 OM(中央)、中波の神様長谷川 OM(左)とともに

p47

誤:写真が上下入れ替わってしまっている

正:tracert コマンドのルート画面が上で、WHR-G54S 設定画面が下

p61

誤:④Program Files 内の com0com フォルダにある

「seupg.exe」をダブルクリックし、

正:④Program Files 内の com0com フォルダにある

「seupg.exe」をダブルクリックし、

p112

誤:FEBA の返信情報の投稿者が空欄になっている

正:(我戸塚 豪)

p113

誤:A2 の解説が 2 つ掲載されている

正:上のほうの A2 の解説を削除

p113

誤:②Ashahi Broadcasting Corporation。大阪の朝日放送。

正:②Asahi Broadcasting Corporation。大阪の朝日放送。

P132

誤:超長波 (アンダーラインが抜けている)

正:超長波

P112

誤:返信情報の QSL 画像が抜けている

正:TWR relay Armenia

To: [redacted]

This is to confirm your reception report of our broadcast...

Transmitter location:	Central Asia
Date:	2013-11-24
Time:	1800 UTC
Frequency:	1350 kHz

Such reception information helps us to serve our listeners better.
Visit www.tweurope.org for our up-to-date broadcast schedule.

We wish you joy as you listen to TWR and look forward to hearing from you again!

Sincerely, Kalman Dobos

TWR Europe
Speaking Hope to the World

Fodorsh 141, A-1220 Vienna, AUSTRIA

RADYO NATIN
RADYO NATIN 106.9 MHz FM
 Maramag, Bukidnon
 Tel. No. (089) 238-5288
 E-mail: radyonatinmaramag@pcjmedia.com

October 26, 2013

Dear _____

My name is Nelsi Marique Mariano (Si Nelsi) and I would like to thank you for tuning in to our radio station 106.9 Radyo Natin Maramag of the 100 Radyo Natin Stations in the Philippines. As the wife from the heart of Mindanao we are broadcasting live at Maramag, Bukidnon, Mindanao Philippines, which covers listeners in **USA, UK, Canada, Australia, Japan, Singapore, Malaysia, Indonesia, South Korea, Hongkong, New Zealand, Taiwan, Thailand, Sri Lanka, Trincomalee in the Philippines.**

We are grateful and overwhelmed to know that our station is also being heard in Japan. You heard our broadcast through your radio receiver on 49.41MHz Radyo Natin Maramag 18 Oct 2013 0205UTC between 13-15:13:30 Philippine Time.

I have my Program every morning starts at 9:30-Tom starting October 15, 2012 until October 26, 2013. Keep in touch here on 106.9 Radyo Natin FM.

Get Well you know.

From your Friendly Marique Natsi,
 Radyo Natin Maramag, Bukidnon, Mindanao, Philippines

RADYO NATIN



PCJ programs are aired via Trincomalee, Sri Lanka on Sunday 1230-1330 UTC on 13720 kHz

PCJ Radio International
 Call PCJ answer line +44 20 3286 1399 E-mail: pcj@pcjmedia.com

QSL Verification

Dear _____ from Japan
 We would like to thank you for your reception report which has been checked against our program log and is hereby verified as correct as per the following details:

Date	Time (UTC)	Frequency	Tx Site	Power
APRIL 02, 2014	1230-1330	13720 MHz	Trincomalee, Sri Lanka	125 watt

Thank you for your report. We welcome your reports and comments. Keep listening!
 73's!

Victor Gonzalez
 for PCJ Radio International
 QSL Serial # 540

Date: APRIL 13, 2014

Our Postal Address: 8th Floor, No. 47, Lane 31, Sanmin Road,
 Section 1, New Taipei City, Taiwan 20070, Republic Of China

FEBA

Date : 13/03/2014
 Ref: Eqs14/113

QSL

FEBA programme aired via Trincomalee

To: _____
 Japan

We are pleased to confirm the reception report of our programme.

Date	Time (UTC)	Frequency	Transmission Site	Power
05.03.2014	1330-1400	31.140 9720 KHz	Trincomalee	QSL 1kw

Thanking you.

Kenneth Edward
 Kenneth Edward
 Head - Programme

For Real Broadcasting Associates of India
 No.7, Commercial Road, Bangalore 560 025,
 Karnataka, India
 Email: febandia@vsnl.com

KRVN



Nebraska Rural Radio Assn.

KRVN AM

880 KHz. 50,000 Watts
 Non DA Daytime, DA Nighttime [260 deg.]
 40 30' 57" N. Lat. 99 23' 47" W. Long.
 Main Tx. Harris DX 50
 Aux. Tx. Harris MW 50

To: _____

We at KRVN are pleased to confirm your reception report
 On October 28, 2013 at 0900 GMT.

Signed R. V. Ziegler Dir. of Eng. Date 10-30-13
 Please visit our website at www.krvn.com

KJNP

KJNP

Gospel Station at the Top of the Nation

To: _____

Re: October 28, 2013
 Time: 10:00 AM P.T.

Thank you who heard the report
 Please provide name + email

Station
 6308 111 Street SW, Austin TX 78735

Location
 44-46 N. 1st, #117 of W. Long

Power of Transmitter
 147 watt (2750 watt Transmitter
 147 watt 500 watt Station)

Transmission
 Class: CB

Station Operator
 401 Main Street, Austin Texas
 Mr. Dale S. Weaver
 Executive Director

Date: November 4, 2013



会員だより



●「PROPAGATION、読ませていただきました。いいね！」フェイスブックで長谷川さんに宛てたこの一言から TDXC のみなさんとのお付き合いが始まりました。不思議なご縁です。気持ちの良い方ばかりなので飲み会ではついつい飲みすぎてしまいます。いつだったか帰りの電車、湘南新宿ライナーの高崎行きに乗った際にうっかりうたた寝してしまい、気が付いたら折り返して小田原行きになっていたことがありました。幸いにも埼玉県内で引き返すことができ事なきを得ましたが、戸塚まで戻っていたら大笑いでしたね。今後は気を付けます。

さて、今年は貴重な誌面に参加する機会をいただき本当にありがとうございました。ブログで「20年ぶりにBCLを再開しました」などと大袈裟に言っているわりにはまったくラジオを聴いていないのですが、これからもなんらかの形でBCLという趣味に関わっていけるようですと大変うれしく思います。また、みなさんの情熱の集大成であるPROPAGATION誌のよりいっそうの盛り上がり期待しています。お仲間も少しずつ増えるといいですね。（関山 レイ）

●2014夏に発行されたPROPAGATION2への感想をメールさせて頂いたのがご縁で、Shinさんから「関山さんを囲む会」へのお誘いを頂き、参加させて頂いたのが始まりでした。その後、初ペディ、連続ペディ、UltralightDXの世界への受信機改造と、立て続けにイベントに参加させて頂いて、おまけに原稿執筆までと、この1年で大きくMyBCLライフが進展しました。TDXCを中心とした同好の方々とも親交できて、大変充実した1年であった。

このお近づきになれた「ラジオ仲間たち」ほぼ同好の諸氏でありながら、それぞれに得意技が違おうと言うか、深掘する興味が異なると言うか、まさに「似て非なる者達」なのである。実に個性的で面白い。。。さらに酒好きの自分としては、「ラジオを着」に酒が飲めるという趣向が大変気に入ってしまった。

今後の1年、さらに又1年とPROPAGATIONの発行をトリガとして、どんなイベントが待ち受けるのか、どんな酒の着に出会えるのか大変楽しみである。（板倉 健）

●日頃、フリーライセンス無線を楽しんでいる。と書きだすと、BCLの会報としてふさわしくないかもしれない。前回の発行からはや一年、一つの大きな動きが感じられた。それは、アマチュア無線やBCLの世界から飛び込んできた方と交信する機会が増えたことである。

異なる趣味の世界に足を踏み入れるのは簡単なようで実は難しい。特に年齢を重ねていくとプライドというくだらないものが邪魔をする。小さなコミュニティで形成されるマニアックな趣味の世界では尚更である。そんな目に見えない河を飛び越えてきた新しい仲間にはその勇気を称えたい。

自分もこの一年、BCLに向かって河を飛んだ。TDXC入会、HCJBインタビュー出演、生まれて初めてのミーティングへの参加。そこで学んだのは、高度な知識や設備・アクティビティを持ち合わせずとも、自分なりのBCL観を持って楽しめば十分「心が豊かになれる」ということ。

この会報を手にしてしているのは、BCL以外の方々も大勢いるはずだ。これを読み、目の前の河が幾分狭く感ずることを期待したい。（澤谷 淳一）

●BCLを復活して間もなく15年が経とうとしている。この間調子に乗って受信機を買漁り、気が付くと20台を超えるリグが狭いシャックに密集していた。そんな感じでこれまで入手することはあっても手放すことは無かったのだが、今月よりついに放出を開始した。これは今年自宅リフォームの際にリグの扱いに困ったということがひとつの契機にはなっているが、平均寿命的に考えて人生も後半に差し掛かり、モノへの執着から解放され身軽で快適な人生を楽しむ、所謂「断捨離」の境地を求めたいと思ったこともその要因である。これからのBCLライフは「所有すること」ではなく「体験すること」に楽しみを見出していきたいと思うのである。そう言えば昨年忘年会の対談でも出てきたが、私のBCL目標のタイトルは今後「やってみたいこと」であって「欲しいもの」ではなかった。「皆でOM探訪」「BCL遠足（BCL的近隣名所訪問、ジャンク市参加等）」「工作会」…いずれも対して金は掛からず遊べることばかりではないか！しかし思い出になり心豊かになる…今年はその元年かな。（中川 弘夫）

●10年以上前にNRD-545を入手して以来、通信型受信機をしばらく入手していませんでしたが、この一年間に中古のトランシーバと受信機を入手しました。

ひとつはYAESUのFT-102、もうひとつはJRCのNRD-505です。どちらも私が子供の頃に販売されていたものであり、当時すごくあこがれていたものの手が出せる金額ではありませんでした。NRD-505、NRD-515は短波誌のアドバイザーのOM各位殿が使用されておりまして、FT-102は当時のCQ誌の広告に載っていた102ライン(FT-102+SP+外付けVFO+ANTチューナー)がかっこよく、特に白く光る2連のメータを備えているところや多くのスイッチやつまみが整然と並んでいる様はオーディオ機器のようで、BCL復活後に見ても相変わらず魅力的でした。

一つめのFT-102は2014のハムフェアで購入しました。2013のハムフェアではICOM IC-R70等を発見しつつも、微妙な価格設定で買う踏ん切りがつかず、買わずに帰り後々後悔しました。そんなこともあり、2014のハムフェアではFT-102、NRD-505、515があったら必ず買う！と決めてビックサイトに向かい各ブースを物色するとFT-102とSP-102を発見！。金額も許せる範囲で心の中でガッツポーズをしつつ、FT-102+SP-102を購入し帰宅しました。帰宅後、同じくハムフェアに行かれた岡村さんによればNRD-515もあったとのことで、少々がっかりしましたが、いい買い物ができたと思います。



NRD-505はTDXC名誉会員の関山レイさんから譲りいただきました。関山さんとは本誌にも掲載されております2014年のTDXC座談会でお会いし、以来交流させていただいております。関山さんがNRD-505を手放そうとされていることを知り、お譲りいただけないかお願いしたところ、座談会の会話の中で私がJRCコレクターと言っていたことを覚えてくださり、私のところでは505も幸せだろうと考えられたそうで、快く譲りいただきました。外観、作動と

も大きな問題はなく、重厚なデザインの筐体に、赤いLEDの周波数表示がレトロな雰囲気です。これまた非常にいい買い物できました。



この2台、NRD-545等の新しいリグ(といいながらすでに10数年以上も前のリグですが)と並べても、少年時代の思い出もあり存在感抜群です。

JRCのアマチュア用受信機は残すところNRD-515が揃えばコンプリートです。

(五十嵐 雄希)

●初めまして。2014年6月にTDXCに入会しました栗本です。平成元年生まれ、25歳会社員です。今回の会員だよりにて、初投稿となります。まだ、BCLに関する知識が浅いですが、ペディを通じて勉強をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

BCLへの本格的な興味を持つきっかけになったのは、ここTDXCの会誌「PROPAGATION」でした。私も中学生の頃、短波ラジオで北朝鮮やロシアの放送を聞いておりました。たまたまインターネットにて会誌を拝見した時、地元戸塚にてBCLサークルの活動を行っている事を知りました。同時に私も、中学生の頃を思い出した、各国のラジオを聞いてみたい！と思い、気づいたら入会希望のメールを送っておりました。(笑)長谷川さん・中川さんを中心に、いろんな方々と交流させていただいて、日々飲み会通じて楽しくBCLの勉強中です。

これから、ペディ記録・BCL・無線に関する執筆を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。(栗本 佳明)

編集後記

- TDXC 会誌「PROPAGATION Edition3」をお読みくださり、どうもありがとうございました。昨年と同じページ数という大ボリュームですので、ごゆっくりお楽しみいただけたら幸いです。
- 今年も無事会誌を発行することができましたが、編集作業は個人的にかなり危機的でした。昨年に自宅の建て替えが決まり、初夏から毎週末、工務店との打ち合わせや手続きに追われました。11 月には仮住まいへ引っ越し。ダンボールに囲まれながら空き時間に原稿を書き進め、自分の分は早めに終わらせていました。
- ところが年が明けて 2 月、PC とバックアップ用 HDD が同時にクラッシュし、仕事やプライベート、過去の BCL 音声ファイルやログを含めた 7 年分のデータが全て消えてしまいました。書き上げていた原稿もみんな無くなりました。しばらくして会員諸兄から原稿が届きはじめましたが、ショックと喪失感で何もする気が起きませんでした。いろいろ不安があって新築ブルー？だったところに PC トラブルが重なり、「ああ、こういうことがきっかけで趣味から離れていくこともあるのかな…」といった気持ちになっていました。4 月に新居が完成、引っ越しと環境の変化で疲労困憊でしたが、身の回りが落ち着いてきた 6 月になって、ようやく編集作業に取り掛かる気力が戻りました。こうして本が完成してみると、やっぱり投げ出さなくてよかったと思います。今は心地よい達成感で一杯です。
- このたびのデータ管理の不手際でご心配をお掛けしたことを、会員の皆様はこの場を借りてお詫びいたします。また今号から編集作業を簡素化するため、フォーマットに沿った原稿執筆、および PDF ファイルでの投稿にご協力いただきました。ご理解に重ねて感謝いたします。
- Ed.3 にも「会員の会員による会員のための」興味深い原稿が集結しました。また、会員以外の方々からも力作の投稿が相次ぎ、バラエティに富んだ内容になりました。連日バリバリ DX を狙う方、ビンテージ受信機でリスニングを楽しむ方、年に数回のペディションに賭ける方、すっかりラジオを聞かなくなった方、アンテナや受信機の工作や改造を楽しむ方、BCL の歴史を調査する方、BCL 仲間との出会いを楽しむ方…。いにしへの専門誌「短波」にはこのように色々なジャンルの BCL 記事が載っていましたが、情報発信がネット中心になると発信者の専門分野に特化したものが多くなり、幅広い BCL 達が集まれる「短波」のようなサロンが少なくなったように思います。PROPAGATION がその立場を担うなどとは僭越だと思いますが、「会員それぞれが楽しい！と思う内容の本」を、これからも楽しみながら作っていかれたらと思っています。執筆いただいた皆様、どうもありがとうございました。また、新しい出会いの機会を作っていただいた関山レイさんにも御礼申し上げます。
- いつものように発行後は頭の中が真っ白ですが、来年また皆様にお目にかかれることを祈って、筆を置きます。

2015 年夏 長谷川 真也



TDXC からのお知らせ

- * TDXC (Totsuka DXer's Circle)では、常時会員を募集しています。
神奈川県横浜市戸塚区およびその周辺地域にお住まいで、DXing(遠距離受信)に興味があって会誌の内容に共感いただけた方、DX ペディションを中心とした活動に参加したい方を歓迎いたします。
- * 会費は無料、会則も特にありません。会誌は一般向けに PDF 版を無料配布していますが、執筆いただいた会員には簡易印刷版を頒布しております。詳細は下記までご連絡ください。

戸塚 DXer's サークル/TOTSUKA DXER'S CIRCLE (TDXC)/2012 年 8 月設立

E-mail: bclguide@excite.co.jp

(会員) 五十嵐 雄希、板倉 健、岡村 博行、栗本 佳明、澤谷 淳一、関山 レイ、竹野 伸郎、中川 弘夫、長谷川 真也、宮内 聡 (一般) 岩田 学、甲斐 迅、佐藤 弘敏、馬場 政行、堀場 啓二

戸塚区紹介

区のプロフィール

■ 地 勢



戸塚区は横浜市の南西部に位置し、南北に長く、北は旭区・保土ヶ谷区の2区に、東は南区・港南区の2区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。

地勢上は、多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れて低地を形成しており、その周囲を比較的起伏に富む台地が取り囲むように広がっています。

区域の面積は、35.70 km²で、18区中1番広く、市域面積の8.2%を占めています。

人口は、274,408人で市内第4位ですが、人口密度は1 km²あたり7,674人で10位となっています(平成27年1月1日現在)。

<面積>	35.70 km ²	
<極東>	平戸一丁目1385-39	東西距離 8.40 km
<極西>	俣野町1609	
<極南>	影取町3-7	南北距離 10.05 km
<極北>	名瀬町3420	
<最高地>	品濃町	海拔 99.3 m
<最低地>	東俣野町	海拔 6.5 m

(データで見る戸塚 2015年版/横浜市戸塚区役所総務課 発行 より)

*2015年3月25日、戸塚アンダーパス(とつか地下道:柏尾戸塚線トンネル)が開通。ラッシュ時の通行可能時間が1時間あたりわずか3分という交通難所であった、戸塚大踏切は閉鎖となった。

*戸塚区のラジオ局エフエム戸塚(83.7MHz 10W)は、2015年4月29日に開局6周年を迎えた。

*戸塚区マスコットキャラクターのウナシーは2015年5月10日に満6歳、戸塚駅西口再開発事業マスコットキャラクターのとつか再開発くんは10月4日に満21歳を迎える。

PROPAGATION <Edition 3>

2015年8月1日 第1刷発行

発行 戸塚 DXer's サークル (Totsuka DXer's Circle)

印刷 キンコーズ・ジャパン株式会社横浜西口店

©Totsuka DXer's Circle 2015 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は TDXC 編集部へご連絡下さい。お取り替えいたします。

無断転載・複製を禁ず

Totsuqa DXer's Circle